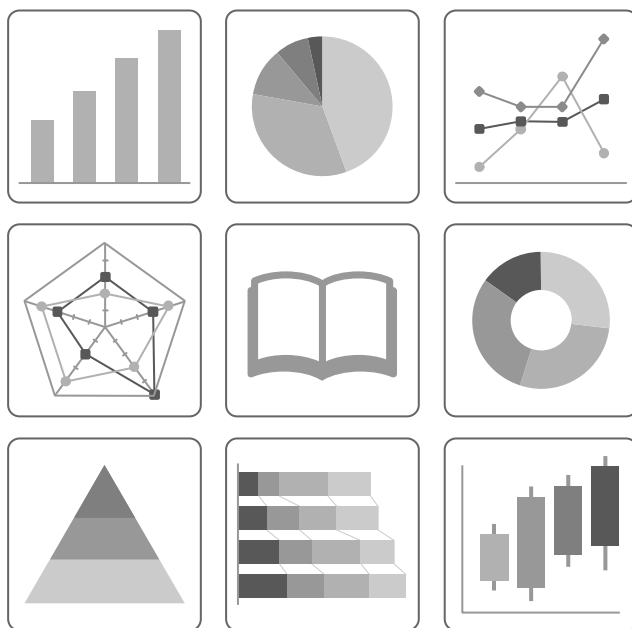


姫路市  
男女共同参画に関する市民意識調査  
調査結果報告書



令和4年2月

姫 路 市



# 目次

## 目次

<b>I</b>	<b>調査の概要</b> .....	<b>1</b>
1	調査の目的 .....	1
2	調査対象 .....	1
3	調査期間 .....	1
4	調査方法 .....	1
5	回収状況 .....	1
6	調査結果の表示方法 .....	1
<b>II</b>	<b>調査結果のまとめ</b> .....	<b>3</b>
<b>III</b>	<b>調査結果</b> .....	<b>11</b>
	回答者属性 .....	11
1	男女共同参画の状況について .....	16
2	職業生活について .....	32
3	結婚、家庭生活と男女の役割について .....	45
4	地域活動について .....	64
5	ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について .....	72
6	人権について .....	76
7	男女共同参画に関する施策などについて .....	85
8	自由回答意見一覧 .....	103
<b>資料</b>	<b>調査票</b> .....	<b>114</b>



# I 調査の概要

## 1 調査の目的

平成30年3月に改訂した「姫路市男女共同参画プラン2022改訂版」を見直し、市の実情にあった新プラン策定の基礎資料として調査を実施するものです。

## 2 調査対象

姫路市在住の満20歳以上の男女、3,000人を無作為抽出

## 3 調査期間

令和3年2月1日から令和3年2月28日

## 4 調査方法

郵送による配布・回収

## 5 回収状況

配布数	有効回答数	有効回答率
3,000通	1,355通	45.2%

## 6 調査結果の表示方法

- ・回答は各質問の回答者数（N）を基数とした百分率（%）で示してあります。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。
- ・調査結果を図表にて表示していますが、グラフ以外の表は、最も高い割合のものを■で網かけをしています。（無回答を除く）
- ・クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体）の有効回答数が合致しないことがあります。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。
- ・性別によるクロス集計において、「その他」「無回答」を選択した方の総数が小さい（14人）ため、「女性」「男性」のみを対象としています。
- ・クロス集計の表では、回答者が0人のものは「-」と表記しています。

[比較分析する調査の概要]

調査主体	調査名	調査時期
国(内閣府)	男女共同参画社会に関する世論調査	令和元年9月
兵庫県	第2回県民モニターアンケート調査 「男女共同参画に関する意識調査について」	令和元年7～8月
姫路市	男女共同参画に関する市民意識調査 (平成 28 年調査)	平成 28 年2月
姫路市	男女共同参画に関する市民意識調査 (平成 23 年調査)	平成 23 年7月
姫路市	男女共同参画に関する市民意識調査 (平成 17 年調査)	平成 17 年7～8月

## II 調査結果のまとめ

### 【1】男女共同参画の状況について

#### 1 各分野における男女の地位（問1）：16 ページ

「③学校教育の場」では、「平等」の割合が比較的高いものの、すべての分野において、『男性優遇』（「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせたものをいう。以下同じ。）の割合が、『女性優遇』（「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を合わせたものをいう。以下同じ。）の割合を上回っており、特に、「⑦社会通念、慣習・しきたり」、「④政治の場」、「⑧社会全体」は、『男性優遇』の割合が高くなっています。

平成 28 年調査と比較しても、「⑦社会通念、慣習・しきたり」、「④政治の場」、「⑧社会全体」で『男性優遇』と感じる人が増えています。

#### 2 男女共同参画を進めていくために重要なこと（問2）：27 ページ

「男女にかかわるさまざまな偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること」の割合が最も高く、次いで「女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実をはかること」、「女性自身が経済力をつけたり知識・技術を習得したりするなど、積極的に力の向上をはかること」の順となっています。

また、「男女にかかわるさまざまな偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること」の割合は男性の方が女性に比べて 8.4 ポイント多く、「女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実をはかること」は、女性の方が 7.9 ポイント多くなっています。

#### 3 男女不平等が生じる原因（問3）：28 ページ

「男女の役割についての固定観念」の割合が最も多く、次いで「社会の慣習やしきたり」、「職業生活面での有利・不利」の順となっています。また、「男女の役割についての固定観念」、「職業生活面での有利・不利」、「男性の自覚や理解の不足」の割合は、男性に比べ女性の方が 5 ポイント以上高くなっている一方、「男女の生まれつきの身体的・生理的な差」、「女性の自覚や理解の不足」の割合は、男性の方が高くなっています。

平成 28 年調査と比較すると、「男女の生まれつきの身体的・生理的な差」、「これまでにつくられた男女の能力・適正のちがひ」の割合は低くなっています。

#### 4 女性の参画が必要な分野・領域（問4）：30 ページ

「国会・地方議会の議員など政治分野」の割合が最も高く、次いで「地域おこし、まちづくり、観光などを女性の視点から見直す地域の文化・産業分野」、「審議会委員などへの任命、企業における管理職・役員への登用、職域の拡大など政策・方針決定領域」の順となっています。

## 「男女共同参画の状況について」まとめと今後の取組の方向性

○平成 28 年調査と比較すると、「職場」「法律や制度上」以外の分野において、『男性優遇』と感じる割合が上昇しています。また、あらゆる分野で男性に比べ、女性の方が『男性優遇』と感じる割合が高くなっており、男女の意識に大きな差が認められます。

「職場」や「法律や制度上」の分野では『男性優遇』の割合が低下していることから、社会制度上などの環境面での整備は進んでいるものの、その運用等の面では『男性優遇』であることが見て取れます。

このため、今後も引き続き、固定的な性別役割分担意識の払拭を目的とした啓発活動や教育機会の充実などにより市民の意識を高めていく取組が必要であり、特に次世代を担う子どもたちに対し、幼少のころからの男女平等教育を充実させることが重要です。

○女性の参画が必要な分野・領域として、「国会・地方議会の議員などの政治分野」が最も多く、次いで「地域おこし、まちづくり、観光などを女性の視点から見直す地域の文化・産業分野」、「審議会委員などへの任命、企業における管理職・役員への登用、職域の拡大など政策・方針決定領域」となっており、これまで男性中心であった様々な分野での意思決定に女性の意見が必要であるとの認識が高まっています。

このため、多様な年代の女性・男性がその個性と能力を十分に発揮できるような取組が必要です。

## 【2】職業生活について

### 1 女性のライフスタイルの理想と現実（問5）32 ページ

平成 17 年調査、平成 23 年調査において、女性のライフスタイルの理想と現実ともに『再就職型』（「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ」をいう。以下同じ。）の割合が最も高く、次いで『職業継続型』（「ずっと職業を続ける」をいう。以下同じ。）、『出産退職型』（「子どもができるまでは、職業をもつ」をいう。以下同じ。）、『結婚退職型』（「結婚するまでは、職業をもつ」をいう。以下同じ。）、『家事専念型』（「職業をもたない」をいう。以下同じ。）の順となっていました。平成 28 年調査以降、理想において『職業継続型』の割合が最も高く、次いで、『再就職型』と逆の傾向となりました。

### 2 女性が働く上で支障となること（問6）：35 ページ

「家事の負担が大きいこと」の割合が最も高く、次いで「夫・子どもの世話の負担が大きいこと」、「保育体制の不備」の順となっています。平成 28 年調査と比較すると、「夫・子どもなどの理解や協力がいないこと」の割合が増加している一方、「保育体制の不備」の割合は減少しています。性別でみると、「家事の負担が大きいこと」、「高齢者の世話の負担が大きいこと」、「夫・子どもなどの理解や協力がいないこと」の割合は、男性に比べ女性で 5 ポイント以上高く、特に、「家事の負担が大きいこと」については、女性の 30 歳代、40 歳代で 7 割を超えています。



### 3 職場の現状（問7）：37 ページ

「特に男女格差はない」の割合が最も高く、「お茶くみなどの雑用は職種にかかわらず女性がすることが多い」、「女性は昇進・昇格が遅い、または望めない」の割合も高くなっています。平成28年調査と比較すると、大きな変化は見られません。性別でみると、「女性は昇進・昇格が遅い、または望めない」の割合は、女性の40歳代、50歳代で3割を超えています。

### 4 男女が共に職場で能力発揮・継続勤務するために重要なこと（問8）：39 ページ

「男女ともに育児休暇・介護休暇が取りやすくなること」の割合が最も高く、次いで「能力や実績に応じた評価（給料面を含む）がなされること」、「仕事に必要な職業能力を身につけること」の順となっています。平成28年調査と比較すると、「男は仕事、女は家庭」という従来の社会通念が変わること」の割合が増加しています。特に、「男女ともに育児休暇・介護休暇が取りやすくなること」の割合は、女性の20歳代、30歳代、男性の30歳代から50歳代で高くなっています。

### 5 育児休業と介護休業の利用状況（問9）：41 ページ

育児休業、介護休業ともに、「利用したことはない」の割合が最も高くなっています。育児休業については、性・年齢別でみるとほかに比べて男性の20歳代から40歳代で、介護休業については、女性の50歳代、60歳代で「利用しなかったが、できなかった」の割合が高くなっています。

### 6 育児休業と介護休業を取りやすくするために必要なこと（問10）：43 ページ

「職場に利用しやすい雰囲気があること」の割合が最も高く、次いで「上司や同僚などの理解や協力があること」、「復帰後の仕事が保障されること」の順となっています。性別にみると、「復帰後の仕事が保障されること」の割合が男性に比べ女性で9ポイント高くなっています。

#### 「職業生活について」まとめと今後の取組の方向性

- 平成28年調査以降、女性のライフスタイルとして『職業継続型』を理想とする割合が増加しています。しかしながら、『職業継続型』を理想とする女性のうち、それを実現できている人は約3割程度となっています。また、どのような理想であるかにかかわらず、『職業継続型』、『再就職型』を現実とした女性は、約5割となっています。女性が働く上で支障となることとして、「家事の負担が大きいこと」、「夫・子どもの世話の負担が大きいこと」「保育体制の不備」が挙げられています。そのため、男性も積極的に家事や子育てに関われるよう環境づくりや啓発に努める必要があります。また、女性が活躍できる職場環境の整備や再就職支援など、事業者とともに取り組んでいく必要があります。
- 育児休業・介護休業については、男女とも「利用したことはない」の割合がもっとも多く、「利用したことがある」とする割合も男性の方が低くなっています。育児や介護についても家事と同様に男女が平等に担うべきではありますが、依然として女性の負担が多い状況です。また、男性の育児休業取得に対する関心も高まっていることから、育児休業・介護休業を利用しやすい職場づくりや制度などを事業者に対して啓発することにより、男女がともに能力を十分に発揮できるよう取り組むことが重要です。

## 【3】結婚、家庭生活と男女の役割について

### 1 結婚、家庭に関する考え（問 11）：45 ページ

男女とも年齢層が低くなるほど「①結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」で「賛成」の割合が高く、一方、年齢層が高くなるほど「④結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない」で「反対」の割合が高くなっています。また、平成 28 年調査と比較して、「②夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」の『反対派』（「どちらかといえば反対」と「反対」を合わせたものをいう。以下同じ。）がはじめて 6 割を超え、「⑤結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい」の『賛成派』（「どちらかといえば賛成」と「賛成」を合わせたものをいう。以下同じ。）も 5 割を超えています。

性別でみると、「①結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」と「④結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない」で「賛成」とする女性の割合が、男性よりも 10 ポイント以上高くなっています。

### 2 家庭内の仕事分担の理想と実際との比較（問 12・問 13）：52・56 ページ

家庭内の仕事について、理想としてすべての分野で「男女とも同じくらい」の割合が高くなっています。平成 28 年調査と比較すると、「⑤育児・しつけ」以外の項目で「男女とも同じくらい」の割合が増加しています。しかし、実際は、家庭内の仕事のすべてで「女性」が担っている割合が最も高くなっており、平成 28 年調査と比較しても大きな変化はみられません。

### 3 望ましい介護方法（問 14）：60 ページ

「配偶者・パートナー」の割合が最も高く、特に男性でその割合が高くなっていますが、一方で、女性は「ホームヘルパーや公的な介護制度の利用」と「病院や老人福祉施設への入所」の割合が高くなっています。平成 28 年調査と比較すると、「配偶者・パートナー」の割合は減少しており、「ホームヘルパーや公的な介護制度の利用」と「病院や老人福祉施設への入所」の割合が増加しています。

### 4 安心して子どもを産み育てるために必要なこと（問 15）：61 ページ

「出産・育児に対する経済的な支援の拡充」の割合が最も高く、次いで、「子育て中の柔軟な勤務形態の普及」、「保育サービスの充実」の順となっています。また、平成 28 年調査と比較すると、「子育て中の柔軟な勤務形態の普及」と「父親が子育てに十分かかわることができる職場環境の整備」の割合が増加しています。

## 「結婚、家庭生活と男女の役割について」まとめと今後の取組の方向性

- 平成 28 年調査と比較すると、結婚・離婚や家庭、子どもをもつことに関して、自由な選択を認める人の割合は増えており、初めて調査を行った平成 17 年から増加傾向が続いています。
- 家庭内の仕事の多くを「主に女性」が担っており、女性の負担が大きいという傾向は、平成 17 年調査から変化してませんが、「育児・しつけ」「看護・介護」以外の項目では、わずかながら女性の負担が減少し、「男女とも同じくらい」の割合が増加しています。引き続き、固定的な性別役割分担意識を反映した社会通念や慣行を見直し、男女が互いを認め合い、高め合うことのできる社会を築いていけるよう、教育・啓発活動を進めることが必要です。また、家事・育児・介護など家庭の仕事は、介護サービスなどの社会資源を利用しつつ、家族が共同で行うという意識の啓発が必要です。
- 安心して子どもを産み育てるために必要なこととして、「出産・育児に対する経済的な支援の拡充」のほかに「子育て中の柔軟な勤務形態の普及」、「保育サービスの充実」が挙げられており、事業者の取組や子育て支援、就労支援の充実が望まれています。

## 【4】地域活動について

### 1 地域の現状（問 16）：64 ページ

「会議や行事などで女性が飲食の世話や後かたづけをすることが多い」の割合が最も高く、次いで、「特に男女格差はない」、「役員選挙に女性が出にくい、また選ばれにくい」の順となっています。また、「特に男女格差はない」は、平成 28 年調査と比較して、3.9 ポイント上昇しています。

### 2 男女が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加するために必要なこと（問 17）：65 ページ

「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」の割合が最も高く、次いで「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」、「労働時間短縮や休暇制度を普及させることで、仕事以外の時間をより多くもてるようにすること」の順となっています。

性別で見ると、20 歳代の女性では「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」の割合が最も高くなっており、20 歳代から 40 歳代の女性と 30 歳代、40 歳代の男性で「労働時間短縮や休暇制度を普及させることで、仕事以外の時間をより多くもてるようにすること」の割合も高くなっています。

### 3 防災分野における男女共同参画の推進のために必要なこと（問 18）：70 ページ

「避難所運営に男女双方の視点が反映するよう、男女それぞれの責任者を配置すること」の割合が最も高く、次いで「防災対策に男女共同参画の視点を反映させるため、防災会議における女性委員の割合を高めること」、「地域防災計画や避難所運営マニュアルに男女共同参画の視点をより具体的に記述すること」の順となっています。

### 「地域活動について」まとめと今後の取組の方向性

- 地域社会において、「会議や行事などで女性が飲食の世話や後かたづけをすることが多い」など、固定的な性別役割分担意識に根ざした慣習がまだ残っている現状がうかがえます。地域社会においても、女性の視点や能力などを活かせるよう、女性が地域活動に参画する機会を増やすことが必要です。
- 男女が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加するために必要なことについては、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」により、お互いの理解を深め、協力して臨むことが重要です。また、男性が積極的に家事などに取り組む時間を確保するためにも「労働時間短縮や休暇制度を普及させることで、仕事以外の時間をより多くもてるようにすること」も必要です。

## 【5】ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について

### 1 「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度の理想と現実（問19）：72 ページ

「理想」は、男女ともに「仕事」と「家庭生活」をともに優先や「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先の割合が高くなっていますが、「現実」は、「仕事」を優先の割合が最も高く、特に男性でその割合が高くなっています。また、これらの割合は、平成28年調査と比較しても大きな変化はみられません。

### 「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について」まとめと今後の取組の方向性

- 男性が、仕事中心の生活を振り返り、家事や育児など家庭内の仕事について責任を分かち合うことができるよう、市民や事業者に働きかけ、ワーク・ライフ・バランスを推進する必要があります。

## 【6】人権について

### 1 女性の人権が尊重されていないと感じること（問20）：76 ページ

「男女の固定的な役割分担意識（「男は仕事、女は家庭」など）」の割合が最も高く、次いで「昇給・昇進の格差など、職場における男女の待遇の違い」、「女性の社会進出のための支援制度の不備」の順となっています。また、男性に比べ女性では、「職場などにおけるセクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）」、「アダルトビデオ、ポルノ雑誌における女性のヌード写真や映像の商品化」、「電車内などの公共の場における性情報の氾濫」の割合が高くなっています。

### 2 メディアにおける性・暴力表現の問題点（問21）：78 ページ

「そのような表現を望まない人や子どもの目に触れている」の割合が最も高く、次いで「社会全体の性に関する道徳観・倫理観が損なわれている」、「女性の性的側面を過度に強調するなど、女性の人権が侵害されている」の順となっています。

### 3 男女が心身ともに健康であるために必要なこと（問 22）：80 ページ

「性について正しい知識を持ち、判断する力をつけること」の割合が最も高く、次いで「思春期、青年期、更年期、老年期に合わせた健康づくりの推進」、「学校における人権尊重及び健康の視点に立った性教育の実施」の順となっています。男女ともに 20 歳代、30 歳代で「妊娠・出産・避妊・中絶に関する情報の提供」の割合が高くなっています。また、女性の 40 歳代から 70 歳以上と男性の 50 歳代から 70 歳以上で「思春期、青年期、更年期、老年期に合わせた健康づくりの推進」の割合が高くなっています。

### 4 ドメスティック・バイオレンスの経験（問 23）：82 ページ

「自分が直接経験したことがある」の割合は約 6%、「自分のまわりに経験した（している）人がある」の割合が約 11%となっており、平成 28 年調査と比較して微増しています。男性に比べ、女性で「自分が直接経験したことがある」の割合が高く、特に女性の 40 歳代、50 歳代で 1 割を超えています。また、「自分のまわりに経験した（している）人がある」の割合は、女性の 30 歳代、50 歳代で 2 割を超えています。

### 5 ドメスティック・バイオレンスの相談先（問 23-1）：84 ページ

相談先としては、「家族や親戚に相談した」、「友人や知人に相談した」の順に多く、ともに 3 割を超えています。一方、「どこ（だれ）にも相談しなかった」も 3 割となっています。

#### 「人権について」まとめと今後の取組の方向性

- いまだ根強く残る固定的な性別役割分担意識は、職場における男女の待遇の違いや社会進出において女性の人権が尊重されていないと感じる要因となっているため、さらなる啓発を進め、こうした意識の払拭を図る必要があります。
- メディアにおける性・暴力表現について、多くの方が問題があると感じており、特に、そのような表現を望まない人や子どもへの配慮や、社会全体の性に関する道徳観・倫理観が損なわれることを危惧する割合が高くなっています。性に関するさまざまな情報が氾濫しており、誰もが正しい知識を身に付けているとは必ずしも言えない状況の中、男女ともに、それぞれの年代において妊娠・出産など性と健康に対する正しい知識を持ち、自己決定できるよう適切な情報提供や相談体制などの支援を充実していくことが必要です。
- ドメスティック・バイオレンスを経験あるいは見聞きしても相談しなかった割合が 3 割もあり、ドメスティック・バイオレンスを未然に防ぎ被害を潜在化・深刻化させないために、相談機関の周知や情報提供の充実を図るとともに、関係機関が連携し、安心して相談できる体制を整備することが必要です。

## 【7】男女共同参画に関する施策などについて

### 1 男女共同参画関連事項の認知度（問 24）：85 ページ

「内容まで知っている」の割合が最も高いのは、「⑧ジェンダー（社会的・文化的につくられた性別）」で、このほか「内容まで知っている」と「見聞きしたことはある」を合わせた割合は、「④育児・介護休業法」、「⑤配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律（DV防止法）」で高い一方、「⑨リプロダクティブ・ヘルス／ライツ（性と生殖に関する健康／権利）」、「⑦ポジティブ・アクション（積極的改善措置）」で低くなっています。

平成 28 年調査と比較すると、「⑧ジェンダー（社会的・文化的につくられた性別）」、「⑩ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」で「内容まで知っている」と「見聞きしたことはある」を合わせた割合が高くなっています。

### 2 姫路市男女共同参画推進センター“あいめっせ”認知度（問 25）：99 ページ

「センターの事業内容は知らないし、利用したこともない」の割合が 76.2%と、最も高くなっており、平成 28 年調査と比較しても大きな差異は認められません。

### 3 男女共同参画社会形成のために市が力を入れるべきこと（問 26）：101 ページ

「労働の場における男女平等の徹底と、男女ともに家庭と仕事を両立できるような労働環境の整備を行う」の割合が最も高く、次いで「学校で男女平等意識を育てる教育を充実させる」、「男女がともに子育てにかかわるための取組や、地域ぐるみで子育てを支援する施策を充実させる」の順となっています。平成 28 年調査と比較すると、「高齢者や障害者に対する介護サービスを充実させ介護の社会化をはかるとともに、男女がともに介護にかかわるための基盤づくりをすすめる」の割合が減少しています。性別でみると、女性では「高齢者や障害者に対する介護サービスを充実させ介護の社会化をはかるとともに、男女がともに介護にかかわるための基盤づくりをすすめる」の割合が高くなっている一方、男性では「行政・企業・地域などあらゆる分野で女性の積極的登用をすすめるよう啓発する」の割合が高くなっています。

#### 「男女共同参画に関する施策などについて」まとめと今後の取組の方向性

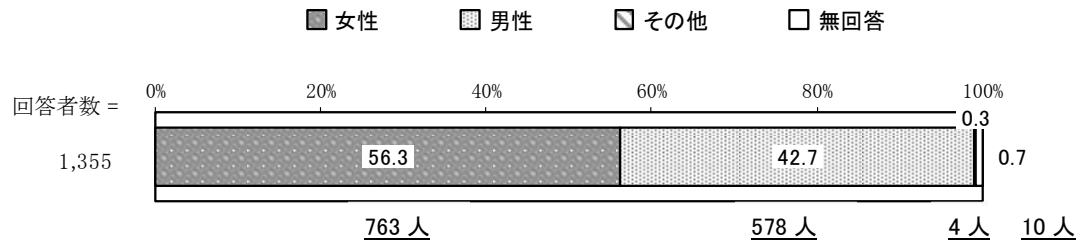
- 男女共同参画関連事項の認知度をみると、内容まで知っている割合が 1 割に満たない項目も多く、市民の理解と知識をより深めるため、あらゆる場面をとらえて広報活動を行うことが重要です。また、男女共同参画推進の中核となるべき姫路市男女共同参画推進センター“あいめっせ”の認知度は低く、特に若年層で低いため、若い世代を対象とした事業の展開や周知方法を検討する必要があります。
- 男女共同参画は、女性の人権のみならず労働、教育、子育て、介護など、市民生活のあらゆる分野にかかわっています。男女共同参画社会を実現するためには、市民・地域・事業所などの理解と協力のもと、より一層の施策の展開が必要です。

### Ⅲ 調査結果

#### 回答者属性

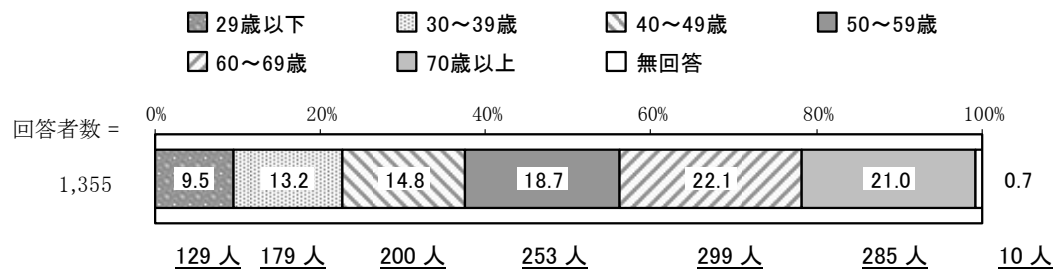
F 1. あなたの性別についてあてはまるものを1つ選んで番号に○をつけてください。

「女性」の割合が56.3%、「男性」の割合が42.7%となっています。

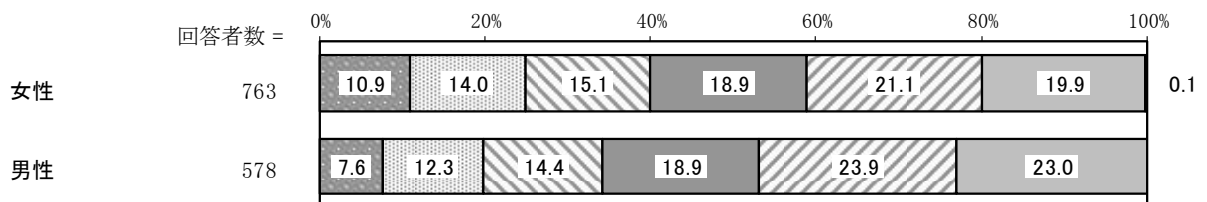


F 2. あなたの年齢はおいくつですか。(令和3年1月1日現在)

「60～69歳」の割合が22.1%と最も高く、次いで「70歳以上」の割合が21.0%、「50～59歳」の割合が18.7%となっています。

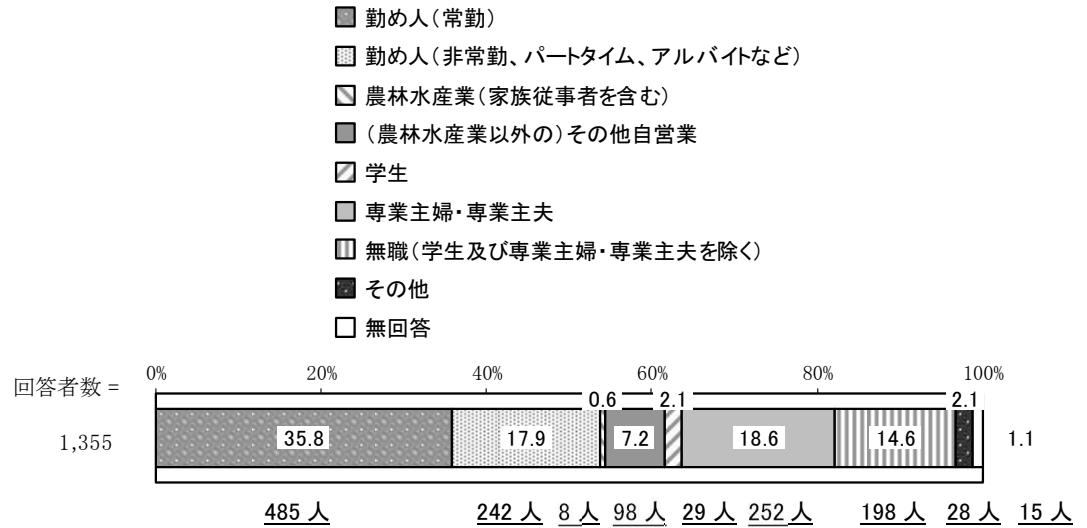


#### 【性別】

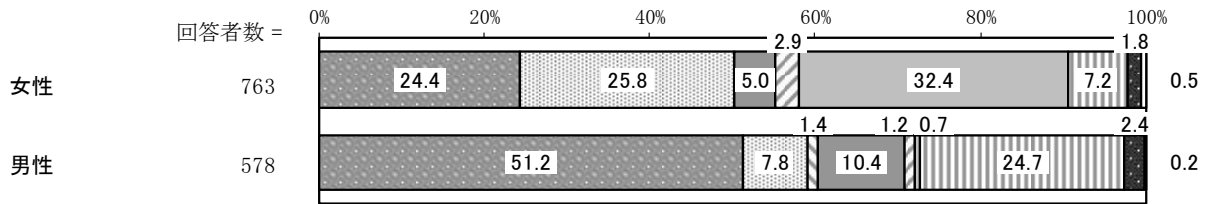


**F3. あなたの職業はどれにあたりますか。  
あてはまるものを1つ選んで番号に○をつけてください。**

「勤め人(常勤)」の割合が35.8%と最も高く、次いで「専業主婦・専業主夫」の割合が18.6%、「勤め人(非常勤、パートタイム、アルバイトなど)」の割合が17.9%となっています。



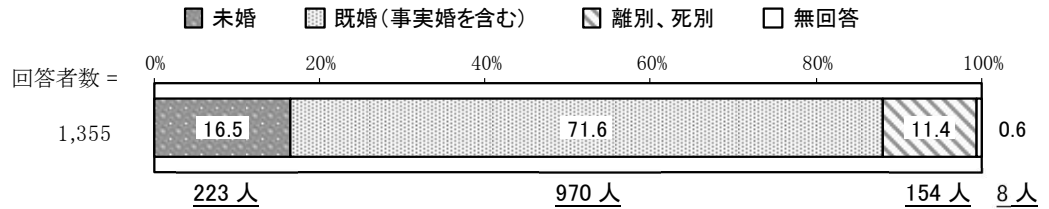
**【性別】**



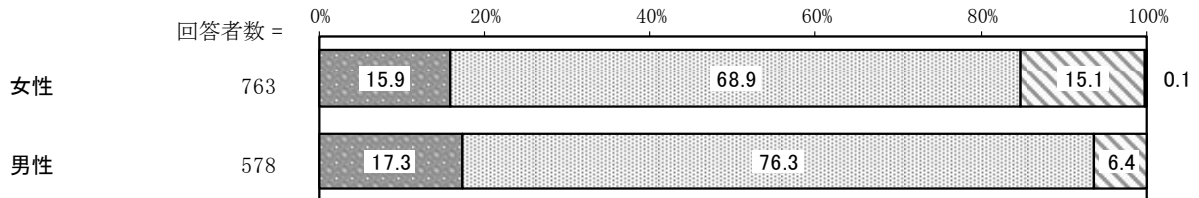


**F 4. あなたは結婚されていますか。**  
**あてはまるものを1つ選んで番号に○をつけてください。**

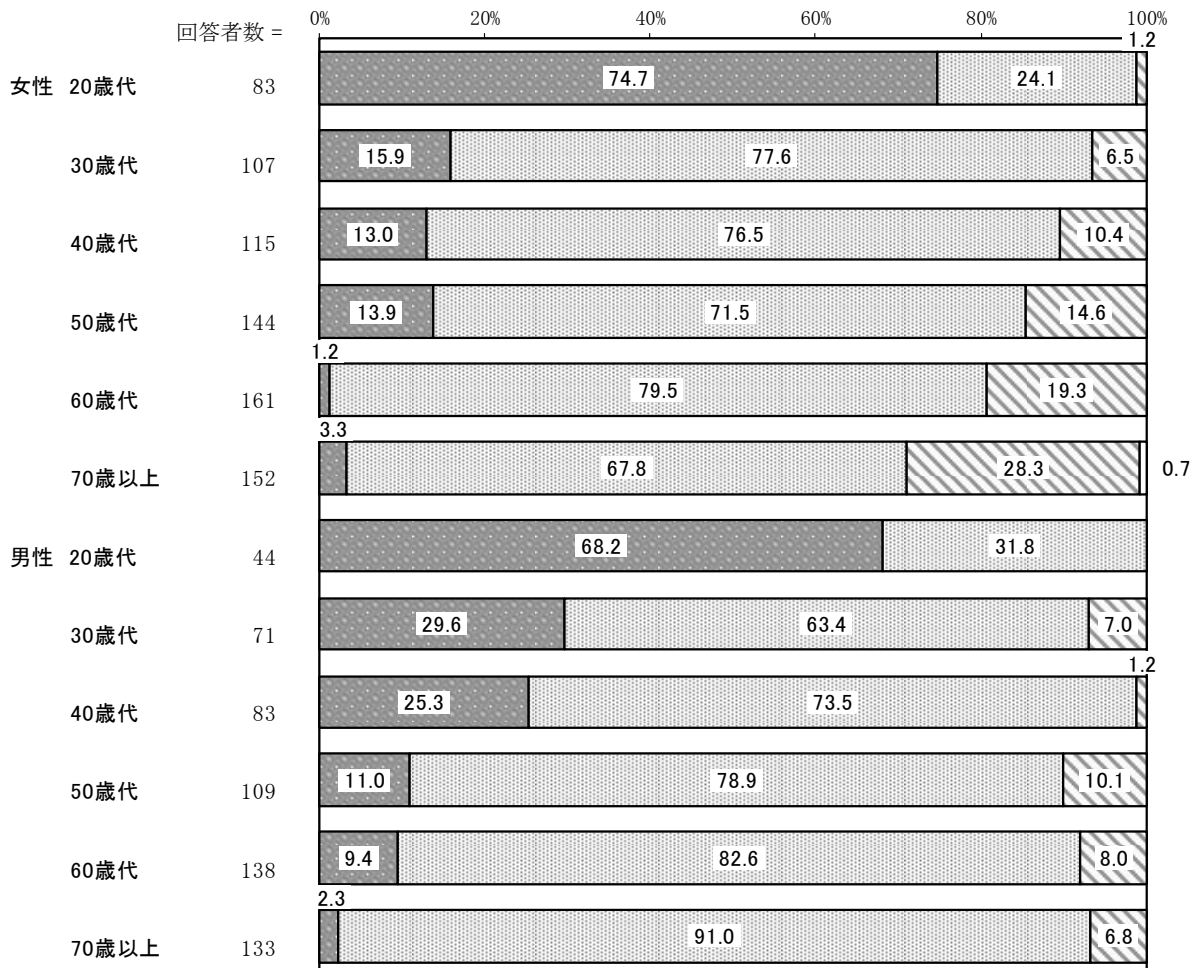
「既婚（事実婚を含む）」の割合が71.6%と最も高く、次いで「未婚」の割合が16.5%、「離別、死別」の割合が11.4%となっています。



**【性別】**

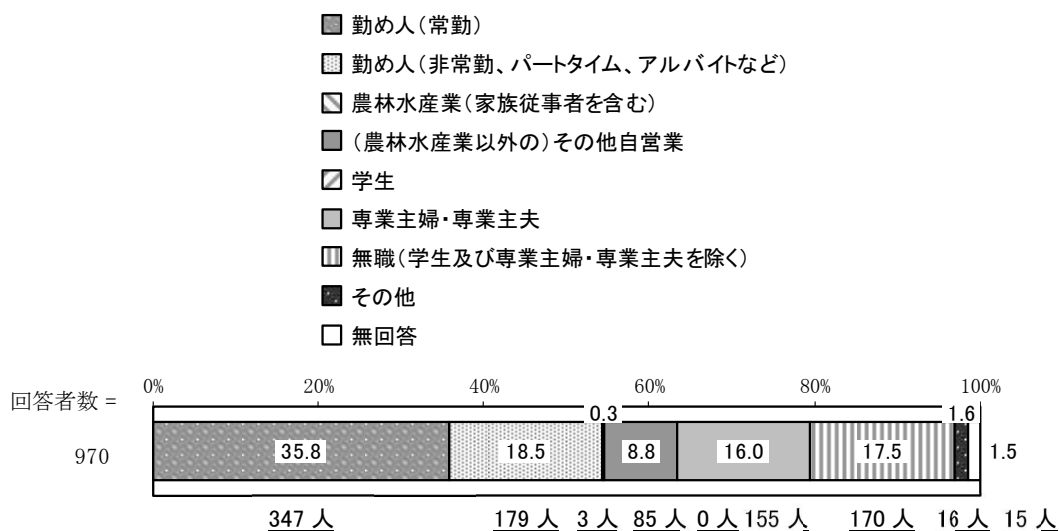


**【性・年齢別】**

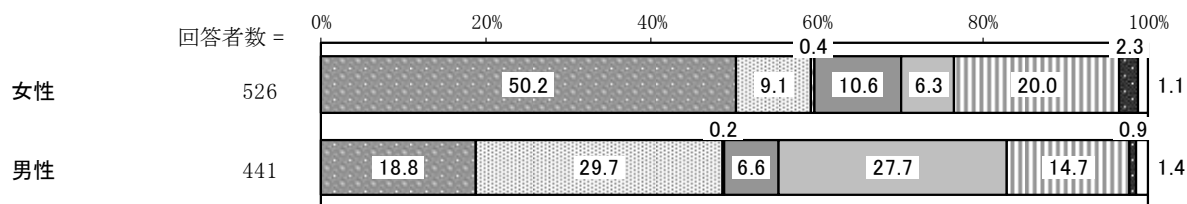


F 4 - 1 この設問は、F 4で「2. 既婚（事実婚を含む）」と回答した方のみおたずねします。あなたの配偶者・パートナーの就労状態はどれですか。あてはまるものを1つ選んで番号に○をつけてください。

「勤め人（常勤）」の割合が35.8%と最も高く、次いで「勤め人（非常勤、パートタイム、アルバイトなど）」の割合が18.5%、「無職（学生及び専業主婦・専業主夫を除く）」の割合が17.5%となっています。

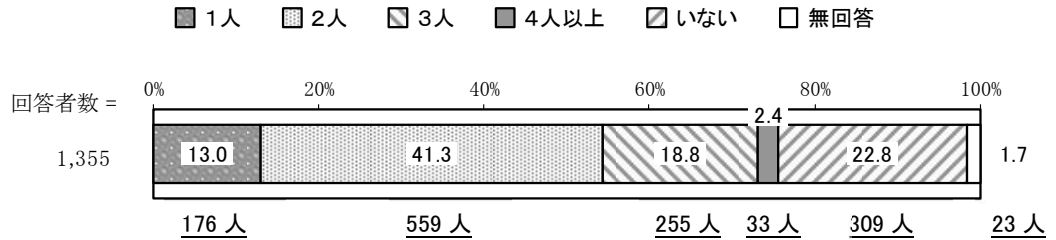


【性別】



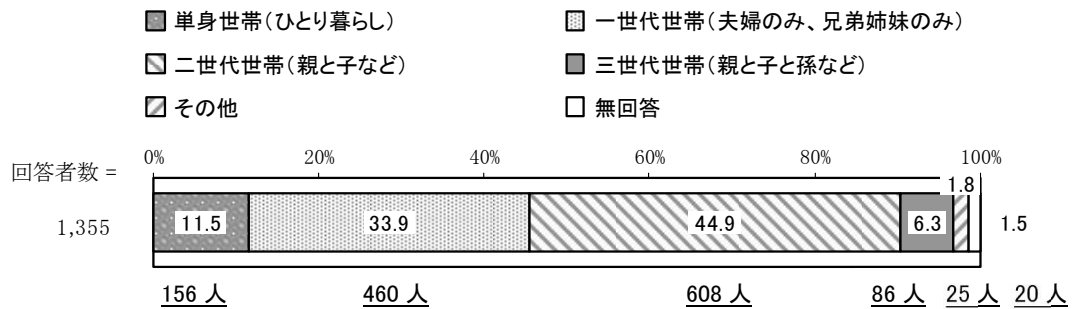
**F 5. あなたにはお子さんがいらっしゃいますか。  
あてはまるものを1つ選んで番号に○をつけてください。**

「2人」の割合が41.3%と最も高く、次いで「いない」の割合が22.8%、「3人」の割合が18.8%となっています。

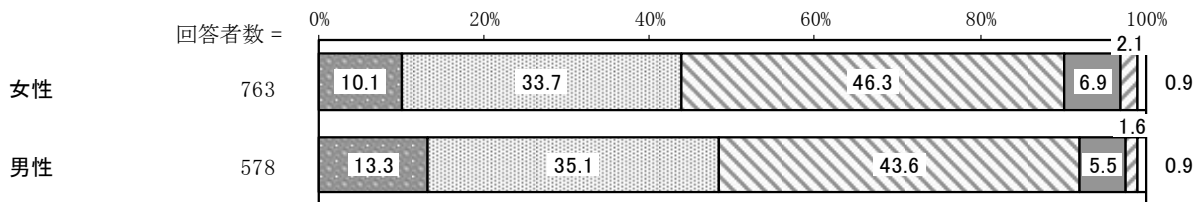


**F 6. あなたの世帯状況はどれですか。  
あてはまるものを1つ選んで番号に○をつけてください。**

「二世帯世帯（親と子など）」の割合が44.9%と最も高く、次いで「一世帯世帯（夫婦のみ、兄弟姉妹のみ）」の割合が33.9%、「単身世帯（ひとり暮らし）」の割合が11.5%となっています。



**【性別】**



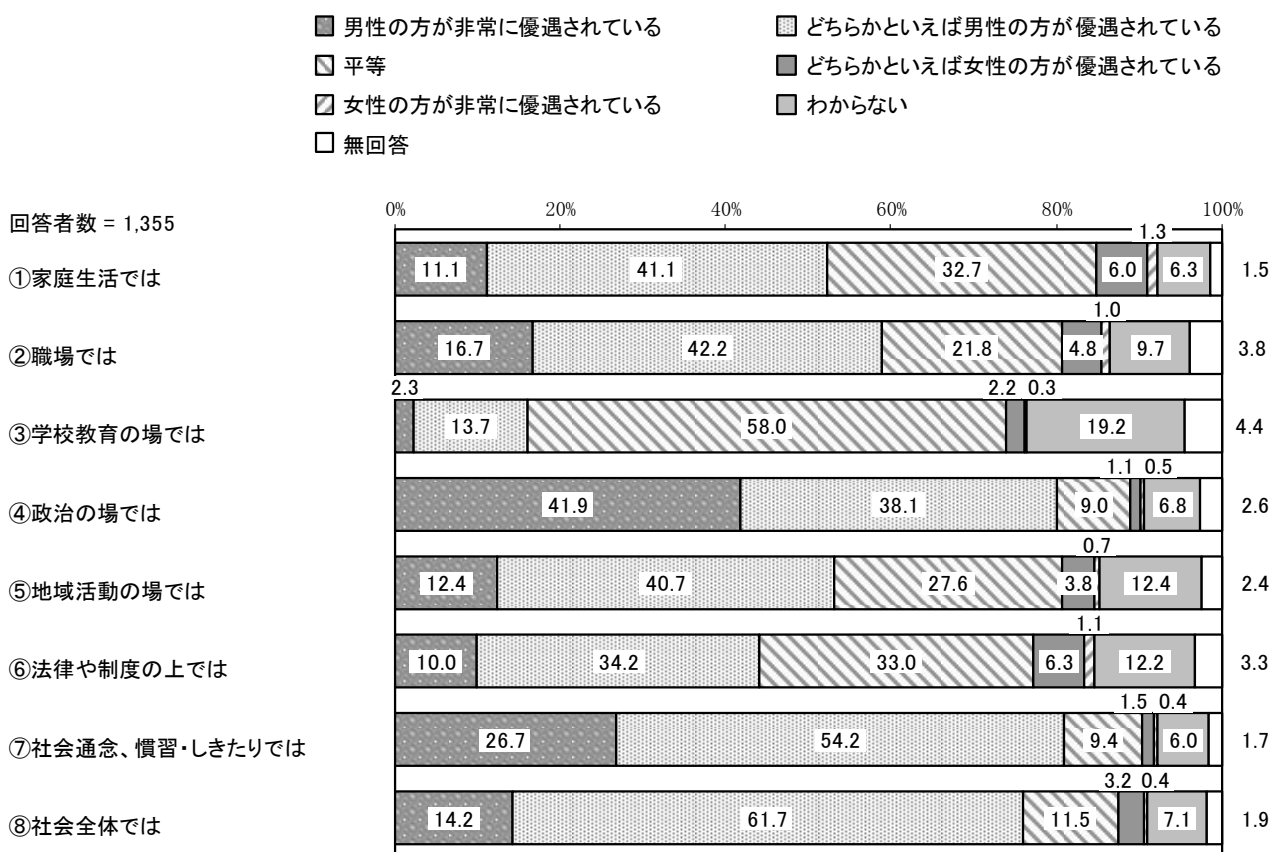
# 1 男女共同参画の状況について

問1 あなたは、今の社会において、次の各分野で男女の地位はどのようになっていると思いますか。①から⑧のそれぞれについてあなたの気持ちに最も近いものを1つ選んで番号に○をつけてください。

「④政治の場」「⑦社会通念、慣習・しきたり」で「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」をあわせた『男性優遇』の割合が高くなっています。

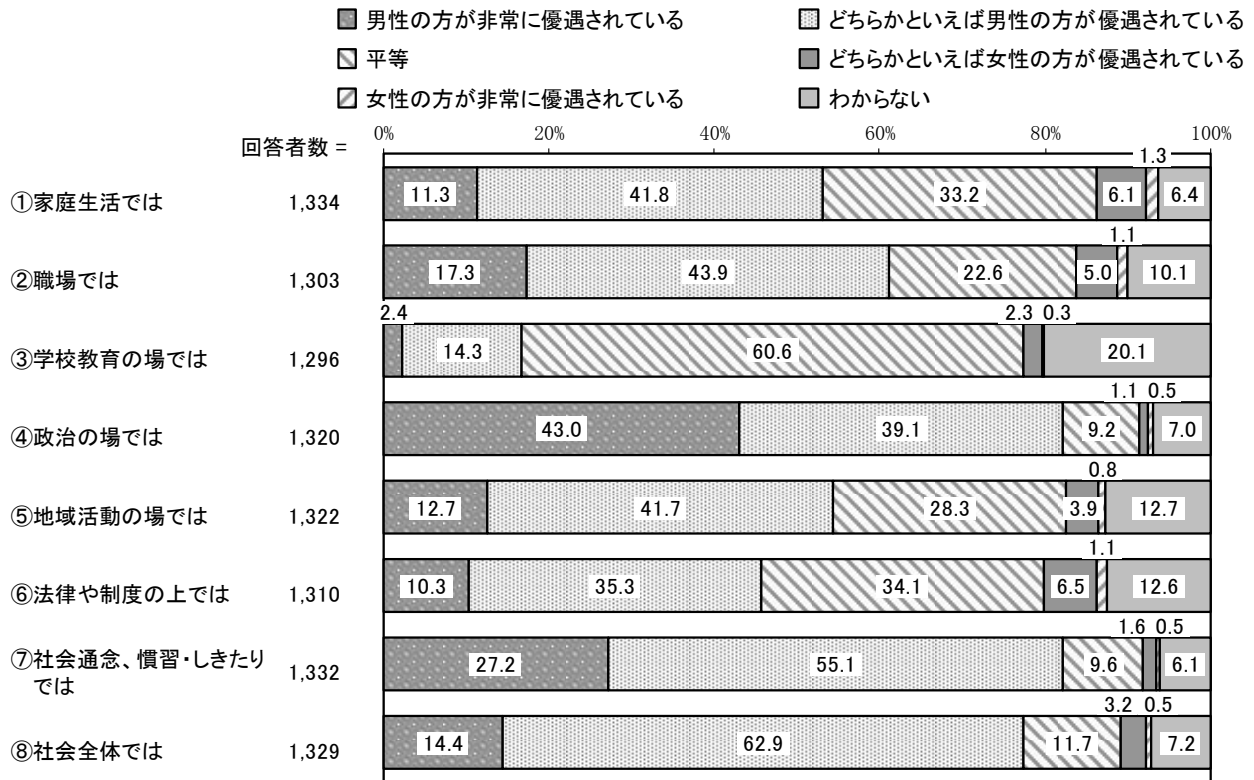
平成23年調査以降、「④政治の場」「⑧社会全体」で『男性優遇』の割合が増加しています。

図表1



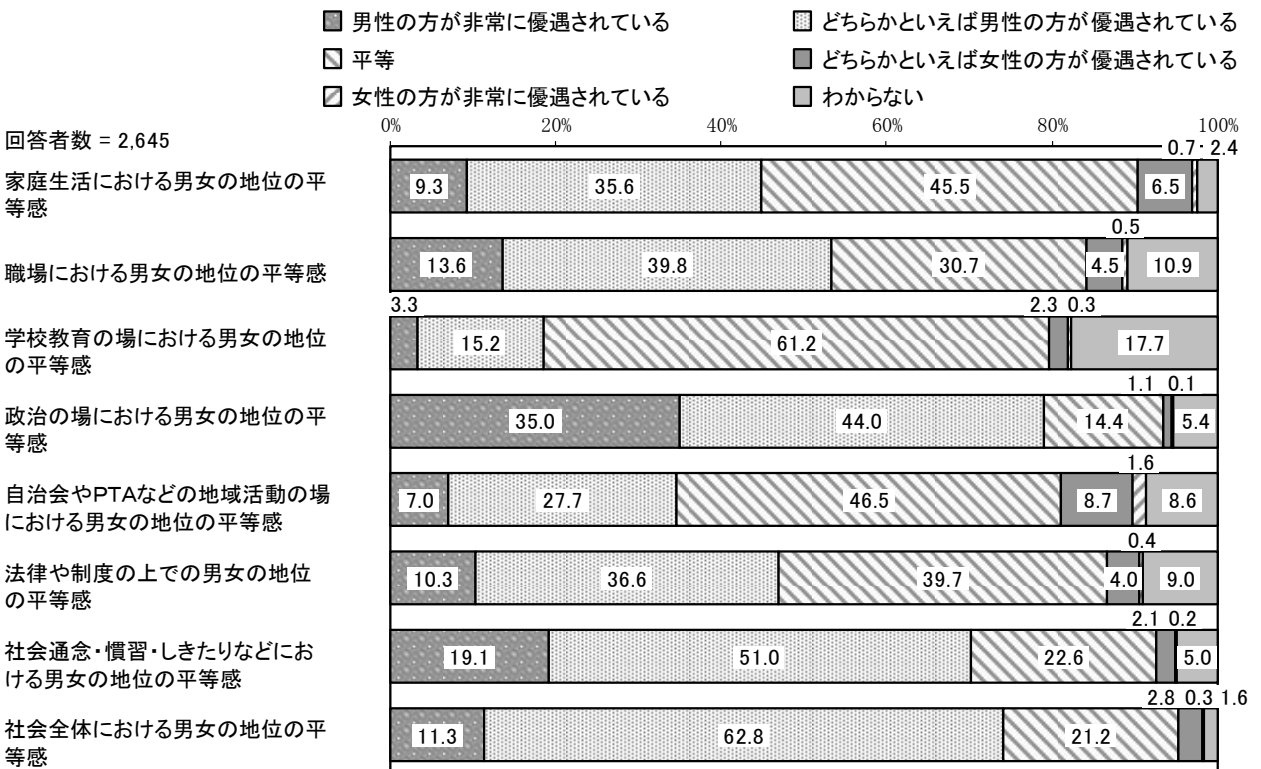
図表 2

※全国調査、兵庫県調査と比較するため無回答を除いています。



【全国調査】（男女共同参画社会に関する世論調査）

全国調査と比較すると、「①家庭生活」「②職場」「⑤地域活動の場」「⑦社会通念、慣習・しきたり」で『男性優遇』の割合が高くなっています。



**【兵庫県調査】**

兵庫県調査と比較すると、「④政治の場」「⑦社会通念、慣習・しきたり」を除いた項目で『男性優遇』の割合が低くなっています。

- 男性が非常に優遇(優位)
- 女性が非常に優遇(優位)
- 平等になっている
- どちらかといえば男性が優遇(優位)
- どちらかといえば女性が優遇(優位)
- わからない

回答者数 = 1,714

家庭生活で(家族の方針決定、家事・育児の役割分担など)

職場で(採用、業務内容、昇進、昇級、職場環境など)

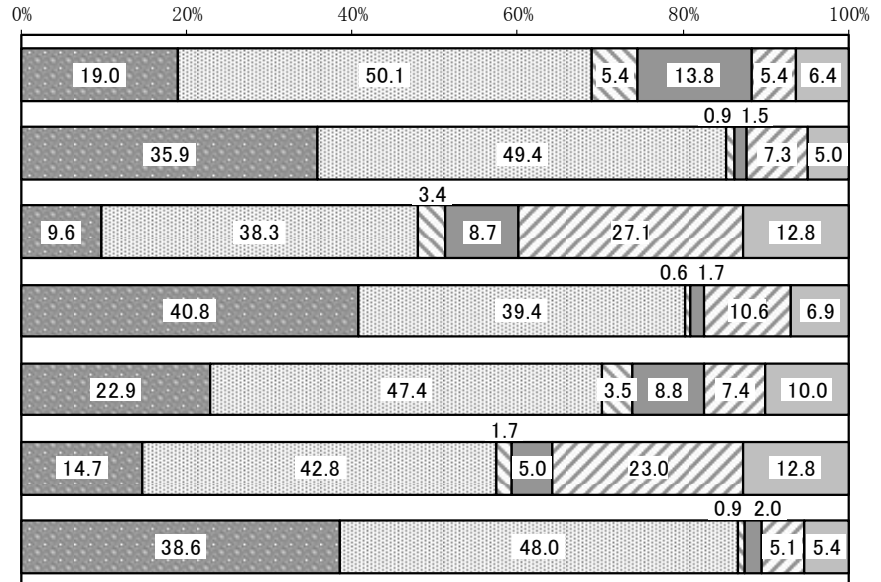
学校教育の場で(進学、専攻など)

政治(政策決定)の場で

地域活動で(リーダー的立場の比率、役割分担など)

法律や制度の上で

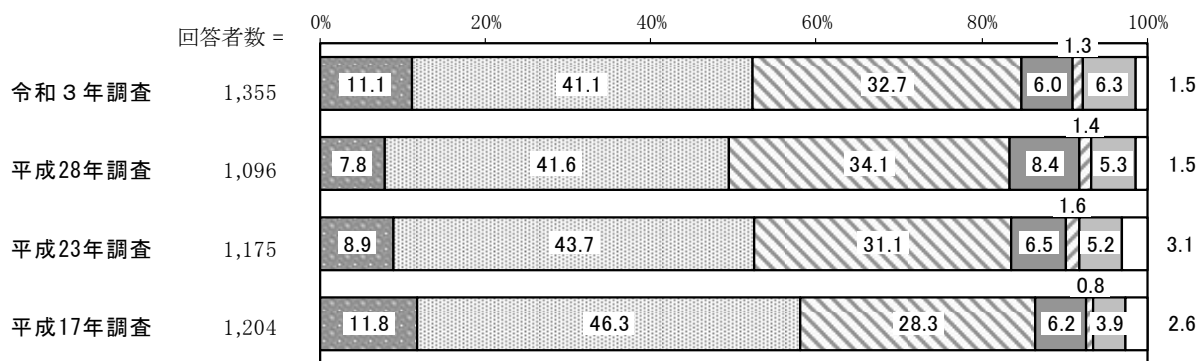
社会通念・慣習・しきたりなどで



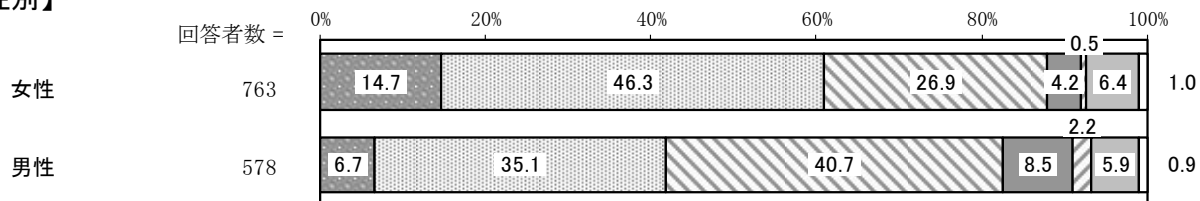
図表 3

①家庭生活では

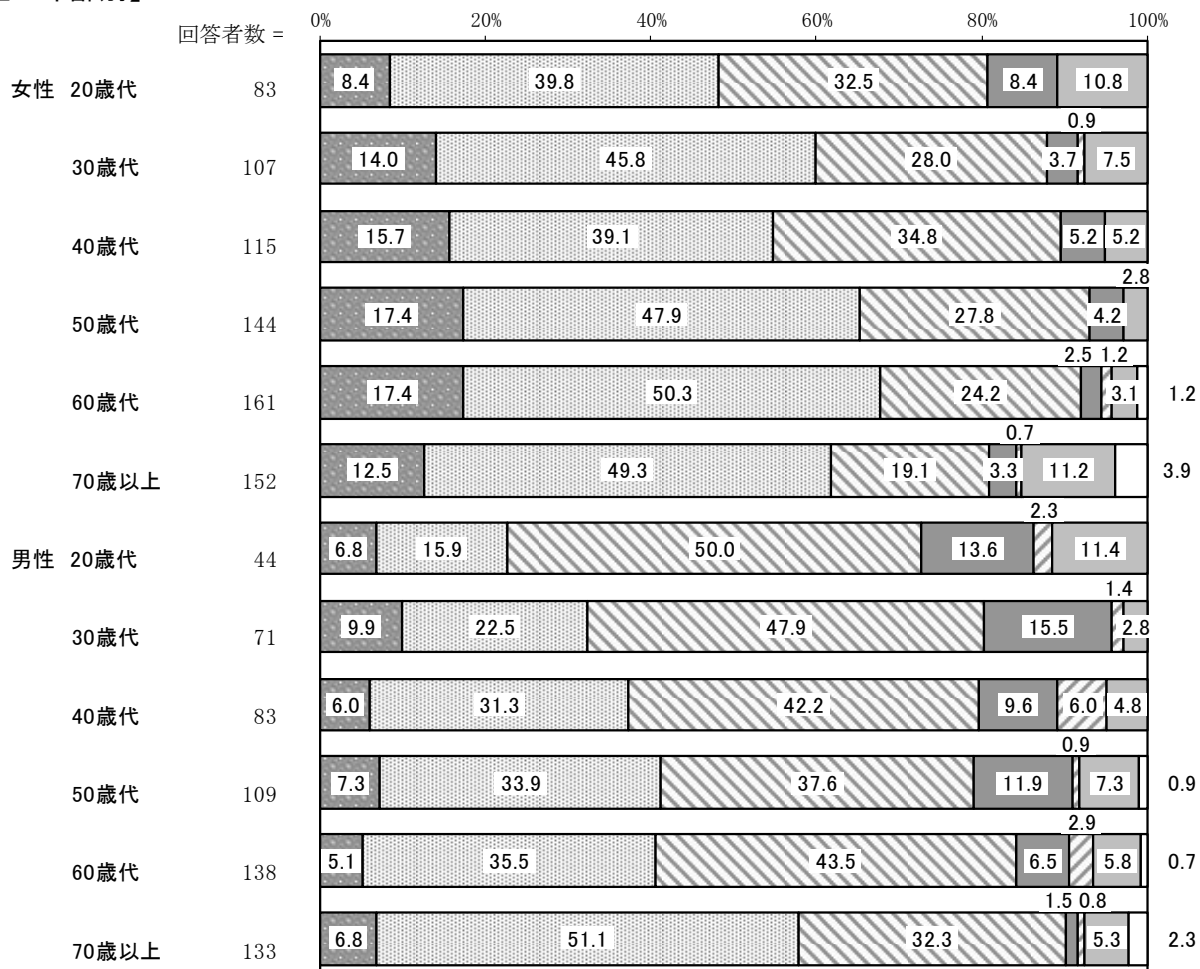
- 男性の方が非常に優遇されている
- どちらかといえば男性の方が優遇されている
- 平等
- どちらかといえば女性の方が優遇されている
- 女性の方が非常に優遇されている
- わからない
- 無回答



【性別】



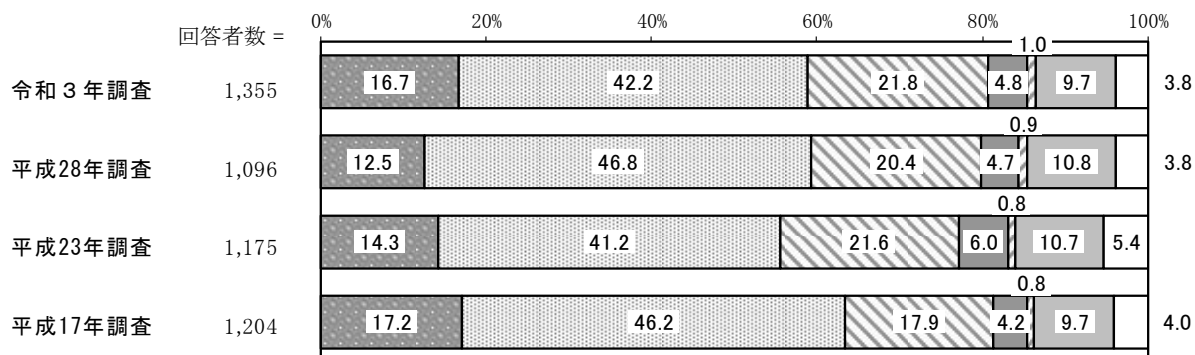
【性・年齢別】



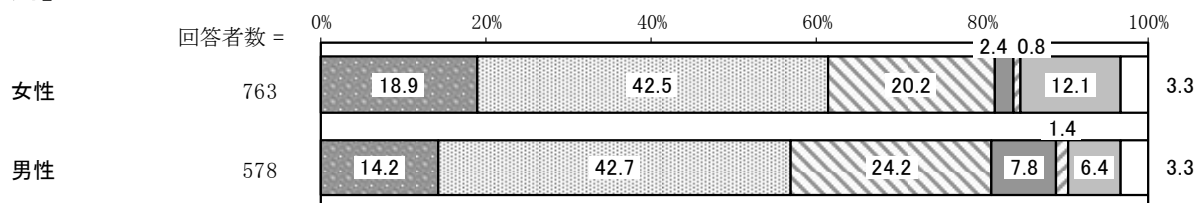
図表 4

②職場では

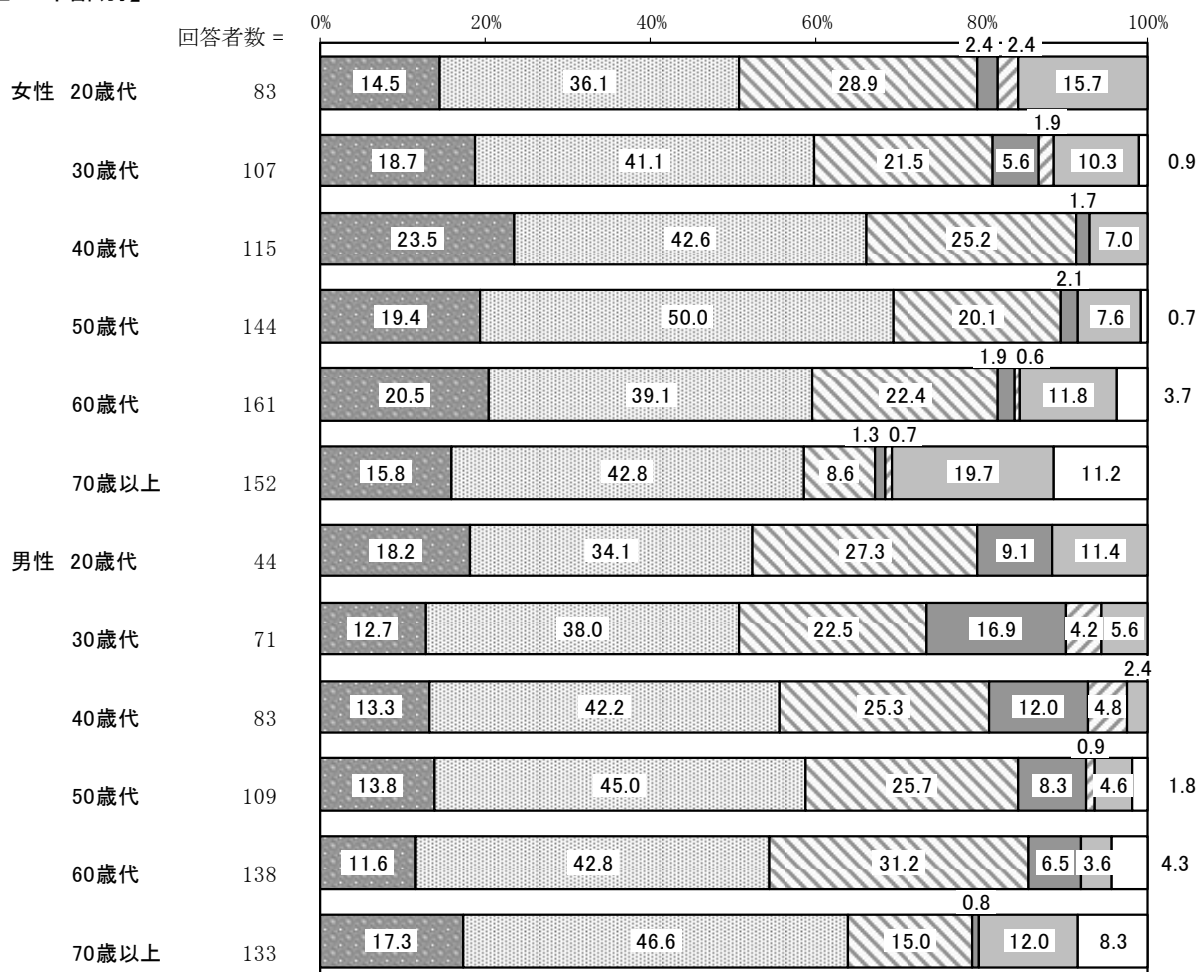
- 男性の方が非常に優遇されている
- ▨ どちらかといえば男性の方が優遇されている
- ▩ 平等
- どちらかといえば女性の方が優遇されている
- ▨ 女性の方が非常に優遇されている
- わからない
- 無回答



【性別】



【性・年齢別】

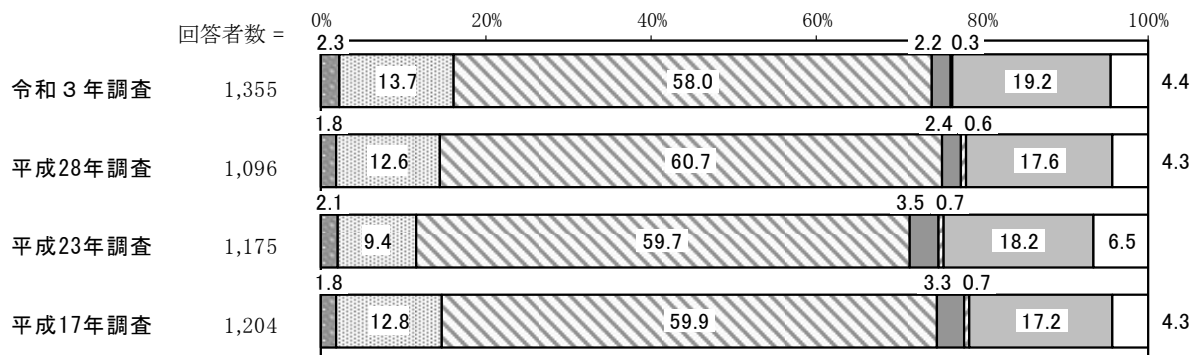




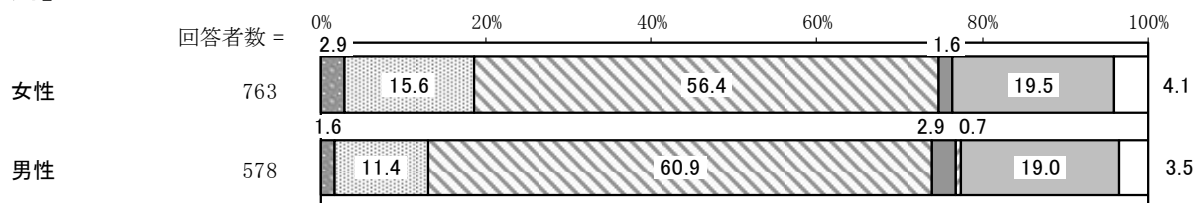
図表 5

③学校教育の場では

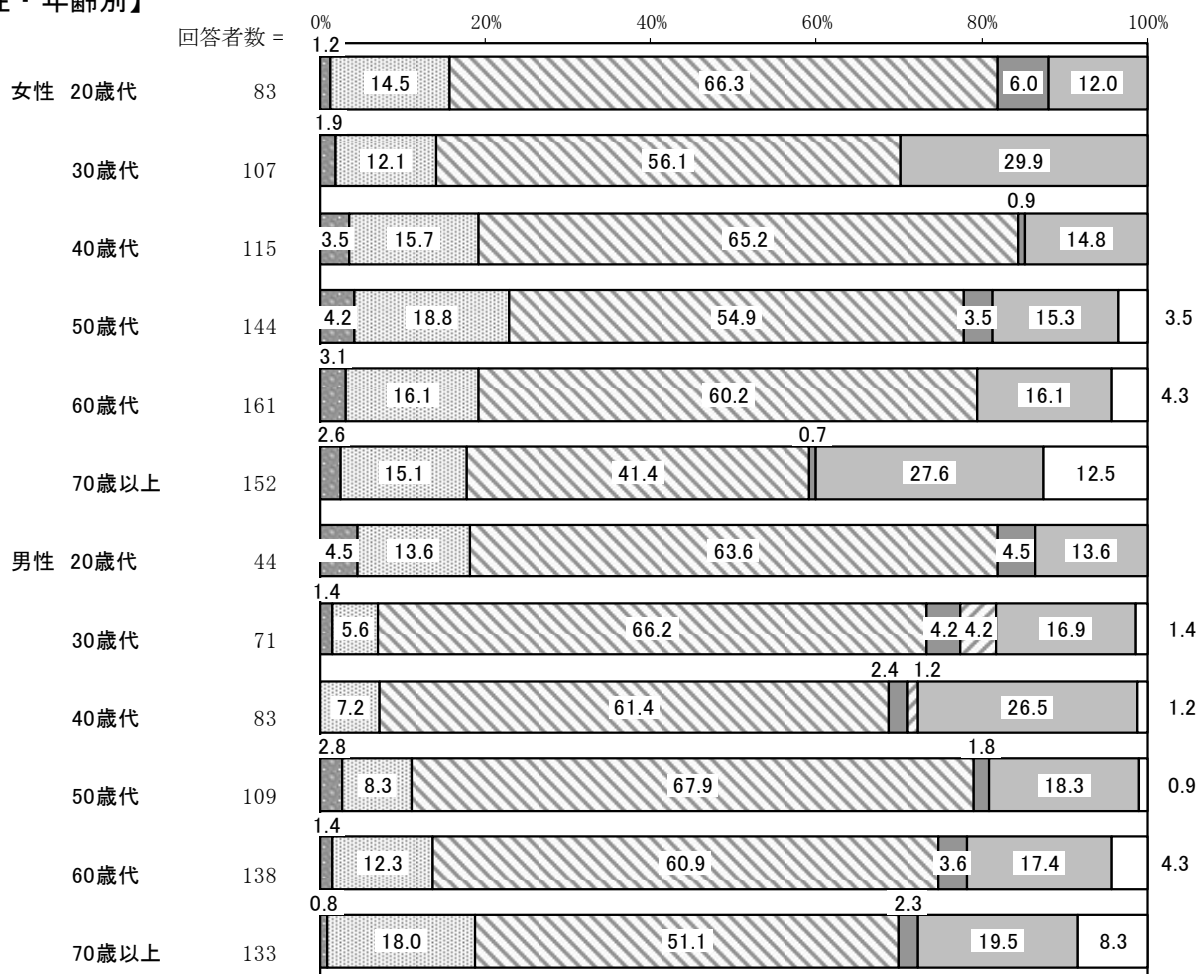
- 男性の方が非常に優遇されている
- ▨ どちらかといえば男性の方が優遇されている
- 平等
- どちらかといえば女性の方が優遇されている
- ▨ 女性の方が非常に優遇されている
- わからない
- 無回答



【性別】



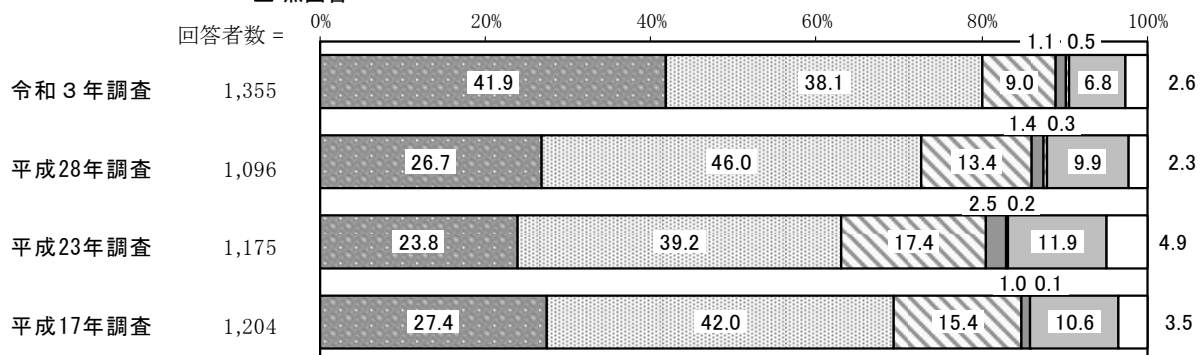
【性・年齢別】



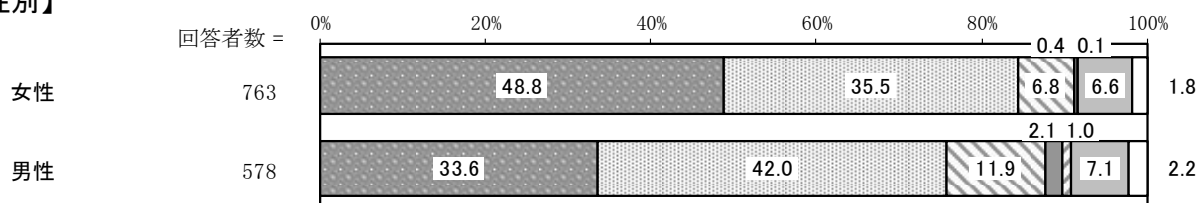
図表 6

④政治の場では

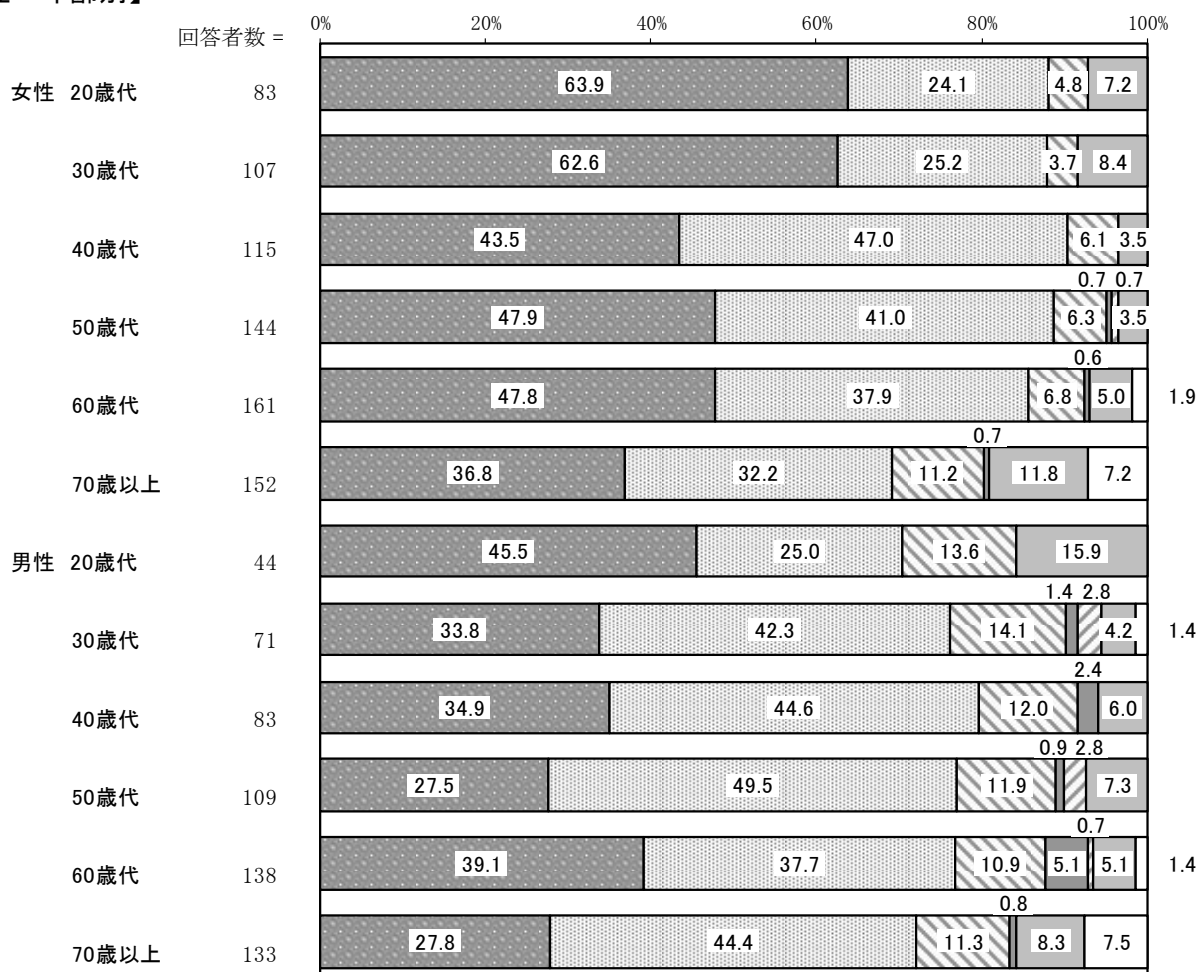
- 男性の方が非常に優遇されている
- どちらかといえば男性の方が優遇されている
- 平等
- どちらかといえば女性の方が優遇されている
- 女性の方が非常に優遇されている
- わからない
- 無回答



【性別】



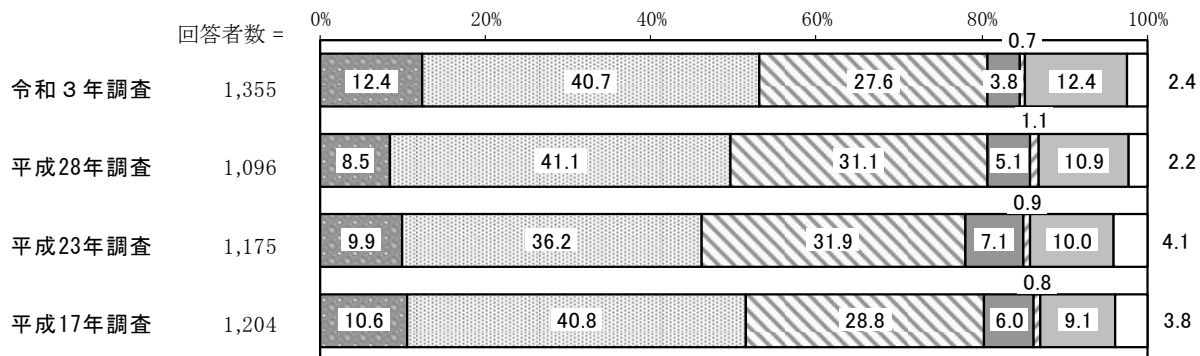
【性・年齢別】



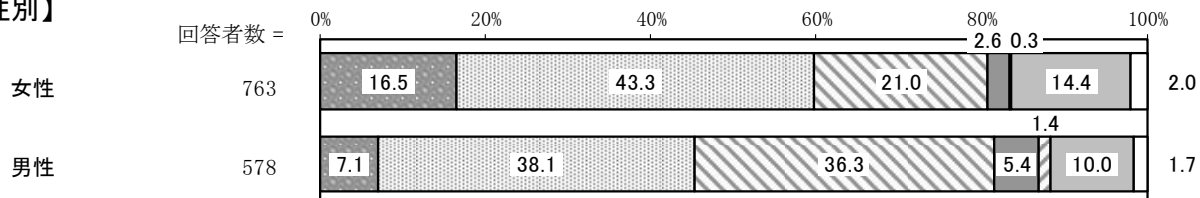
図表 7

⑤地域活動の場では

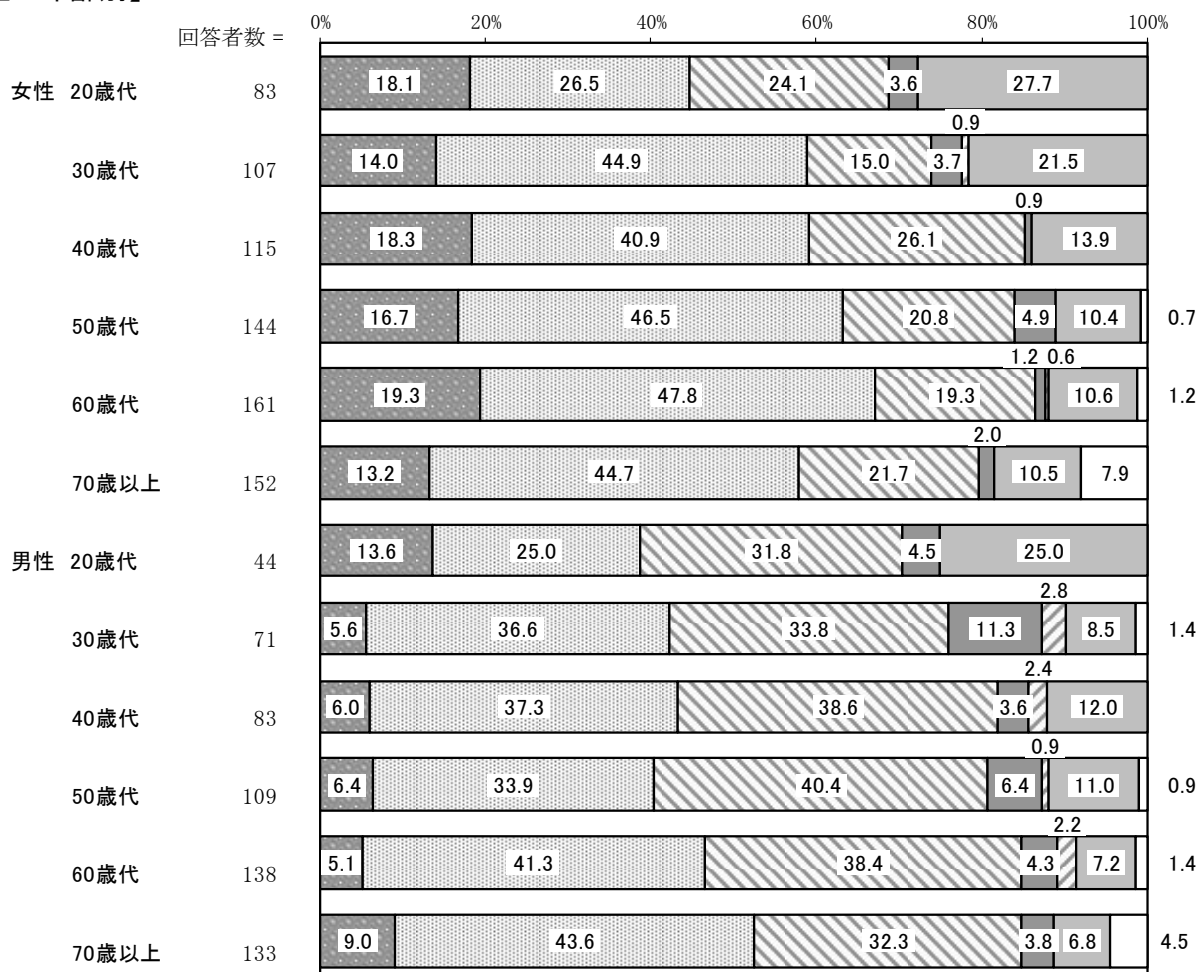
- 男性の方が非常に優遇されている
- ▨ どちらかといえば男性の方が優遇されている
- ▩ 平等
- どちらかといえば女性の方が優遇されている
- ▨ 女性の方が非常に優遇されている
- わからない
- 無回答



【性別】



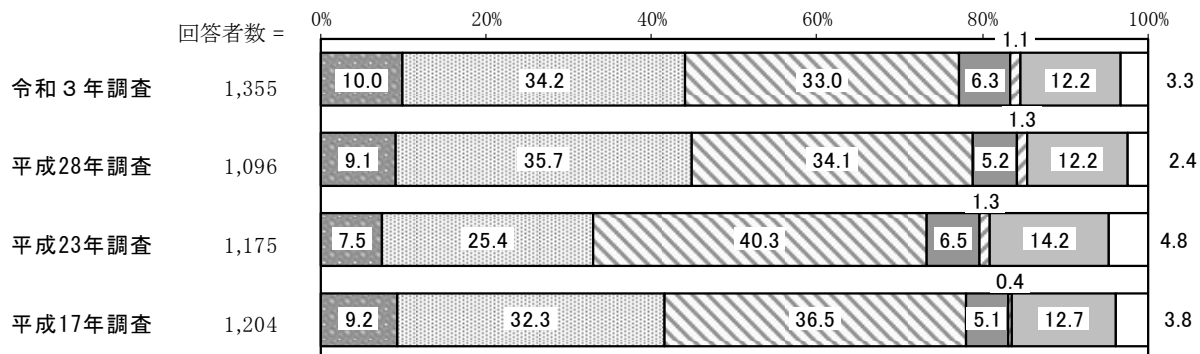
【性・年齢別】



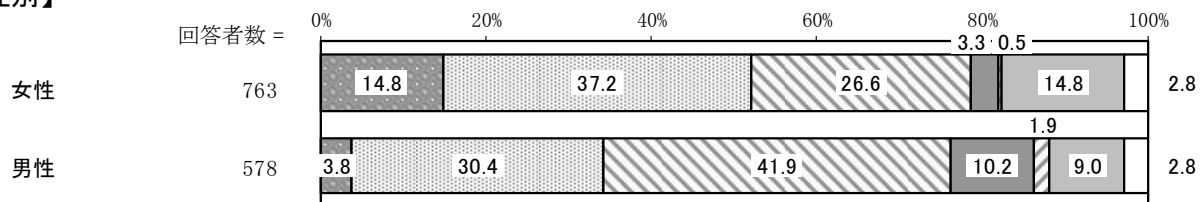
図表 8

⑥法律や制度の上では

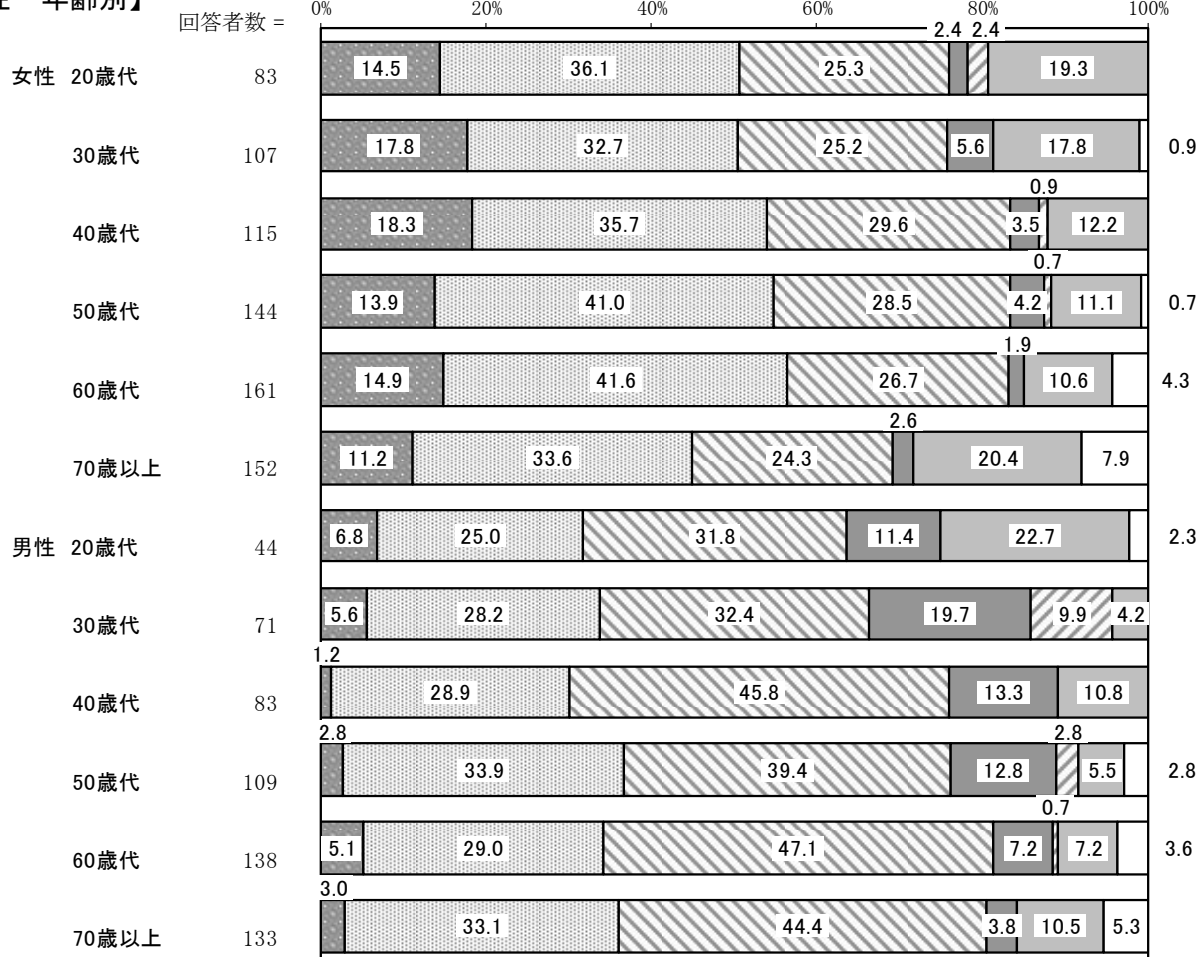
- 男性の方が非常に優遇されている
- ▨ どちらかといえば男性の方が優遇されている
- ▩ 平等
- どちらかといえば女性の方が優遇されている
- ▨ 女性の方が非常に優遇されている
- わからない
- 無回答



【性別】



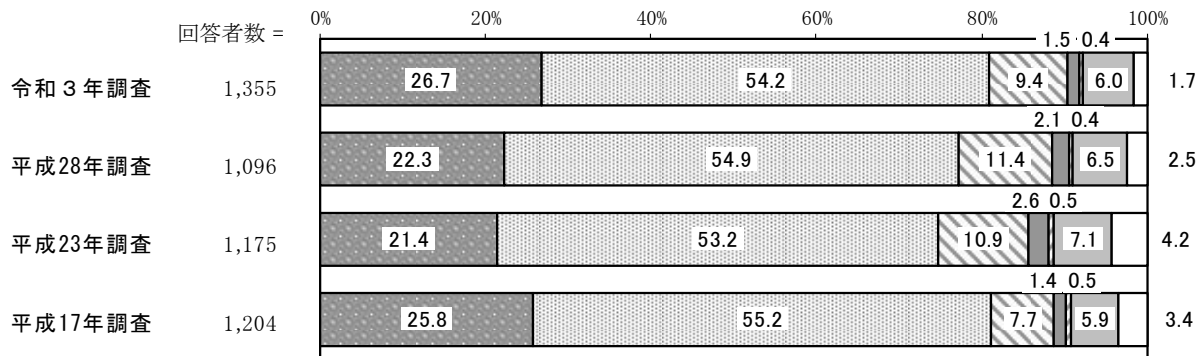
【性・年齢別】



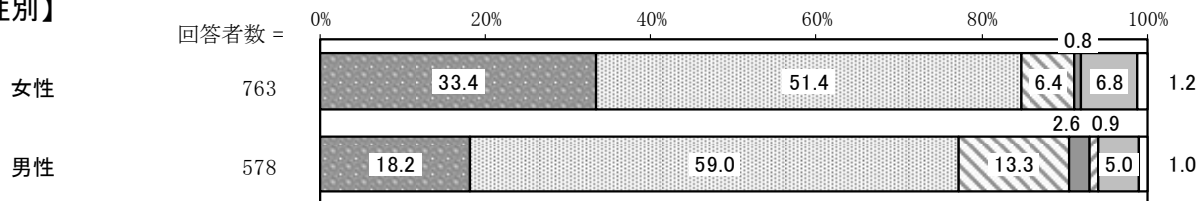
図表 9

⑦社会通念、慣習・しきたりでは

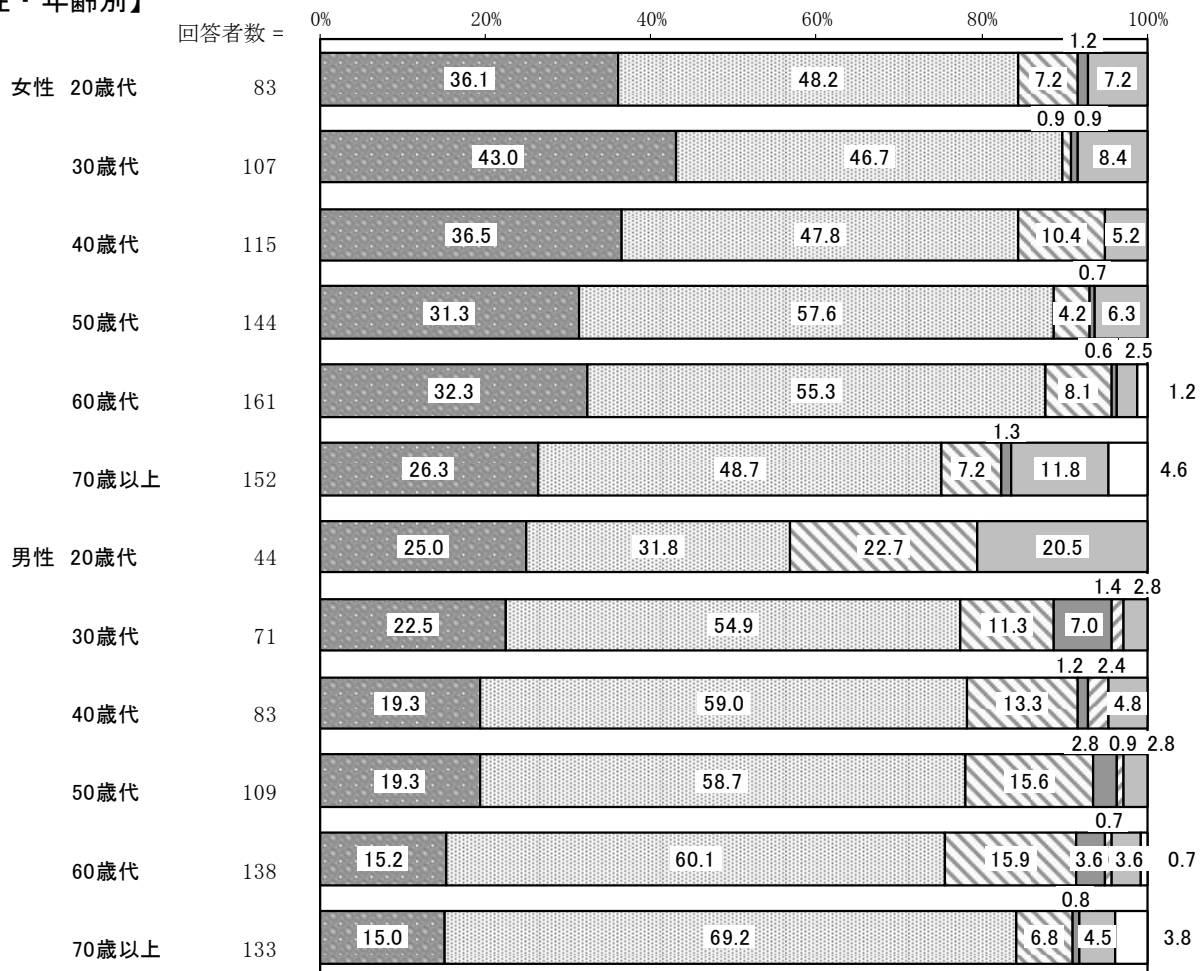
- 男性の方が非常に優遇されている
- 平等
- 女性の方が非常に優遇されている
- 無回答
- どちらかといえば男性の方が優遇されている
- どちらかといえば女性の方が優遇されている
- わからない



【性別】



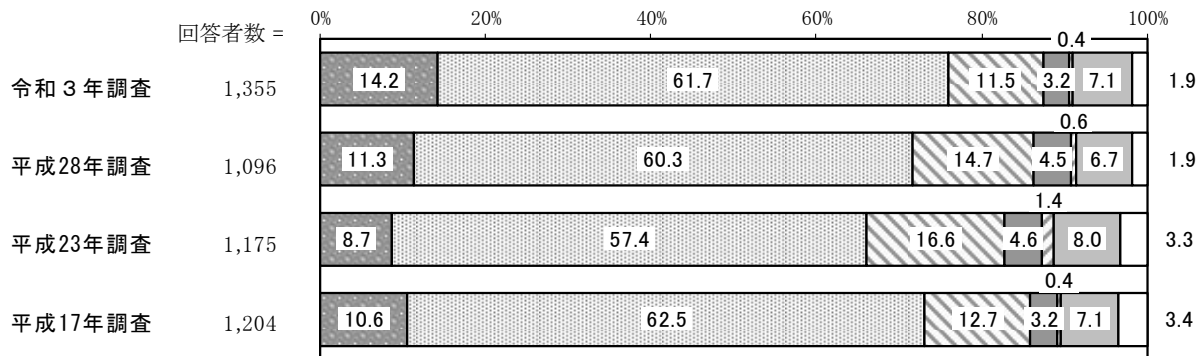
【性・年齢別】



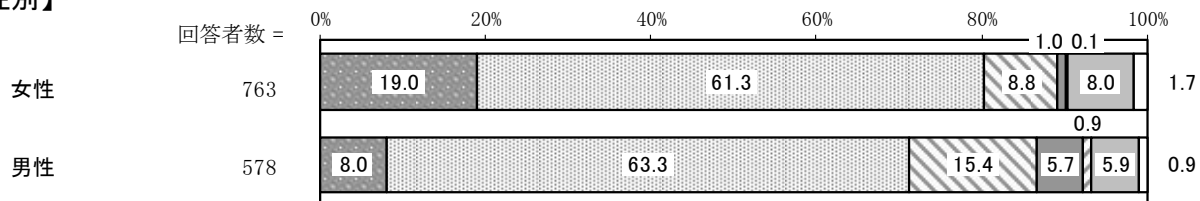
図表 10

⑧社会全体では

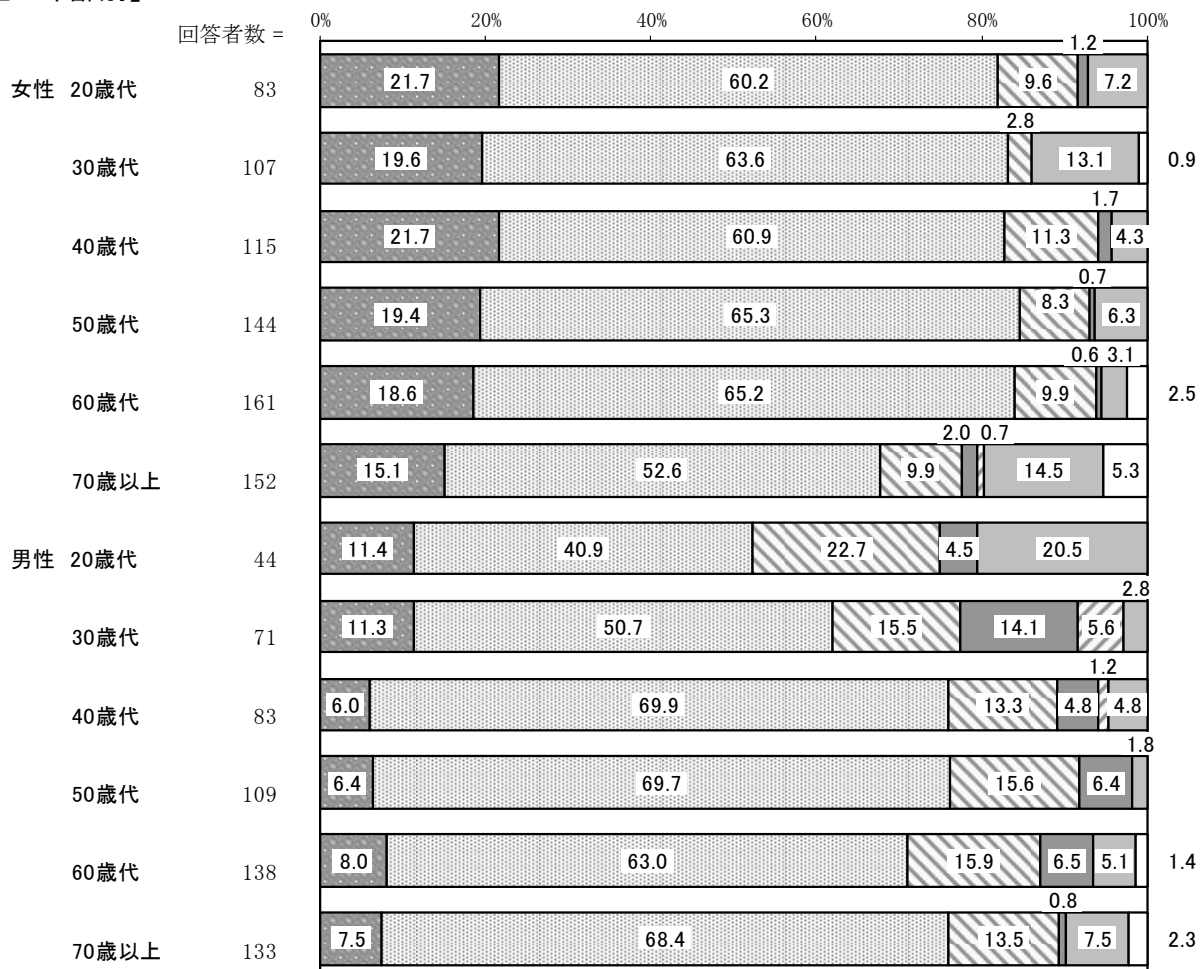
- 男性の方が非常に優遇されている
- どちらかといえば男性の方が優遇されている
- 平等
- どちらかといえば女性の方が優遇されている
- 女性の方が非常に優遇されている
- わからない
- 無回答



【性別】



【性・年齢別】

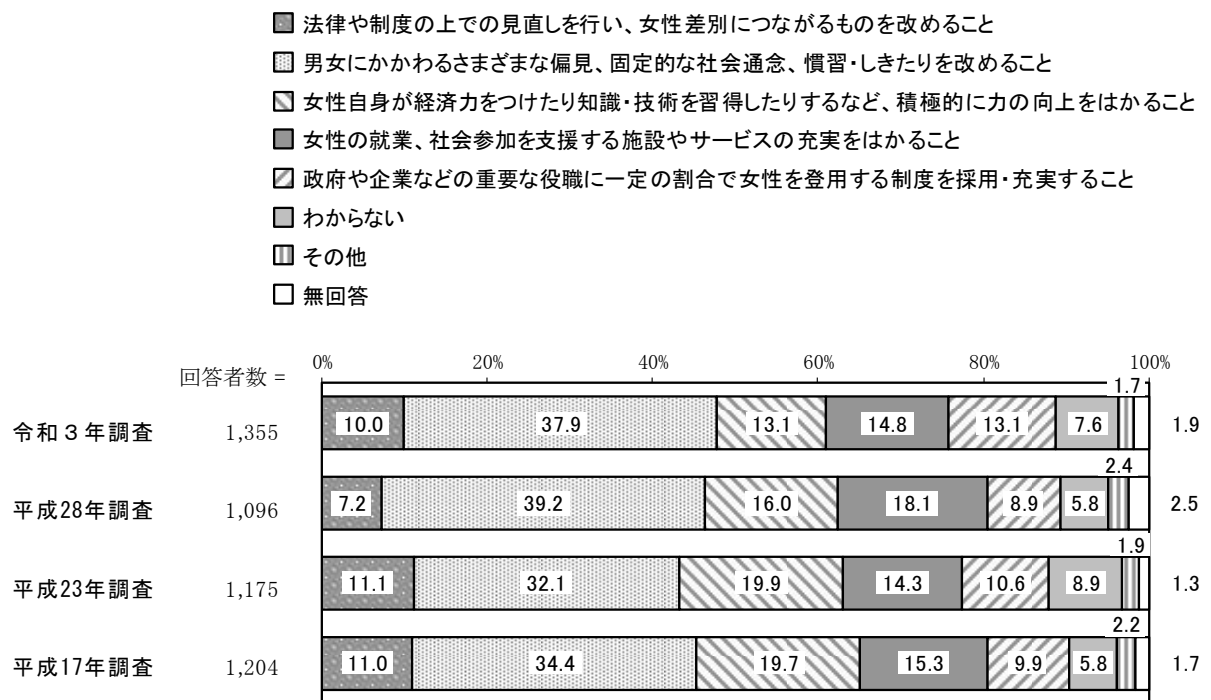


**問2** あなたは、今後、男女が社会のあらゆる分野に参画していくためには、どのようなことが最も重要だと思いますか。  
次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。

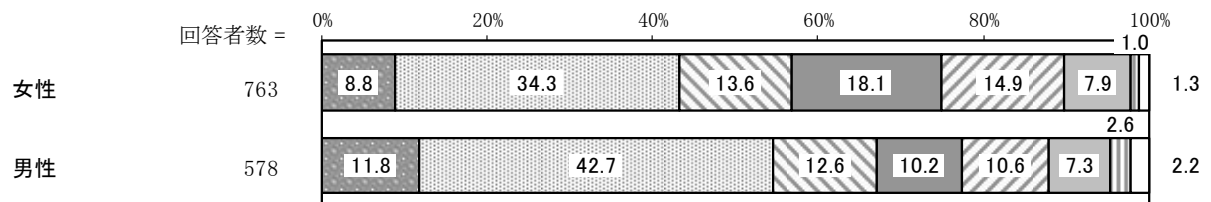
「男女にかかわるさまざまな偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること」の割合が37.9%と最も高く、次いで「女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実をはかること」の割合が14.8%、「女性自身が経済力をつけたり知識・技術を習得したりするなど、積極的に力の向上をはかること」、「政府や企業などの重要な役職に一定の割合で女性を登用する制度を採用・充実すること」の割合が13.1%となっています。

平成28年調査と比較すると、大きな変化はみられません。

図表 11



【性別】

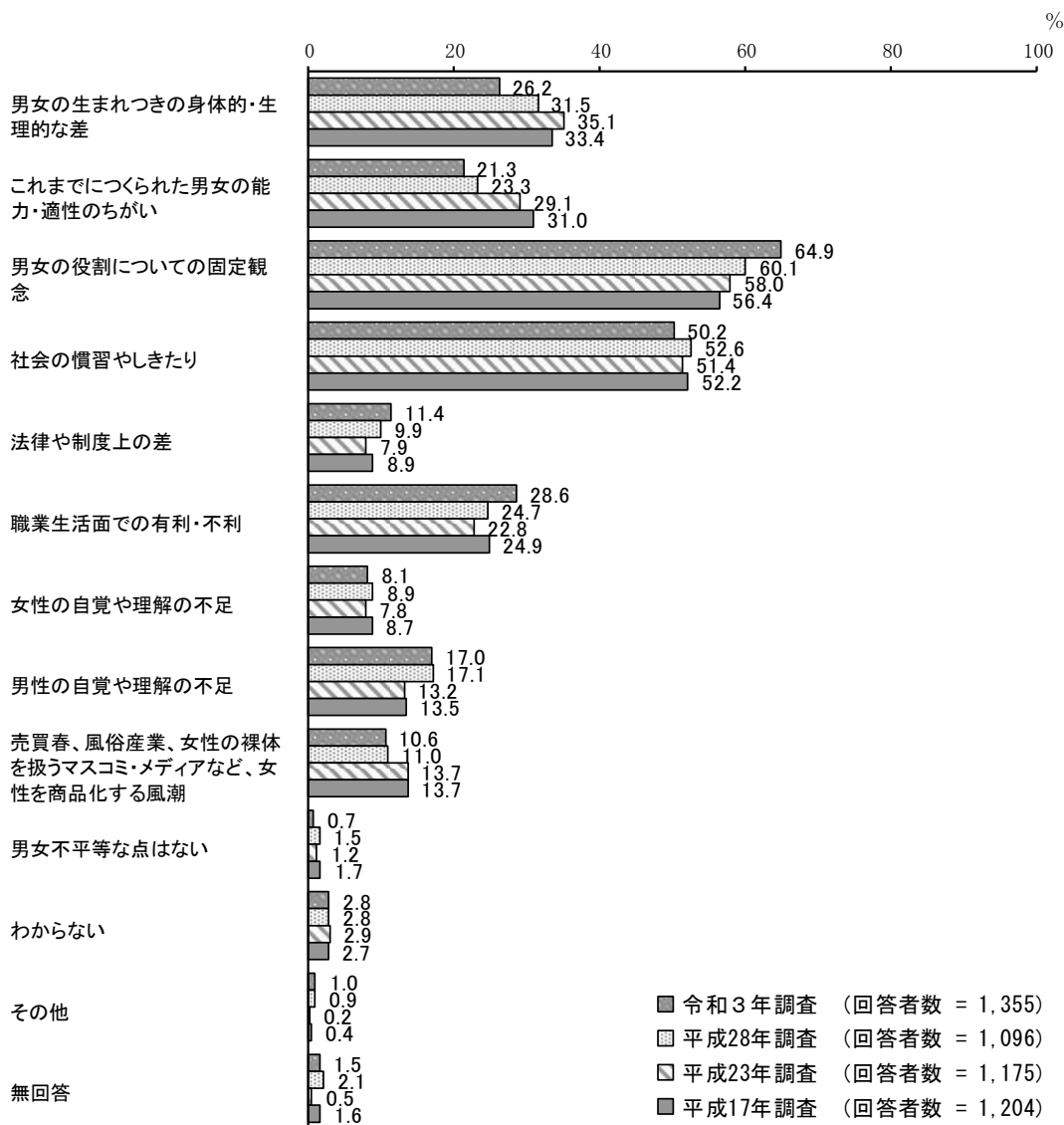


**問3** 社会にはいろいろな面で男女間に不平等があるといわれていますが、不平等が生じる原因はどこにあると思いますか。  
次の中から3つまで（1つでもよい）選んで番号に○をつけてください。

「男女の役割についての固定観念」の割合が64.9%と最も高く、次いで「社会の慣習やしきたり」の割合が50.2%、「職業生活面での有利・不利」の割合が28.6%となっています。

平成28年調査と比較すると、「男女の生まれつきの身体的・生理的な差」の割合が減少しています。

図表 12





【性別】

単位：％

区分	回答者数(件)	男女の生まれつきの身体的・生理的な差	これまでにつくられた男女の能力・適性のちがい	男女の役割についての固定観念	社会の慣習やしきたり	法律や制度上の差	職業生活面での有利・不利	女性の自覚や理解の不足	男性の自覚や理解の不足	ミ・メディアなど、女性を商品化する風潮	売買取、風俗産業、女性の裸体を扱うマスコ	男女不平等な点はない	わからない	その他	無回答
女性	763	21.8	20.3	69.7	49.3	11.1	32.4	6.8	20.2	11.9	0.4	2.8	0.8	1.4	
男性	578	32.2	22.8	59.0	51.4	11.9	23.5	10.0	13.1	8.7	1.0	2.8	1.4	1.0	

【性・年齢別】

単位：％

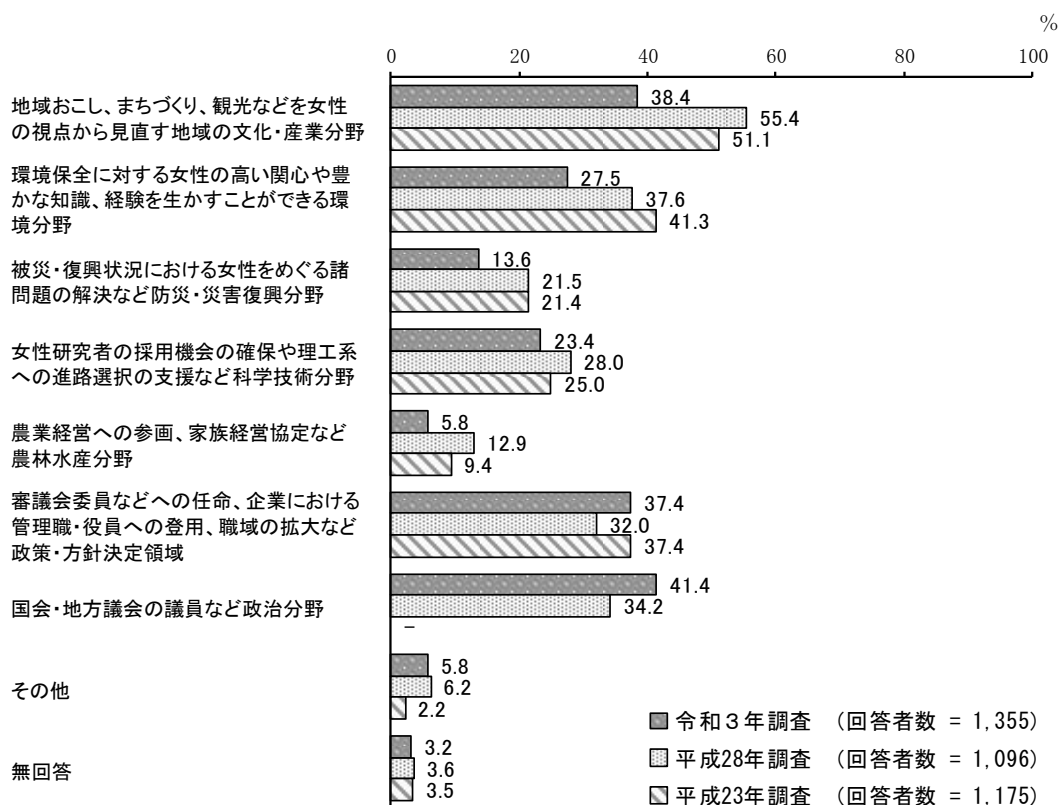
区分	回答者数(件)	男女の生まれつきの身体的・生理的な差	これまでにつくられた男女の能力・適性のちがい	男女の役割についての固定観念	社会の慣習やしきたり	法律や制度上の差	職業生活面での有利・不利	女性の自覚や理解の不足	男性の自覚や理解の不足	ミ・メディアなど、女性を商品化する風潮	売買取、風俗産業、女性の裸体を扱うマスコ	男女不平等な点はない	わからない	その他	無回答
女性 20歳代	83	30.1	18.1	69.9	55.4	9.6	27.7	6.0	16.9	16.9	—	2.4	—	—	
30歳代	107	24.3	15.9	75.7	61.7	15.0	32.7	4.7	20.6	3.7	—	2.8	0.9	—	
40歳代	115	15.7	20.9	77.4	51.3	15.7	34.8	3.5	13.0	10.4	—	1.7	0.9	0.9	
50歳代	144	26.4	22.2	69.4	52.1	9.0	31.9	9.0	21.5	9.7	—	1.4	2.8	0.7	
60歳代	161	20.5	19.9	70.8	52.2	11.8	34.8	8.7	26.7	15.5	—	1.2	—	1.2	
70歳以上	152	17.1	23.0	58.6	30.3	7.2	30.9	6.6	18.4	14.5	2.0	6.6	—	4.6	
男性 20歳代	44	27.3	20.5	65.9	40.9	11.4	18.2	—	11.4	4.5	2.3	2.3	6.8	—	
30歳代	71	43.7	26.8	49.3	42.3	12.7	29.6	11.3	11.3	7.0	2.8	1.4	—	1.4	
40歳代	83	37.3	30.1	68.7	60.2	8.4	14.5	10.8	14.5	4.8	1.2	3.6	1.2	—	
50歳代	109	31.2	22.9	54.1	51.4	11.9	21.1	17.4	15.6	6.4	0.9	1.8	0.9	—	
60歳代	138	29.7	21.0	58.0	55.8	14.5	25.4	9.4	10.9	14.5	0.7	2.2	2.2	0.7	
70歳以上	133	27.8	18.8	60.9	49.6	11.3	27.8	6.8	14.3	9.0	—	4.5	—	3.0	

問4 あなたは、今後どのような分野、領域で女性の参画が必要になるとお思いますか。次の中からあてはまるものを3つまで（1つでもよい）選んで番号に○をつけてください。

「国会・地方議会の議員など政治分野」の割合が41.4%と最も高く、次いで「地域おこし、まちづくり、観光などを女性の視点から見直す地域の文化・産業分野」の割合が38.4%、「審議会委員などへの任命、企業における管理職・役員への登用、職域の拡大など政策・方針決定領域」の割合が37.4%となっています。

平成28年調査と比較すると、「審議会委員などへの任命、企業における管理職・役員への登用、職域の拡大など政策・方針決定領域」「国会・地方議会の議員など政治分野」の割合が増加しています。一方、「地域おこし、まちづくり、観光などを女性の視点から見直す地域の文化・産業分野」「環境保全に対する女性の高い関心や豊かな知識、経験を生かすことができる環境分野」「被災・復興状況における女性をめぐる諸問題の解決など防災・災害復興分野」「農業経営への参画、家族経営協定など農林水産分野」の割合が減少しています。

図表13



※令和3年調査では、回答できる個数を「あてはまるものすべて」から「あてはまるものを3つまで」に変更しています。

【性別】

単位：％

区分	回答者数(件)	地域おこし、まちづくり、観光などを女性の視点から見直す地域の文化・産業分野	環境保全に対する女性の高い関心や豊かな知識、経験を生かすことができる環境分野	被災・復興状況における女性をめぐる諸問題の解決など防災・災害復興分野	被災・復興状況における女性をめぐる諸問題の解決など防災・災害復興分野	科学技術分野	理工系への進路選択の支援など	女性研究者の採用機会の確保や	農業経営への参画、家族経営協定など農林水産分野	農産物加工・販売の促進など	審議会委員などへの任命、企業における管理職・役員への登用、職域の拡大など政策・方針決定領域	国会・地方議会の議員など政治分野	その他	無回答
女性	763	35.6	27.5	12.2	23.6	5.5	36.6	43.4	5.0	3.1				
男性	578	42.4	27.2	15.6	23.4	6.2	38.9	39.4	6.6	2.8				

【性・年齢別】

単位：％

区分	回答者数(件)	地域おこし、まちづくり、観光などを女性の視点から見直す地域の文化・産業分野	環境保全に対する女性の高い関心や豊かな知識、経験を生かすことができる環境分野	被災・復興状況における女性をめぐる諸問題の解決など防災・災害復興分野	被災・復興状況における女性をめぐる諸問題の解決など防災・災害復興分野	科学技術分野	理工系への進路選択の支援など	女性研究者の採用機会の確保や	農業経営への参画、家族経営協定など農林水産分野	農産物加工・販売の促進など	審議会委員などへの任命、企業における管理職・役員への登用、職域の拡大など政策・方針決定領域	国会・地方議会の議員など政治分野	その他	無回答
女性 20歳代	83	25.3	16.9	19.3	21.7	4.8	38.6	59.0	8.4	1.2				
30歳代	107	34.6	11.2	17.8	17.8	2.8	39.3	59.8	2.8	2.8				
40歳代	115	27.0	24.3	11.3	32.2	7.0	40.0	40.9	4.3	—				
50歳代	144	40.3	33.3	19.4	21.5	4.2	38.9	38.9	6.9	0.7				
60歳代	161	42.2	35.4	5.6	27.3	7.5	39.8	42.9	3.1	2.5				
70歳以上	152	36.8	33.6	5.3	20.4	5.9	25.0	30.3	5.3	9.9				
男性 20歳代	44	25.0	18.2	15.9	27.3	—	31.8	36.4	2.3	6.8				
30歳代	71	36.6	22.5	29.6	32.4	7.0	28.2	40.8	9.9	—				
40歳代	83	38.6	21.7	14.5	22.9	6.0	36.1	43.4	6.0	6.0				
50歳代	109	43.1	30.3	22.9	21.1	4.6	44.0	38.5	6.4	—				
60歳代	138	43.5	35.5	9.4	25.4	5.8	42.8	37.0	9.4	0.7				
70歳以上	133	51.9	24.8	9.0	17.3	9.8	40.6	40.6	3.8	5.3				

## 2 職業生活について

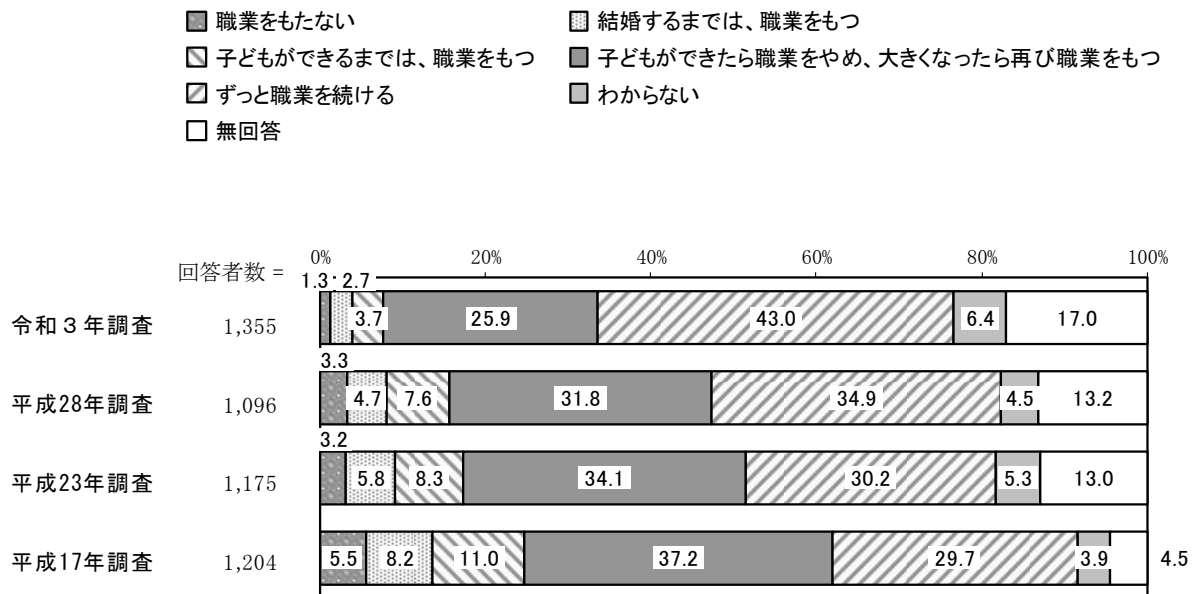
問5 ライフステージの変化と女性の就労について、どのような状態が理想だと思えますか。また、実際の状況(現実)はどうですか。  
 あなたが女性の場合はあなた自身について、男性であればあなたの配偶者・パートナーについて、理想と現実をそれぞれ1つずつ選んで番号に○をつけてください。

### ①理想

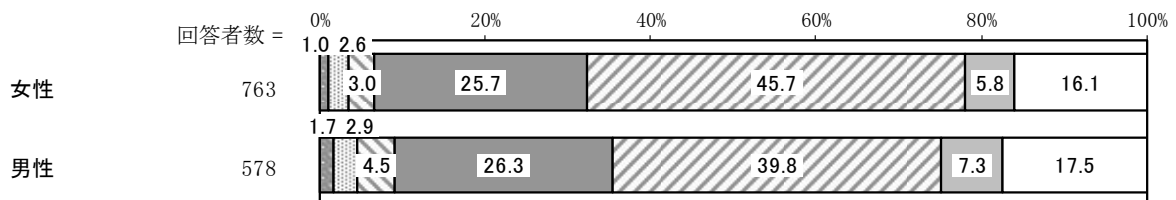
「ずっと職業を続ける」の割合が43.0%と最も高く、次いで「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ」の割合が25.9%となっています。

平成28年調査と比較すると、「ずっと職業を続ける」の割合が増加しています。一方、「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ」の割合が減少しています。

図表 14



### 【性別】

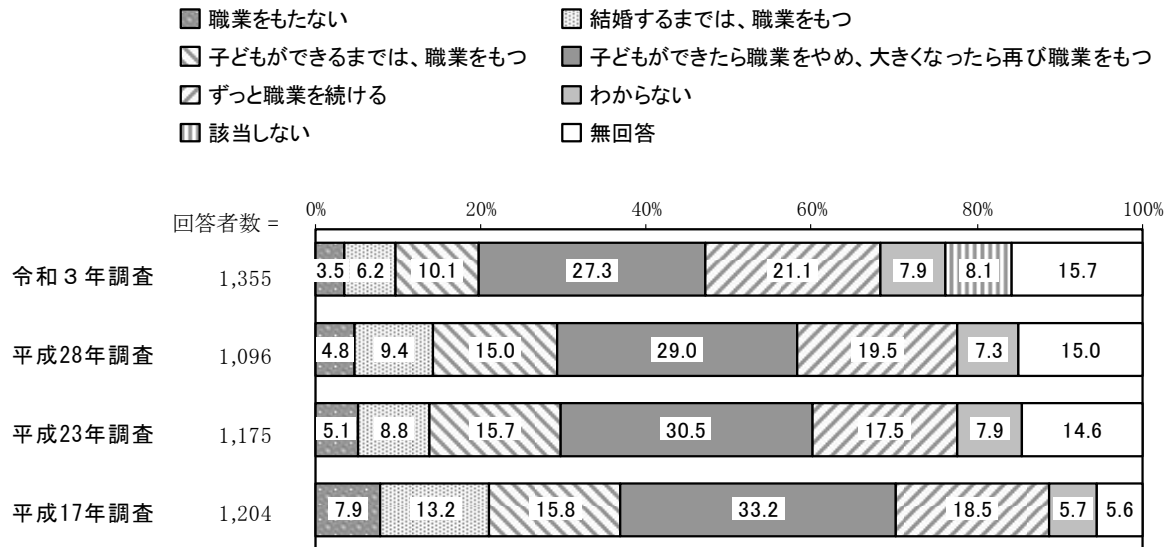


## ②現実

「子どもができれば職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ」の割合が 27.3%と最も高く、次いで「ずっと職業を続ける」の割合が 21.1%、「子どもができるまでは、職業をもつ」の割合が 10.1%となっています。

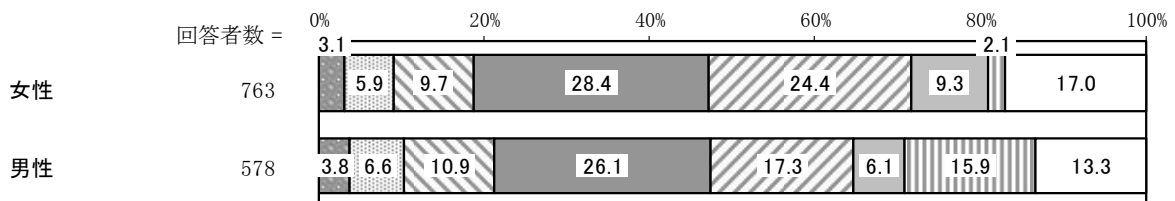
平成 17 年調査、平成 23 年調査、平成 28 年調査とは選択肢が異なるため、参考とします。

図表 15



※平成 17 年調査、平成 23 年調査、平成 28 年調査では、「該当しない」の選択肢はありませんでした。

## 【性別】



### 【女性のライフスタイルの理想と現実の関係】

理想として最も割合の高かった「ずっと職業を続ける」を選択した女性のうち、それが実現できている人は、約3割となっています。また、どのような理想であるかにかかわらず、「ずっと職業を続ける」、「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ」を現実とした女性は、約5割となっています。

単位：%

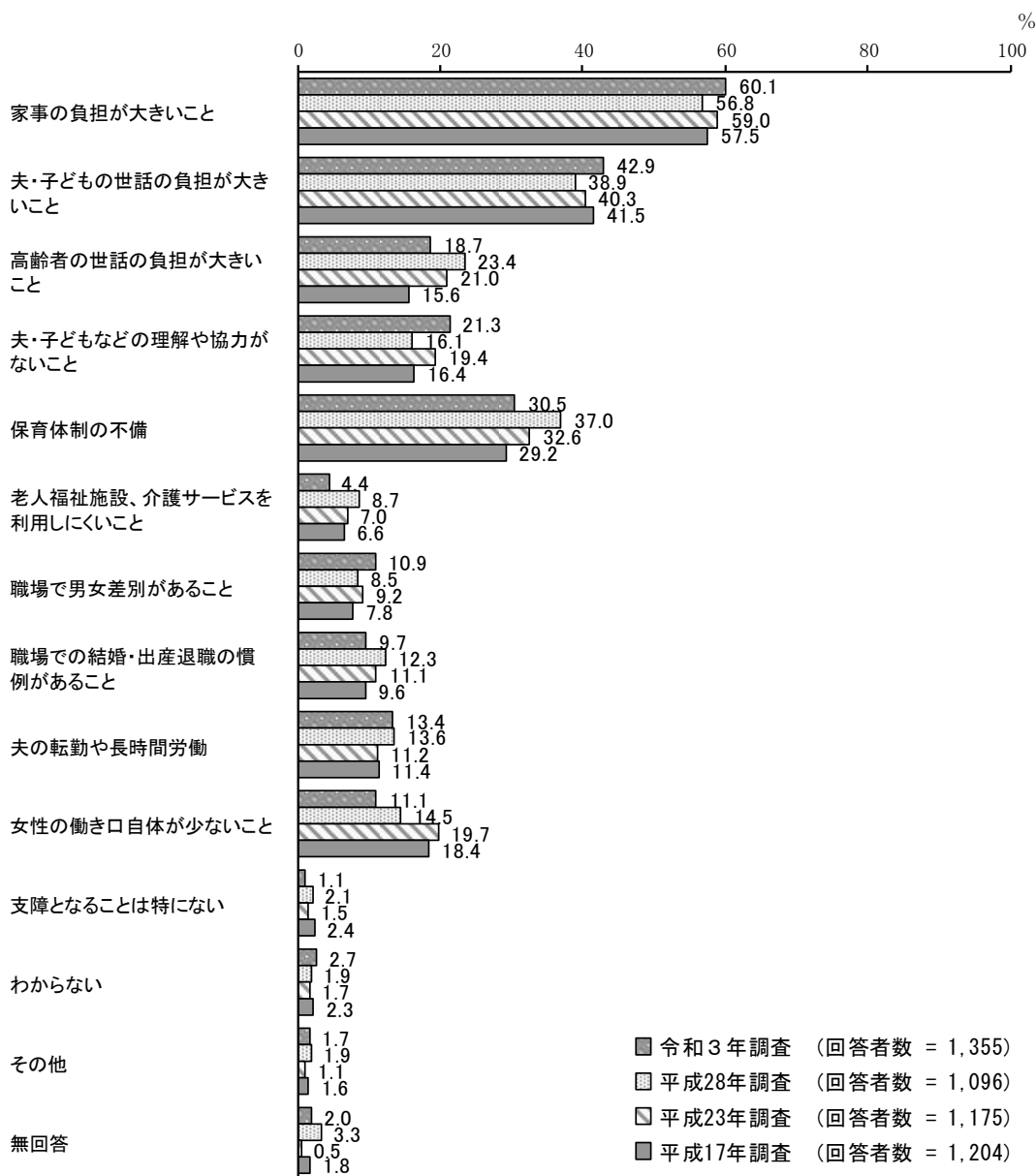
区分	有効回答数(件)	現実							
		職業をもたない	もつ 結婚するまでは、 職業を	子どもができるまでは、 職業をもつ	子どもができたなら職業 をやめ、大きくなったら 再び職業をもつ	子どもができたなら職業 をやめ、大きくなったら 再び職業をもつ	ずっと職業を続ける	わからない	無回答
全体	1355	3.5	6.2	10.1	27.3	21.1	7.9	8.1	
職業をもたない	18	16.7	5.6	5.6	22.2	38.9	—	—	
結婚するまでは、職業をもつ	37	2.7	18.9	5.4	35.1	16.2	8.1	2.7	
子どもができるまでは、職業をもつ	50	6.0	14.0	8.0	26.0	32.0	6.0	2.0	
子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ	351	5.1	7.7	17.7	25.9	21.9	8.5	7.1	
ずっと職業を続ける	582	2.1	5.2	11.0	39.0	28.0	4.1	6.4	
わからない	87	4.6	2.3	4.6	12.6	10.3	46.0	18.4	
理想 女性	職業をもたない	8	12.5	—	12.5	37.5	25.0	—	—
	結婚するまでは、職業をもつ	20	—	15.0	10.0	30.0	25.0	10.0	—
	子どもができるまでは、職業をもつ	23	4.3	4.3	13.0	34.8	30.4	8.7	—
	子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ	196	4.1	6.6	15.3	23.0	27.6	11.7	3.1
	ずっと職業を続ける	349	1.7	5.7	10.6	39.8	30.4	4.3	2.3
	わからない	44	6.8	—	2.3	22.7	13.6	52.3	2.3
男性	職業をもたない	10	20.0	10.0	—	10.0	50.0	—	—
	結婚するまでは、職業をもつ	17	5.9	23.5	—	41.2	5.9	5.9	5.9
	子どもができるまでは、職業をもつ	26	3.8	23.1	3.8	19.2	34.6	3.8	3.8
	子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ	152	5.9	8.6	21.1	30.3	15.1	4.6	11.8
	ずっと職業を続ける	230	2.6	4.3	11.7	37.4	24.8	3.9	12.2
	わからない	42	2.4	4.8	7.1	2.4	7.1	38.1	35.7

**問6 あなたは、女性が働く上で、支障となることはどのようなことだと思いますか。次の中から3つまで（1つでもよい）選んで番号に○をつけてください。**

「家事の負担が大きいこと」の割合が60.1%と最も高く、次いで「夫・子どもの世話の負担が大きいこと」の割合が42.9%、「保育体制の不備」の割合が30.5%となっています。

平成28年調査と比較すると、「夫・子どもなどの理解や協力がいないこと」の割合が増加しています。一方、「保育体制の不備」の割合が減少しています。

図表 16



【性別】

単位：％

区分	回答者数(件)	家事の負担が大きいこと	夫・子どもの世話の負担が大きいこと	高齢者の世話の負担が大きいこと	夫・子どもなどの理解や協力ができないこと	保育体制の不備	老人福祉施設、介護サービスを利用しにくいこと	職場で男女差別があること	職場での結婚・出産退職の慣例があること	夫の転勤や長時間労働	女性の働き口自体が少ないこと	支障となることは特にない	わからない	その他	無回答
女性	763	64.9	42.3	22.1	23.5	30.4	4.5	10.7	7.7	12.7	12.7	0.9	2.4	1.6	2.0
男性	578	54.3	44.1	14.5	18.3	31.0	4.2	11.1	12.3	14.5	9.2	1.2	3.1	1.9	1.6

【性・年齢別】

単位：％

区分	回答者数(件)	家事の負担が大きいこと	夫・子どもの世話の負担が大きいこと	高齢者の世話の負担が大きいこと	夫・子どもなどの理解や協力ができないこと	保育体制の不備	老人福祉施設、介護サービスを利用しにくいこと	職場で男女差別があること	職場での結婚・出産退職の慣例があること	夫の転勤や長時間労働	女性の働き口自体が少ないこと	支障となることは特にない	わからない	その他	無回答
女性 20歳代	83	61.4	44.6	12.0	32.5	47.0	—	10.8	13.3	15.7	8.4	—	3.6	—	2.4
30歳代	107	71.0	57.0	13.1	22.4	37.4	0.9	11.2	5.6	26.2	13.1	—	0.9	1.9	1.9
40歳代	115	73.0	54.8	14.8	24.3	29.6	2.6	10.4	4.3	12.2	12.2	1.7	0.9	2.6	—
50歳代	144	66.0	43.8	33.3	27.1	22.9	1.4	11.1	7.6	9.7	11.8	0.7	2.1	3.5	—
60歳代	161	64.6	31.7	26.1	24.2	35.4	9.3	11.8	11.2	11.2	14.9	0.6	0.6	—	1.2
70歳以上	152	55.9	31.6	24.3	14.5	19.1	8.6	8.6	5.3	6.6	13.8	2.0	5.9	1.3	5.9
男性 20歳代	44	59.1	40.9	6.8	20.5	40.9	—	15.9	15.9	11.4	9.1	—	2.3	—	2.3
30歳代	71	42.3	42.3	9.9	18.3	31.0	—	7.0	16.9	31.0	7.0	1.4	2.8	4.2	—
40歳代	83	44.6	41.0	8.4	27.7	28.9	2.4	4.8	14.5	22.9	9.6	1.2	4.8	4.8	—
50歳代	109	60.6	55.0	10.1	22.0	34.9	1.8	13.8	5.5	10.1	12.8	1.8	3.7	0.9	0.9
60歳代	138	62.3	42.0	15.9	15.9	31.9	5.1	14.5	12.3	9.4	8.7	0.7	2.9	2.2	0.7
70歳以上	133	51.9	41.4	25.6	11.3	24.8	9.8	9.8	12.8	10.5	7.5	1.5	2.3	—	4.5



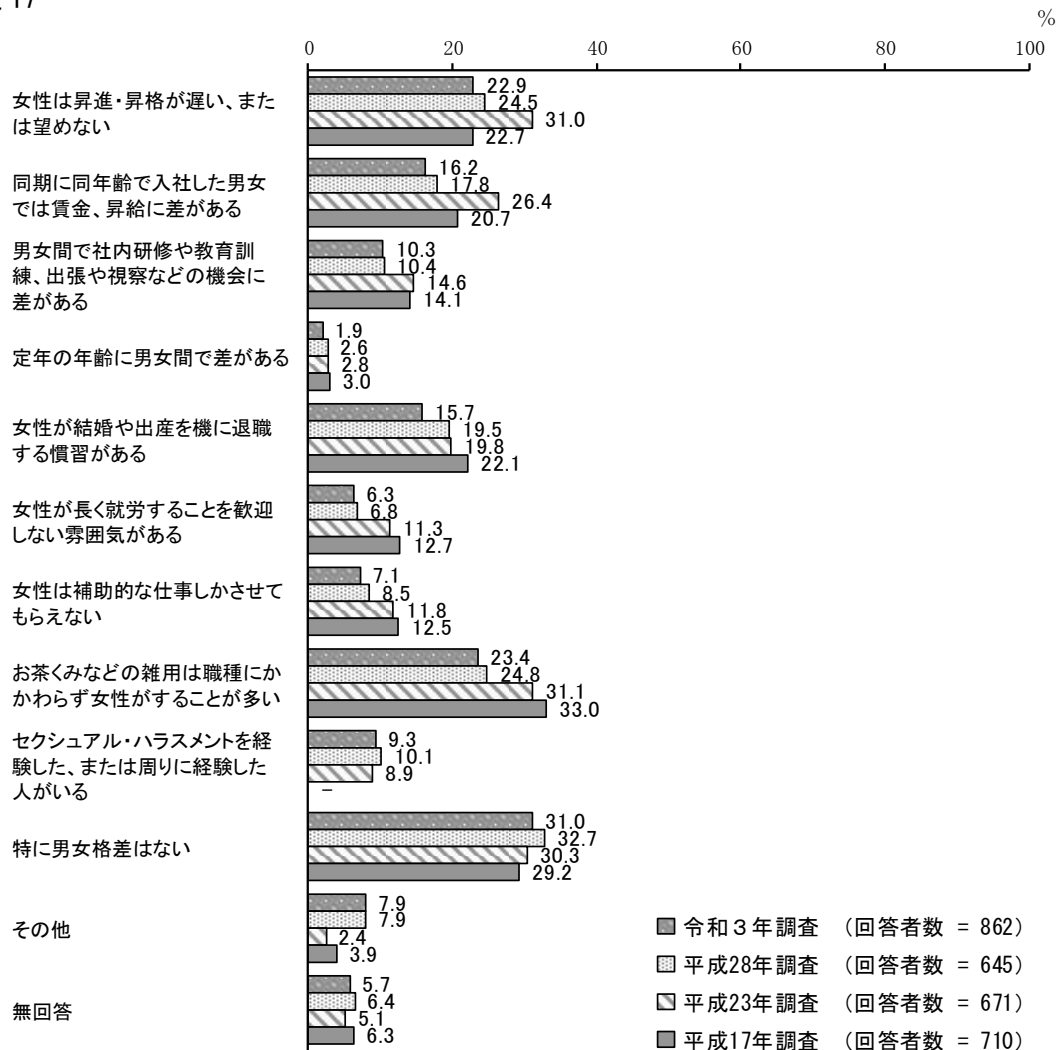
問7 この設問は、就労している方(F3で「1. 勤め人(常勤)」「2. 勤め人(非常勤、パートタイム、アルバイトなど)」「3. 農林水産業」「4. その他自営業」と回答した方)にのみおたずねします。※ただし、「5. 学生」と回答した方でも、アルバイトなどで就労している方は、お答えください。  
あなたの職場で現在次のようなことがありますか。次の中からあてはまるものをすべて選んで番号に○をつけてください。

「特に男女格差はない」の割合が31.0%と最も高く、次いで「お茶くみなどの雑用は職種にかかわらず女性がすることが多い」の割合が23.4%、「女性は昇進・昇格が遅い、または望めない」の割合が22.9%となっています。

平成28年調査と比較すると、大きな変化はみられません。

平成23年調査と比較すると、「女性は昇進・昇格が遅い、または望めない」「同期に同年齢で入社した男女では賃金、昇給に差がある」「女性が長く就労することを歓迎しない雰囲気がある」「女性は補助的な仕事しかさせてもらえない」「お茶くみなどの雑用は職種にかかわらず女性がすることが多い」の割合が減少しています。

図表 17



【性別】

単位：％

区分	回答者数(件)	女性 は昇進・昇格が 遅い、または望 めない	同期に同年齢で 入社した男女で は賃金、昇給に差が ある	男女間で社内研 修や教育訓練、 出張や視察など の機会に差があ る	定年の年齢に男 女間で差がある	女性が結婚や出 産を機に退職す る慣習がある	女性が長く就労 することを歓迎し ない雰囲気がある	女性は補助的な 仕事しかさせて もらえない	お茶くみなどの 雑用は職種にか かわらず女性が することが多い	セクシュアル・ ハラスメントを 経験した、また は周りに経験し た人がいる	特に男女格差は ない	その他	無回答
女性	443	25.3	17.2	7.9	1.4	16.5	6.8	6.3	25.7	11.1	31.2	7.9	5.4
男性	416	20.4	15.4	13.0	2.4	14.7	5.5	7.9	20.9	7.2	30.8	7.7	6.0

【性・年齢別】

単位：％

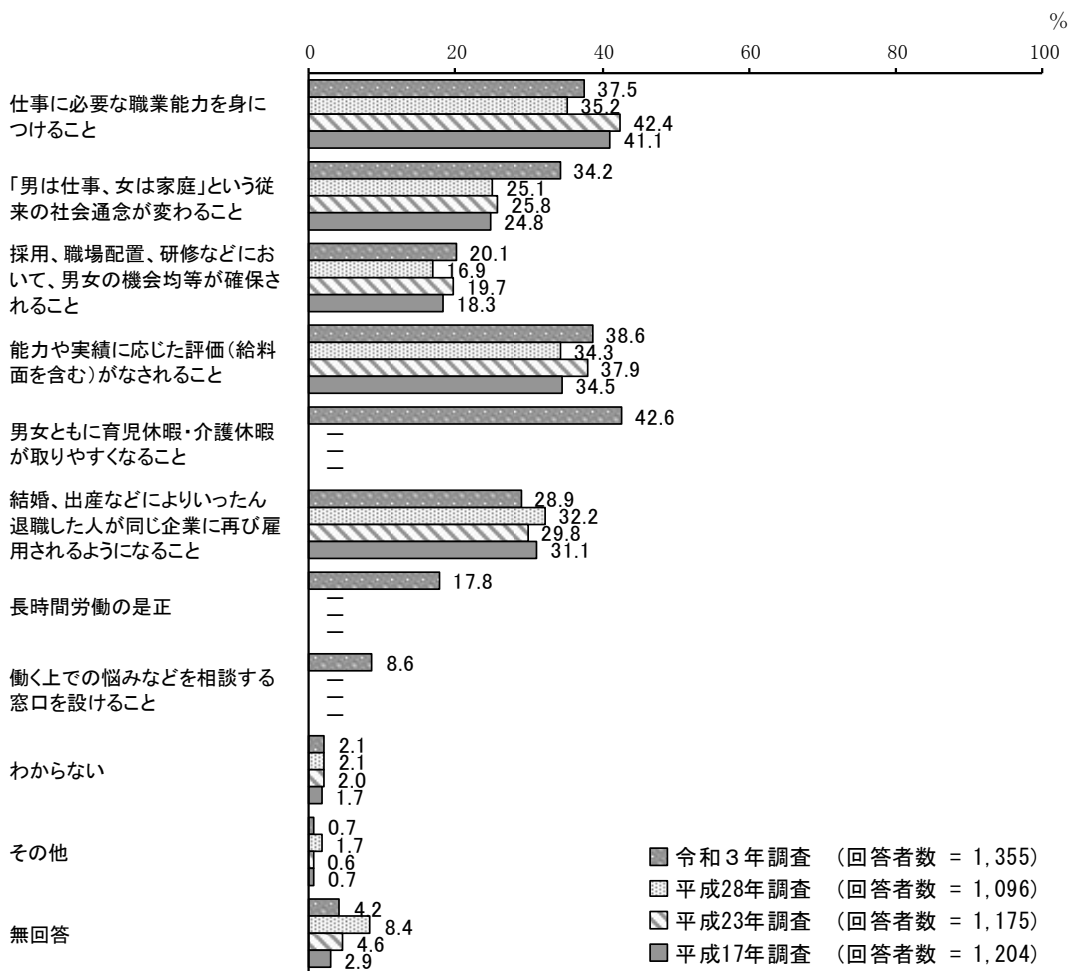
区分	回答者数(件)	女性 は昇進・昇格が 遅い、または望 めない	同期に同年齢で 入社した男女で は賃金、昇給に差が ある	男女間で社内研 修や教育訓練、 出張や視察など の機会に差があ る	定年の年齢に男 女間で差がある	女性が結婚や出 産を機に退職す る慣習がある	女性が長く就労 することを歓迎し ない雰囲気がある	女性は補助的な 仕事しかさせて もらえない	お茶くみなどの 雑用は職種にか かわらず女性が することが多い	セクシュアル・ ハラスメントを 経験した、また は周りに経験し た人がいる	特に男女格差は ない	その他	無回答
女性 20歳代	69	20.3	7.2	2.9	—	14.5	1.4	2.9	14.5	5.8	44.9	5.8	10.1
30歳代	80	20.0	17.5	8.8	3.8	20.0	1.3	5.0	26.3	16.3	31.3	7.5	3.8
40歳代	92	31.5	22.8	6.5	1.1	17.4	7.6	5.4	35.9	13.0	28.3	6.5	3.3
50歳代	110	34.5	19.1	14.5	0.9	16.4	7.3	9.1	26.4	10.0	28.2	4.5	3.6
60歳代	65	13.8	16.9	3.1	1.5	12.3	10.8	7.7	26.2	9.2	29.2	18.5	4.6
70歳以上	26	23.1	15.4	3.8	—	19.2	23.1	7.7	15.4	7.7	23.1	7.7	15.4
男性 20歳代	40	17.5	10.0	10.0	2.5	22.5	5.0	12.5	12.5	7.5	27.5	2.5	12.5
30歳代	69	14.5	7.2	10.1	2.9	20.3	2.9	7.2	26.1	5.8	43.5	7.2	2.9
40歳代	78	21.8	10.3	11.5	1.3	6.4	6.4	12.8	25.6	10.3	32.1	9.0	5.1
50歳代	104	22.1	18.3	13.5	2.9	14.4	3.8	5.8	19.2	6.7	26.0	6.7	6.7
60歳代	94	28.7	24.5	16.0	1.1	13.8	7.4	6.4	21.3	7.4	30.9	6.4	3.2
70歳以上	31	3.2	16.1	16.1	6.5	16.1	9.7	3.2	12.9	3.2	19.4	19.4	12.9

問8 あなたは一般的に、男女がともに職場で能力を発揮し、かつ継続して勤務するためにはどのようなことが重要だと思いますか。次の中から3つまで(1つでもよい)選んで番号に○をつけてください。

「男女ともに育児休暇・介護休暇が取りやすくなること」の割合が42.6%と最も高く、次いで「能力や実績に応じた評価(給料面を含む)がなされること」の割合が38.6%、「仕事に必要な職業能力を身につけること」の割合が37.5%となっています。

平成28年調査と比較すると、「男は仕事、女は家庭」という従来の社会通念が変わること」の割合が増加しています。

図表 18



※平成28年調査、平成23年調査、平成17年調査では「男女ともに育児休暇・介護休暇が取りやすくなること」の選択肢は「男女ともに育児休暇が取りやすくなること」「男女ともに介護休暇が取りやすくなること」となっていました。また、「長時間労働の是正」「働く上での悩みなどを相談する窓口を設けること」の選択肢はありませんでした。

【性別】

単位：％

区分	回答者数（件）	仕事に必要な職業能力を身につけること	「男は仕事、女は家庭」という従来の社会通念が変わること	採用、職場配置、研修などにおいて、男女の機会均等が確保されること	能力や実績に応じた評価（給料面を含む）がなされること	男女ともに育児休暇・介護休暇が取りやすくなること	結婚、出産などによりいったん退職した人が同じ企業に再び雇用されるようになること	長時間労働の是正	働く上での悩みなどを相談する窓口を設けること	わからない	その他	無回答
女性	763	37.7	35.5	17.2	40.9	44.3	30.9	18.6	8.9	2.0	0.9	3.9
男性	578	37.7	32.7	23.7	36.0	40.5	26.5	17.0	8.3	2.2	0.5	4.0

【性・年齢別】

単位：％

区分	回答者数（件）	仕事に必要な職業能力を身につけること	「男は仕事、女は家庭」という従来の社会通念が変わること	採用、職場配置、研修などにおいて、男女の機会均等が確保されること	能力や実績に応じた評価（給料面を含む）がなされること	男女ともに育児休暇・介護休暇が取りやすくなること	結婚、出産などによりいったん退職した人が同じ企業に再び雇用されるようになること	長時間労働の是正	働く上での悩みなどを相談する窓口を設けること	わからない	その他	無回答
女性 20歳代	83	25.3	47.0	18.1	37.3	66.3	33.7	18.1	3.6	1.2	—	—
30歳代	107	28.0	46.7	10.3	37.4	57.0	33.6	29.9	9.3	2.8	2.8	0.9
40歳代	115	40.0	34.8	13.9	44.3	42.6	37.4	25.2	6.1	1.7	—	0.9
50歳代	144	43.1	37.5	20.8	41.7	36.8	31.9	20.1	9.7	—	2.8	2.1
60歳代	161	44.1	32.3	18.6	49.1	39.8	28.0	16.8	11.8	1.2	—	4.3
70歳以上	152	38.2	23.7	19.1	32.9	36.2	25.0	6.6	9.2	4.6	—	11.8
男性 20歳代	44	25.0	54.5	18.2	25.0	50.0	22.7	15.9	6.8	4.5	—	2.3
30歳代	71	32.4	33.8	14.1	26.8	57.7	25.4	23.9	4.2	2.8	1.4	1.4
40歳代	83	32.5	33.7	13.3	32.5	48.2	28.9	25.3	14.5	—	1.2	1.2
50歳代	109	38.5	31.2	27.5	37.6	38.5	26.6	16.5	8.3	1.8	—	0.9
60歳代	138	44.2	27.5	30.4	42.8	37.0	28.3	13.8	11.6	2.9	0.7	2.2
70歳以上	133	40.6	30.8	27.1	38.3	28.6	24.8	12.0	3.8	2.3	—	12.0

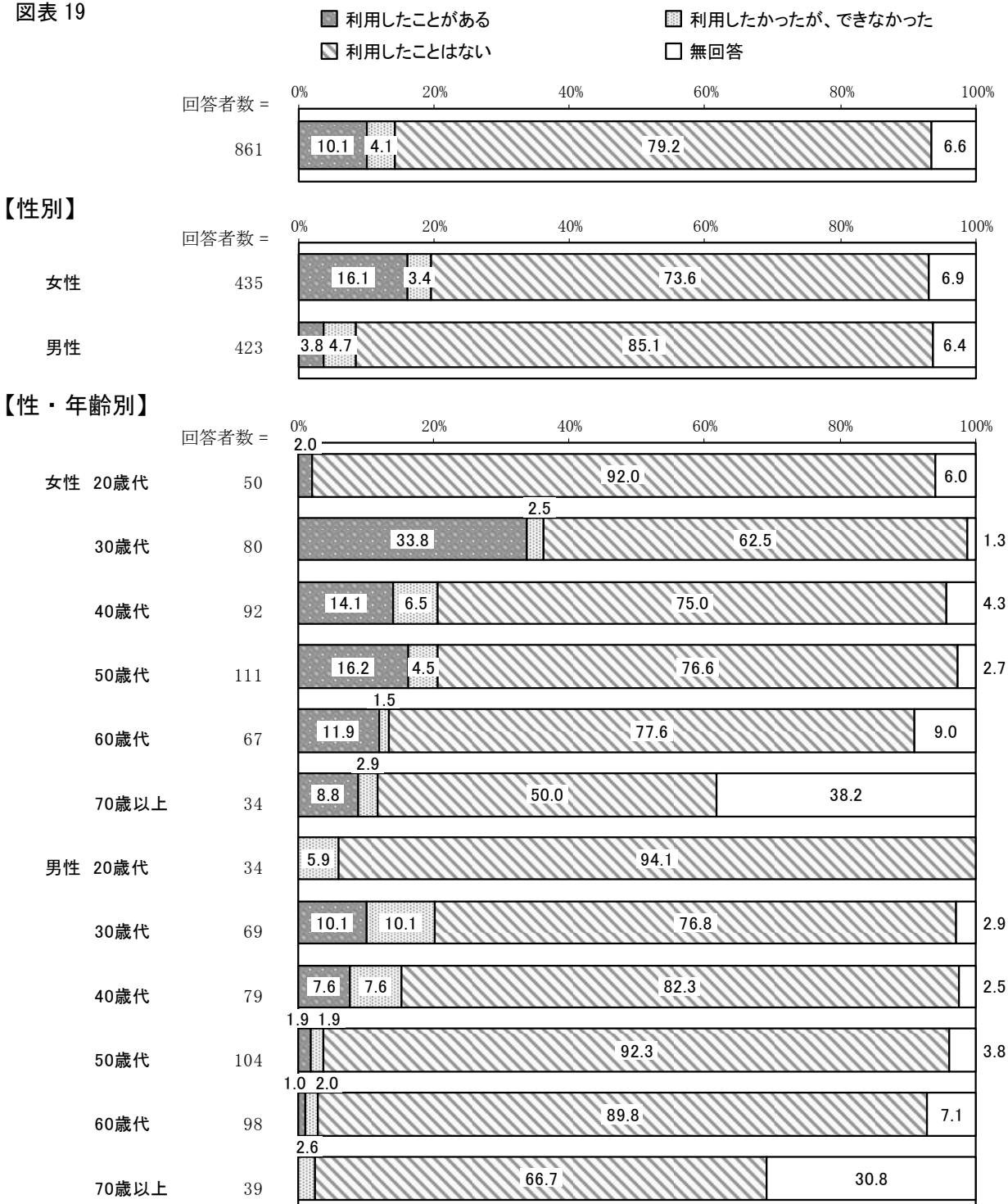
問9 現在就労している方、以前就労していた方におたずねします。男女が働きやすい職場をつくるため、「育児休業」や「介護休業」という制度がありますが、利用したことがありますか。  
 あてはまるものを1つ選んで番号に○をつけてください。

①育児休業

「利用したことはない」の割合が79.2%と最も高く、次いで「利用したことがある」の割合が10.1%となっています。

性・年齢別で見ると、他に比べ、男性の20歳代から40歳代で「利用したかったが、できなかった」の割合が高くなっています。

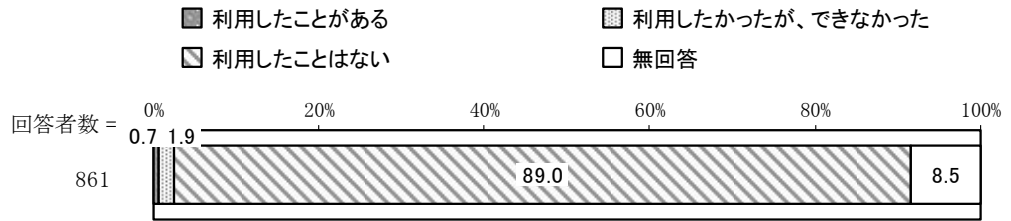
図表 19



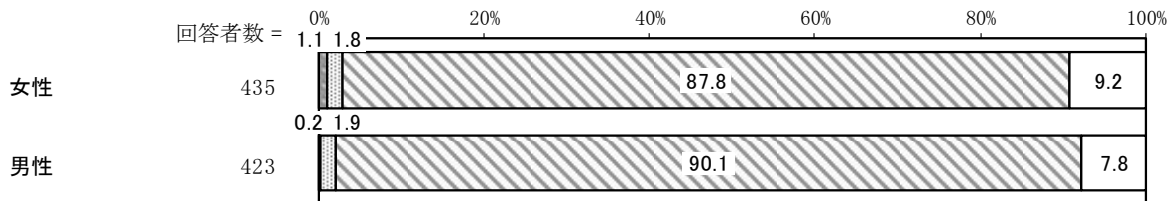
## ②介護休業

「利用したことはない」の割合が89.0%と最も高くなっています。

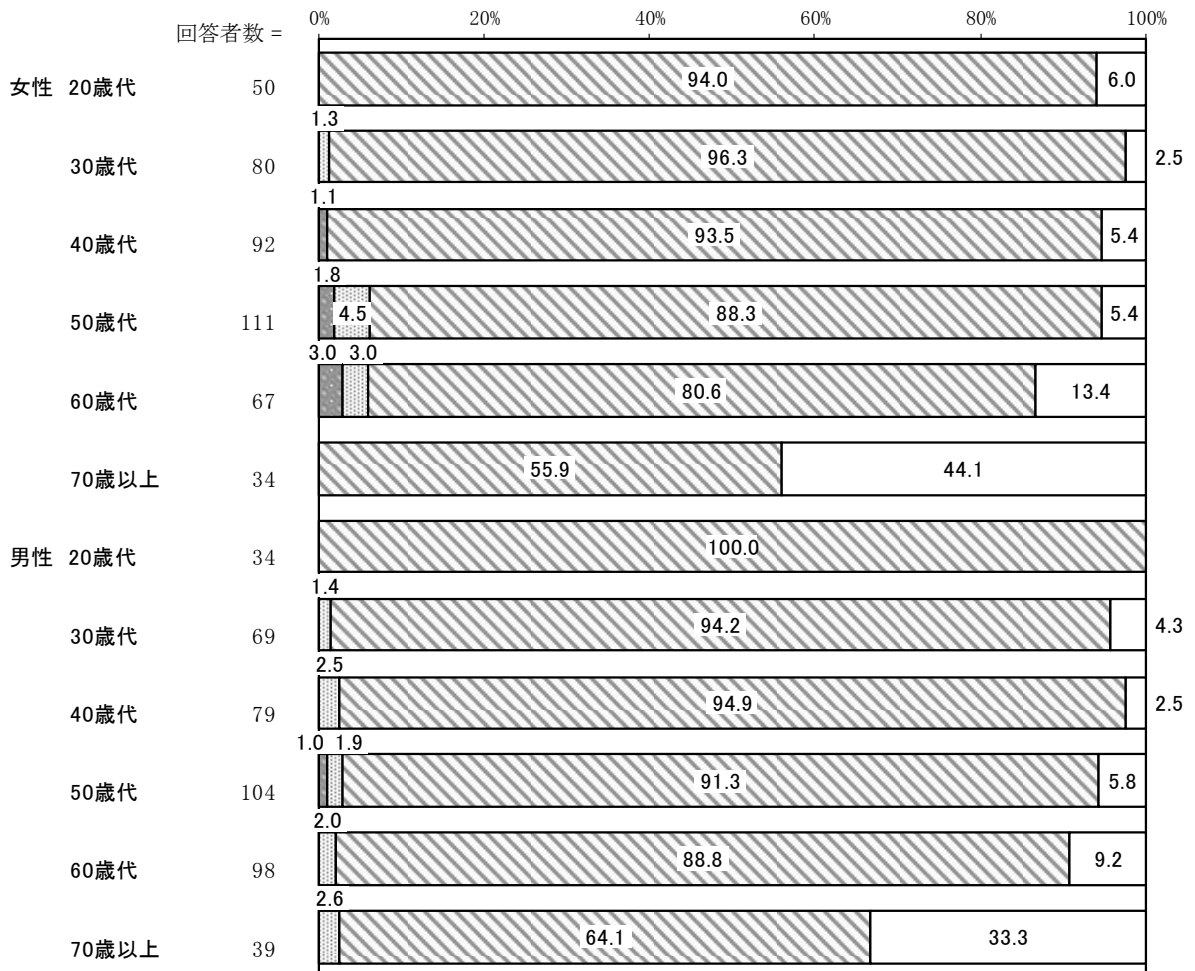
図表 20



### 【性別】



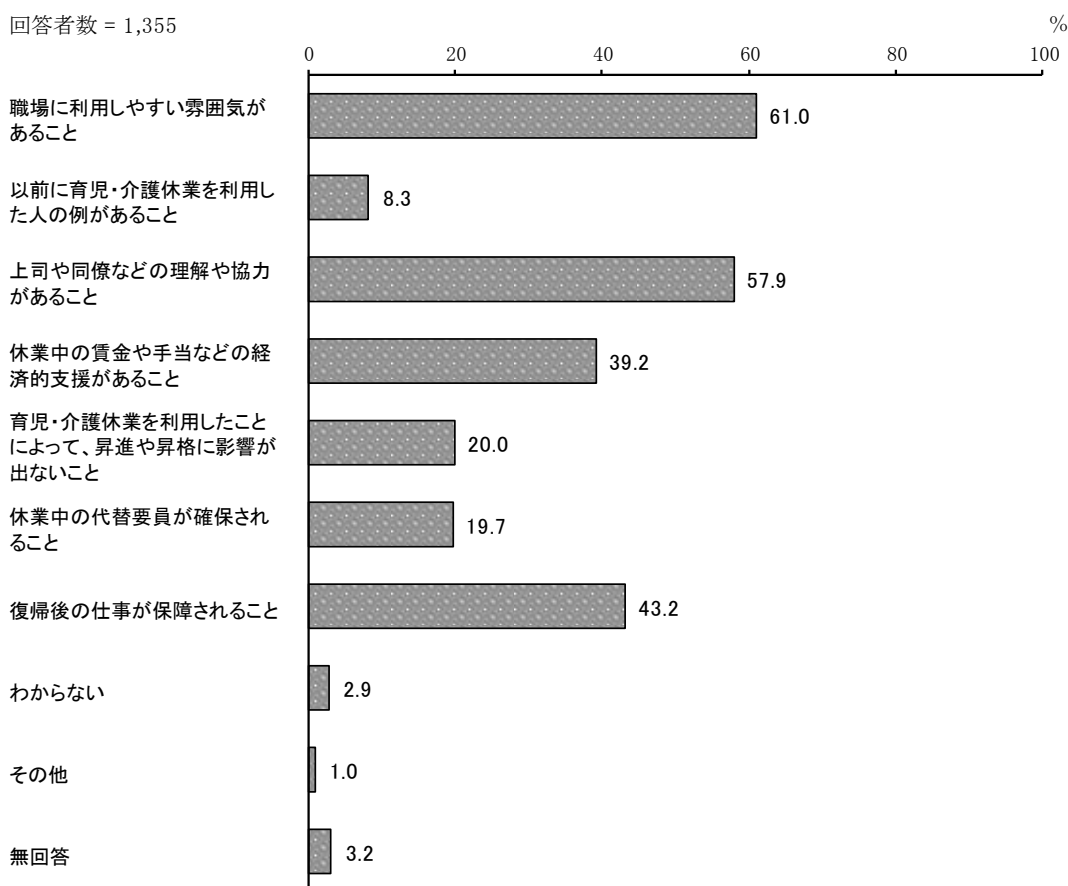
### 【性・年齢別】



問 10 育児休業・介護休業を男女ともに取りやすくするためには、どのようなことが必要だと思いますか。  
 あなたの考えに近いものを3つまで（1つでもよい）選んで番号に○をつけてください。

「職場に利用しやすい雰囲気があること」の割合が61.0%と最も高く、次いで「上司や同僚などの理解や協力があること」の割合が57.9%、「復帰後の仕事が保障されること」の割合が43.2%となっています。

図表 21



【性別】

単位：％

区分	回答者数(件)	職場に利用しやすい雰囲気があること	以前に育児・介護休業を利用した人の例があること	上司や同僚などの理解や協力があること	休業中の賃金や手当などの経済的支援があること	育児・介護休業を利用したことによって、昇進や昇格に影響が出ないこと	休業中の代替要員が確保されること	復帰後の仕事が保障されること	わからない	その他	無回答
女性	763	61.9	10.2	59.4	39.4	18.3	17.6	47.4	2.1	0.9	3.4
男性	578	60.2	5.9	56.6	39.1	22.1	22.7	38.4	3.8	1.2	2.4

【性・年齢別】

単位：％

区分	回答者数(件)	職場に利用しやすい雰囲気があること	以前に育児・介護休業を利用した人の例があること	上司や同僚などの理解や協力があること	休業中の賃金や手当などの経済的支援があること	育児・介護休業を利用したことによって、昇進や昇格に影響が出ないこと	休業中の代替要員が確保されること	復帰後の仕事が保障されること	わからない	その他	無回答
女性 20歳代	83	68.7	18.1	61.4	43.4	22.9	13.3	33.7	1.2	1.2	2.4
30歳代	107	71.0	15.9	63.6	43.9	29.0	23.4	32.7	—	0.9	1.9
40歳代	115	73.0	13.9	67.0	37.4	16.5	20.9	41.7	2.6	—	0.9
50歳代	144	63.2	8.3	63.9	41.0	15.3	19.4	46.5	1.4	2.8	2.1
60歳代	161	57.1	6.2	55.9	45.3	16.1	18.6	62.7	0.6	—	3.1
70歳以上	152	46.7	5.3	48.7	28.3	15.1	9.9	54.6	5.9	0.7	8.6
男性 20歳代	44	68.2	15.9	61.4	29.5	25.0	20.5	27.3	4.5	—	—
30歳代	71	67.6	8.5	59.2	43.7	16.9	22.5	36.6	2.8	4.2	1.4
40歳代	83	68.7	9.6	59.0	32.5	22.9	28.9	28.9	4.8	1.2	—
50歳代	109	60.6	4.6	58.7	40.4	14.7	26.6	33.9	4.6	—	1.8
60歳代	138	58.7	4.3	47.1	47.1	23.2	23.2	42.0	2.9	2.2	1.4
70歳以上	133	49.6	1.5	60.2	34.6	28.6	15.8	48.9	3.8	—	6.8



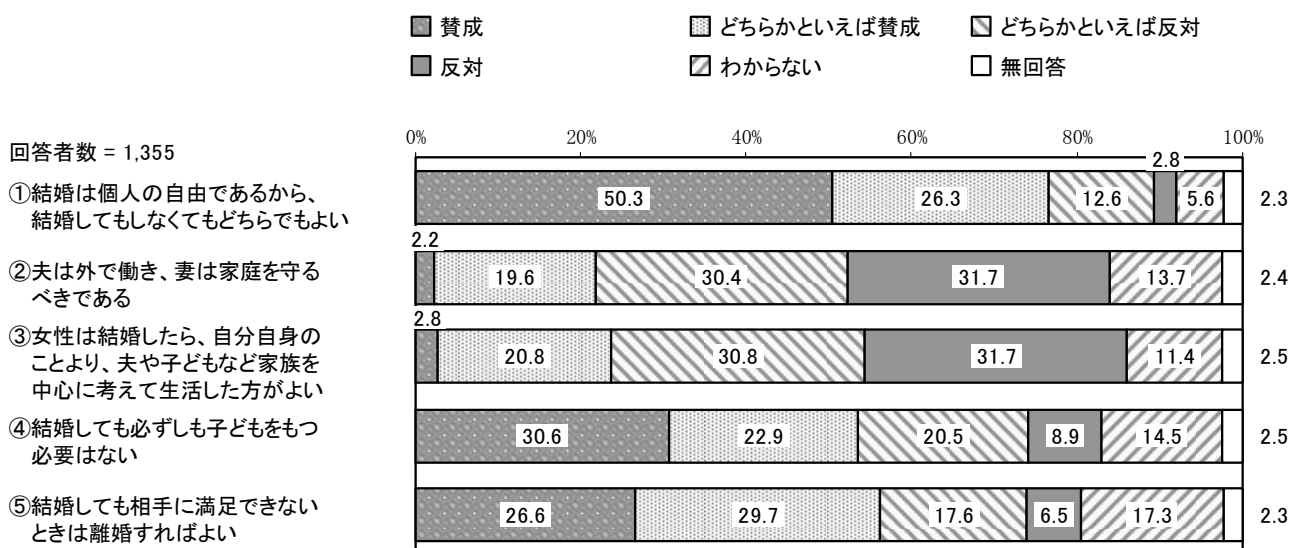
### 3 結婚、家庭生活と男女の役割について

問 11 あなたは、結婚、家庭に関する次のような考えについて、どのように思いますか。  
①から⑤のそれぞれについてあなたの気持ちに最も近いものを1つずつ選んで番号に○をつけてください。

『賛成派』の割合が「①結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」で最も高く、次いで「⑤結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい」、「④結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない」となっています。『反対派』の割合は「③女性は結婚したら、自分自身のことより、夫や子どもなど家族を中心に考えて生活した方がよい」で最も高く、次いで「②夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」となっています。

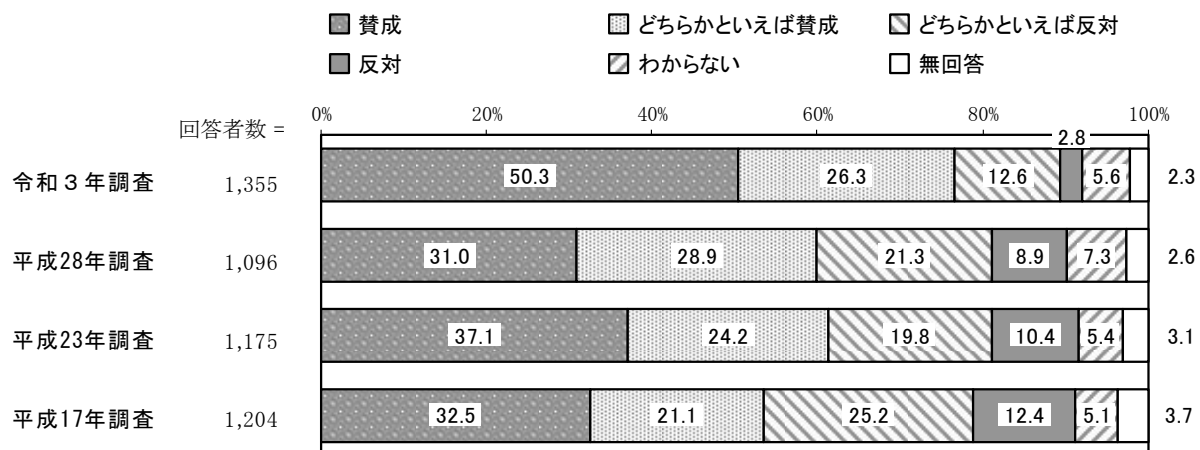
平成 28 年調査と比較すると、『賛成派』の割合が「①結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」、「④結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない」、「⑤結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい」の割合が増加しています。また、「②夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」の『反対派』の割合が6割を超え、男女ともに5割以上となっています。

図表 22

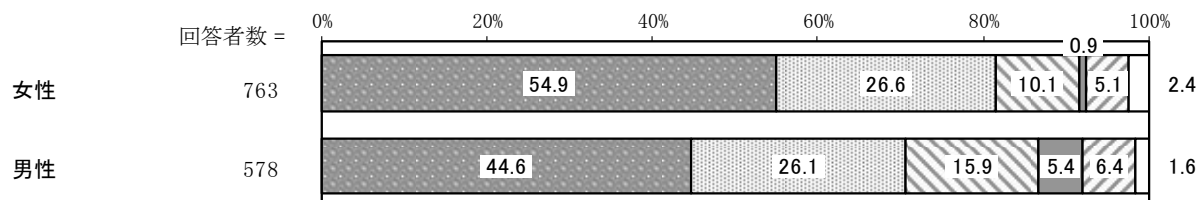


図表 23

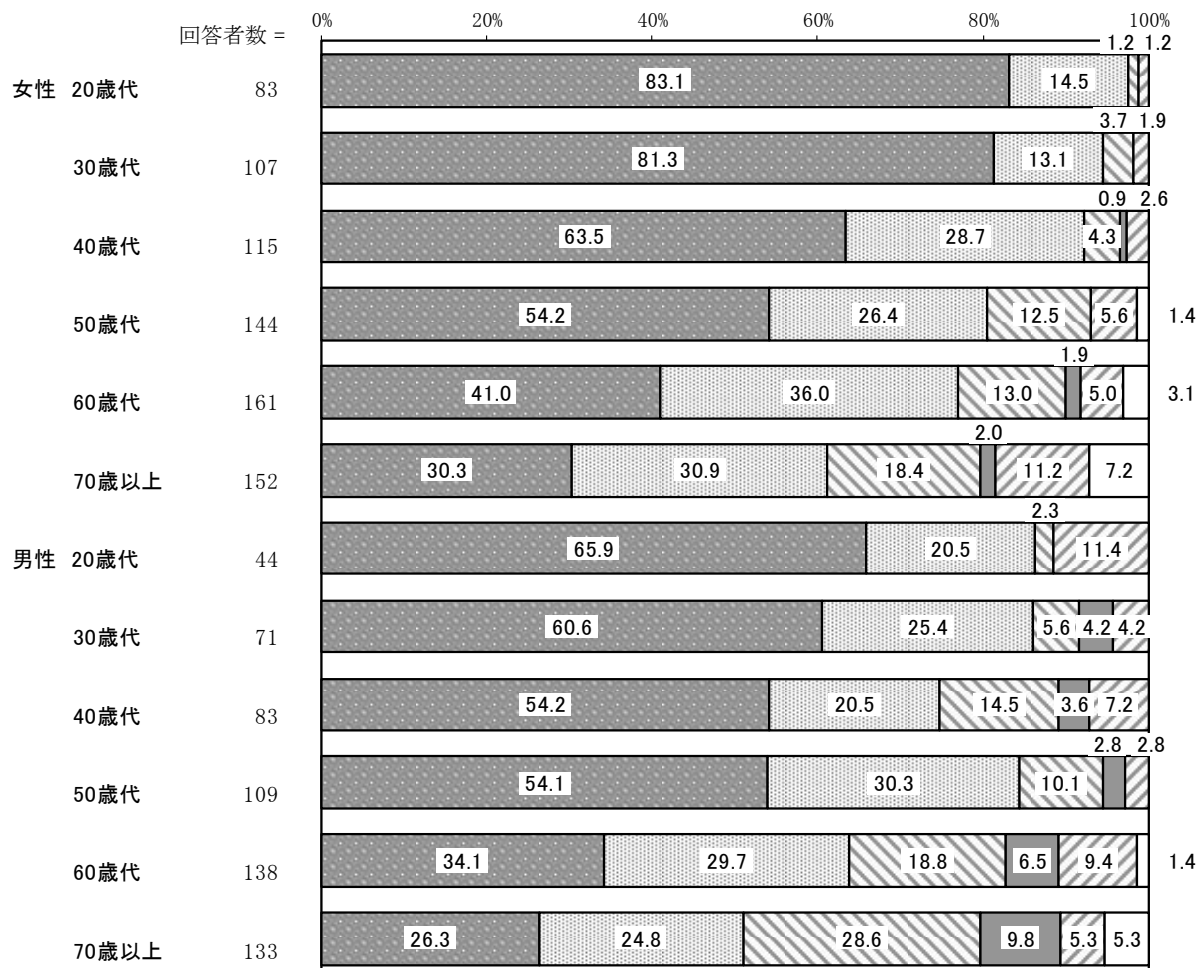
①結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい



【性別】

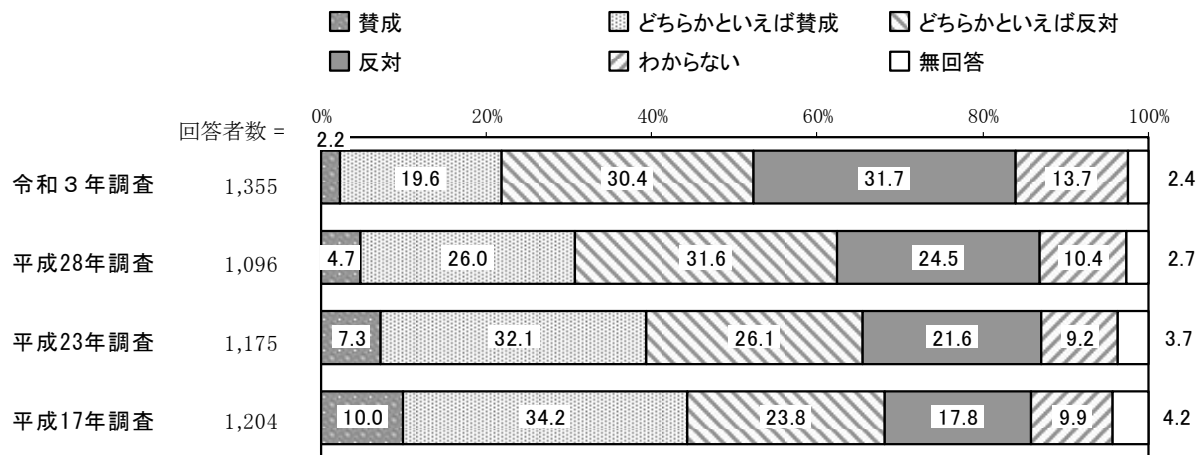


【性・年齢別】

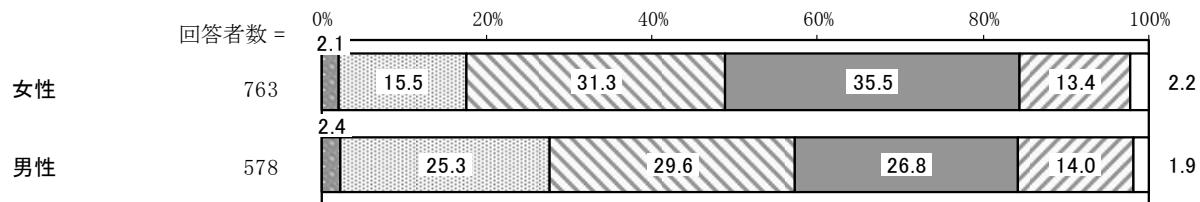


図表 24

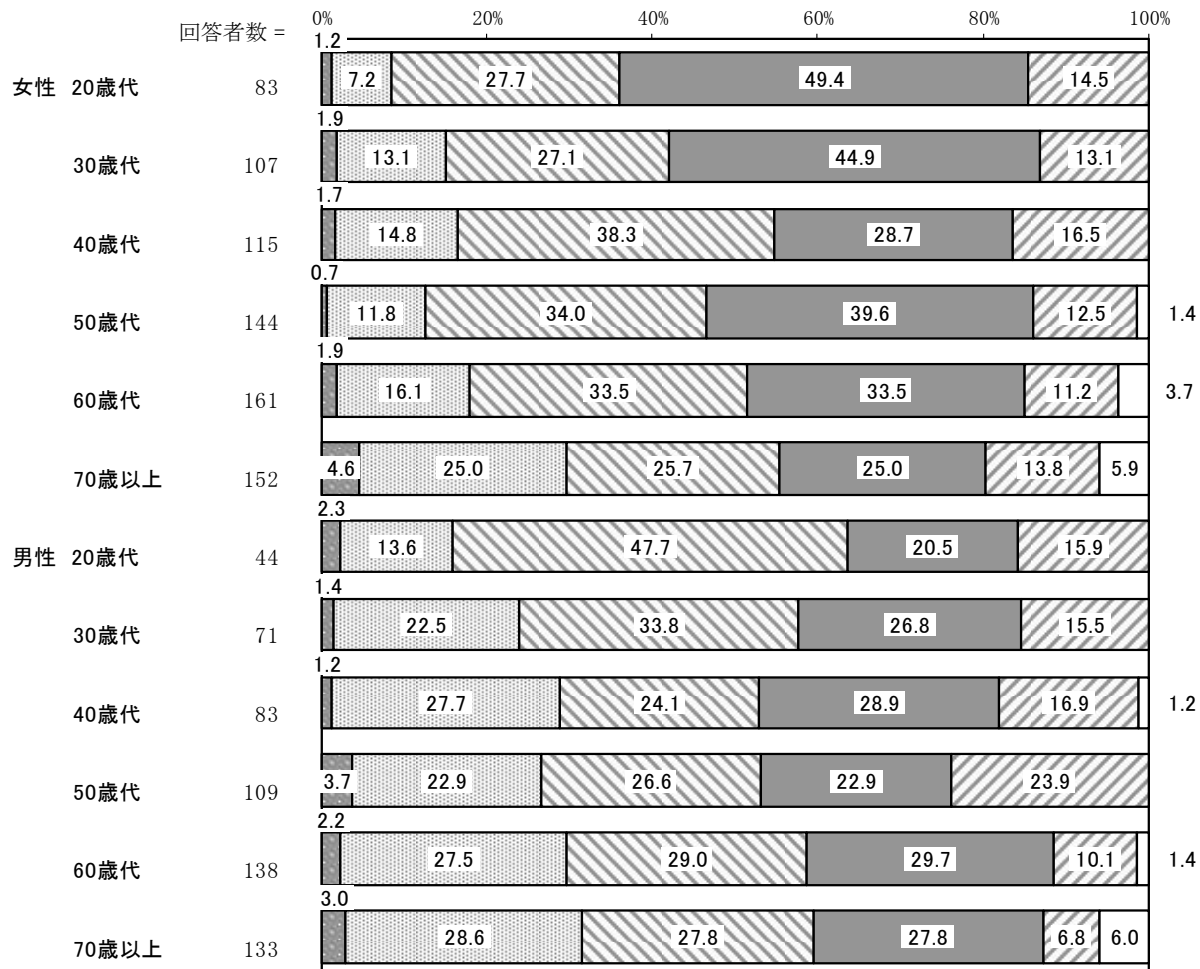
②夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである



【性別】

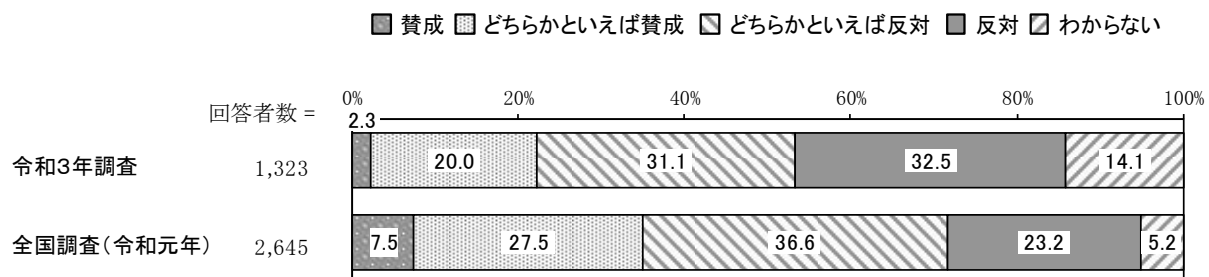


【性・年齢別】



**【全国調査】（男女共同参画社会に関する世論調査）**

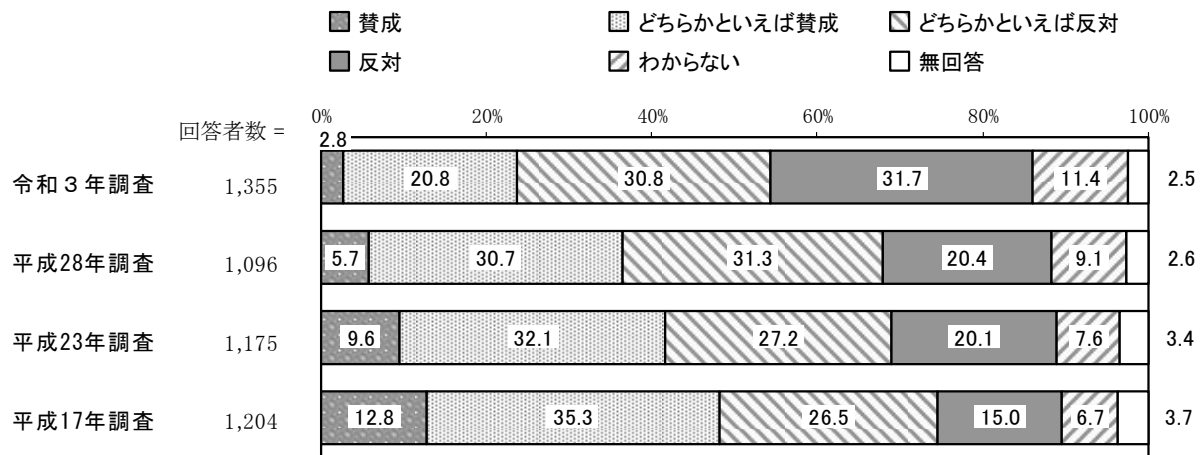
全国調査と比較すると、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」について『反対派』の割合が高くなっています。



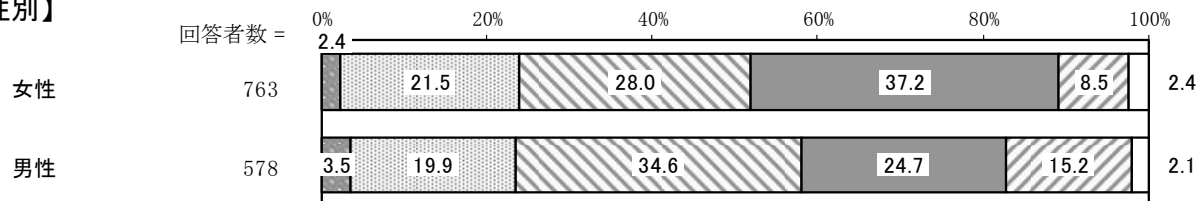
※全国調査と比較するため、無回答を除いています。

図表 25

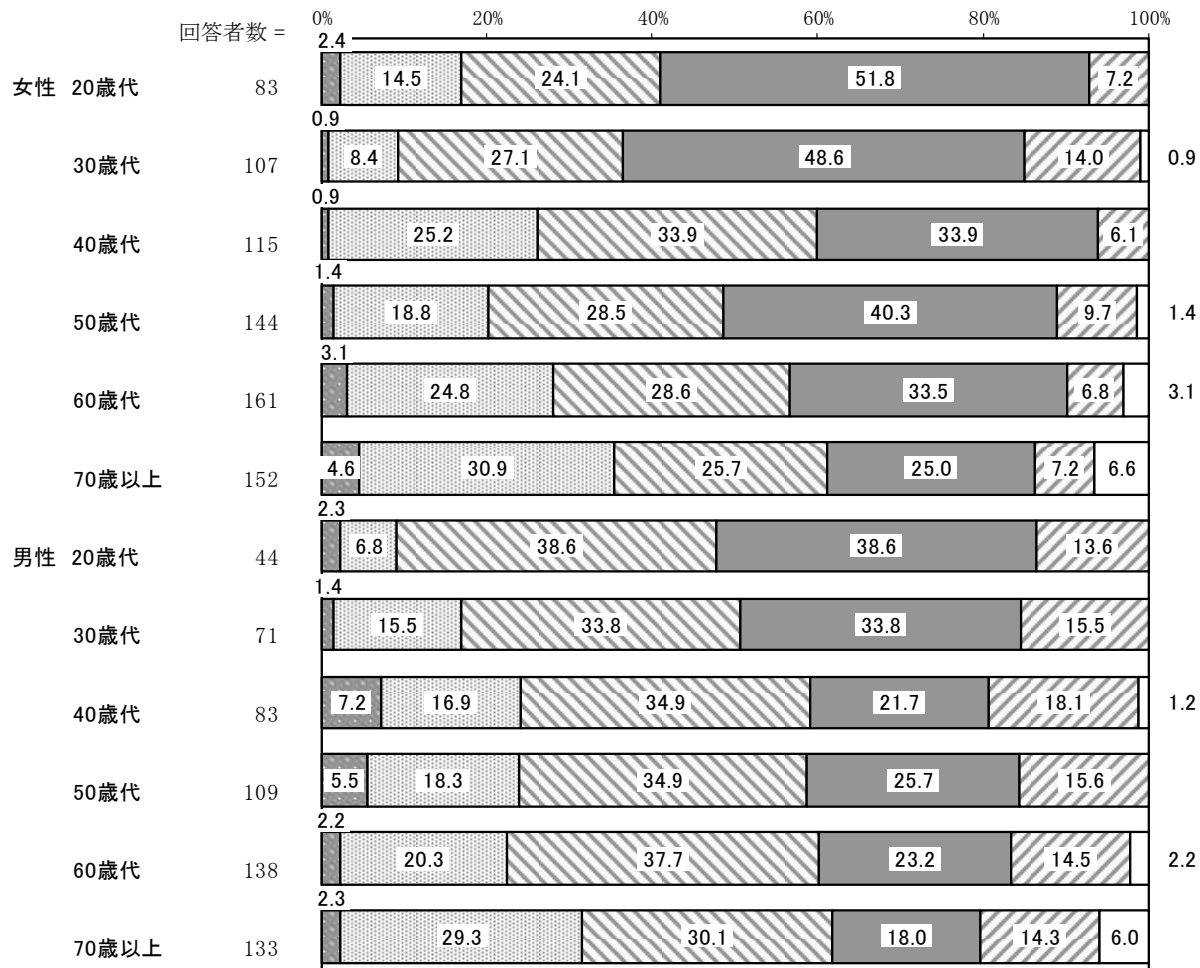
③女性は結婚したら、自分自身のことより、夫や子どもなど家族を中心に考えて生活した方がよい



【性別】

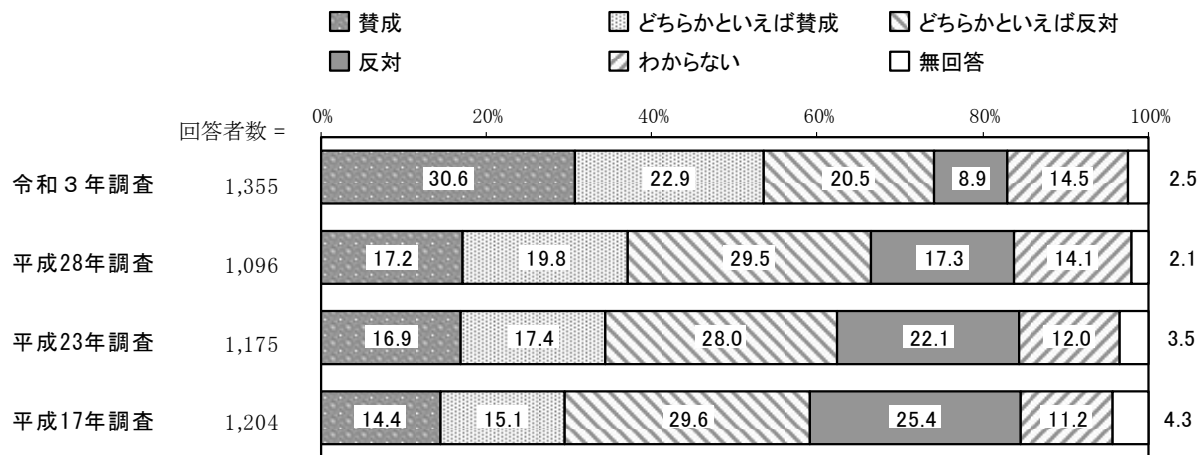


【性・年齢別】

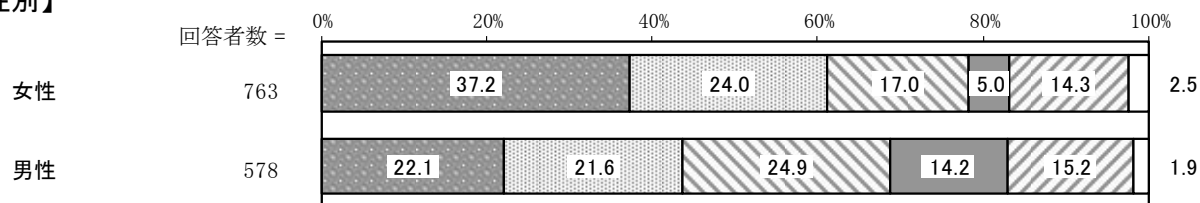


図表 26

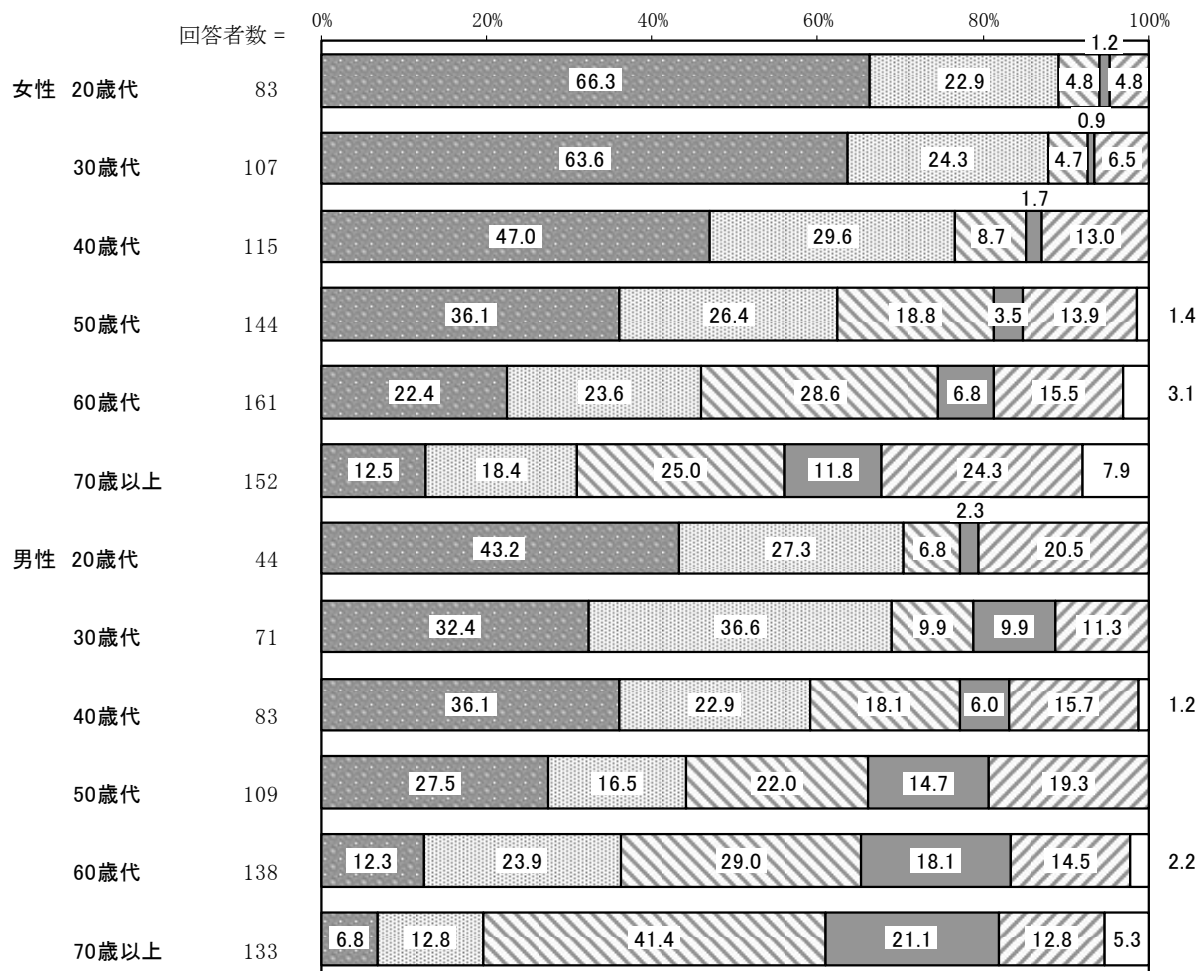
④結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない



【性別】

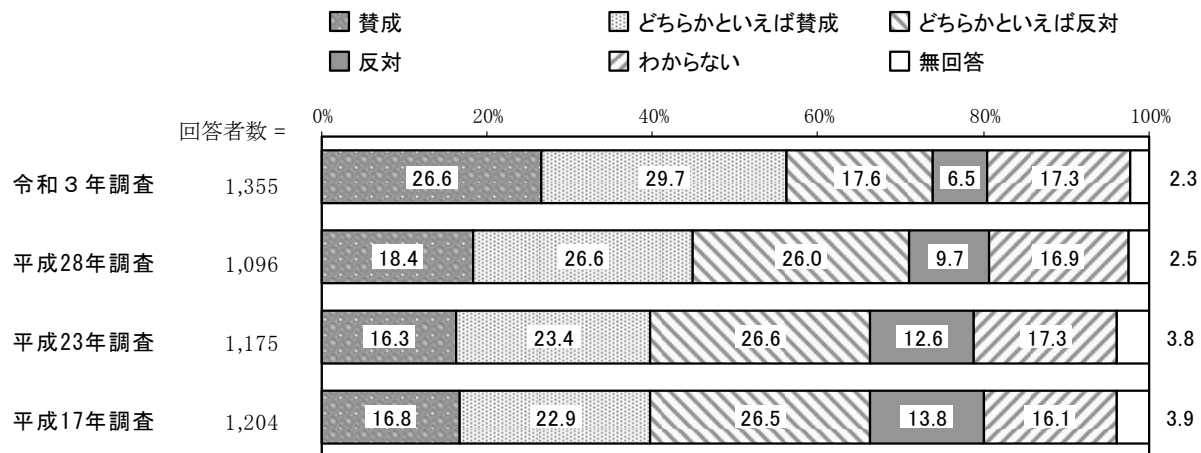


【性・年齢別】

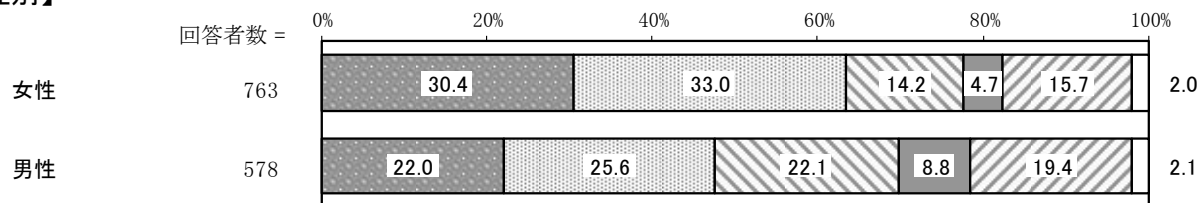


図表 27

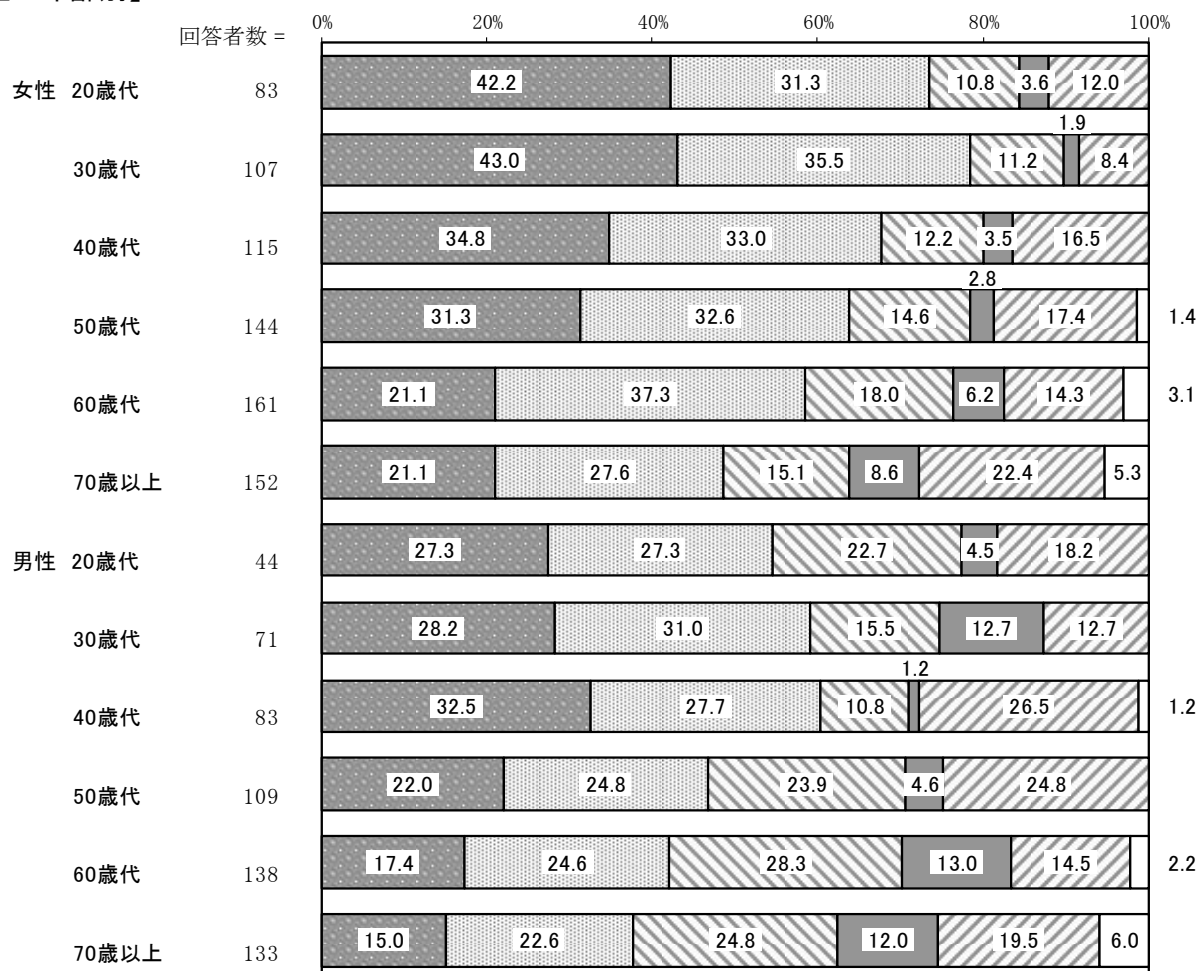
⑤結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい



【性別】



【性・年齢別】

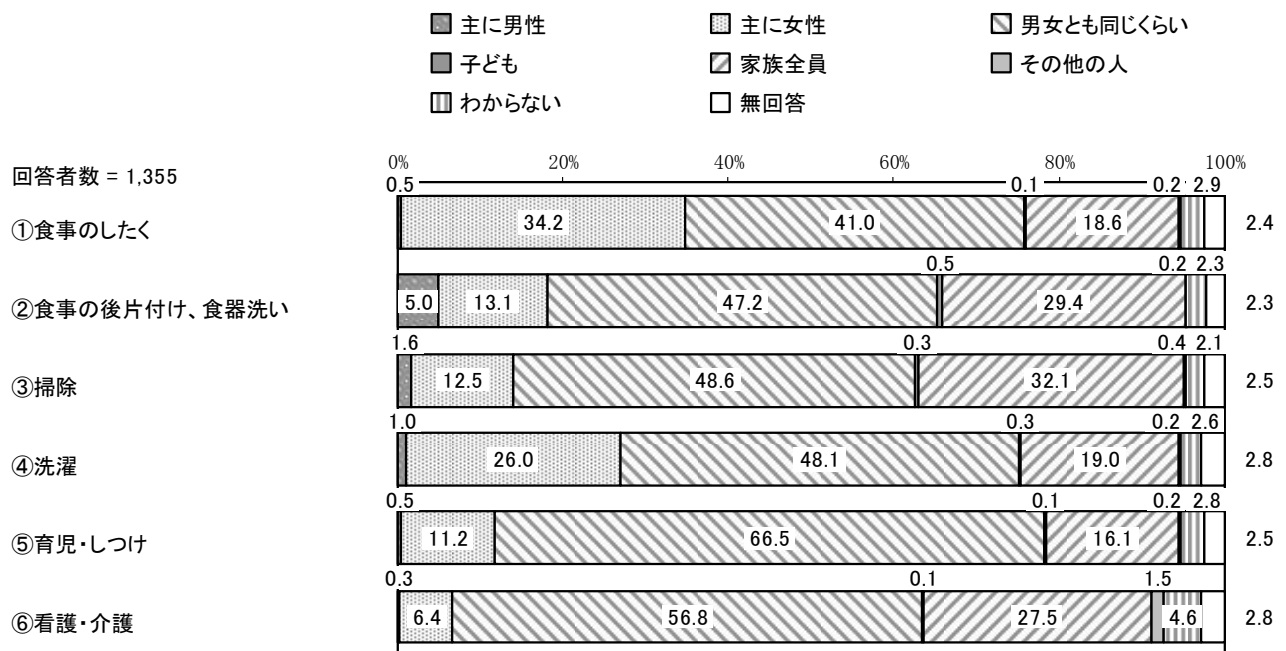


問 12 あなたは、次にあげるような家庭内の仕事を、男女のどちらが分担するのが理想だと思いますか。  
 ①から⑥のそれぞれについて1つずつ選んで番号に○をつけてください。

すべての分野で「男女とも同じくらい」の割合が高くなっています。

平成 28 年調査、平成 23 年調査と比較すると、「⑤育児・しつけ」を除く項目で「男女とも同じくらい」の割合が増加しています。

図表 28

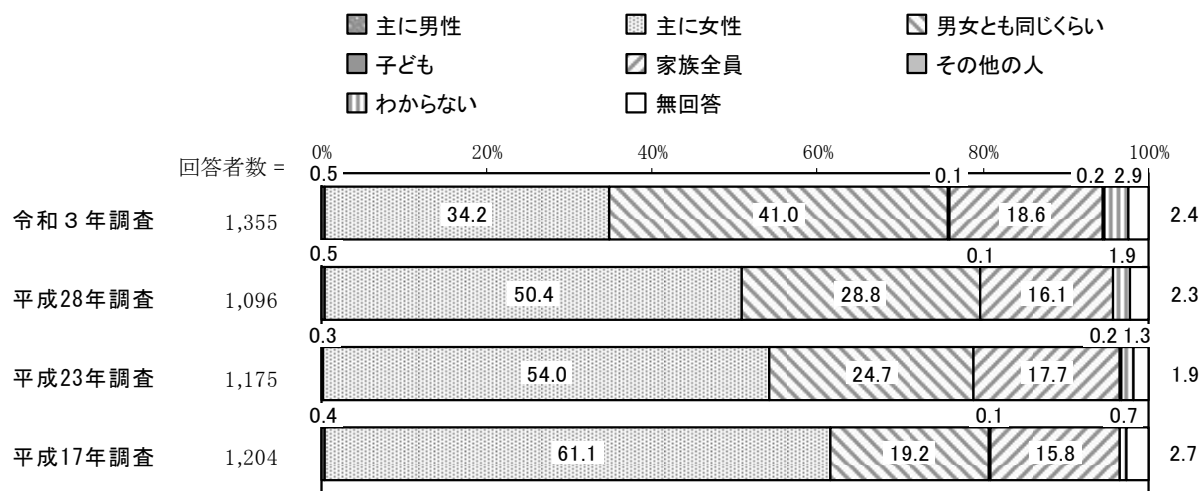


※平成 28 年調査までの選択肢は、「主に男性」は「夫」、「主に女性」は「妻」、「男女とも同じくらい」は「夫妻とも同じくらい」としていました。

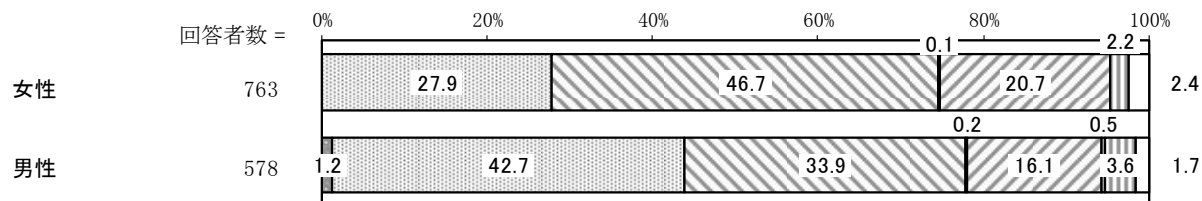


図表 29

①食事のしたく

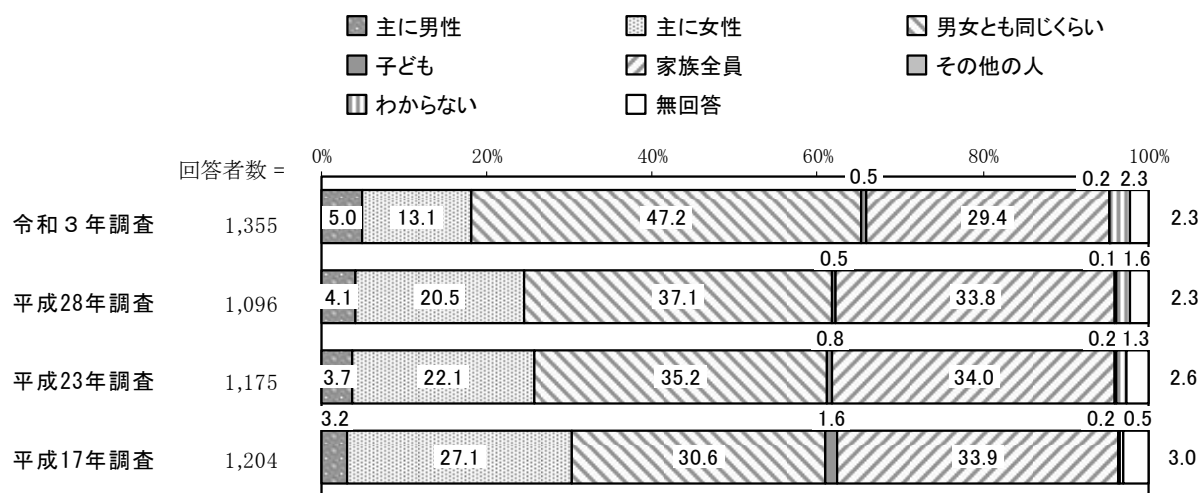


【性別】

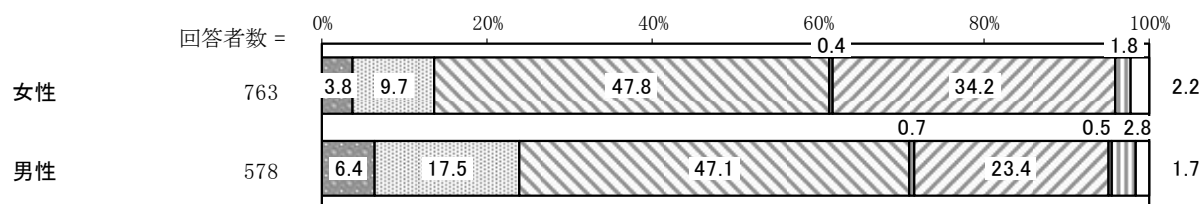


図表 30

②食事の後片付け、食器洗い

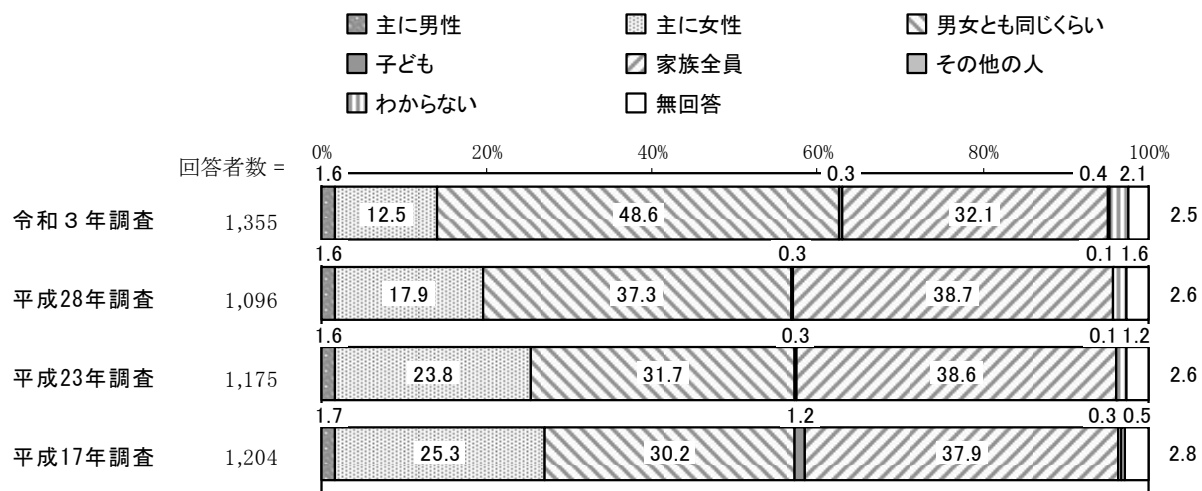


【性別】

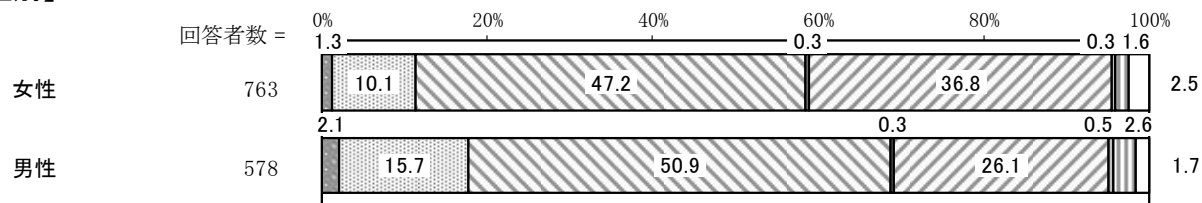


図表 31

③掃除

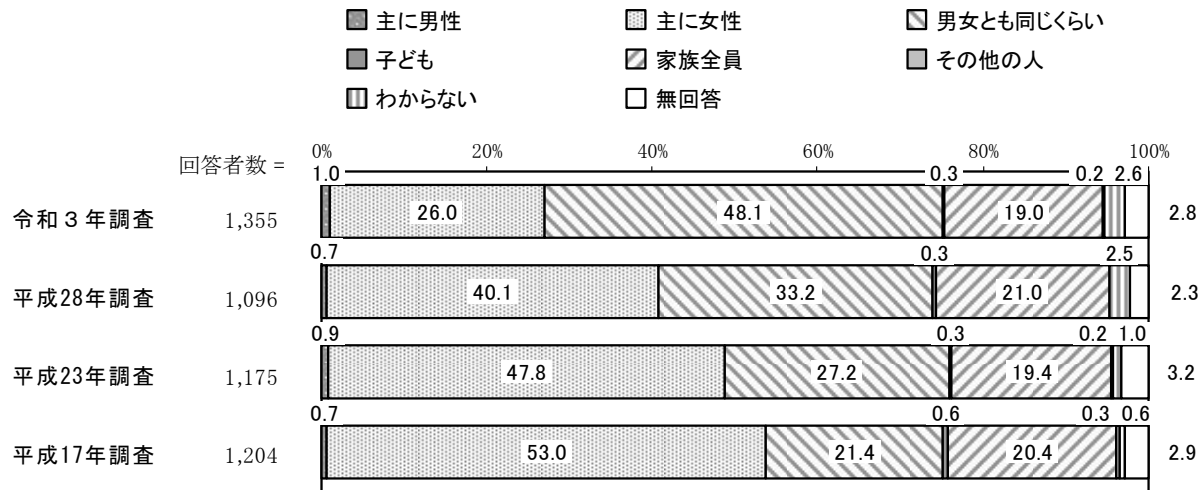


【性別】

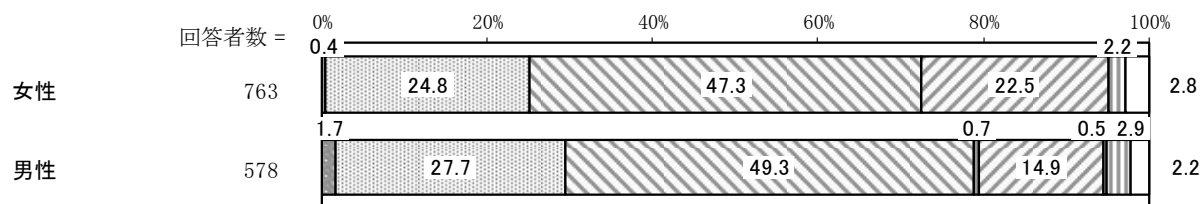


図表 32

④洗濯

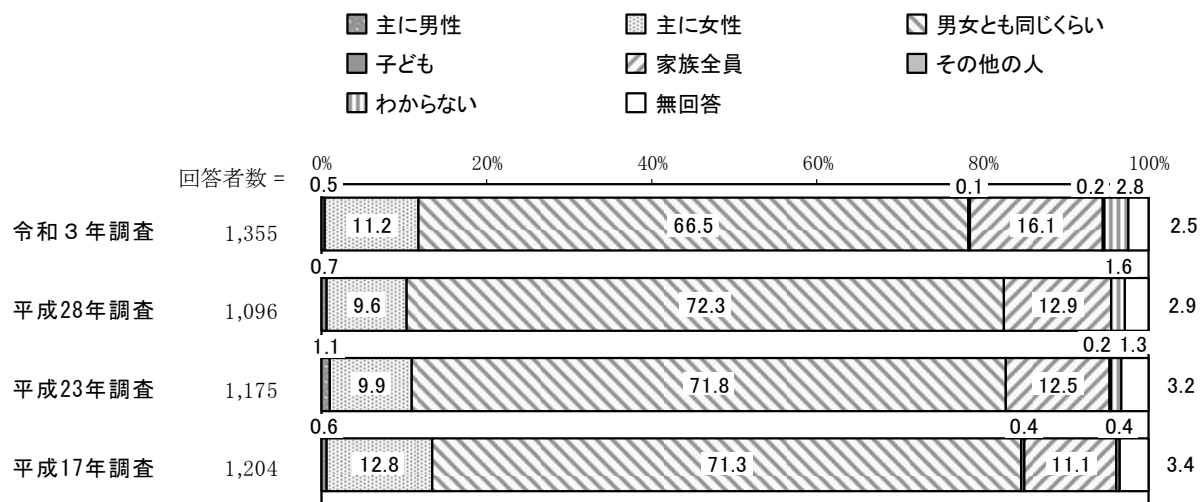


【性別】

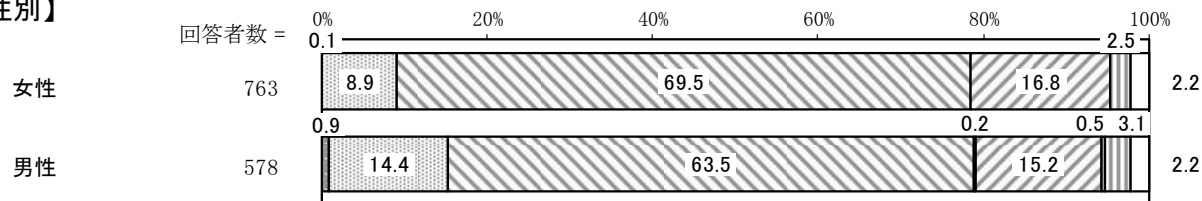


図表 33

⑤育児・しつけ

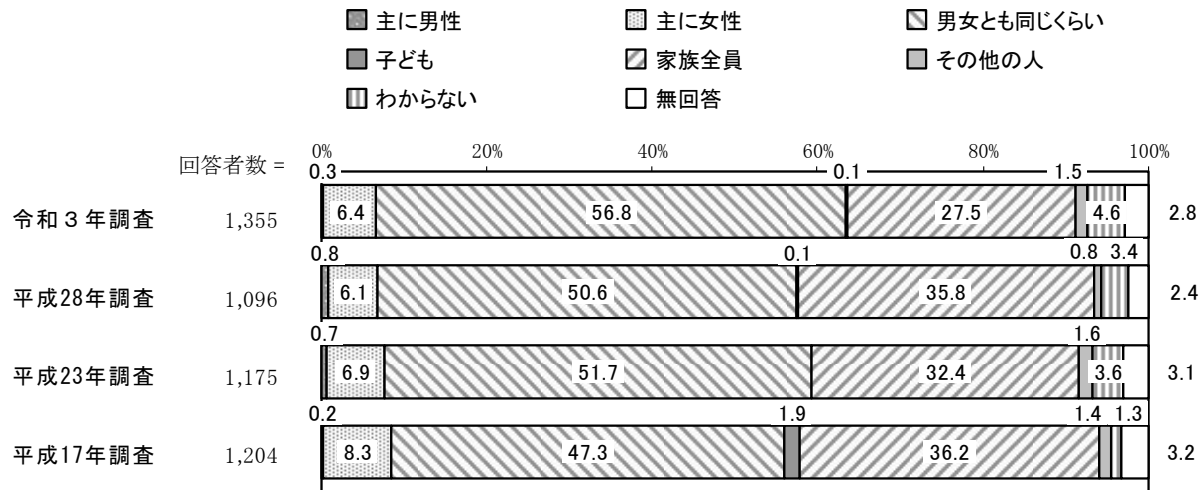


【性別】

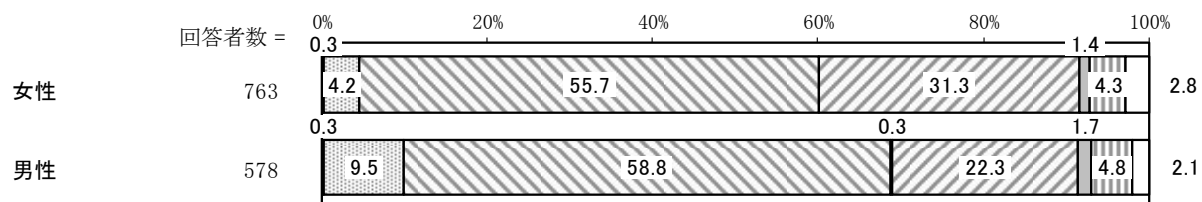


図表 34

⑥看護・介護



【性別】

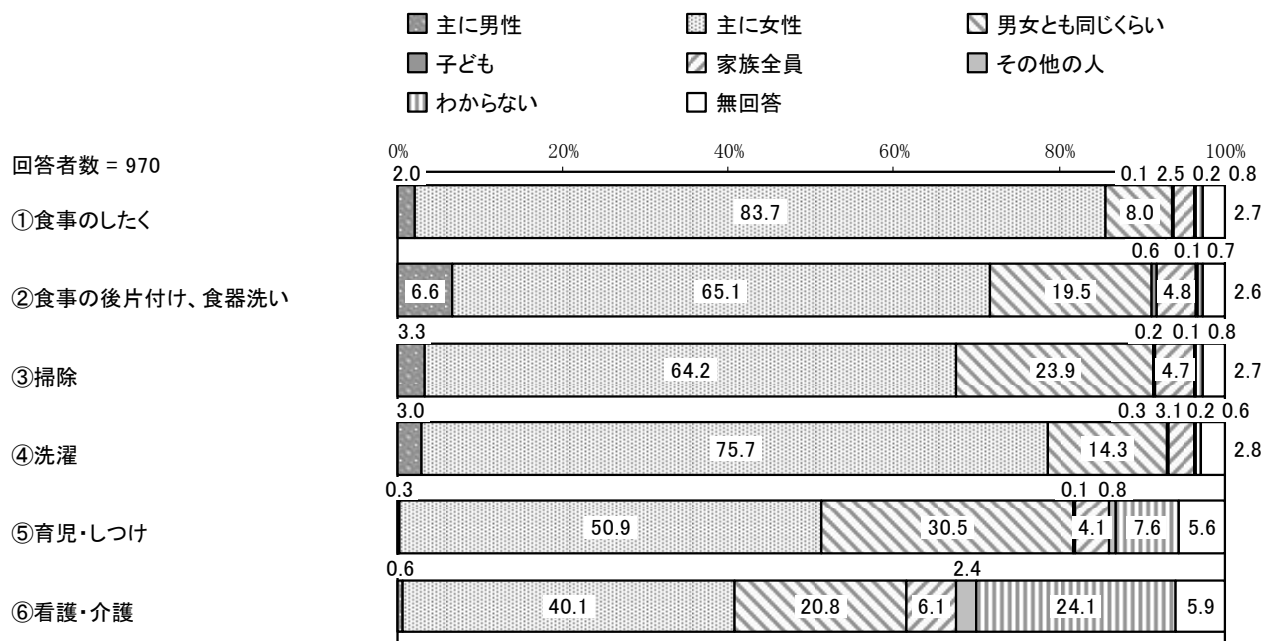


問 13 この設問は、F4で「2. 既婚(事実婚を含む)」と回答した方にのみおたずねします。あなたの家庭では、次にあげるような家庭内の仕事を実際に男女のどちらが分担していますか。  
①から⑥のそれぞれについて1つずつ選んで番号に○をつけてください。

すべての分野で「主に女性」の割合が高くなっています。

平成28年調査と比較すると、「②食事の後片付け、食器洗い」「③掃除」「④洗濯」で「主に女性」の割合が減少しています。一方、「⑤育児・しつけ」で「主に女性」の割合が増加しています。

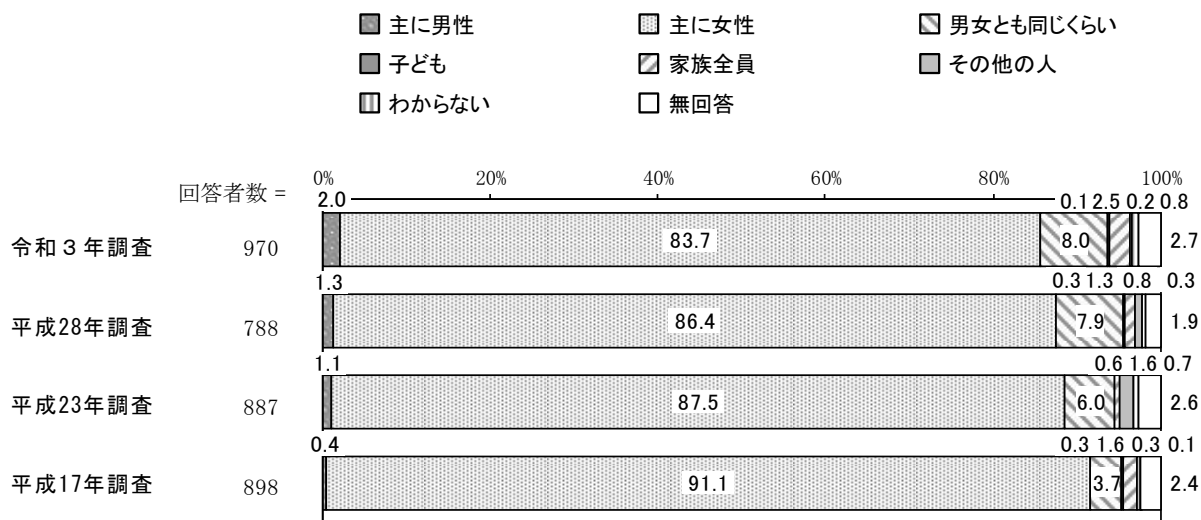
図表 35



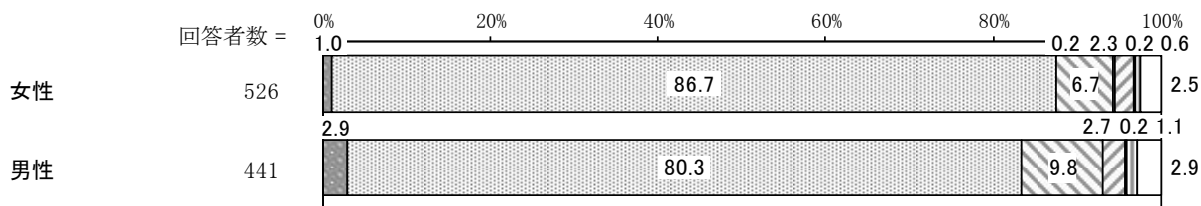
※平成28年調査までの選択肢は、「主に男性」は「夫」、「主に女性」は「妻」、「男女とも同じくらい」は「夫妻とも同じくらい」としていました。

図表 36

①食事のしたく

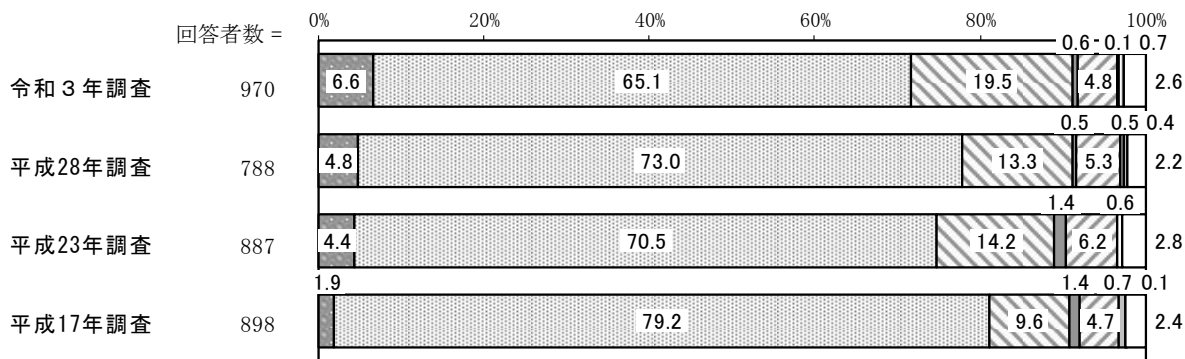


【性別】

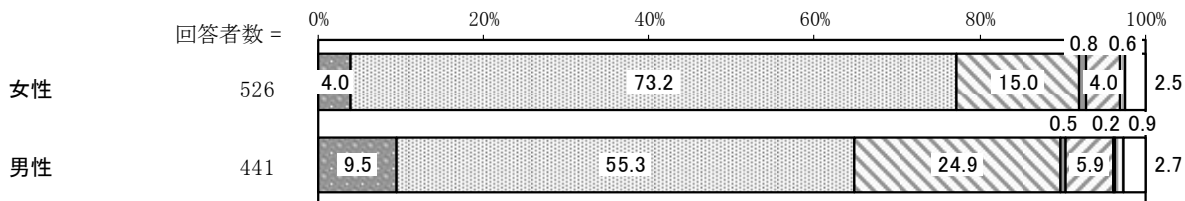


図表 37

②食事の後片付け、食器洗い

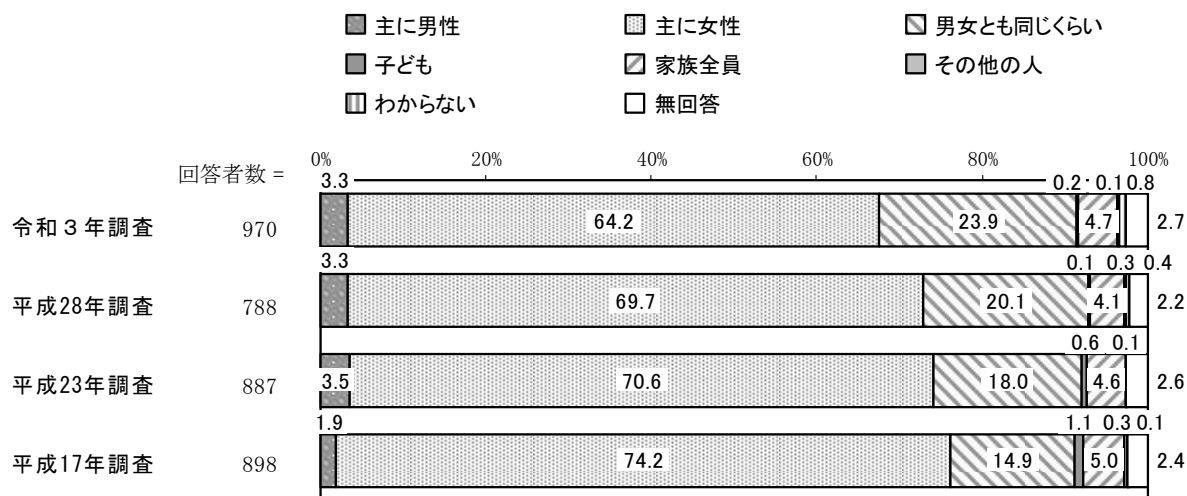


【性別】

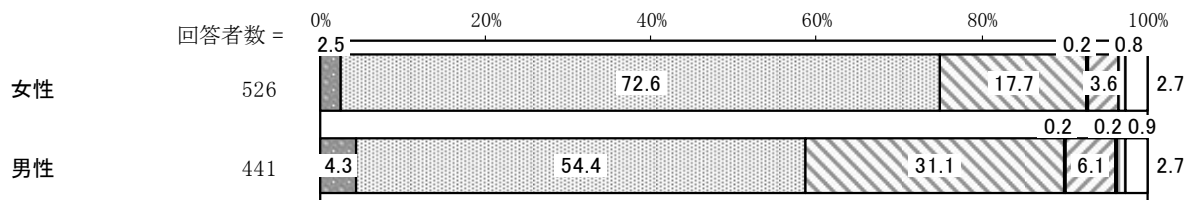


図表 38

③掃除

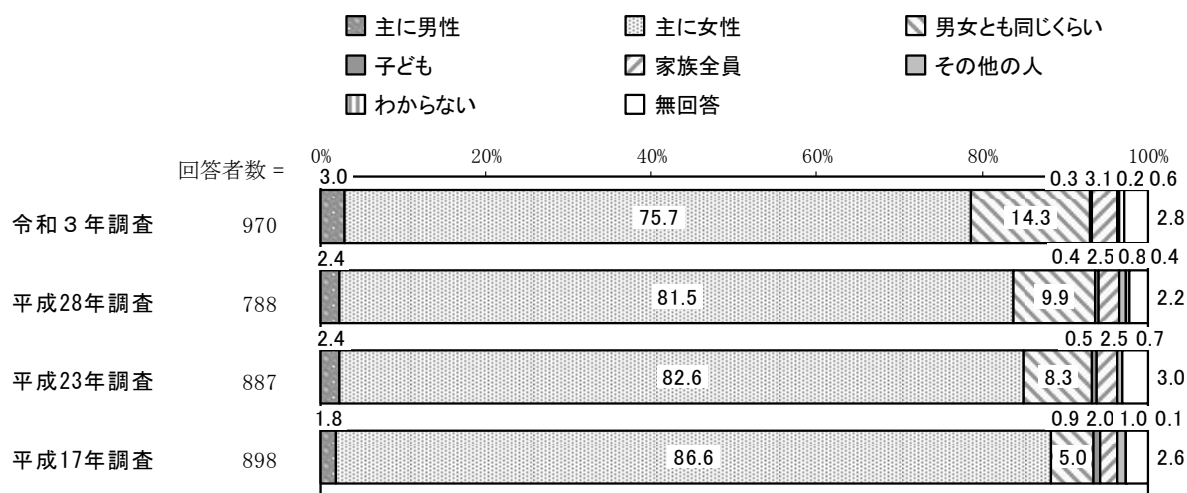


【性別】

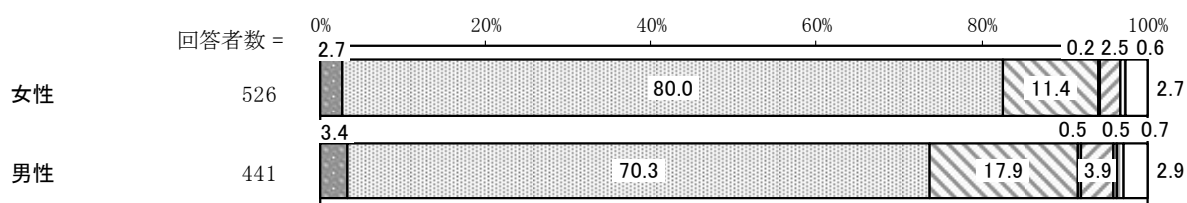


図表 39

④洗濯

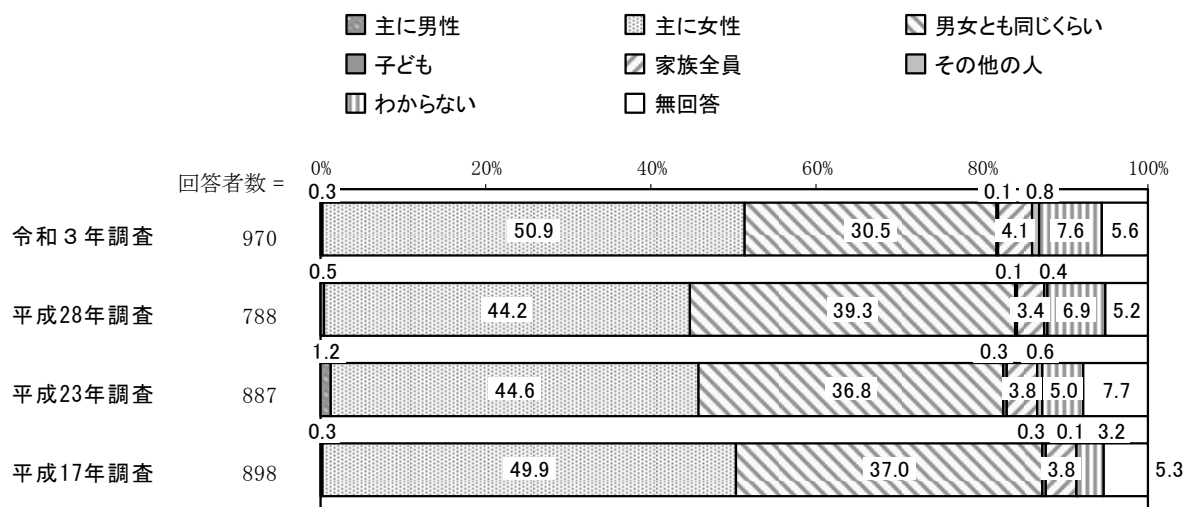


【性別】

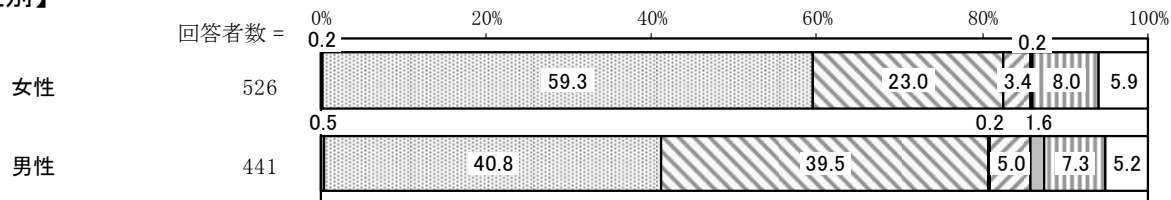


図表 40

⑤育児・しつけ

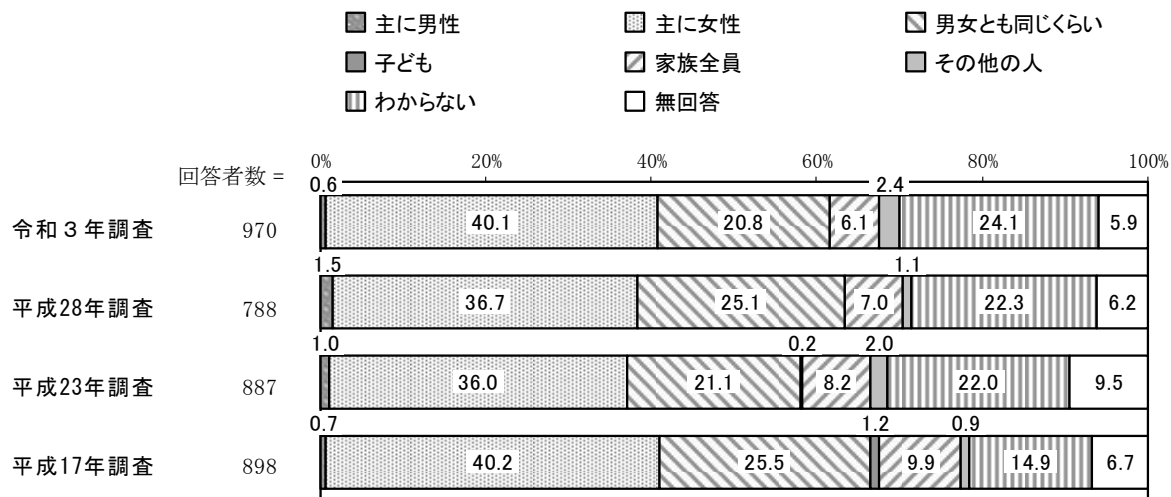


【性別】

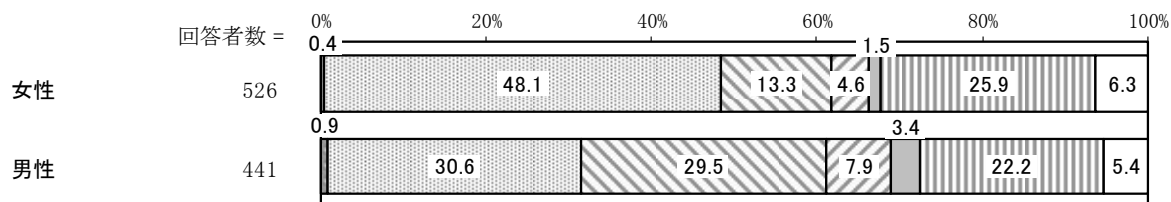


図表 41

⑥看護・介護



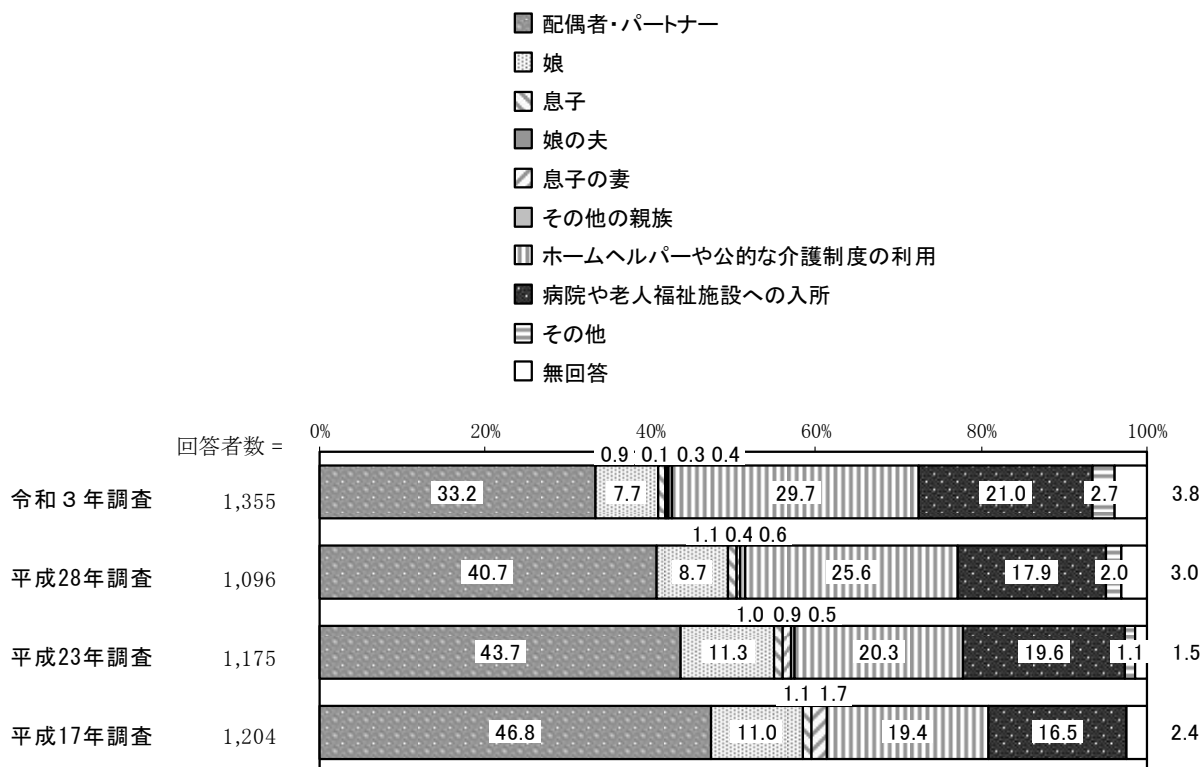
【性別】



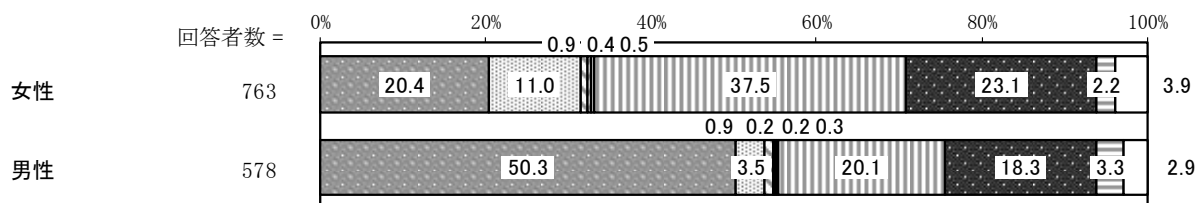
問 14 もし、あなたに介護が必要になったら、主にだれに世話をしてもらいたいですか。  
次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。

「配偶者・パートナー」の割合が33.2%と最も高く、次いで「ホームヘルパーや公的な介護制度の利用」の割合が29.7%、「病院や老人福祉施設への入所」の割合が21.0%となっています。  
平成28年調査と比較すると、「配偶者・パートナー」の割合が減少しています。  
性別でみると、男性に比べ、女性で「娘」「ホームヘルパーや公的な介護制度の利用」の割合が高くなっています。また、男性で「配偶者・パートナー」の割合が高くなっています。

図表 42



【性別】



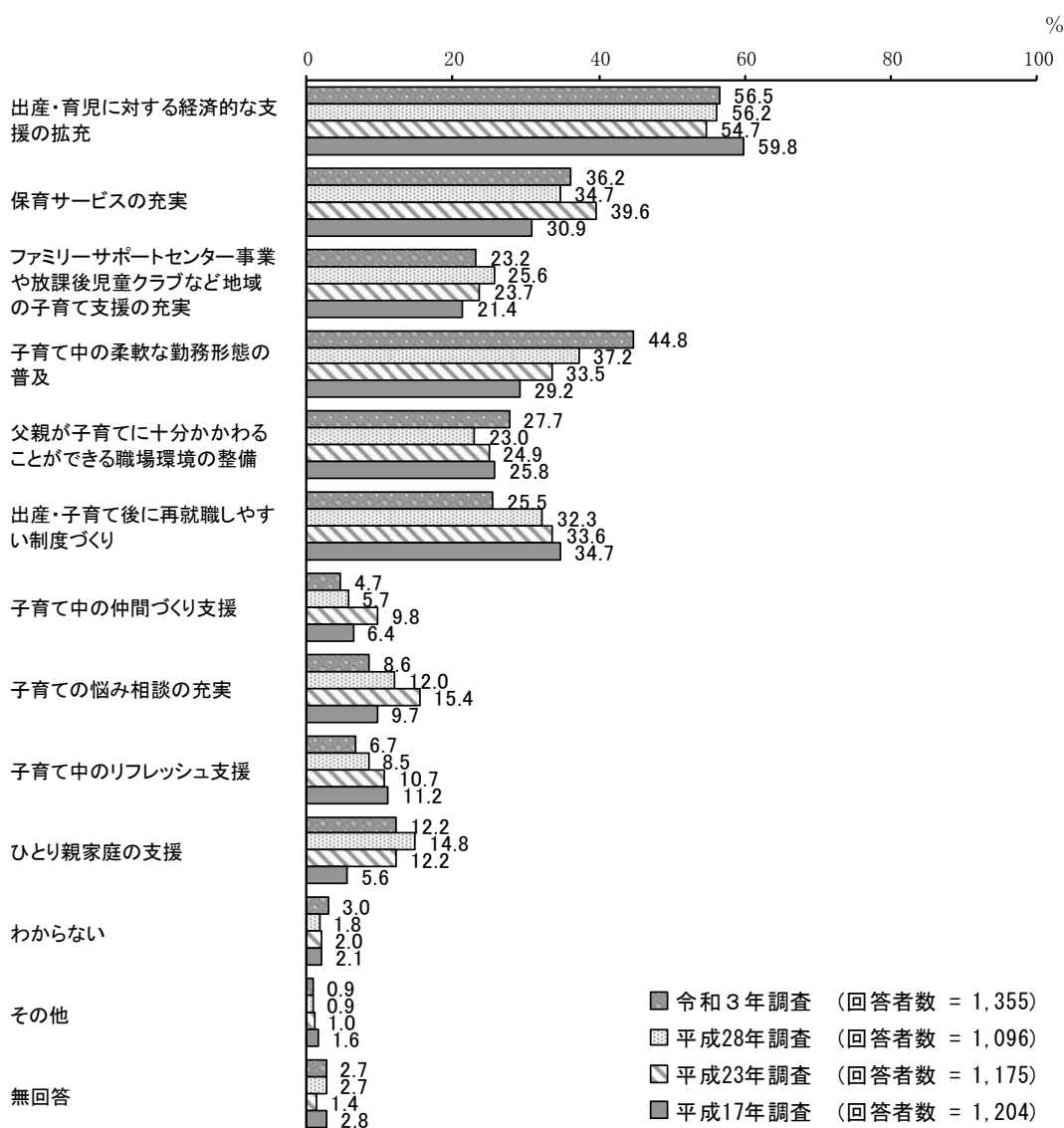


問 15 安心して子どもを産み育てるためにはどんなことが必要だと思いますか。  
次の中から3つまで（1つでもよい）選んで番号に○をつけてください。  
※お子さんがいない方も、いと仮定してお答えください。

「出産・育児に対する経済的な支援の拡充」の割合が56.5%と最も高く、次いで「子育て中の柔軟な勤務形態の普及」の割合が44.8%、「保育サービスの充実」の割合が36.2%となっています。

平成28年調査と比較すると、「子育て中の柔軟な勤務形態の普及」、「父親が子育てに十分かかわることができる職場環境の整備」の割合が増加しています。一方、「出産・子育て後に再就職しやすい制度づくり」の割合が減少しています。

図表 43



【性別】

単位：%

区分	回答者数(件)	出産・育児に対する経済的な支援の拡充	保育サービスの充実	ファミリーサポートセンター事業や放課後児童クラブなど地域の子育て支援の充実	子育て中の柔軟な勤務形態の普及	父親が子育てに十分かかわることができる職場環境の整備	出産・子育て後に再就職しやすい制度づくり
女性	763	54.4	35.5	25.6	47.3	30.0	27.4
男性	578	59.9	37.4	20.2	42.0	24.6	23.0

区分	子育て中の仲間づくり支援	子育ての悩み相談の充実	子育て中のリフレッシュ支援	ひとり親家庭の支援	わからない	その他	無回答
女性	4.8	7.9	7.5	11.9	2.0	1.2	2.9
男性	4.7	9.5	5.9	12.6	4.3	0.5	1.7

【性・年齢別】

単位：%

区分	回答者数(件)	出産・育児に対する経済的な支援の拡充	保育サービスの充実	ファミリーサポートセンター事業や放課後児童クラブなど地域の子育て支援の充実	子育て中の柔軟な勤務形態の普及	父親が子育てに十分かわる事ができる職場環境の整備	出産・子育て後に再就職しやすい制度づくり
女性 20歳代	83	75.9	48.2	18.1	47.0	33.7	21.7
30歳代	107	69.2	43.9	17.8	55.1	38.3	18.7
40歳代	115	54.8	33.0	24.3	55.7	31.3	29.6
50歳代	144	55.6	34.0	23.6	47.2	28.5	28.5
60歳代	161	49.7	35.4	36.0	54.0	29.2	27.3
70歳以上	152	36.2	25.7	27.0	28.3	23.7	33.6
男性 20歳代	44	59.1	50.0	4.5	43.2	27.3	22.7
30歳代	71	59.2	45.1	14.1	43.7	26.8	21.1
40歳代	83	48.2	38.6	21.7	50.6	34.9	21.7
50歳代	109	61.5	35.8	22.0	37.6	22.0	22.0
60歳代	138	64.5	37.7	22.5	46.4	21.0	24.6
70歳以上	133	61.7	29.3	24.1	34.6	21.8	24.1

区分	子育て中の仲間づくり支援	子育ての悩み相談の充実	子育て中のリフレッシュ支援	ひとり親家庭の支援	わからない	その他	無回答
女性 20歳代	2.4	3.6	7.2	10.8	—	—	1.2
30歳代	2.8	6.5	12.1	10.3	—	1.9	1.9
40歳代	2.6	7.0	7.8	16.5	2.6	—	0.9
50歳代	6.3	6.9	9.7	10.4	2.1	3.5	2.1
60歳代	4.3	9.3	2.5	11.8	—	—	3.7
70歳以上	8.6	11.2	7.2	11.8	5.9	1.3	5.9
男性 20歳代	9.1	6.8	4.5	6.8	4.5	—	—
30歳代	2.8	8.5	14.1	5.6	4.2	—	2.8
40歳代	6.0	9.6	10.8	10.8	2.4	—	4.8
50歳代	6.4	9.2	4.6	27.5	0.9	1.8	0.9
60歳代	3.6	10.1	4.3	10.1	4.3	—	—
70歳以上	3.0	10.5	1.5	9.8	8.3	0.8	2.3

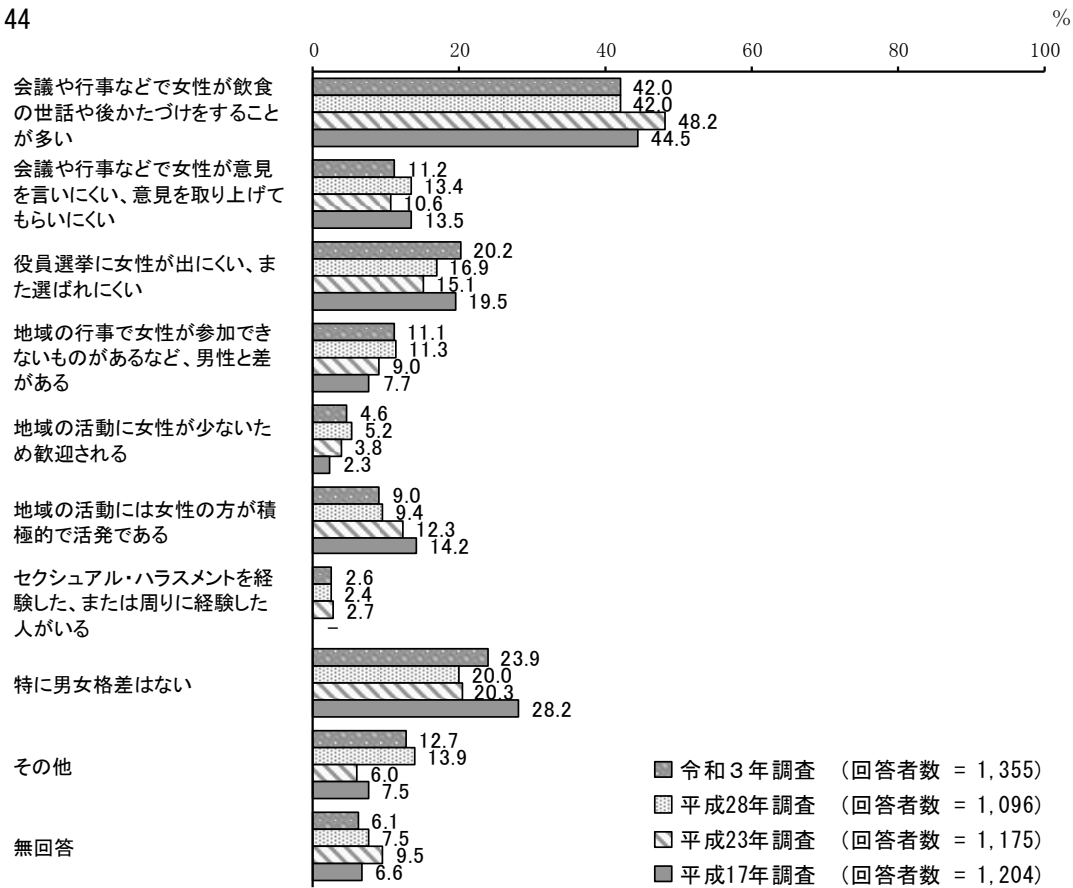
## 4 地域活動について

問 16 あなたの住んでいる地域（自治会など）で、現在次のようなことがありますか。次の中からあてはまるものをすべて選んで番号に○をつけてください。

「会議や行事などで女性が飲食の世話や後かたづけをすることが多い」の割合が 42.0%と最も高く、次いで「特に男女格差はない」の割合が 23.9%、「役員選挙に女性が出にくい、また選ばれにくい」の割合が 20.2%となっています。

平成 28 年調査と比較すると、大きな変化はみられませんが、平成 23 年調査以降「役員選挙に女性が出にくい、また選ばれにくい」の割合が増加しています。一方、平成 17 年調査以降「地域の活動には女性の方が積極的に活発である」の割合が減少しています。

図表 44



【性別】

単位：%

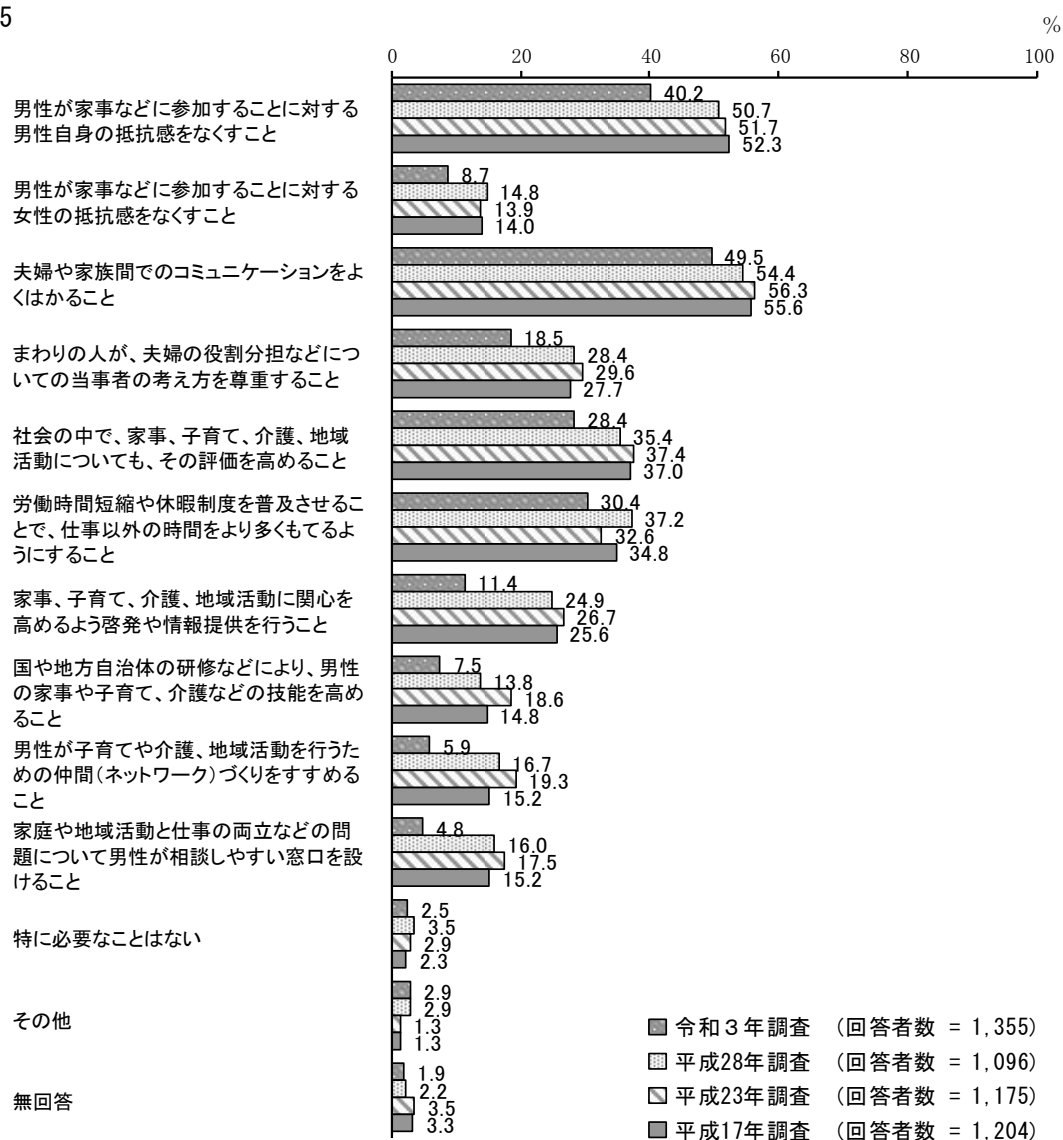
区分	回答者数(件)	会議や行事などで女性が飲食の世話や後かたづけをすることが多い	会議や行事などで女性が意見を言いにくい、意見を取り上げてもらいにくい	役員選挙に女性が出にくい、また選ばれにくい	地域の行事で女性が参加できないものがあるなど、男性と差がある	地域の活動に女性が少ないため歓迎される	地域の活動には女性の方が積極的に活発である	セクシュアル・ハラスメントを経験した、または周りに経験した人がある	特に男女格差はない	その他	無回答
女性	763	47.3	13.6	17.4	11.4	3.5	8.0	3.0	21.0	14.2	6.7
男性	578	35.3	8.1	24.2	10.9	5.9	10.2	1.9	27.9	10.9	4.7

問 17 あなたは、今後、男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。  
次の中からあてはまるものを3つまで（1つでもよい）選んで番号に○をつけてください。

「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」の割合が49.5%と最も高く、次いで「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」の割合が40.2%、「労働時間短縮や休暇制度を普及させることで、仕事以外の時間をより多くもてるようにすること」の割合が30.4%となっています。

平成28年調査と比較すると、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」、「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」の割合が高い傾向は変わりません。

図表 45



※令和3年調査では、回答できる個数を「あてはまるものすべて」から「あてはまるものを3つまで」に変更しています。

【性別】

単位：％

区分	回答者数（件）	男性が家事などに参加することに對する男性自身の抵抗感をなくすこと	男性が家事などに参加することに對する女性の抵抗感をなくすこと	夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること	まわりの人が、夫婦の役割分担などについての当事者の考え方を尊重すること	社会の中で、家事、子育て、介護、地域活動についても、その評価を高めること	労働時間短縮や休暇制度を普及させることで、仕事以外の時間をより多くもてるようにすること
女性	763	46.1	9.3	49.1	19.3	29.8	30.8
男性	578	32.7	8.0	50.3	17.5	27.2	30.4
区分	家事、子育て、介護、地域活動に関心を高めるよう啓発や情報提供を行うこと	国や地方自治体の研修などにより、男性の家事や子育て、介護などの技能を高めること	男性が子育てや介護、地域活動を行うための仲間（ネットワーク）づくりをすすめること	家庭や地域活動と仕事の両立などの問題について男性が相談しやすい窓口を設けること	特に必要なことはない	その他	無回答
女性	10.7	8.1	5.6	4.3	1.8	2.5	1.4
男性	12.1	6.7	6.2	5.4	3.3	3.5	1.9

【性・年齢別】

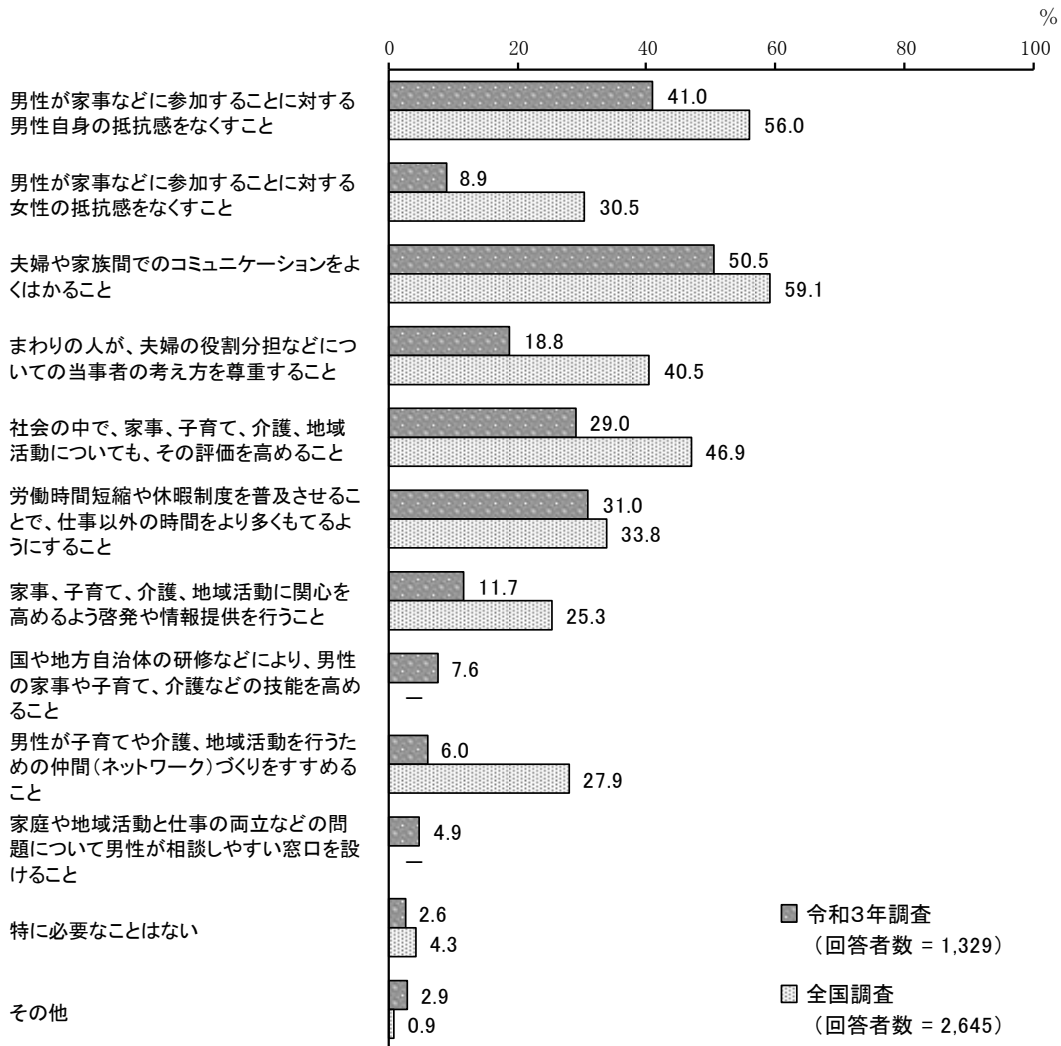
単位：％

区分	回答者数(件)	男性が家事などに参加することに對する男性自身の抵抗感をなくすこと	男性が家事などに参加することに對する女性の抵抗感をなくすこと	夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること	まわりの人が、夫婦の役割分担などについての当事者の考え方を尊重すること	社会の中で、家事、子育て、介護、地域活動についても、その評価を高めること	労働時間短縮や休暇制度を普及させることで、仕事以外の時間をより多くもてるようにすること
女性 20歳代	83	59.0	12.0	49.4	27.7	18.1	43.4
30歳代	107	47.7	12.1	52.3	25.2	36.4	38.3
40歳代	115	48.7	10.4	51.3	20.9	32.2	38.3
50歳代	144	43.8	6.3	52.1	18.1	34.7	27.8
60歳代	161	42.9	6.8	48.4	18.6	31.7	25.5
70歳以上	152	41.4	10.5	43.4	11.2	23.0	21.7
男性 20歳代	44	38.6	6.8	47.7	27.3	20.5	29.5
30歳代	71	31.0	4.2	49.3	22.5	32.4	38.0
40歳代	83	28.9	7.2	49.4	15.7	26.5	32.5
50歳代	109	27.5	11.9	53.2	22.0	33.0	32.1
60歳代	138	31.2	7.2	56.5	14.5	24.6	26.1
70歳以上	133	39.8	8.3	43.6	12.0	24.8	28.6

区分	家事、子育て、介護、地域活動に関心を高めるよう啓発や情報提供を行うこと	国や地方自治体の研修などにより、男性の家事や子育て、介護などの技能を高めること	男性が子育てや介護、地域活動を行うための仲間(ネットワーク)づくりをすすめること	家庭や地域活動と仕事の両立などの問題について男性が相談しやすい窓口を設けること	特に必要なことはない	その他	無回答
女性 20歳代	9.6	7.2	3.6	1.2	—	6.0	1.2
30歳代	7.5	8.4	4.7	5.6	—	0.9	—
40歳代	7.0	11.3	3.5	5.2	1.7	0.9	—
50歳代	11.8	6.9	4.2	2.8	1.4	4.2	1.4
60歳代	13.7	8.7	6.8	6.8	—	1.2	1.2
70歳以上	12.5	6.6	9.2	3.3	6.6	2.6	3.9
男性 20歳代	13.6	2.3	6.8	6.8	2.3	—	4.5
30歳代	5.6	2.8	9.9	2.8	4.2	1.4	1.4
40歳代	9.6	6.0	4.8	7.2	3.6	6.0	2.4
50歳代	9.2	7.3	2.8	6.4	5.5	2.8	—
60歳代	10.1	5.8	7.2	5.8	2.9	5.8	2.9
70歳以上	21.1	11.3	6.8	3.8	1.5	2.3	1.5

**【全国調査】（男女共同参画社会に関する世論調査）**

全国調査と比較すると、「労働時間短縮や休暇制度を普及させることで、仕事以外の時間をより多くもてるようにすること」を除いた項目で割合が低くなっています。

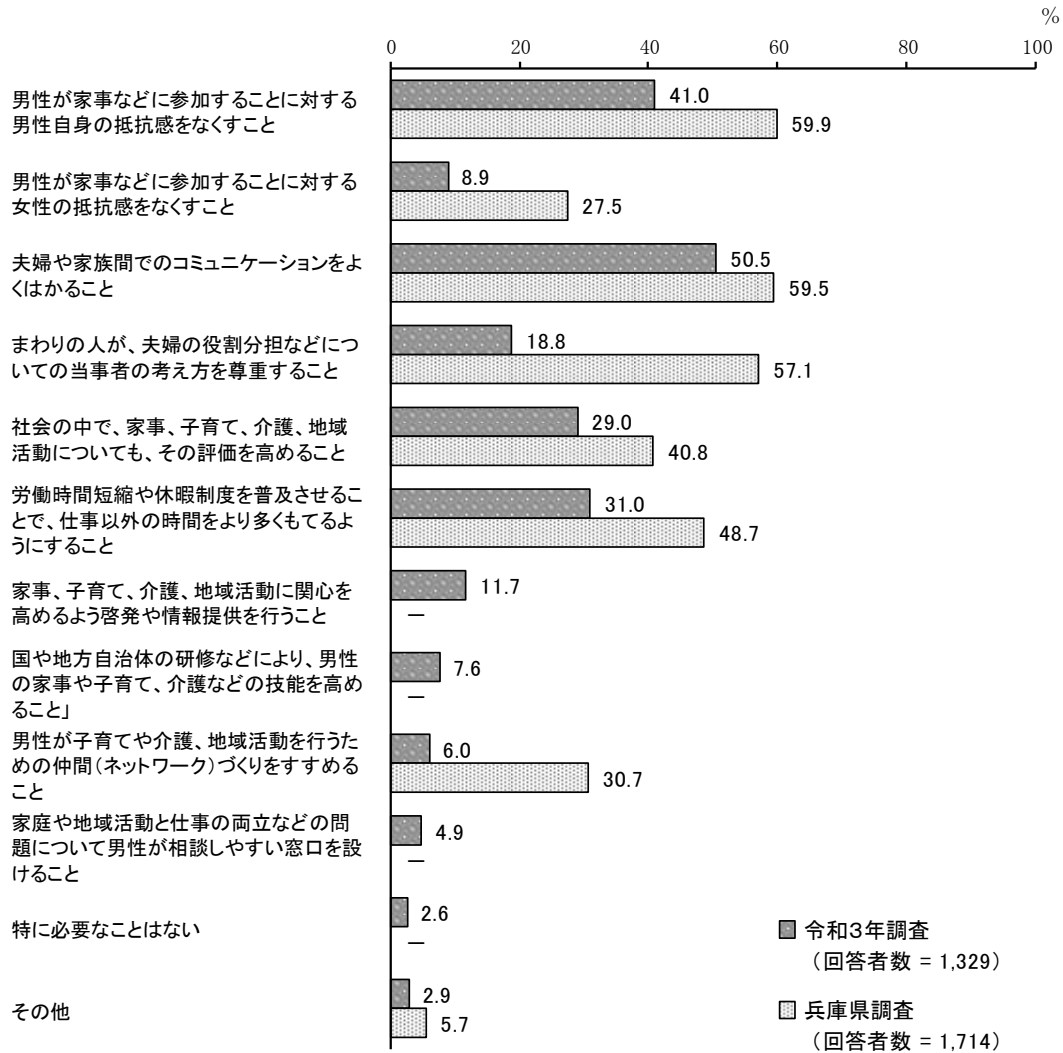


※全国調査と比較するため、無回答を除いています。



## 【兵庫県調査】

兵庫県調査と比較すると、すべての項目で割合が低くなっています。



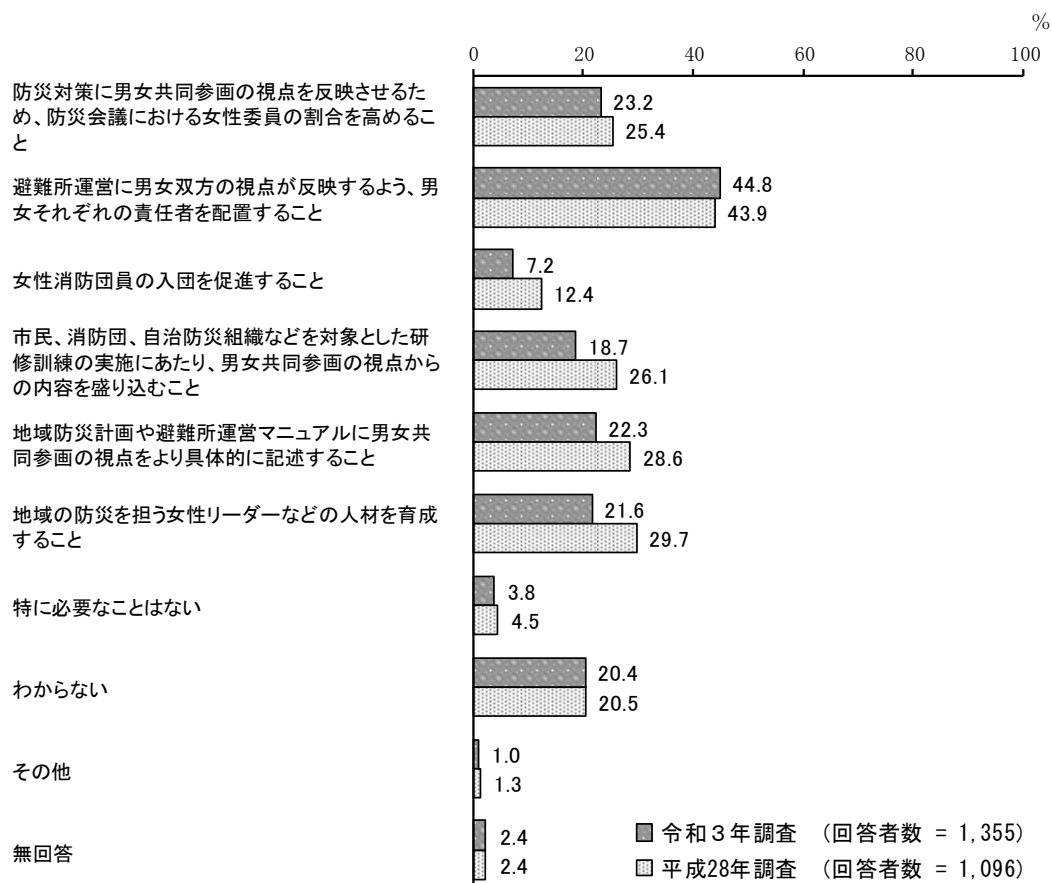
※兵庫県調査と比較するため、無回答を除いています。

問 18 あなたは、防災分野における男女共同参画の推進のためには、どのようなことが必要だと思いますか。  
次の中からあてはまるものを3つまで（1つでもよい）選んで番号に○をつけてください。

「避難所運営に男女双方の視点が反映するよう、男女それぞれの責任者を配置すること」の割合が44.8%と最も高く、次いで「防災対策に男女共同参画の視点を反映させるため、防災会議における女性委員の割合を高めること」の割合が23.2%、「地域防災計画や避難所運営マニュアルに男女共同参画の視点をより具体的に記述すること」の割合が22.3%となっています。

平成28年調査と比較すると、「防災対策に男女共同参画の視点を反映させるため、防災会議における女性委員の割合を高めること」、「避難所運営に男女双方の視点が反映するよう、男女それぞれの責任者を配置すること」の割合が高い傾向は変わりません。

図表 46



※令和3年調査では、回答できる個数を「あてはまるものすべて」から「あてはまるものを3つまで」に変更しています。

【性別】

単位：%

区分	回答者数(件)	防災対策に男女共同参画の視点を反映させるため、防災会議における女性委員の割合を高めること	避難所運営に男女双方の視点が反映するよう、男女それぞれを配置すること	女性消防団員の入団を促進すること	市民、消防団、自治防災組織などを対象とした研修訓練の実施にあたり、男女共同参画の視点からの内容を盛り込むこと	地域防災計画や避難所運営マニュアルに男女共同参画の視点をより具体的に記述すること
女性	763	20.4	43.4	4.5	15.7	21.1
男性	578	26.8	46.9	10.9	23.0	23.9

区分	地域の防災を担う女性リーダーなどの人材を育成すること	特に必要なことはない	わからない	その他	無回答
女性	19.1	3.7	24.2	1.3	1.6
男性	25.4	4.0	15.4	0.5	2.9

## 5 ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について

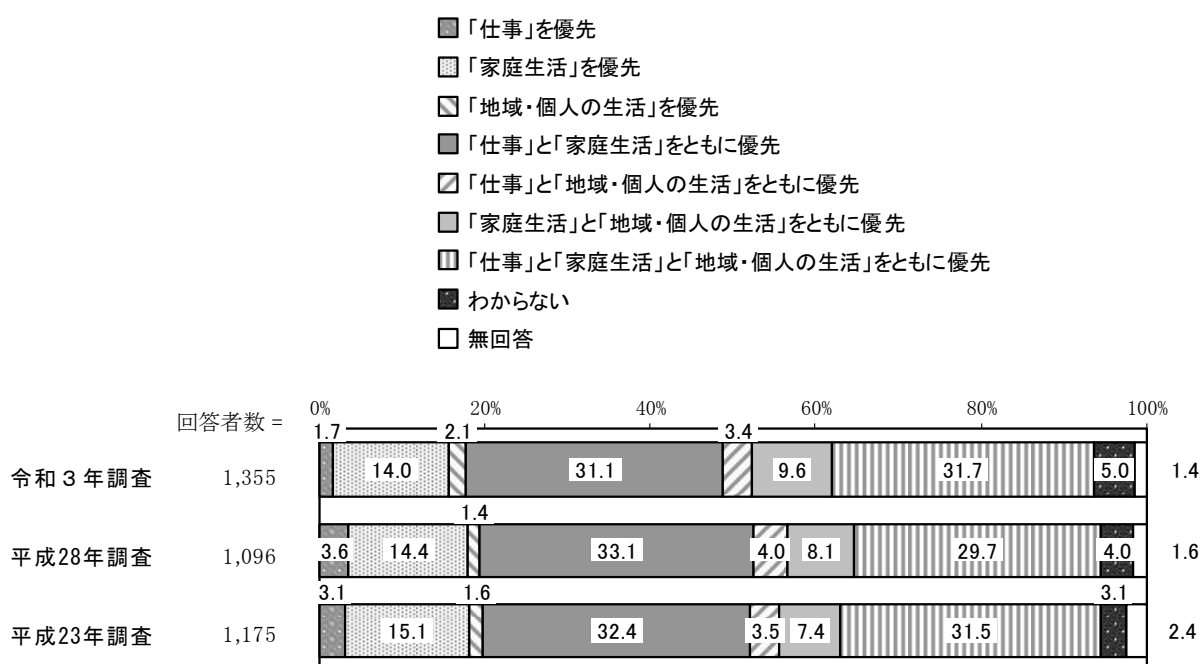
問 19 あなたが生活していく中で、「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」（地域活動・学習・趣味・付き合い等）の優先度について、どのような状態が理想だと考えますか。また、実際の状況（現実）はどうか。  
理想と現実それぞれについて1つ選んで番号に○をつけてください。

### ①理想

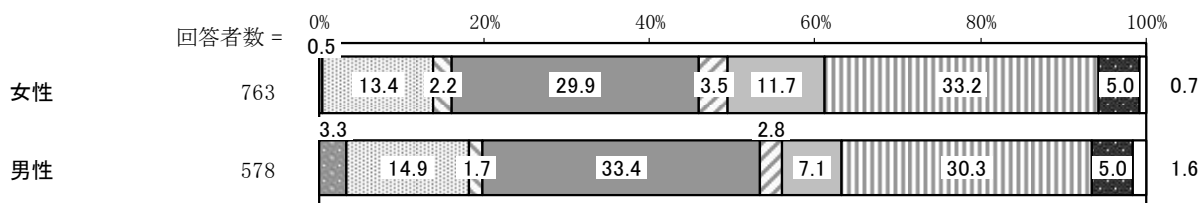
「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先」の割合が31.7%と最も高く、次いで「仕事」と「家庭生活」をともに優先」の割合が31.1%、「家庭生活」を優先」の割合が14.0%となっています。

平成28年調査と比較すると、大きな変化はみられません。

図表 47

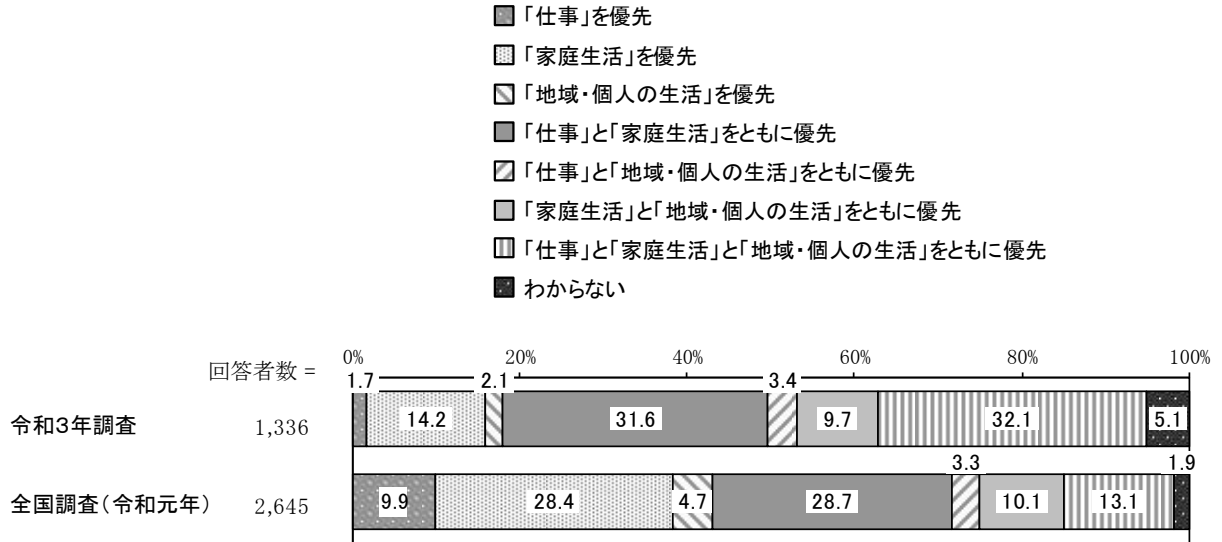


### 【性別】



**【全国調査】（男女共同参画社会に関する世論調査）**

全国調査と比較すると、「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先」の割合が高くなっています。また、「仕事」を優先」「家庭生活」を優先」の割合が低くなっています。



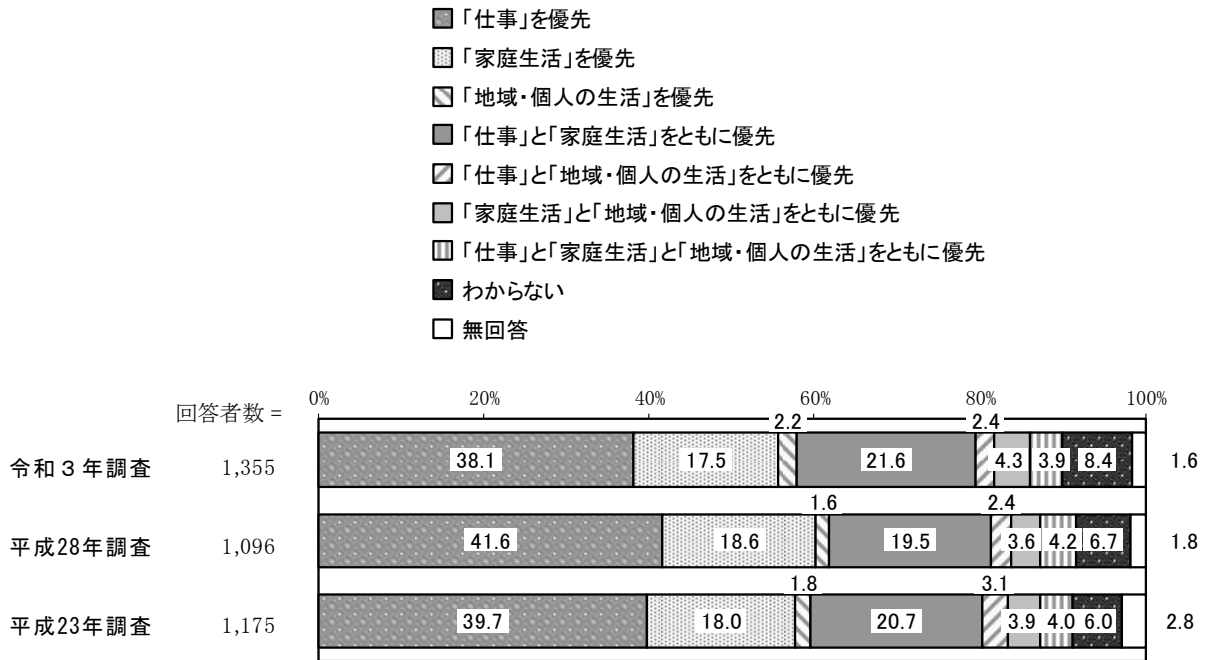
※全国調査と比較するため、無回答を除いています。

②現実

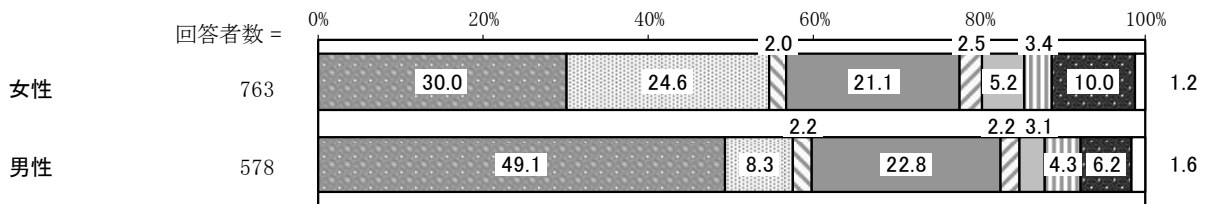
「仕事」を優先」の割合が 38.1%と最も高く、次いで「仕事」と「家庭生活」をともに優先」の割合が 21.6%、「家庭生活」を優先」の割合が 17.5%となっています。

平成 28 年調査と比較すると、大きな変化はみられません。

図表 48



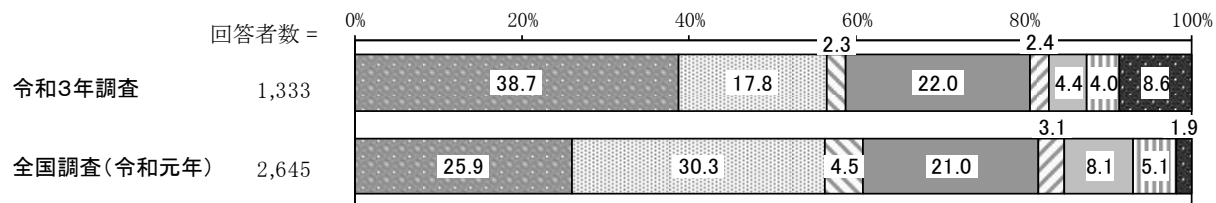
【性別】



**【全国調査】（男女共同参画社会に関する世論調査）**

全国調査と比較すると、「仕事」を優先の割合が高くなっています。また、「家庭生活」を優先の割合が低くなっています。

- 「仕事」を優先
- ▨ 「家庭生活」を優先
- ▩ 「地域・個人の生活」を優先
- 「仕事」と「家庭生活」をともに優先
- ▨ 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先
- ▩ 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先
- ▨ ▩ 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先
- わからない



※全国調査と比較するため、無回答を除いています。

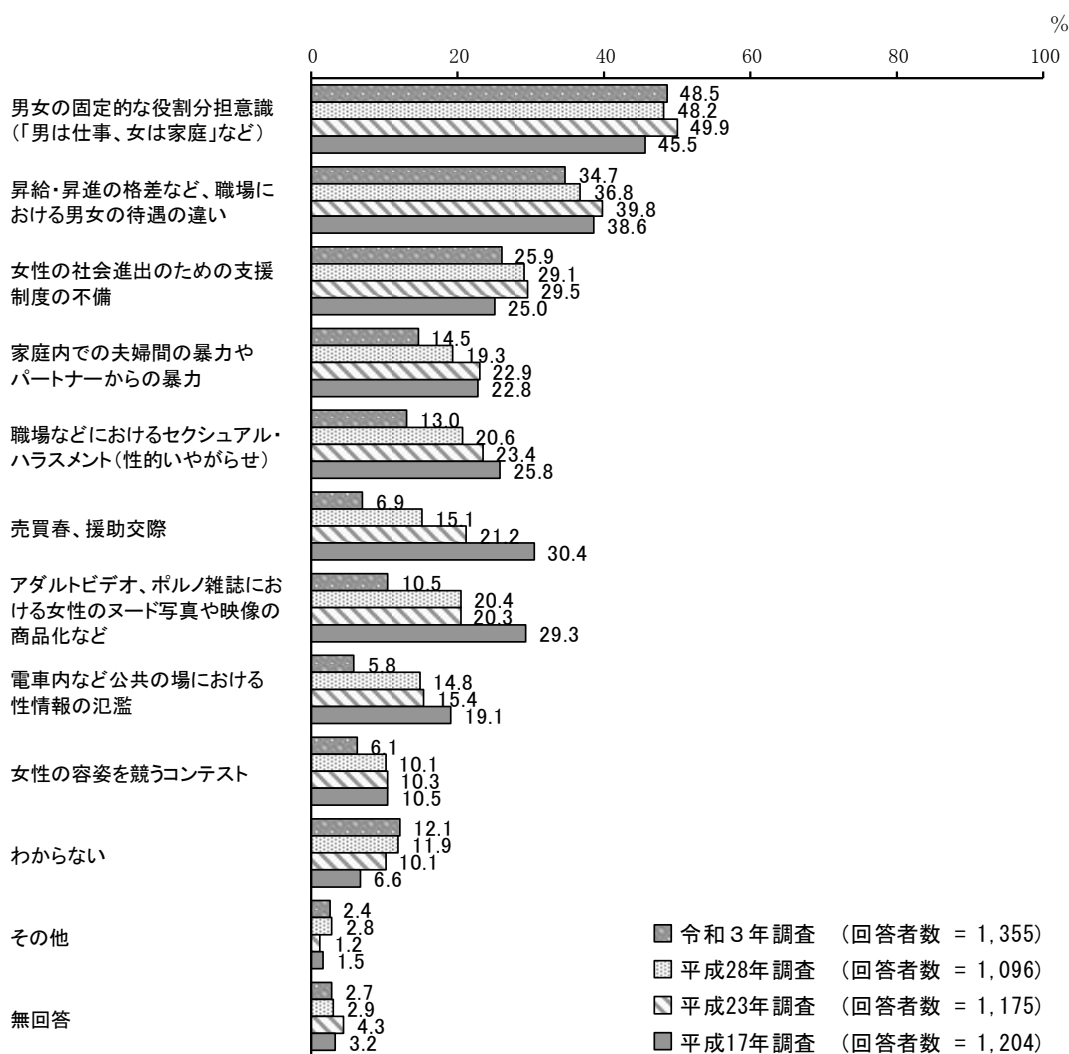
## 6 人権について

問 20 あなたが、女性の人権が尊重されていないと感じるのはどのようなことについてですか。  
次の中からあてはまるものを3つまで（1つでもよい）選んで番号に○をつけてください。

「男女の固定的な役割分担意識（「男は仕事、女は家庭」など）」の割合が48.5%と最も高く、次いで「昇給・昇進の格差など、職場における男女の待遇の違い」の割合が34.7%、「女性の社会進出のための支援制度の不備」の割合が25.9%となっています。

平成28年調査と比較すると、「男女の固定的な役割分担意識（「男は仕事、女は家庭」など）」、「昇給・昇進の格差など、職場における男女の待遇の違い」、「女性の社会進出のための支援制度の不備」の割合が高い傾向は変わりません。

図表 49



※令和3年調査では、回答できる個数を「あてはまるものすべて」から「あてはまるものを3つまで」に変更しています。



【性別】

単位：％

区分	回答者数（件）	男女の固定的な役割分担意識（男は仕事、女は家庭）など	昇給・昇進の格差など、職場における男女の待遇の違い	女性の社会進出のための支援制度の不備	家庭内での夫婦間の暴力やパートナーからの暴力	職場などにおけるセクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）	売買取、援助交際	アダルトビデオ、ポルノ雑誌における女性のヌード写真や映像の商品化など	電車内など公共の場における性情報の氾濫	女性の容姿を競うコンテスト	わからない	その他	無回答
女性	763	49.0	34.5	24.1	13.8	14.7	7.5	13.1	7.6	6.6	10.9	1.7	2.6
男性	578	47.9	35.1	28.2	15.4	10.9	5.9	7.1	3.5	5.5	13.8	3.5	2.2

【性・年齢別】

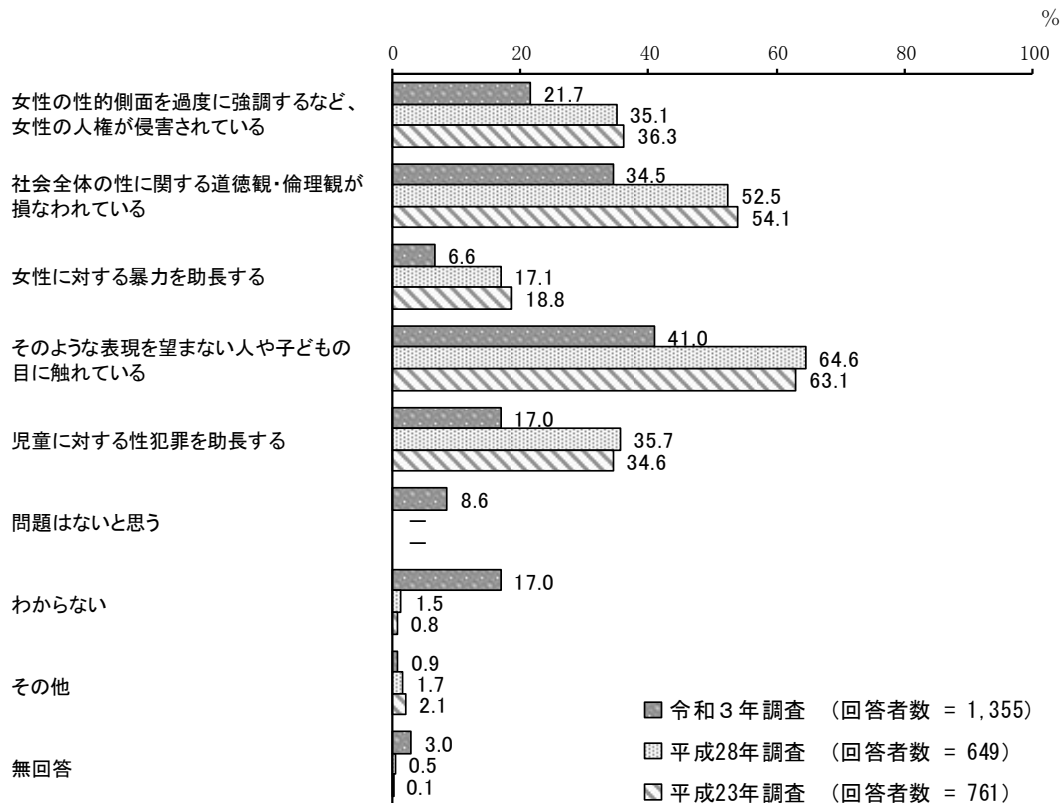
単位：％

区分	回答者数（件）	男女の固定的な役割分担意識（男は仕事、女は家庭）など	昇給・昇進の格差など、職場における男女の待遇の違い	女性の社会進出のための支援制度の不備	家庭内での夫婦間の暴力やパートナーからの暴力	職場などにおけるセクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）	売買取、援助交際	アダルトビデオ、ポルノ雑誌における女性のヌード写真や映像の商品化など	電車内など公共の場における性情報の氾濫	女性の容姿を競うコンテスト	わからない	その他	無回答
女性 20歳代	83	51.8	31.3	30.1	15.7	16.9	6.0	6.0	8.4	9.6	15.7	—	1.2
30歳代	107	61.7	36.4	30.8	13.1	15.0	7.5	10.3	5.6	7.5	7.5	3.7	—
40歳代	115	46.1	33.0	27.0	14.8	20.0	7.8	11.3	7.0	4.3	13.0	—	0.9
50歳代	144	50.0	41.7	17.4	16.7	16.0	6.9	14.6	9.7	9.7	6.9	4.2	1.4
60歳代	161	46.6	31.1	28.6	12.4	14.3	8.7	16.1	8.7	5.0	6.2	0.6	3.7
70歳以上	152	42.1	32.9	15.1	11.2	8.6	7.2	15.8	5.9	4.6	17.8	1.3	6.6
男性 20歳代	44	47.7	27.3	27.3	20.5	18.2	6.8	4.5	4.5	6.8	11.4	—	4.5
30歳代	71	46.5	23.9	29.6	15.5	14.1	2.8	2.8	4.2	4.2	16.9	8.5	—
40歳代	83	50.6	20.5	20.5	19.3	16.9	6.0	4.8	2.4	6.0	14.5	6.0	1.2
50歳代	109	47.7	36.7	21.1	22.9	8.3	5.5	8.3	2.8	2.8	12.8	3.7	0.9
60歳代	138	44.9	42.0	28.3	13.0	9.4	8.0	8.7	2.9	5.1	15.9	2.9	0.7
70歳以上	133	50.4	44.4	38.3	7.5	6.8	5.3	9.0	4.5	8.3	11.3	0.8	6.0

問 21 あなたは、現在のテレビ、新聞、雑誌などのメディアにおける性・暴力表現について、どのように思いますか。  
 次の中からあてはまるものを3つまで（1つでもよい）選んで番号に○をつけてください。

「そのような表現を望まない人や子どもの目に触れている」の割合が41.0%と最も高く、次いで「社会全体の性に関する道徳観・倫理観が損なわれている」の割合が34.5%、「女性の性的側面を過度に強調するなど、女性の人権が侵害されている」の割合が21.7%となっています。

図表 50



※平成 23 年調査、平成 28 年調査では、メディアにおける性・暴力表現について「問題があると思う」「どちらかという問題があると思う」と回答した方のみを対象としたため、回答者数が少なくなっています。

※平成 23 年調査、平成 28 年調査には、「問題はないと思う」の選択肢はありませんでした。

【性別】

単位：％

区分	回答者数(件)	女性の性的側面を過度に強調するなど、女性の権利が侵害されている	社会全体の性に関する道徳観・倫理観が損なわれている	女性に対する暴力を助長する	そのような表現を望まない人や子ども目に触れている	児童に対する性犯罪を助長する	問題はないと思う	わからない	その他	無回答
女性	763	21.0	33.6	6.0	44.3	19.1	6.9	17.8	1.2	2.8
男性	578	22.7	35.8	7.4	37.0	14.2	10.9	15.9	0.5	2.8

【性・年齢別】

単位：％

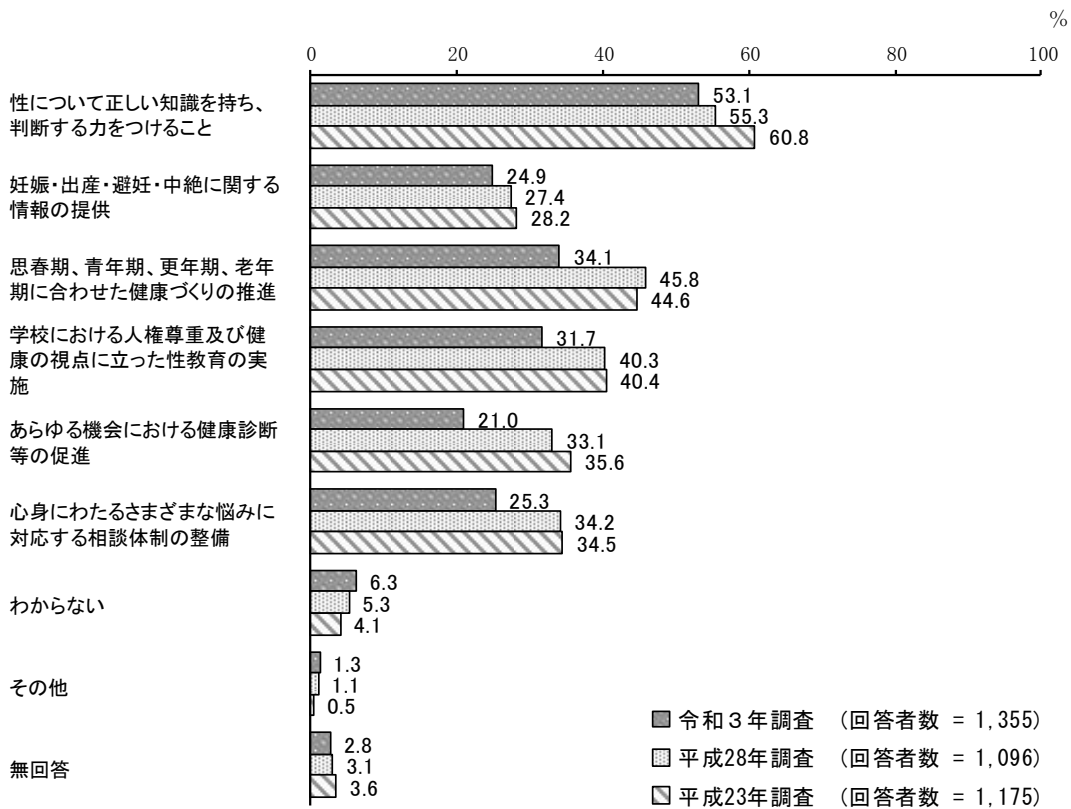
区分	回答者数(件)	女性の性的側面を過度に強調するなど、女性の権利が侵害されている	社会全体の性に関する道徳観・倫理観が損なわれている	女性に対する暴力を助長する	そのような表現を望まない人や子ども目に触れている	児童に対する性犯罪を助長する	問題はないと思う	わからない	その他	無回答
女性 20歳代	83	24.1	27.7	2.4	28.9	10.8	12.0	30.1	1.2	1.2
30歳代	107	20.6	17.8	4.7	44.9	14.0	11.2	23.4	1.9	—
40歳代	115	20.0	15.7	8.7	44.3	19.1	7.0	23.5	0.9	0.9
50歳代	144	16.7	34.0	9.7	57.6	22.2	6.3	12.5	2.1	1.4
60歳代	161	23.6	44.1	5.0	48.4	23.0	2.5	13.7	0.6	3.7
70歳以上	152	21.7	50.0	4.6	34.9	19.7	6.6	12.5	0.7	7.2
男性 20歳代	44	15.9	34.1	13.6	25.0	9.1	11.4	18.2	2.3	4.5
30歳代	71	9.9	19.7	1.4	33.8	7.0	22.5	21.1	1.4	—
40歳代	83	14.5	19.3	7.2	39.8	10.8	15.7	20.5	—	2.4
50歳代	109	20.2	33.0	8.3	45.9	14.7	11.9	11.0	—	1.8
60歳代	138	25.4	42.8	10.9	33.3	20.3	3.6	17.4	0.7	1.4
70歳以上	133	36.1	50.4	4.5	37.6	15.0	8.3	12.0	—	6.0

問 22 妊娠・出産をになう女性は、男性とは異なった体や心の問題に直面することがあります。男女が生涯にわたり心身ともに健康であるために、どのようなことが必要だと思いませんか。  
次の中からあてはまるものを3つまで（1つでもよい）選んで番号に○をつけてください。

「性について正しい知識を持ち、判断する力をつけること」の割合が53.1%と最も高く、次いで「思春期、青年期、更年期、老年期に合わせた健康づくりの推進」の割合が34.1%、「学校における人権尊重及び健康の視点に立った性教育の実施」の割合が31.7%となっています。

平成28年調査と比較すると、「性について正しい知識を持ち、判断する力をつけること」、「思春期、青年期、更年期、老年期に合わせた健康づくりの推進」、「学校における人権尊重及び健康の視点に立った性教育の実施」の割合が高い傾向は変わりません。

図表 51



※令和3年調査では、回答できる個数を「あてはまるものすべて」から「あてはまるものを3つまで」に変更しています。

【性別】

単位：％

区分	回答者数(件)	性について正しい知識を持ち、判断する力をつけること	妊娠・出産・避妊・中絶に関する情報の提供	思春期、青年期、更年期、老年期に合わせた健康づくりの推進	学校における人権尊重及び健康の視点に立った性教育の実施	あらゆる機会における健康診断等の促進	心身にわたるさまざまな悩みに対応する相談体制の整備	わからない	その他	無回答
女性	763	55.3	26.6	33.8	31.8	21.9	24.8	4.8	0.8	2.9
男性	578	50.7	22.5	34.6	31.7	19.6	26.3	8.3	1.9	2.1

【性・年齢別】

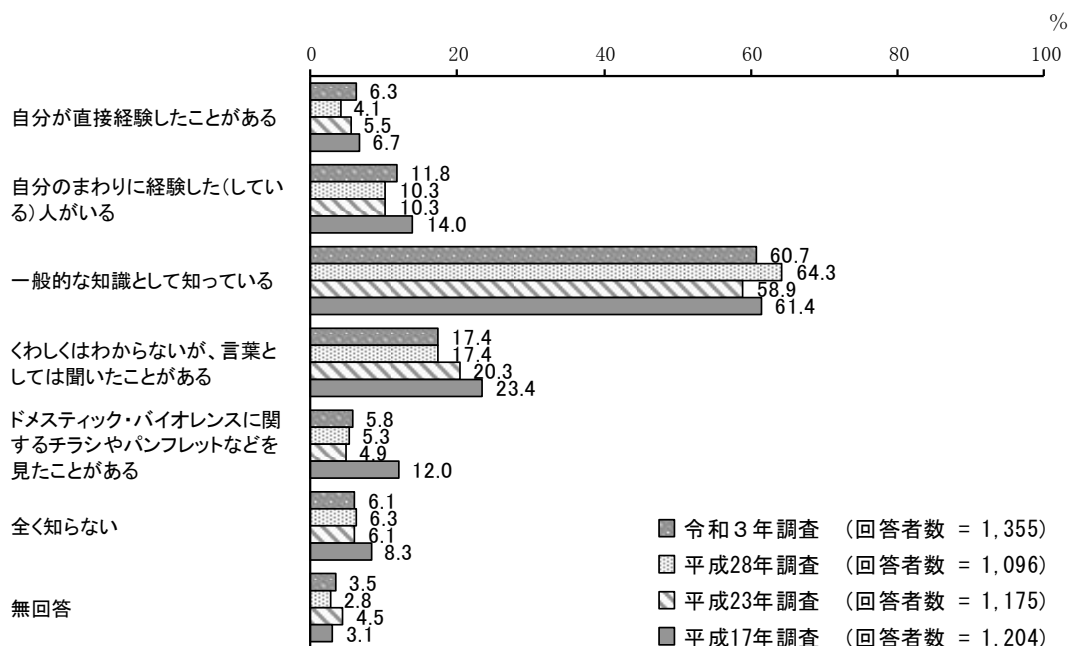
単位：％

区分	回答者数(件)	性について正しい知識を持ち、判断する力をつけること	妊娠・出産・避妊・中絶に関する情報の提供	思春期、青年期、更年期、老年期に合わせた健康づくりの推進	学校における人権尊重及び健康の視点に立った性教育の実施	あらゆる機会における健康診断等の促進	心身にわたるさまざまな悩みに対応する相談体制の整備	わからない	その他	無回答
女性 20歳代	83	72.3	59.0	18.1	38.6	14.5	19.3	6.0	—	1.2
30歳代	107	55.1	47.7	24.3	49.5	37.4	18.7	2.8	1.9	—
40歳代	115	52.2	25.2	35.7	29.6	20.0	21.7	7.8	1.7	0.9
50歳代	144	50.0	17.4	44.4	19.4	22.2	28.5	4.2	1.4	2.8
60歳代	161	57.1	18.0	38.5	31.1	20.5	34.2	2.5	—	3.1
70歳以上	152	52.0	13.2	32.2	30.3	17.1	21.1	6.6	—	7.2
男性 20歳代	44	63.6	38.6	20.5	22.7	13.6	20.5	9.1	—	4.5
30歳代	71	54.9	36.6	31.0	29.6	15.5	22.5	9.9	1.4	—
40歳代	83	59.0	21.7	31.3	36.1	24.1	26.5	4.8	2.4	1.2
50歳代	109	45.9	21.1	33.9	29.4	28.4	31.2	8.3	1.8	0.9
60歳代	138	47.8	18.8	40.6	29.7	17.4	27.5	9.4	1.4	—
70歳以上	133	45.9	15.0	37.6	36.8	15.8	24.8	8.3	3.0	6.0

問 23 あなたは、ドメスティック・バイオレンス（DV）について経験したり、見聞きしたりしたことがありますか。  
次の中からあてはまるものをすべて選んで番号に○をつけてください。

「一般的な知識として知っている」の割合が 60.7%と最も高く、次いで「くわしくはわからないが、言葉としては聞いたことがある」の割合が 17.4%、「自分のまわりに経験した（している）人がいる」の割合が 11.8%となっています。

図表 52



【性別】

単位：％

区分	回答者数（件）	自分が直接経験したことがある	自分のまわりに経験した（している）人がいる	一般的な知識として知っている	くわしくはわからないが、言葉としては聞いたことがある	ドメスティック・バイオレンスに関するチラシやパンフレットなどを見たことがある	全く知らない	無回答
女性	763	9.4	14.0	58.3	17.2	5.8	4.3	3.3
男性	578	2.1	9.2	64.7	17.3	6.1	8.5	3.3

【性・年齢別】

単位：％

区分	回答者数（件）	自分が直接経験したことがある	自分のまわりに経験した（している）人がいる	一般的な知識として知っている	くわしくはわからないが、言葉としては聞いたことがある	ドメスティック・バイオレンスに関するチラシやパンフレットなどを見たことがある	全く知らない	無回答
女性 20歳代	83	6.0	19.3	60.2	10.8	10.8	6.0	1.2
30歳代	107	9.3	22.4	63.6	5.6	2.8	0.9	0.9
40歳代	115	16.5	12.2	56.5	10.4	9.6	3.5	1.7
50歳代	144	10.4	20.1	63.2	9.7	4.9	3.5	1.4
60歳代	161	9.3	8.7	58.4	23.6	6.8	5.6	5.0
70歳以上	152	5.3	6.6	50.0	34.2	2.0	5.9	7.2
男性 20歳代	44	—	6.8	59.1	15.9	4.5	13.6	6.8
30歳代	71	1.4	8.5	70.4	12.7	7.0	8.5	—
40歳代	83	6.0	13.3	60.2	15.7	6.0	9.6	2.4
50歳代	109	2.8	10.1	75.2	10.1	3.7	6.4	2.8
60歳代	138	0.7	8.0	67.4	20.3	5.1	6.5	1.4
70歳以上	133	1.5	8.3	54.9	24.1	9.0	9.8	6.8

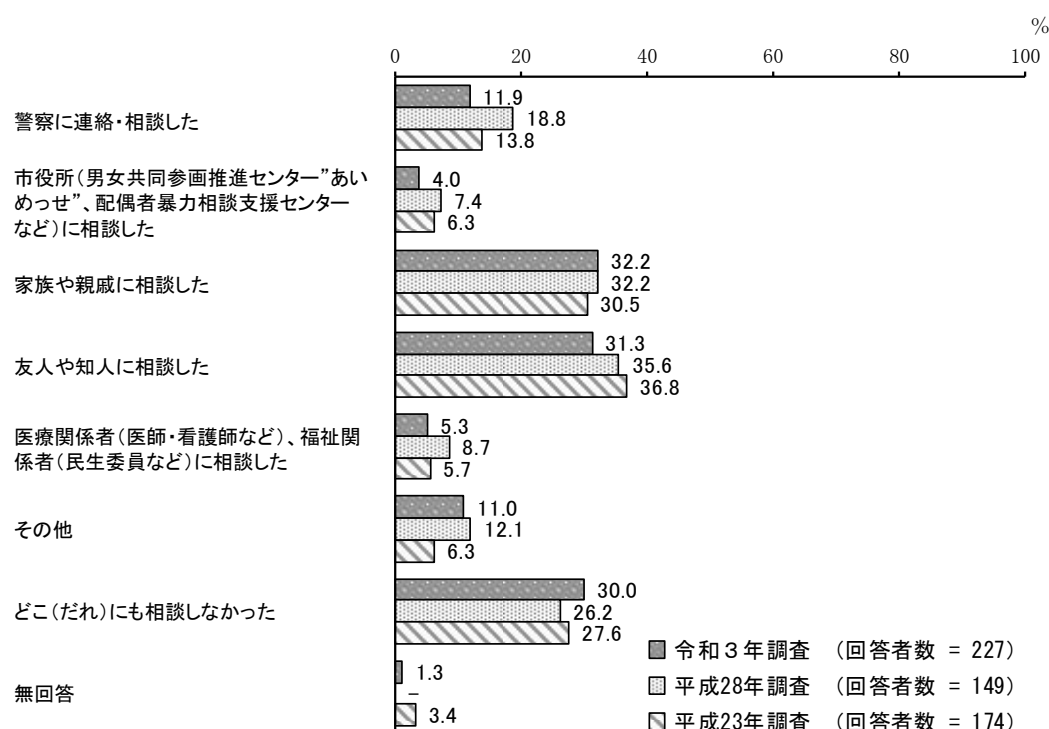
問 23-1 問 23 で「1. 自分が直接経験したことがある」「2. 自分のまわりに経験した(している)人がいる」と回答した方にのみおたずねします。あなたは、経験したり、見聞きしたことを、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。

次の中からあてはまるものをすべて選んで番号に○をつけてください。

「家族や親戚に相談した」の割合が 32.2%と最も高く、次いで「友人や知人に相談した」の割合が 31.3%、「どこ(だれ)にも相談しなかった」の割合が 30.0%となっています。

平成 28 年調査と比較すると、「警察に連絡・相談した」の割合が減少しています。

図表 53



【性別】

単位：%

区分	回答者数(件)	警察に連絡・相談した	市役所(男女共同参画推進センター”あいめっせ”、配偶者暴力相談支援センターなどに相談した)	家族や親戚に相談した	友人や知人に相談した	医療関係者(医師・看護師など)、福祉関係者(民生委員など)に相談した	その他	どこ(だれ)にも相談しなかった	無回答
女性	165	9.7	4.2	33.9	33.3	5.5	11.5	25.5	1.2
男性	61	16.4	3.3	26.2	24.6	4.9	9.8	42.6	1.6



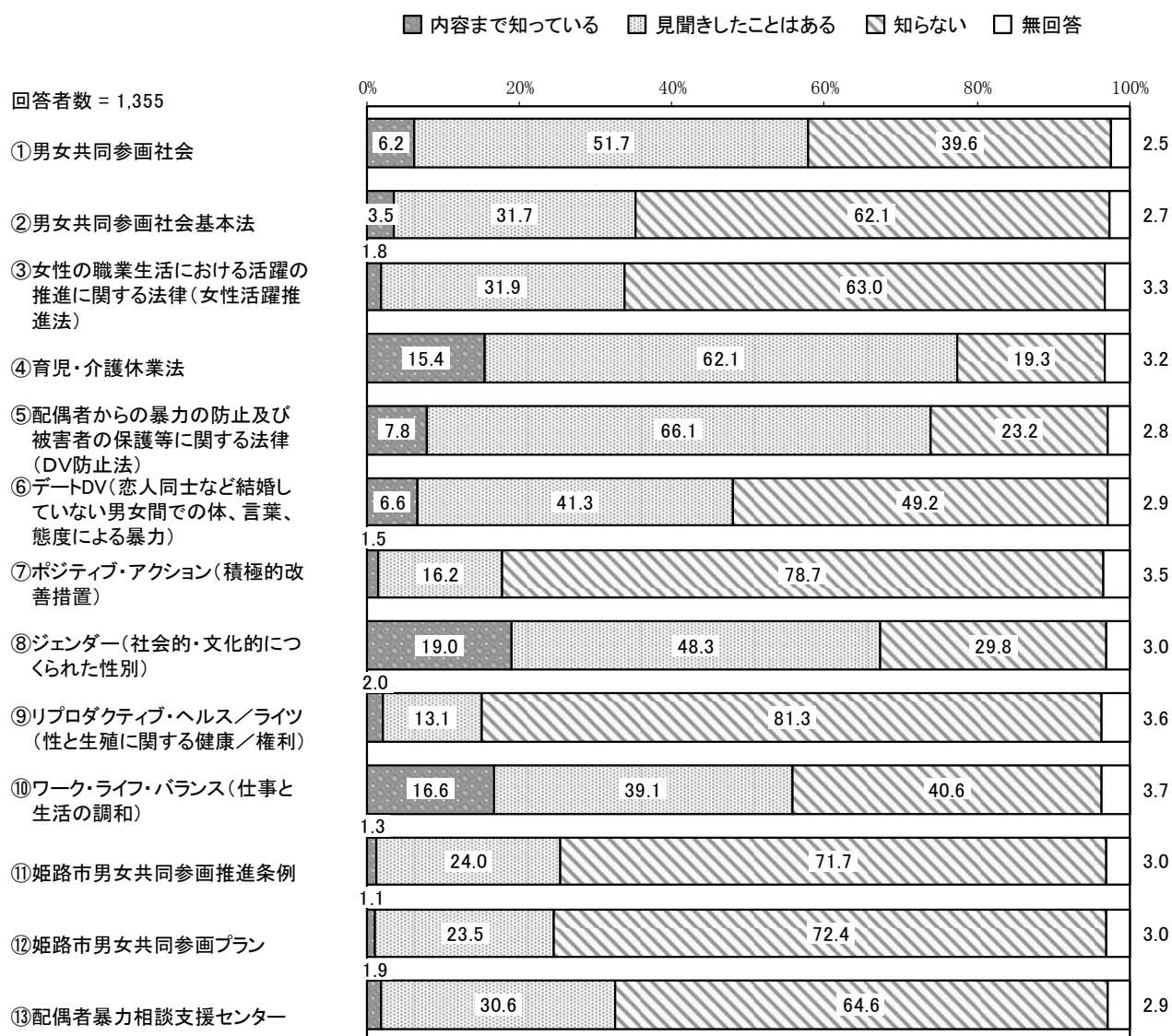
## 7 男女共同参画に関する施策などについて

問 24 次の男女共同参画に関する事項を、あなたはどの程度ご存知ですか。  
①から⑬のそれぞれについて1つずつ選んで番号に○をつけてください。

「⑨リプロダクティブ・ヘルス/ライツ（性と生殖に関する健康/権利）」で「知らない」の割合が高くなっています。

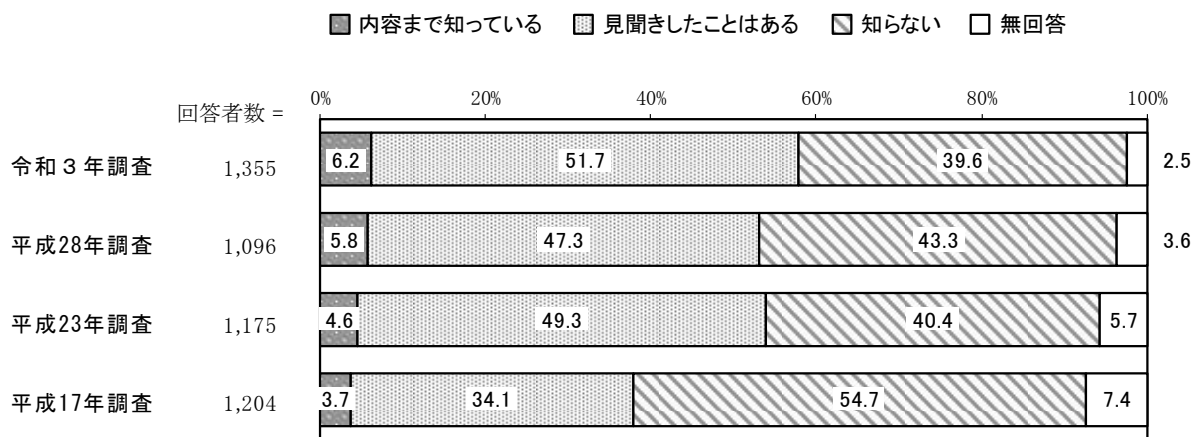
平成 28 年調査と比較すると、「⑧ジェンダー（社会的・文化的につくられた性別）」「⑩ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」で「内容まで知っている」の割合が増加しています。一方、「⑫姫路市男女共同参画プラン」で「知らない」の割合が増加しています。

図表 54

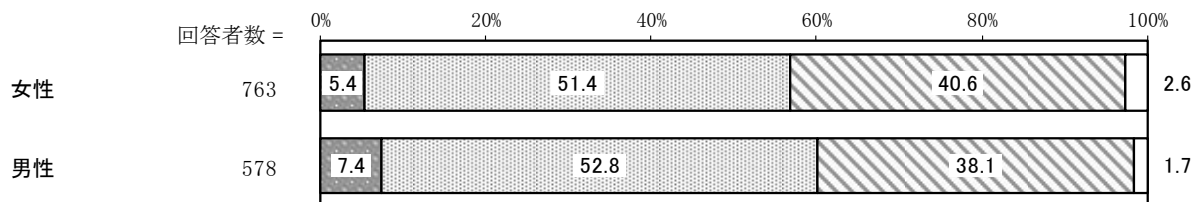


図表 55

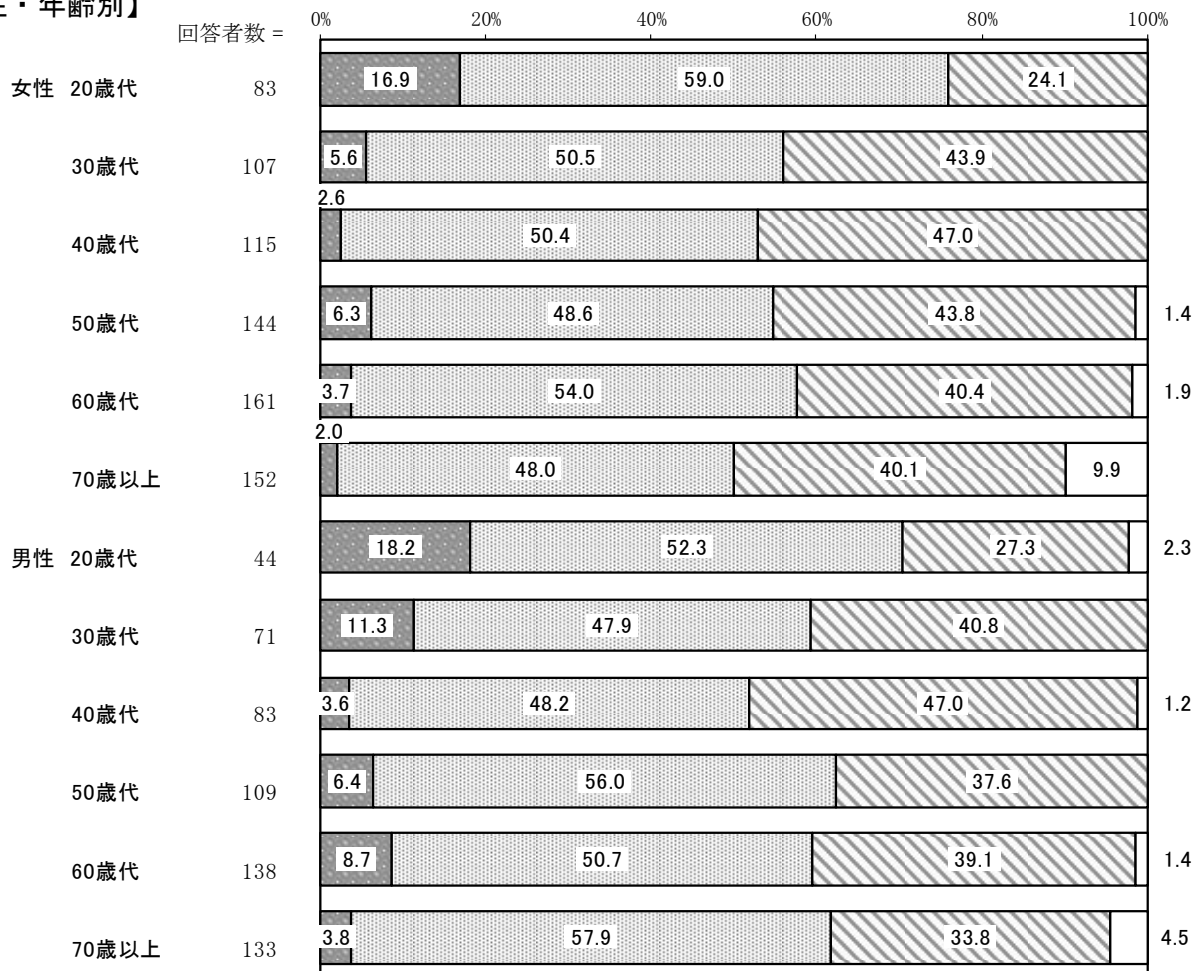
①男女共同参画社会



【性別】

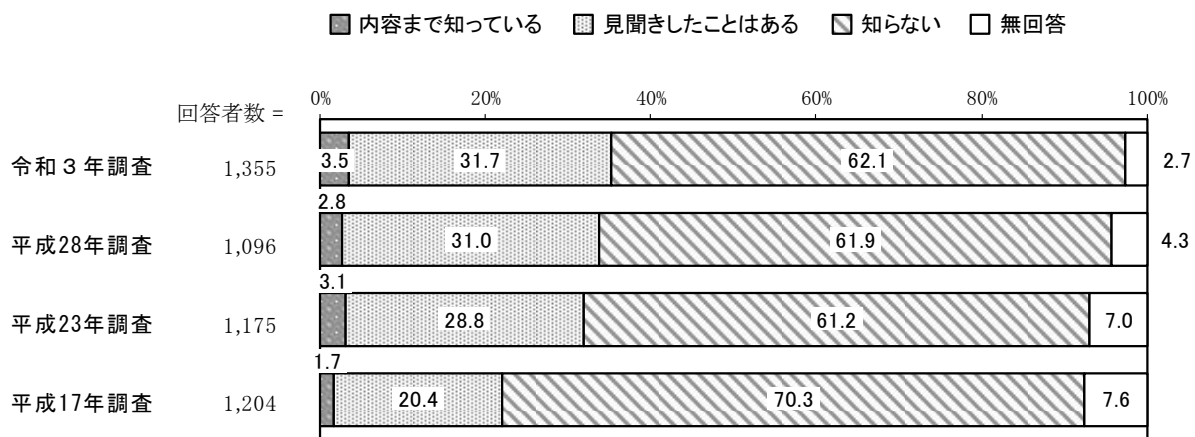


【性・年齢別】

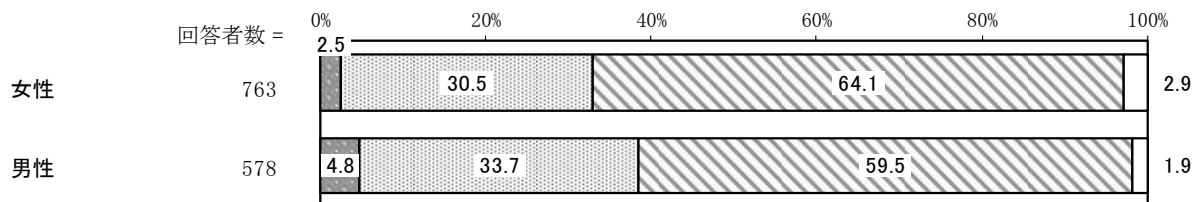


図表 56

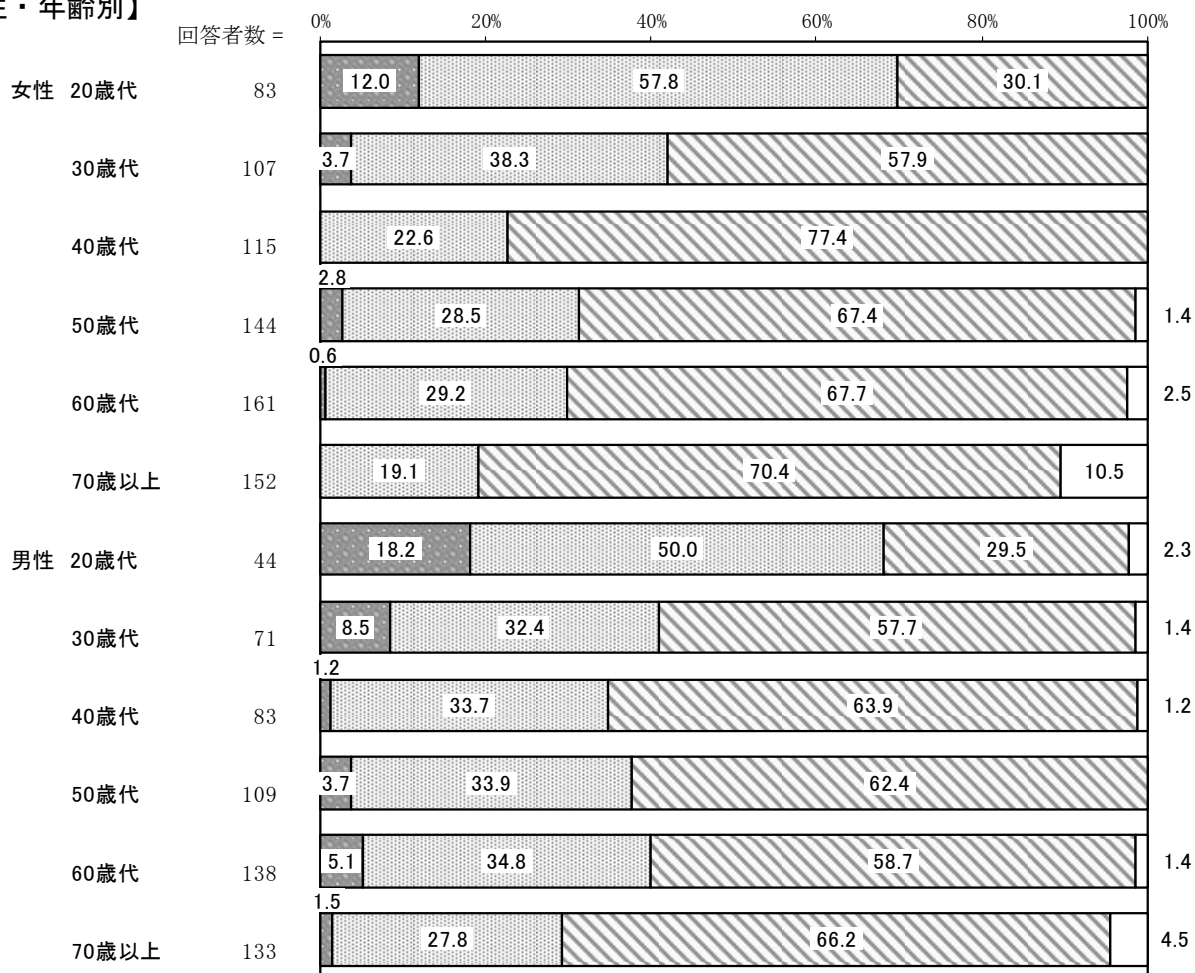
②男女共同参画社会基本法



【性別】

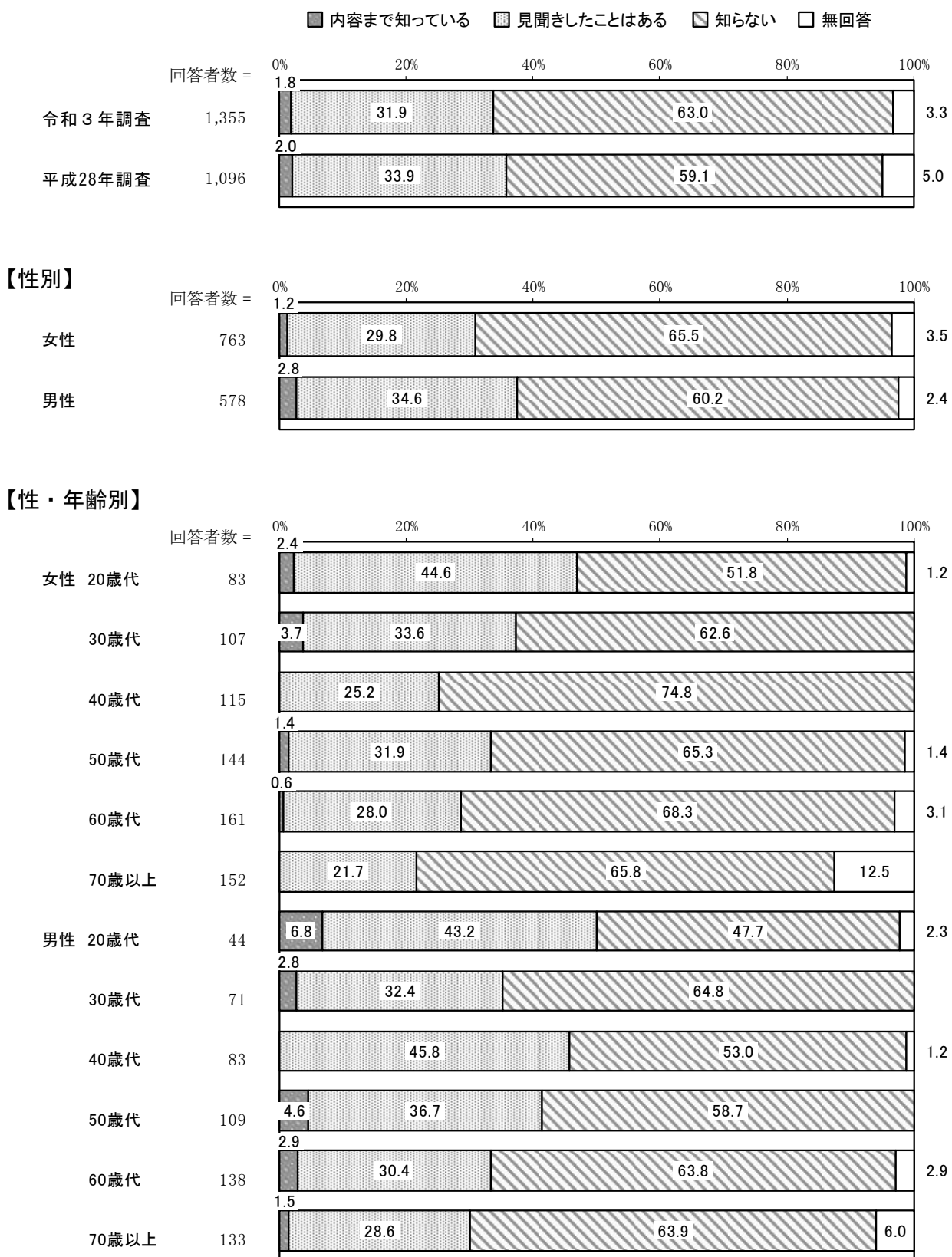


【性・年齢別】



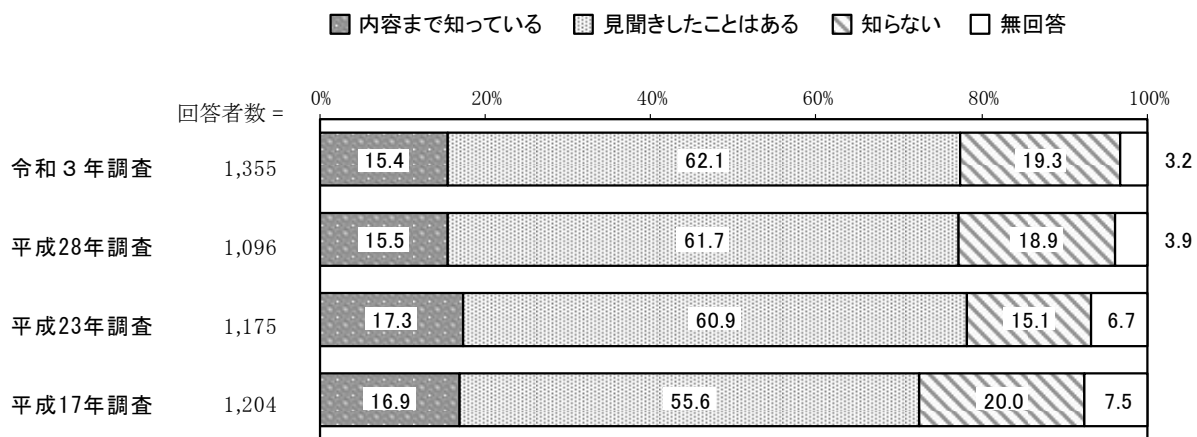
図表 57

③女性の職業生活における活躍の推進に関する法律（女性活躍推進法）

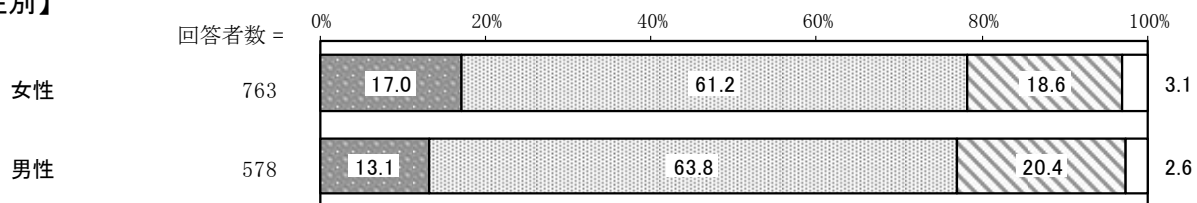


図表 58

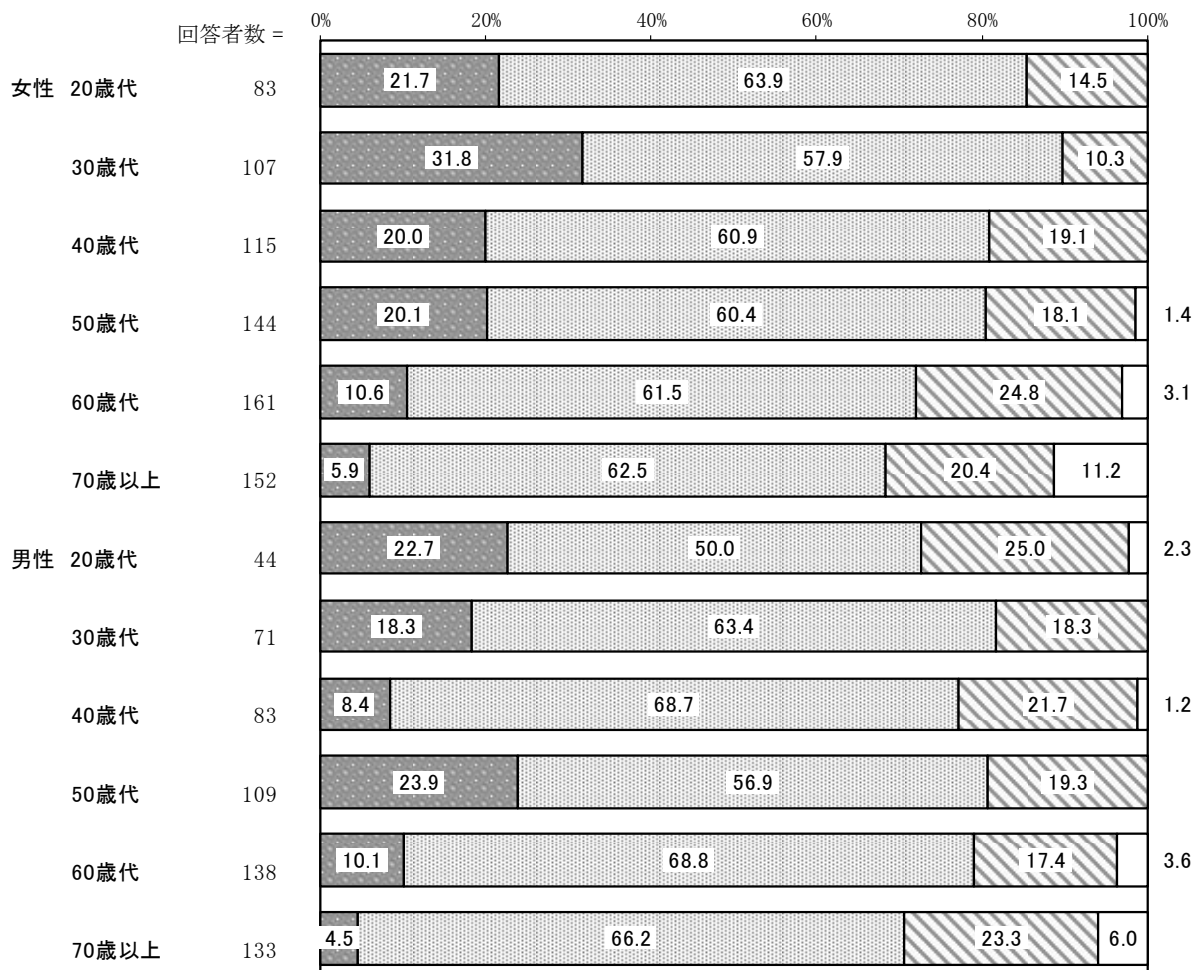
④育児・介護休業法



【性別】

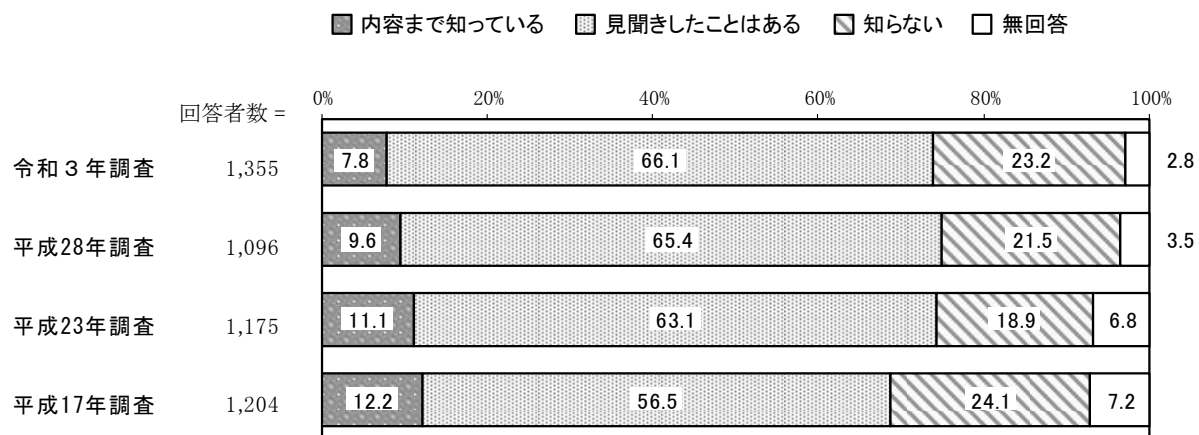


【性・年齢別】

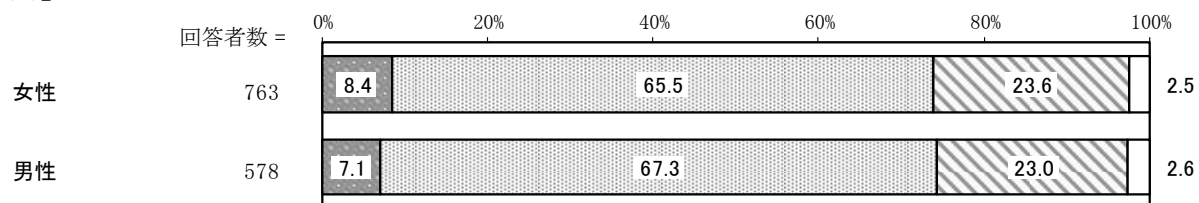


図表 59

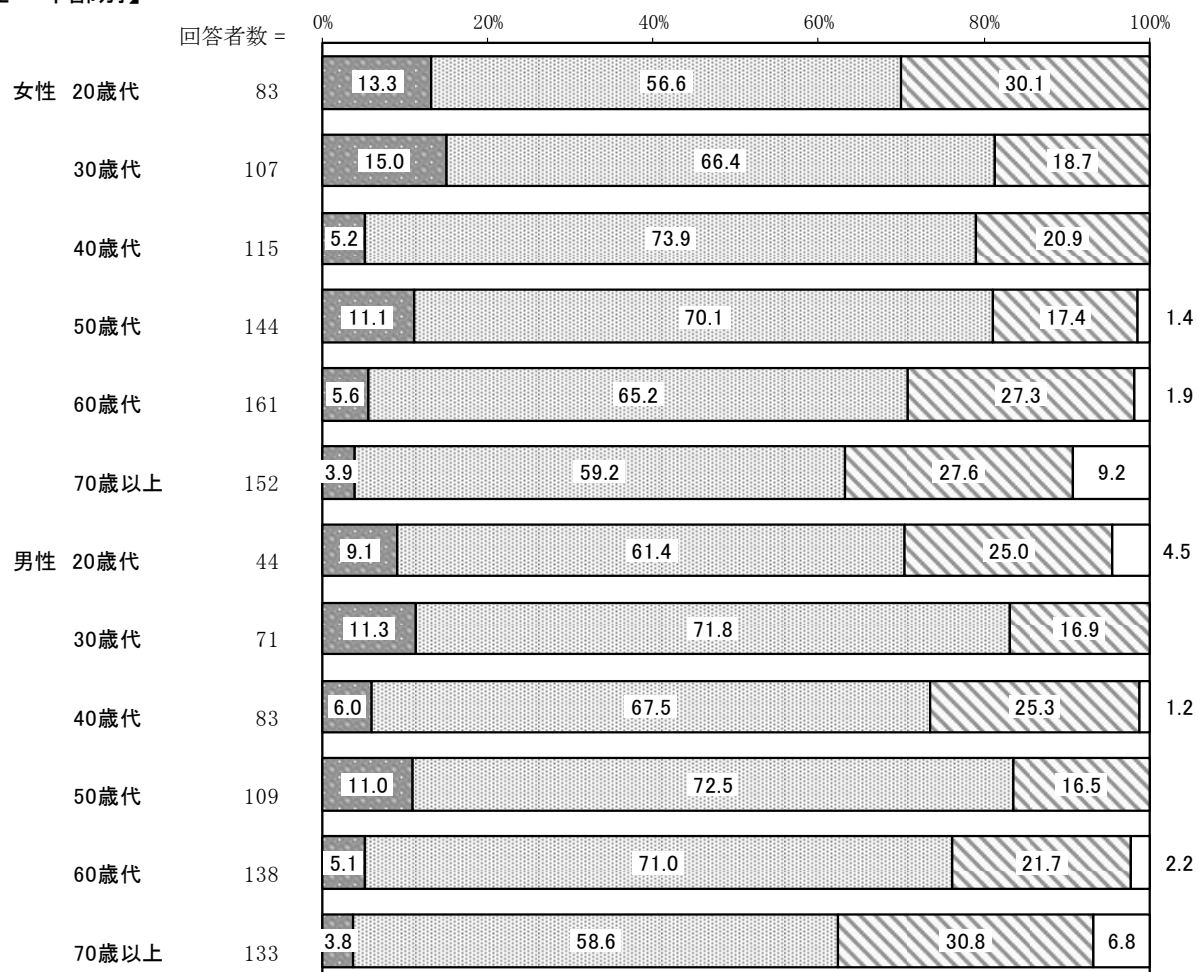
⑤配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律（DV防止法）



【性別】



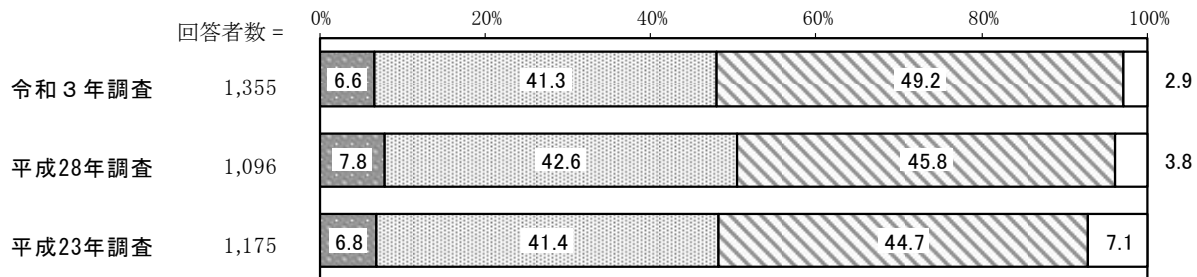
【性・年齢別】



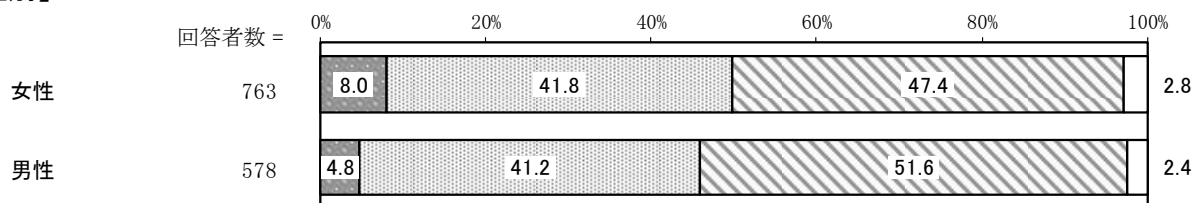
図表 60

⑥デートDV（恋人同士など結婚していない男女間での体、言葉、態度による暴力）

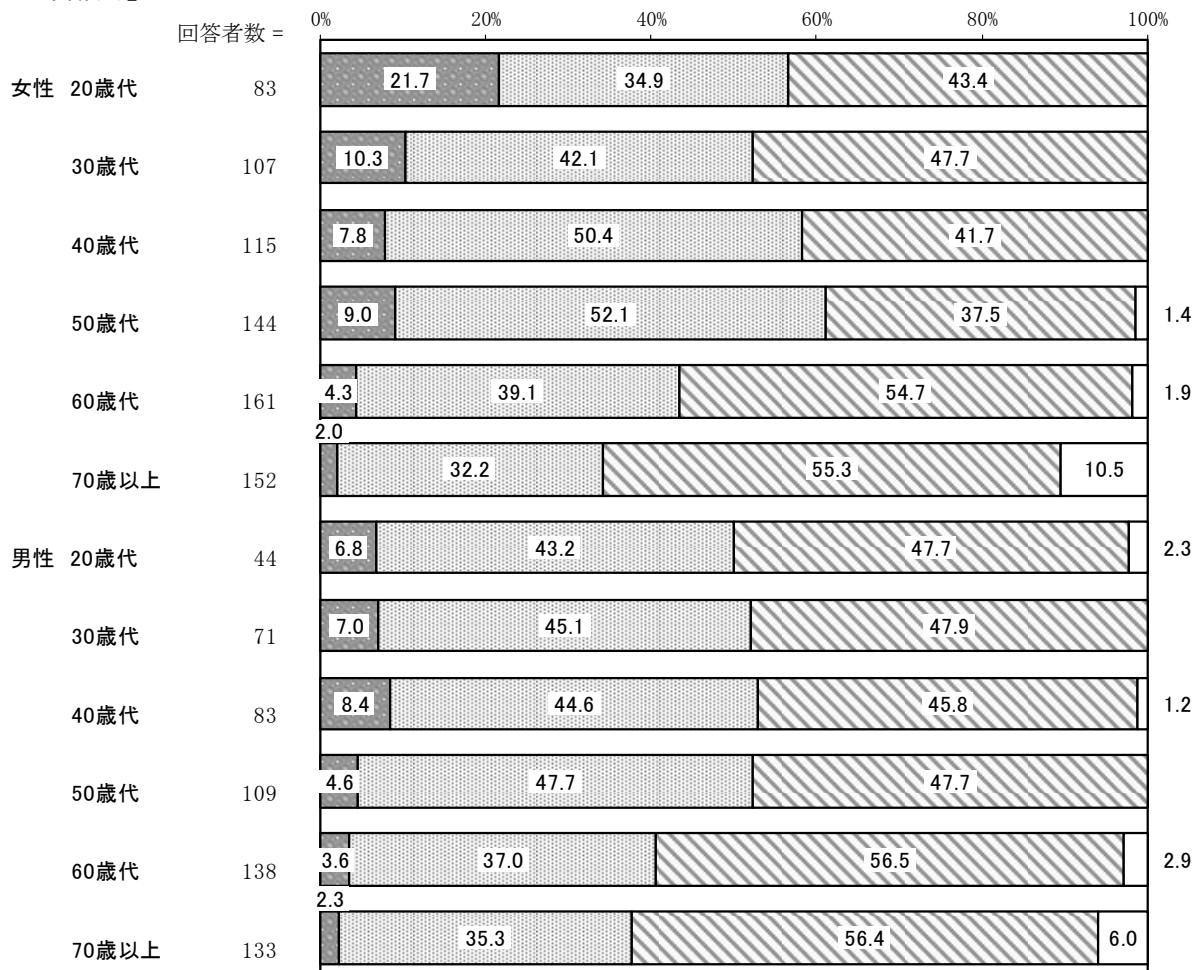
■ 内容まで知っている □ 見聞きしたことはある ▨ 知らない □ 無回答



【性別】

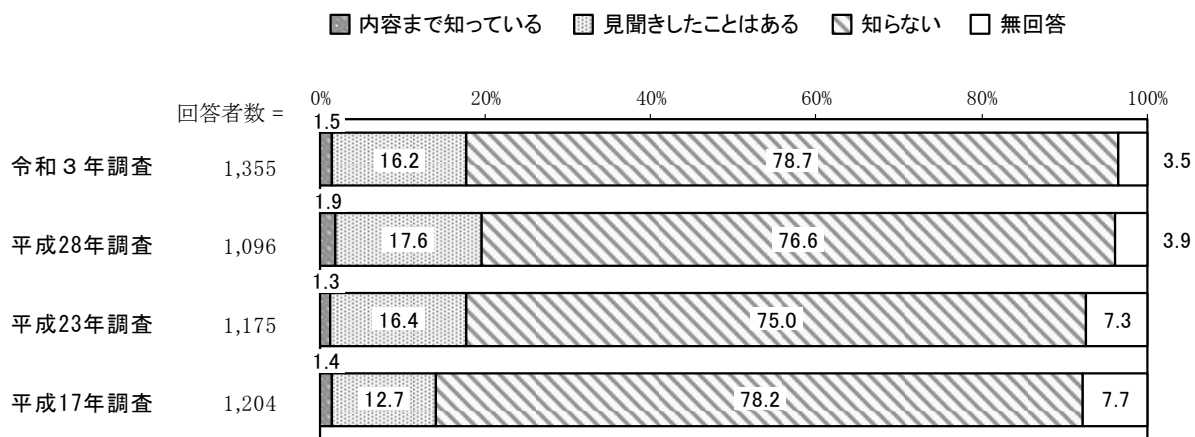


【性・年齢別】

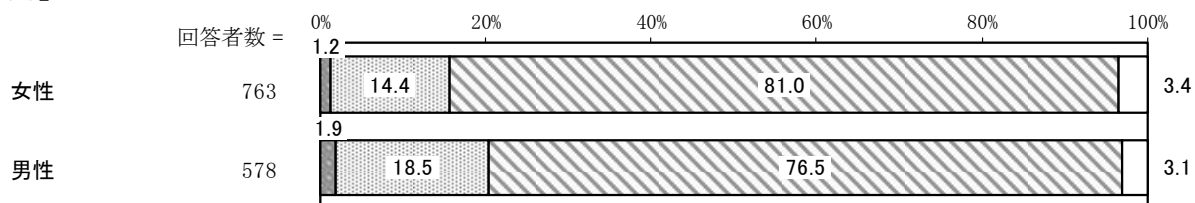


図表 61

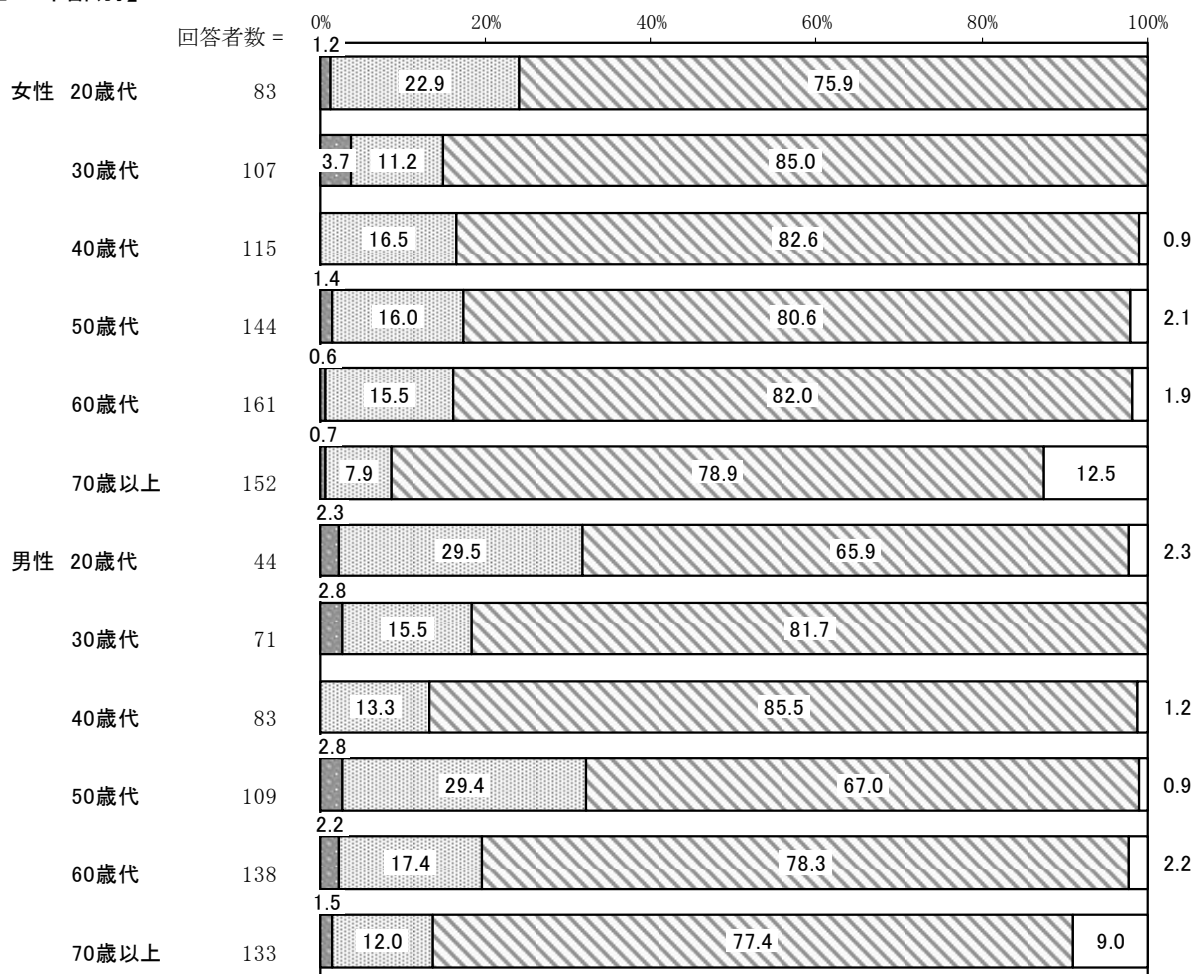
⑦ポジティブ・アクション（積極的改善措置）



【性別】



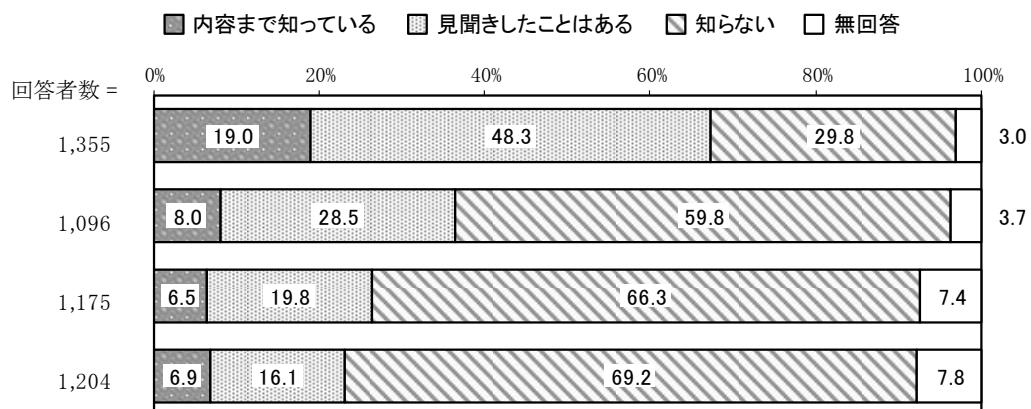
【性・年齢別】



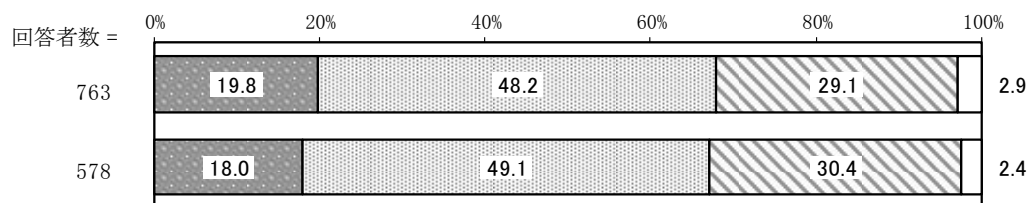


図表 62

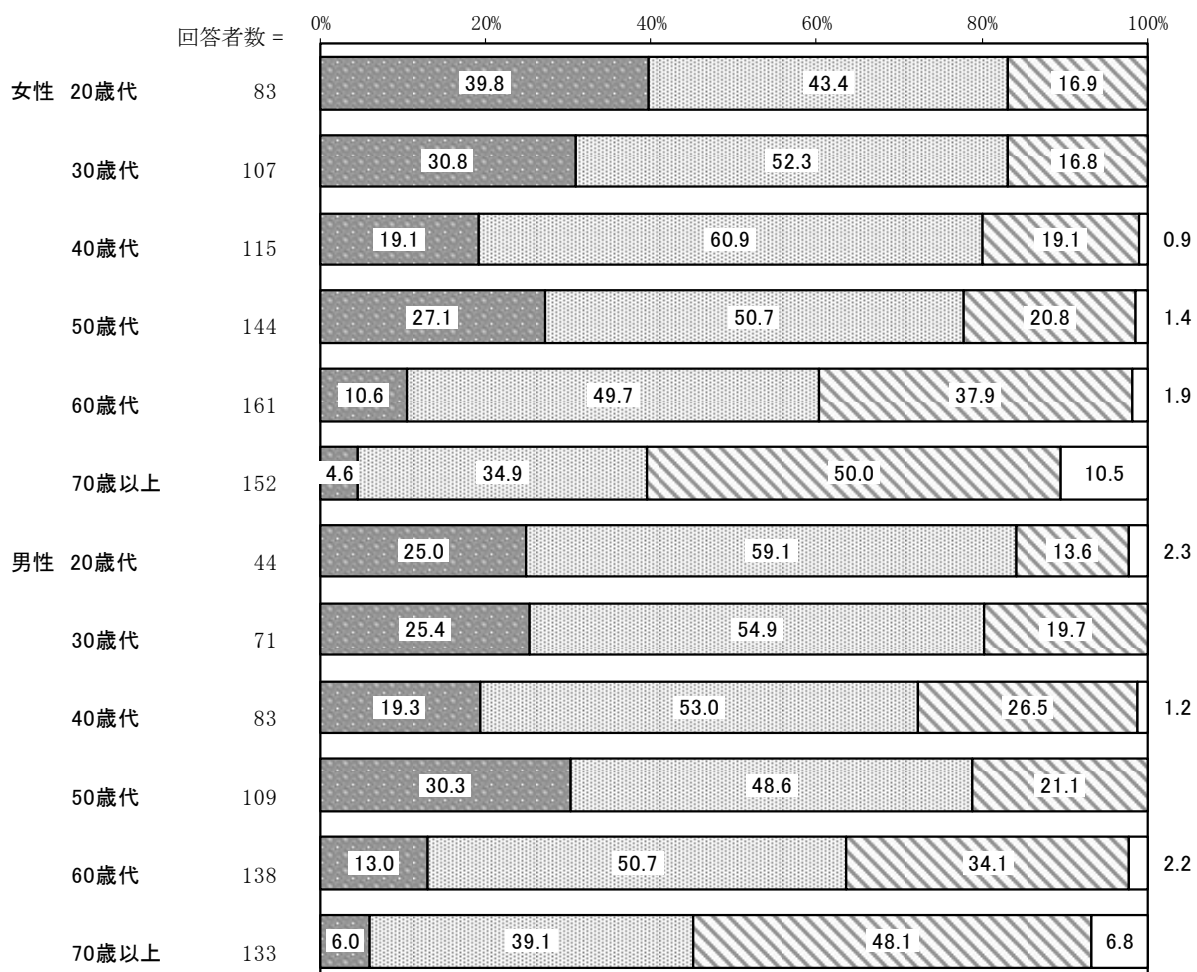
⑧ジェンダー（社会的・文化的につくられた性別）



【性別】

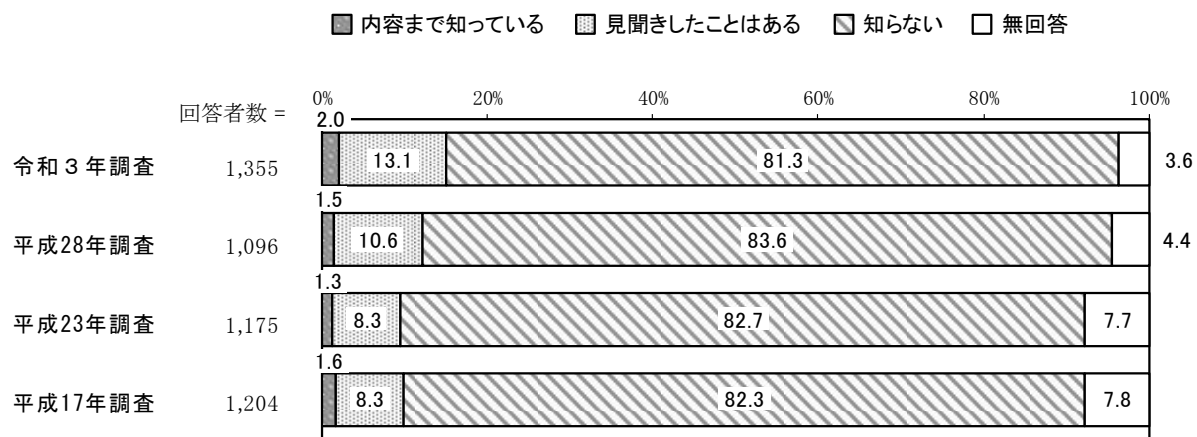


【性・年齢別】

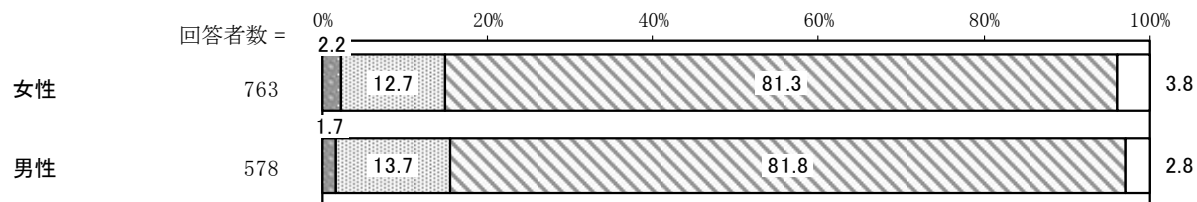


図表 63

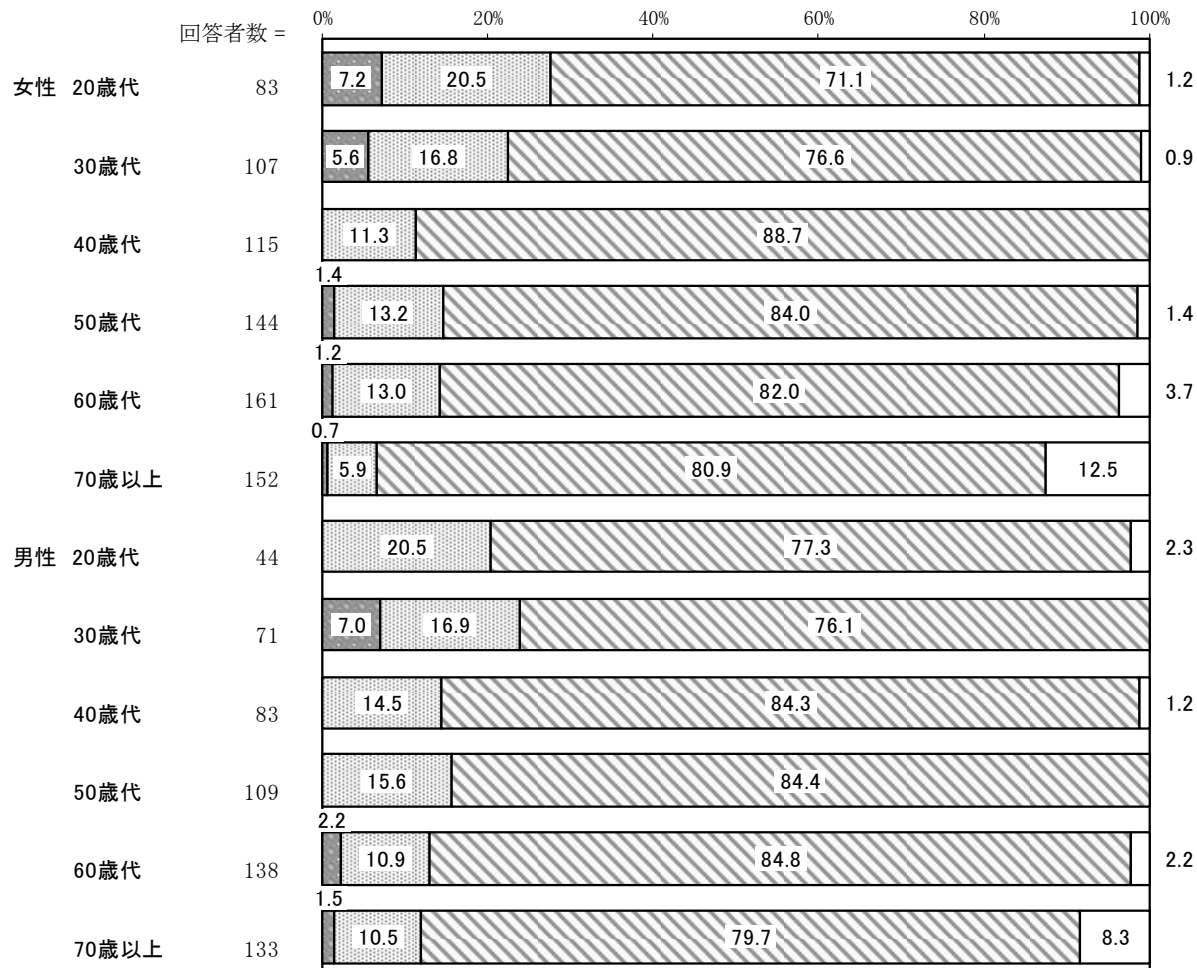
⑨リプロダクティブ・ヘルス／ライツ（性と生殖に関する健康／権利）



【性別】



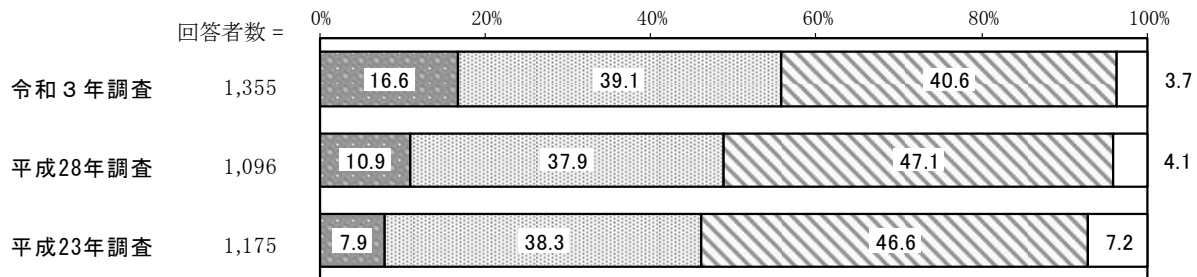
【性・年齢別】



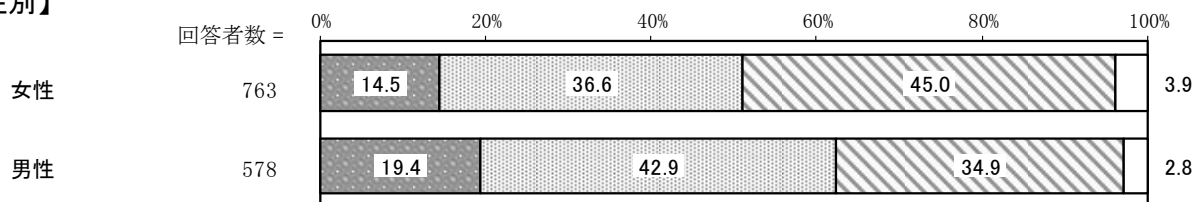
図表 64

⑩ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）

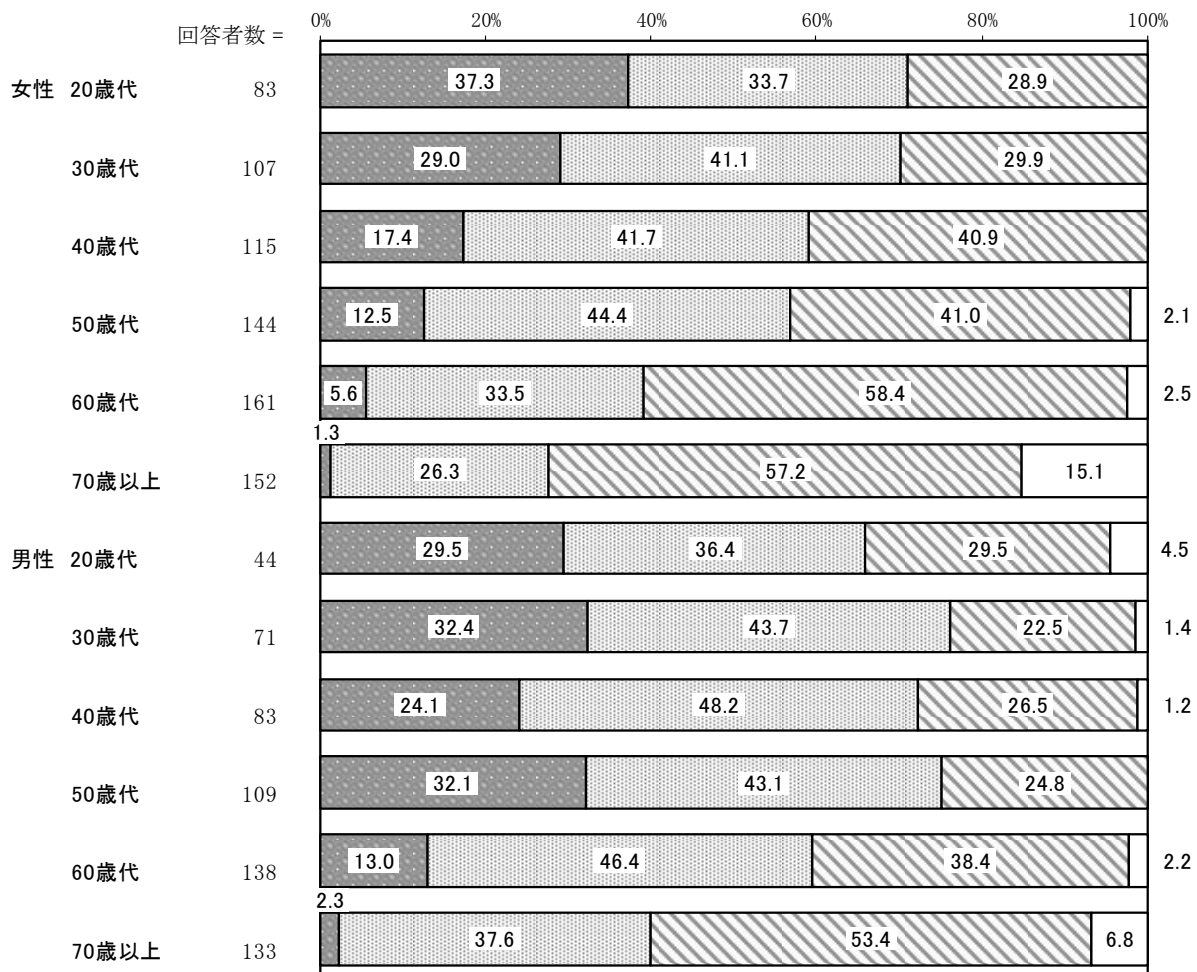
■ 内容まで知っている □ 見聞きしたことはある ▨ 知らない □ 無回答



【性別】

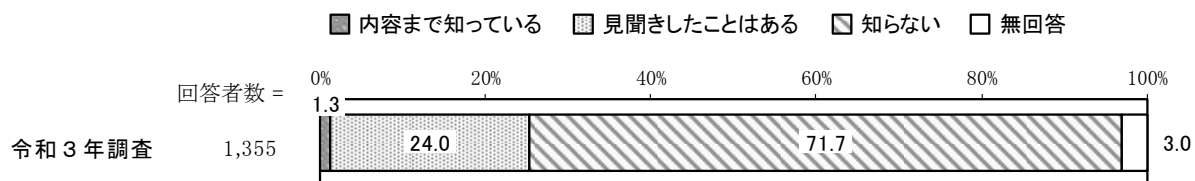


【性・年齢別】

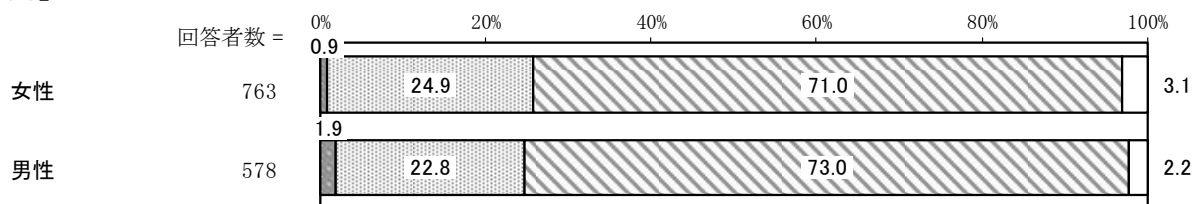


図表 65

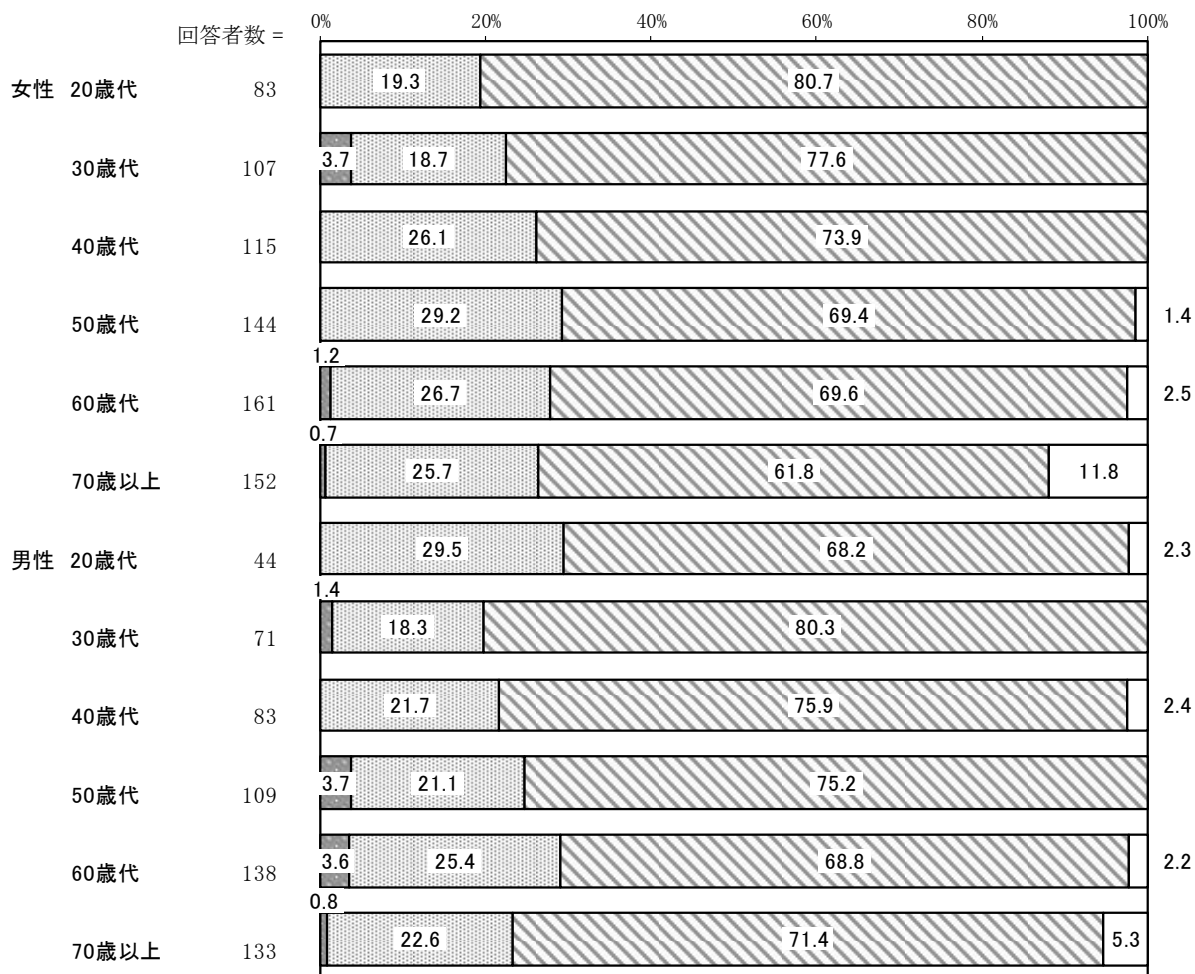
①姫路市男女共同参画推進条例 【新設】



【性別】

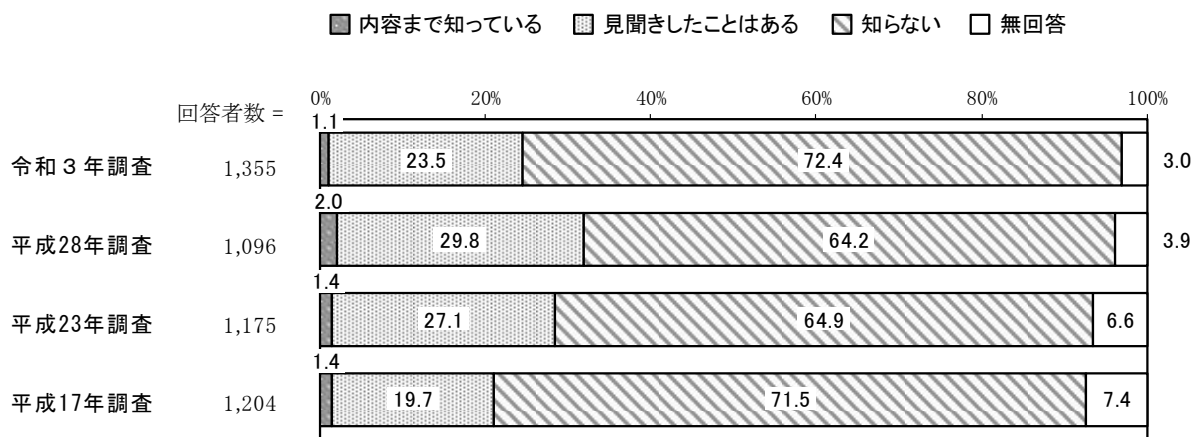


【性・年齢別】

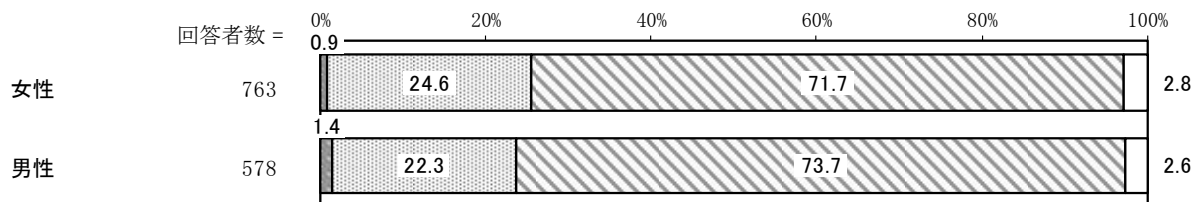


図表 66

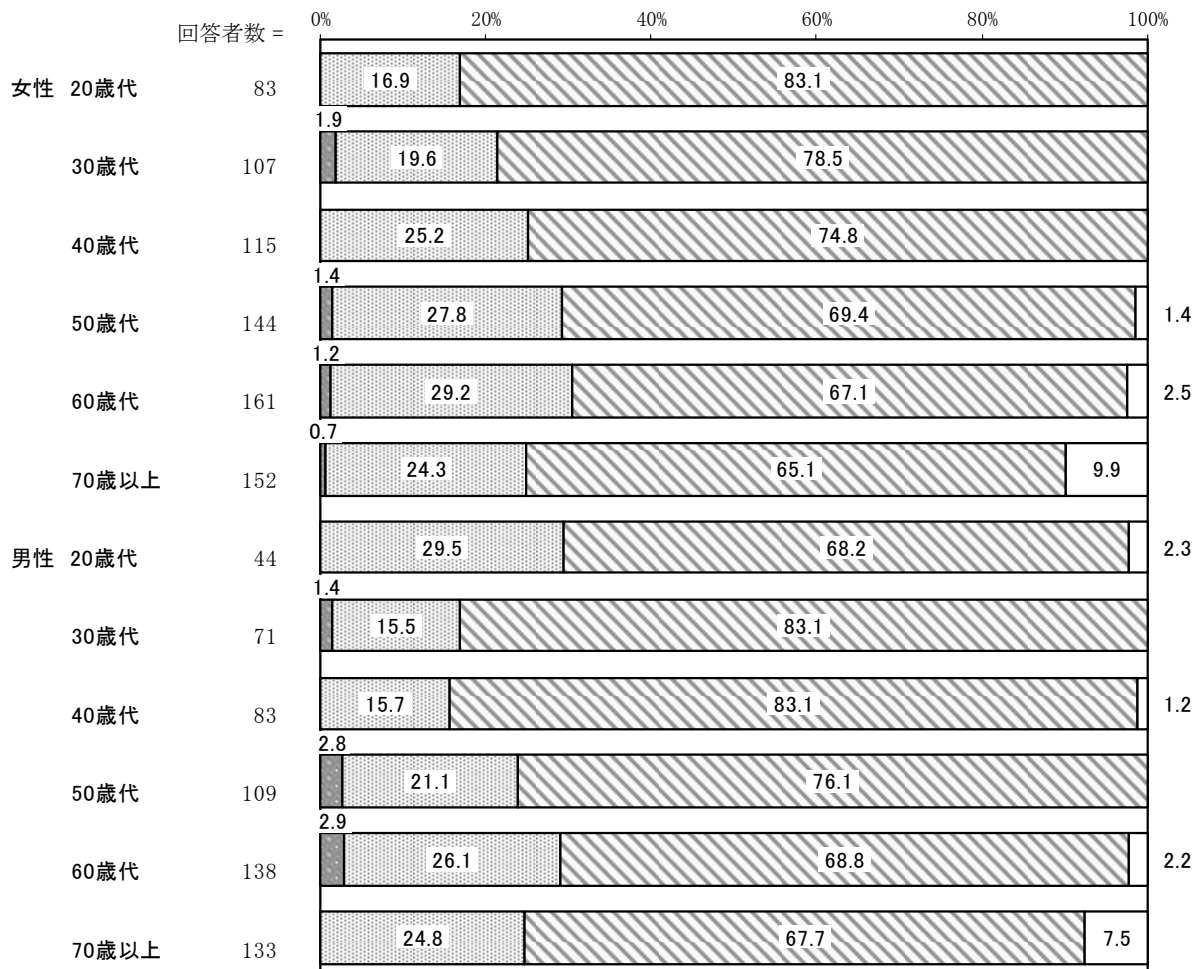
⑫姫路市男女共同参画プラン



【性別】

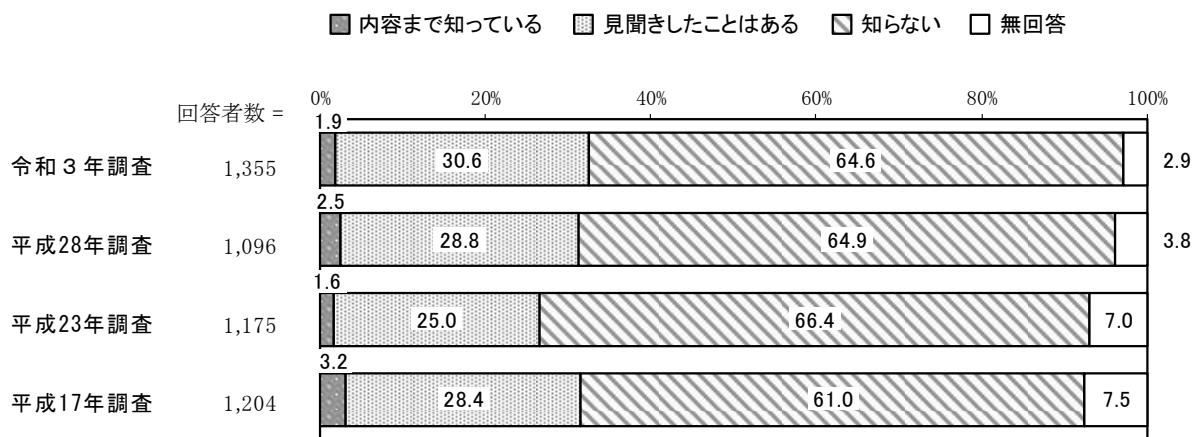


【性・年齢別】

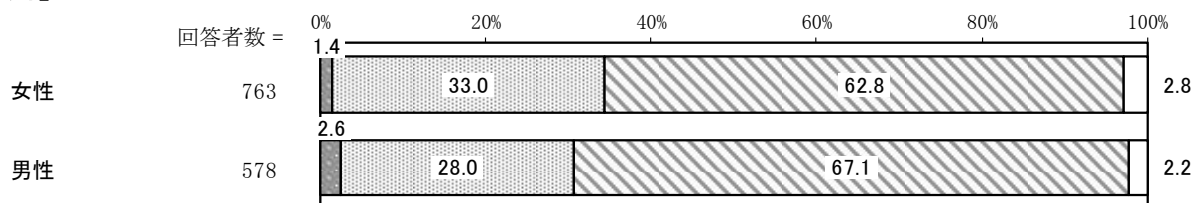


図表 67

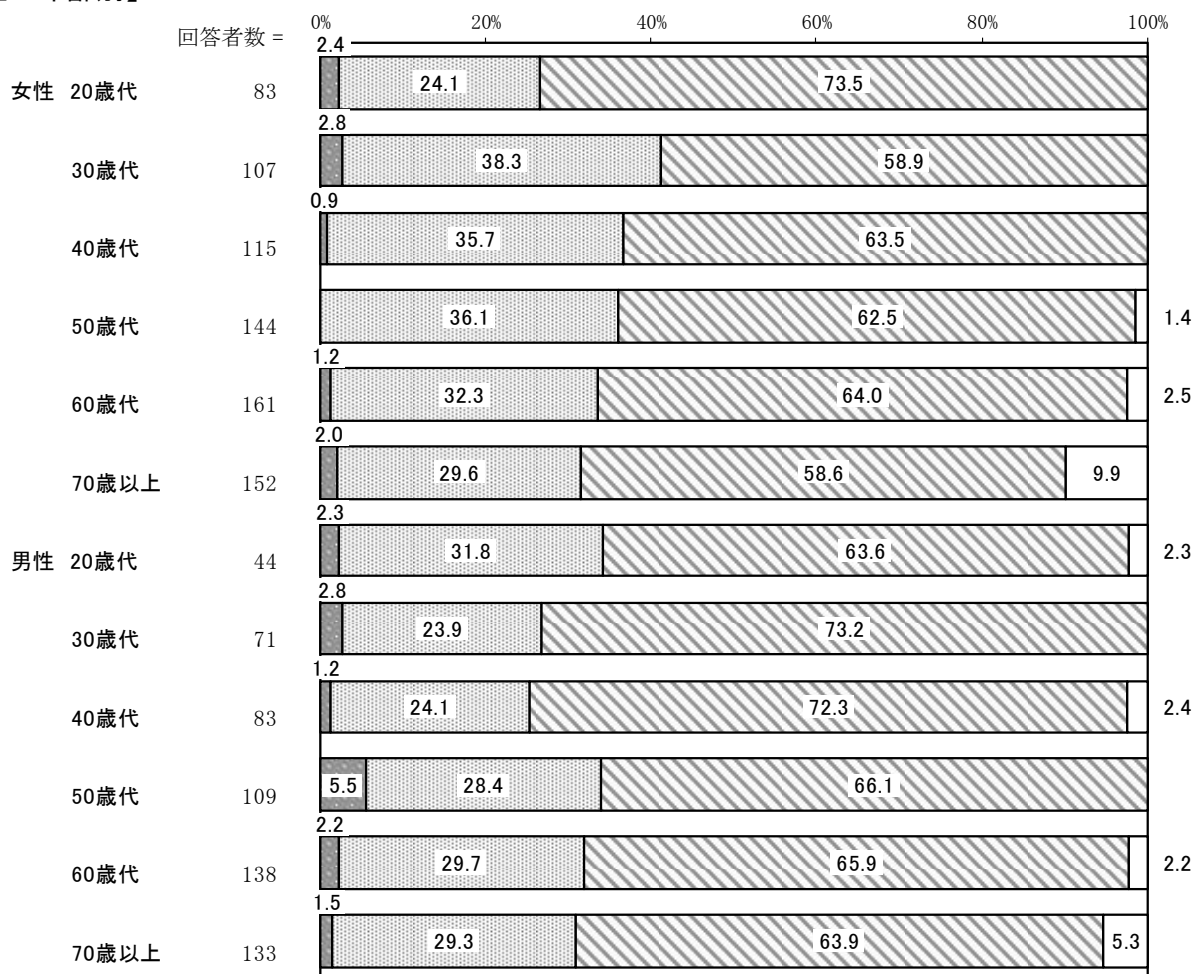
⑬配偶者暴力相談支援センター



【性別】



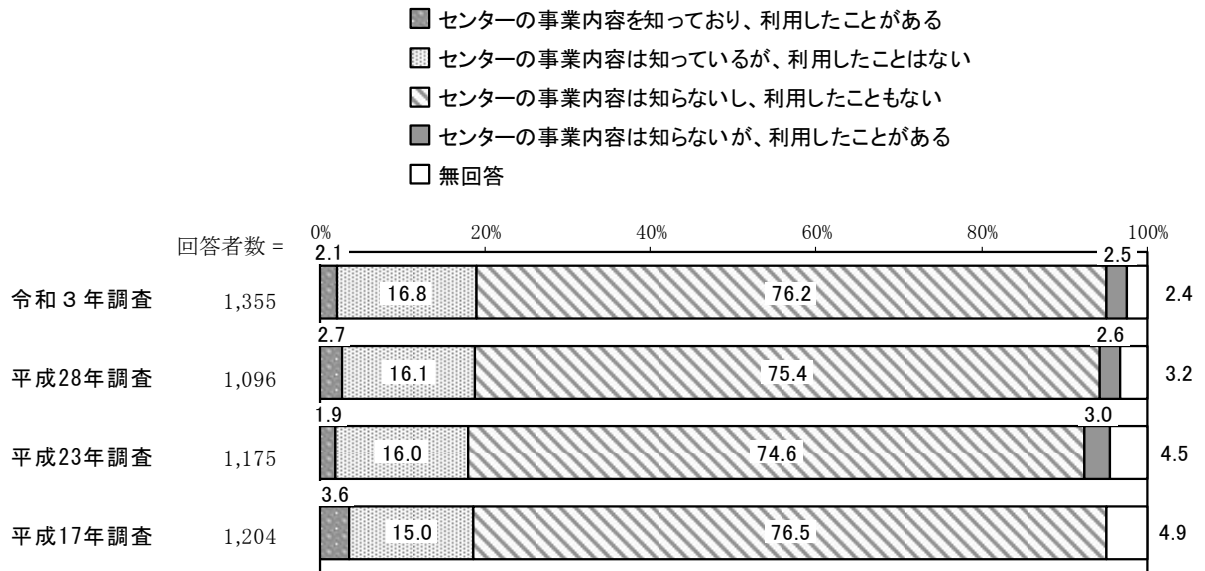
【性・年齢別】



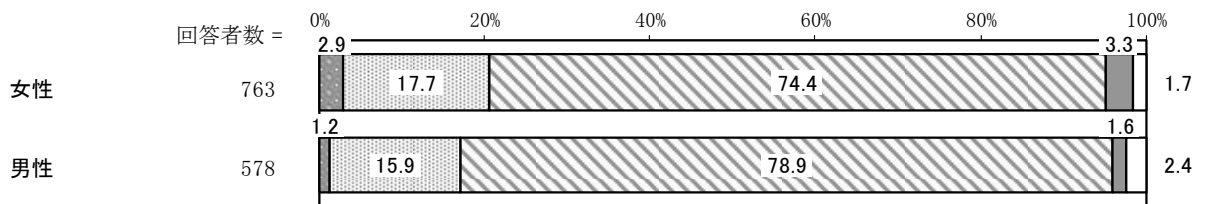
問 25 あなたは、姫路市男女共同参画推進センター“あいめっせ”をご存知ですか。また、利用したことがありますか。  
次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。

「センターの事業内容は知らないし、利用したこともない」の割合が76.2%と最も高く、次いで「センターの事業内容は知っているが、利用したことはない」の割合が16.8%となっています。  
平成28年調査と比較すると、大きな変化はみられません。

図表 68

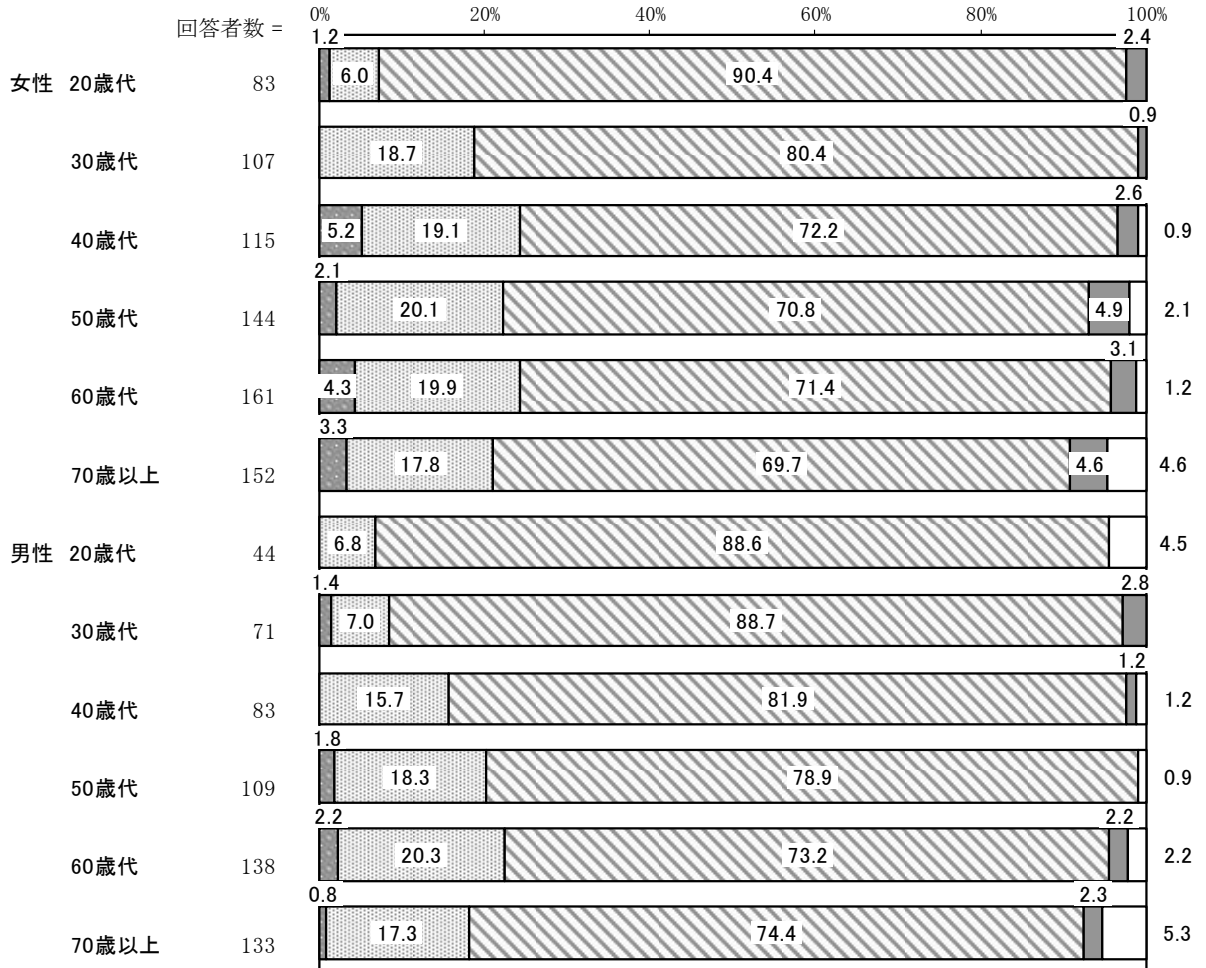


【性別】



【性・年齢別】

- センターの事業内容を知っており、利用したことがある
- ▨ センターの事業内容は知っているが、利用したことはない
- ▩ センターの事業内容は知らないし、利用したこともない
- センターの事業内容は知らないが、利用したことがある
- 無回答



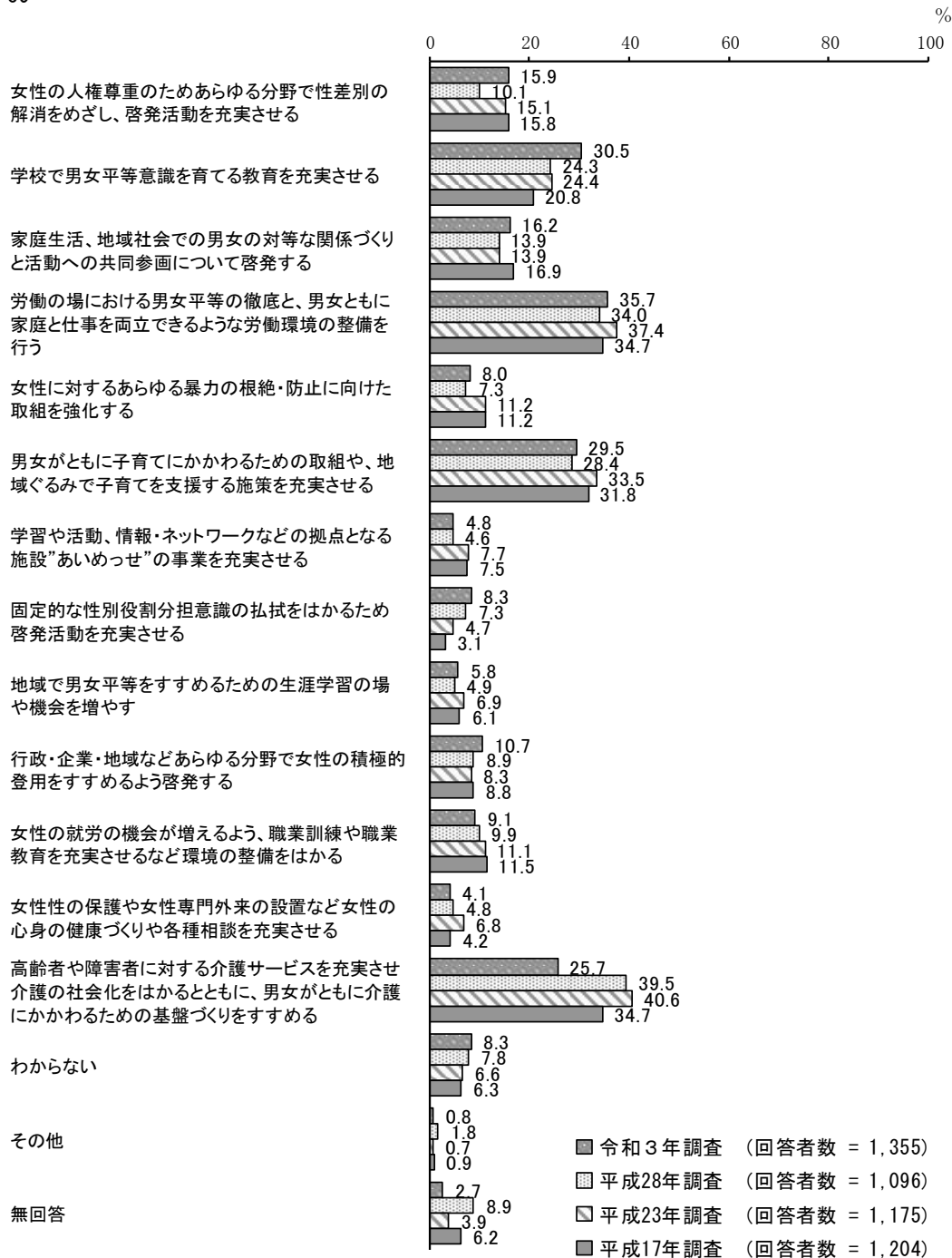


問 26 あなたは、男女共同参画社会を形成していくため、今後、市はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。  
次の中から3つまで（1つでもよい）選んで番号に○をつけてください。

「労働の場における男女平等の徹底と、男女ともに家庭と仕事を両立できるような労働環境の整備を行う」の割合が 35.7%と最も高く、次いで「学校で男女平等意識を育てる教育を充実させる」の割合が 30.5%、「男女がともに子育てにかかわるための取組や、地域ぐるみで子育てを支援する施策を充実させる」の割合が 29.5%となっています。

平成 28 年調査と比較すると、「女性の人権尊重のためあらゆる分野で性差別の解消をめざし、啓発活動を充実させる」「学校で男女平等意識を育てる教育を充実させる」の割合が増加しています。一方、「高齢者や障害者に対する介護サービスを充実させ介護の社会化をはかるとともに、男女がともに介護にかかわるための基盤づくりをすすめる」の割合が減少しています。

図表 69



【性別】

単位：%

区分	回答者数(件)	女性の人権尊重のためあらゆる分野で性差別の解消をめざし、啓発活動を充実させる	学校で男女平等意識を育てる教育を充実させる	家庭生活、地域社会での男女の対等な関係づくりと活動への共同参加について啓発する	労働の場における男女平等の徹底と、男女ともに家庭と仕事を両立できるような労働環境の整備を行う	女性に対するあらゆる暴力の根絶・防止に向けた取組を強化する	男女がともに子育てにかかわるための取組や、地域ぐるみで子育てを支援する施策を充実させる	学習や活動、情報・ネットワークなどの拠点となる施設“あいめっせ”の事業を充実させる	固定的な性別役割分担意識の払拭をはかるため啓発活動を充実させる
女性	763	13.9	29.4	14.2	39.8	7.9	30.4	4.2	7.9
男性	578	18.3	32.0	19.2	31.0	8.3	28.5	5.7	8.8

区分	地域で男女平等をすすめるための生涯学習の場や機会を増やす	行政・企業・地域などあらゆる分野で女性の積極的登用をすすめるよう啓発する	女性の就労の機会が増えるよう、職業訓練や職業教育を充実させるなど環境の整備をはかる	女性の性の健康づくりや各種相談を充実させる	高齢者や障害者に対する介護サービスを充実させ介護の社会化をはかるとともに、男女がともに介護にかかわるための基盤づくりをすすめる	わからない	その他	無回答
女性	5.1	8.9	10.2	4.8	31.3	7.9	0.5	2.0
男性	6.9	13.0	7.6	3.1	18.9	8.7	1.2	2.9

## 8 自由回答意見一覧

男女共同参画に関してご意見がありましたら、ご自由にご記入ください。

男女共同参画に関する市政への意見・要望について、143人から回答を得られました。以下、基本的に記述いただいたとおり紹介します。

	意見	性別	年代
1	あまりそういう事を考えていなかったので大変でした。改めて知りました。ありがとうございます。	男性	20歳代
2	かんじがわからないところ所がありますのでフリガナをふってほしいです	女性	20歳代
3	ぼくはしょうがいしゃ。	男性	20歳代
4	解答者には知的障害があります。	女性	20歳代
5	私は学生なので解答してない（できない）ところもあります	女性	20歳代
6	出産後も復職できる企業、男性でも育休が取りやすい環境を作り、広げていく必要があると思います。妊娠、出産の給付助成金をもっと増やすべきとも思います。頑張ってください。	女性	20歳代
7	女性の人権に対して、考え、行動している様子はよく分かる。ただ、求めるいるのは平等であって、女性を優遇してほしい訳じゃない。声をあげられない男性もいる。みんな同じように意見を出し合い、助け合い、格差や差別のない社会で未来をになう子供たちを育てたい。年配の方も若者も、性別年齢に左右されないよう情報を与えて行くべきだと感じる。	女性	20歳代
8	政治でも企業でも子育てや女性の就労に関して、有効なものを考えるのに、男性ばかりでは何も変わらないと思う。一定数女性の枠をもうけるか、もっと積極的に市民や従業員の意見を聞き、形だけきくのではなく、取り入れていくことが大切である。子育てしながら働けるよう、雇用形態の多様化、保育サービスの充実化、金銭面の支援などがのぞまれているとおもう。	女性	20歳代
9	体のつくりの違いもあるので、それが関係する面での男女平等は難しいと思う。最近 SNS で女性パティシエが少ない理由が話題になっていたが、あえてそう言った差を埋める必要はないようにも思う。女性が助けを求めた際に手を貸せる環境、人々の意識が当たり前になるようになってほしいと思いました。	男性	20歳代

	意見	性別	年代
10	男女の役割がステレオタイプ化されてしまっているため、諸問題が生じると思う。そのため、教育や情報発信など、認識を改めたり、理解を深めたりできる手段を使うことが好ましいのではないかと考えた。「男性が～」 「女性が～」と言っている間は、ハリボテの男女共同参画社会であると思う。だから、行政が主体となって活動しようという姿勢は素晴らしいと思う。社会の人がそれぞれの意識を形成する、あるいは改革するために頑張ってください。	女性	20 歳代
11	男女平等の社会を目指して取り組むのは、本当に素晴らしいことだと思います。ただ、最近 TV やスマホのメディアを通して、特に問題とは思えない女性差別の事例や男性の何気ない一言に対する女性の方々の過剰な反応が少し気になります。今の情報社会で、自分の意見等を自由に発信できるようになったり、前よりもたくさん色々なマイナスなニュースを目にしている中で、仕方がないことだとは思いますが…。私的には、男女平等を広めていくのもとても大切なことだと思いますが、たくさんの情報に対する受け取り方や考え方についても同時に啓発活動などを行っていくことが、男女平等を含め、社会全体として大切になってくるのではないかと思います。	男性	20 歳代
12	男性は自分のことだけしていればいい。気が向いた時に家事をちょっとするだけ。家事、育児の大変さを全く理解していない。子どもを預けられる所が少ない。遊び場も少ない。待機児童も減る気配がない。まだまだ改善すべきものはたくさんある。政治家が給料を減らして他にお金をまわすぐらいのことをすればいいと思う。	女性	20 歳代
13	男性女性にしかできない事を明確化することが大切。その上でどちらにもできることは、一方にだけさせるのではなく、協力して男女が対等になる様にしていかなければならないと思う。	男性	20 歳代
14	保育、福祉施設分野で働く人の待遇改善をお願いします。保育士は長時間勤務（一般の会社で働く人が預けることができる時間）の割に、給料が少ないです。	女性	20 歳代
15	「女性が差別されている」という前提での質問が多く、そうは思っていない人にとっては回答しづらかったです。また、質問の数が多いです。1/4～1/3 程度にしてほしいです。	男性	30 歳代
16	とても繊細な問題だと思うので、極論になりすぎないように注意していただきたいです。女性問題ばかり見て、女尊男卑な意見を聞くことがままあります。電車で女性専用車がありますが、なぜ男性専用車はないのでしょうか？DV も女性が暴力をふるうというのも聞きます。性問題でなやむ男女どちらのことも目を向けれたらよいと思います	女性	30 歳代

意見		性別	年代
17	何でもかんでも「平等」という枠におさめるのではなく、その性の特性をいかした「平等」を目指すべき。全てを平均的にするのは逆におかしい。よりよい社会になるよう協力していくべき。	女性	30歳代
18	家事はできる方がやればよいと思うが、現実、男性の方が稼げるので、女性が家事を請け負うのは必然になるし、体力的にも家事を女性が行うのは、合理的だと思う。ワークライフバランスは重要だと思う。女性が不利と思うのは、子供をひきとったシングルマザーの状態。父親が養育費、育児に参加している人が少なく、父親はそのまま再婚している人が多いとか。いつまでも罰則がゆるいのは、男性の欲求が優先されて、あえてなあなあにさせているのではと思わずにはいられない。仕事も大変で(子供の預け先がない、休むのに周りの理解がいる、稼げない)、そういう人を見ているから、結婚、子供を産むのが怖いと思う一因になっていると思う。	女性	30歳代
19	確かに男女平等な社会には程遠い気もするし、社会進出が伸びなやんでいる部分もあると思うが実際男性の体力でも必死になるような仕事をしている立場で言えば、そこに女性は入れない部分もあるし、女性の方が優先されている部分もある。全く平等では無いかもしれないが、程良く分権出来ている様な気もします。ただ女性べつ視発言の様な政治家が居る事も事実であり淋しく思う。	男性	30歳代
20	勤め人、専業主婦主夫に関係なく、子育てしやすい環境づくり。子どもはすぐには増やせません。地域の未来、子どもの未来のために男女共に支え合い、住みやすい環境づくり。組織に一定数の女性の登用は必要ないと思う。男女に関わらず、有能な人が採用されればよい。	女性	30歳代
21	現在、男女平等をうたう人たちは、反対に女性優遇を求めている人が多い。レディースデーや女性専用車両など、同性から見てもどうかと思うものばかり。本当の意味で平等にしないと、結局男性は女性ばかり優遇されると、差別意識が捨てられないと思う。男女共同参画を目指すなら、フェミ団体は邪魔。一部の身勝手な女性の意見ばかり取り上げられて女性の総意とされるのは不愉快！	女性	30歳代
22	今回で2回目（このアンケートが送られてきた。）なので出来ればこれで終わりにしてほしいです。	女性	30歳代
23	若い人達への男女平等意識を育てる教育も大切だと思いますが、ご年配の方の意識を変えることも大切だと思います。	女性	30歳代

意見		性別	年代
24	出産は女性にしか出来ない大切な力です。生まれ持った能力の違いは悪い事ではないと思います。男性と女性が必ずしも同じ立場でとらえるより、それぞれを理解し、尊重することが大事だと思います。ポジティブな意見で違いというものを受けとめ、ささえあう世の中であるべきだと思います。	男性	30 歳代
25	女性は、家事、育児をどんなにがんばってもお金にならない。ほめられもしないので精神的に疲れます。社会からも孤立して辛く感じます。	女性	30 歳代
26	小学校の壁（小学校に入ると、保育園のように子供を預けることができないため、女性がフルタイムの仕事をやめて、家庭に入ること）で、一旦退職、もしくは、パートになる女性が多いです。子供が一人で留守番できる小学5年位までは、預けやすい学童の充実、内容の整備を、充実をしてほしいです。	男性	30 歳代
27	多くの方々が知らず認知されていないと思われます。例えば学校教育の場で若年の内から知っておく必要があるかと考えます。分かりやすくシンプルでもかまわないので、理解する事が大事である。	男性	30 歳代
28	大変遅くなり申し訳ありません。お役に立てればと思います。育休からの復帰が難しいのはもちろん、妊娠中の病休も取得しづらいです。産休に入る前のつわり時期にもサポートがあると助かります。（通院時のタクシーやバス等の支援、栄養支援、職場での理解を得るための市からの助言等）と妻が申しております。	男性	30 歳代
29	男女という性別だけでなくすべて人間であることの大切さ、偏見をなくすことが大切です。誰もが生きやすい社会であることを願います。	女性	30 歳代
30	男女共同参画における KPI は、これが達成されると何がいいのでしょうか。少子化を助長し、日本を衰退させる可能性はないのか。	男性	30 歳代
31	男女共同参画社会を実現するには、次世代の子供たちにしっかり学校で教育する必要があると思います。そしてそれがとても効果的になると思います。すぐには改善されないかもしれませんが教育はとても大事です。	女性	30 歳代
32	男女平等な社会は大切だと思うが、子供を産むことは女性しかできないし、母乳も母親だけが出来ることだから、女性が育休はとるべきだと思います。その休んでいる間や子育てをしている期間、主人だけの給料と子育て支援の給付金をもっと充実すれば、女性も楽しく子育てできるのに…と思います。働かなくては生きていけないので、働かざるを得ない女性も多くいると思う。	女性	30 歳代

	意見	性別	年代
33	男性は育休が取りにくい上、残業がわりと当たり前。女性は仕事を続けても、家庭と両立させるためには時短などを利用して、常に時間に追われて、仕事家事をしなければならず、納得がいくところまで仕事もできない。同僚との差もついてしまう。男性の家庭生活への参加。育児時短の取得がどんどん推進される社会を望みます。	女性	30 歳代
34	妊娠、出産を経て育休中です。しかし、経済的な支援がもう少しあれば良いのにな…と思うことがあります。女性に社会進出をしてほしい、でも子供もたくさん産んでほしい。なのに、経済の保障は変わらない。では子育てもできません。保育園の拡充など。女性は死にかけながら出産し、そのボロボロの体で毎日子育てをしています。現在はコロナ禍で、経済もカツカツの状態であるのに政府は経済をまわすことばかりを考えているように感じます。まずは見えないウイルスをどう断絶するかに力を入れて頂きたい。人が動けば広がっているのは分かっている事だと思います。もう少しよく考えて下さい！	女性	30 歳代
35	夫の仕事が忙しく、私ばかりが子育てと家事を担っている。近くに頼れる人がまったくいないのでつらいと感じる時がある。夫の育休がとれる環境をつくってほしいが、育休をとると会社の席がなくなるという。法としてとることを義務にしてほしい。	女性	30 歳代
36	問5の質問が意味分らない。理想なのか現実なのか…どこに書くの？	女性	30 歳代
37	優良企業として名高い会社でも男女差別(特に妊娠した時の産休に難色を示したり、妊娠自体を嫌がる)がある事を知って欲しい。結果辞めざるをえなくなっても会社は何もなかったと言うので、女性が経済的にも苦しい思いをしている事が多々ある。退職理由などハローワークで聞かれても本音を言えない。もっと嫌がらせされた声に耳を傾ける環境になってほしい。子供を生みたくても安心して生める世の中になってほしい。	女性	30 歳代
38	“あいめっせ“を利用して頂いたことはありますが、車に乗らない人には不便に感じました。せめて駅前にあってくれたら良いのと思います。(乗り換えなしで行けるところに欲しい) 最寄りのバス停や駅から乗り換えなしで行けたらもっと利用しやすくなると思う。各支所などに出張相談日などを設けてくれるともっと良いと思う。行きやすい所にある事が何をするにしても大事だと思います。	女性	40 歳代
39	あて名本人がアンケートに答えていると、配偶者の意見の吸い上げが出来ないように思う。	男性	40 歳代
40	育児休暇よりも再就職しやすい社会を目指した方が現実的だし、女性の希望も多い。子供会の会長には自治会の反対でいまだ女性はなれません。祭りが関係するから、女ではだめらしく子供会の継続が難しいです。	女性	40 歳代

	意見	性別	年代
41	個人や一企業の努力だけでは改善できない点を行政の方々に支援していただきたいです。例えば、フルタイムで働いているため、夕食はよくスーパーでお惣菜を購入しますが、プラ容器に貼ってある紙シールをはがすのに、時間と手間がかかります。小さなことかも知れませんがプラ容器のパックにはプラ素材のシールのみ貼れる、といった条例を作れば、日々の家事にかかる無駄な時間や労力を軽減するだけでなく、環境面でも分別しやすくなりメリットがあるのではないのでしょうか。	女性	40 歳代
42	子供に手がかからなく年代（40代ぐらい～）で、今まで専業主婦だった人が、再就職しやすいようにいろんな資格を取得するための講座を市の男女共同参画でやってくれたらいいなと思います。例えば保育士や医療事務や調剤事務などの資格の講座など比較的短期間で取得できそうで、再就職につながりやすそうな資格の講座を民間の通信教育より安い受講料で受講できればいいなと思います。	女性	40 歳代
43	社会（世界）が複雑になり、急速に変化しているなか、日本という国自体が適応できていないのだと思います。長期的に観て日本社会をどうしたいのかを考えてからでないと、男女が平等になるのは難しいのではないのでしょうか。	女性	40 歳代
44	社会的に男女平等と言ってるが、実際はパートでも働きづらい時がたくさんあります。子供の体調不良、警報発令時など急に休まなくてはいけないとき、本当に気を使います。同僚は理解者が多いですが、独身の正社員や準社員はそうではありません。企業側がかつつかつの人数で採用しているから、急な休みに現場は混乱するのだと思ってます。法律で人員確保の設定をしてもらいたいです。子育て中は子供を最優先しながら職に就ける環境が望ましいです。それから世の中には家で子供をみたいが経済的なことでやむを得ず働いている方もたくさんおられます。そういう方のために主婦（夫）が働かなくても配偶者の所得で十分やっていけるぐらいの給料保証があれば、子供の手が離れるまで子育てに関われ、家にいる人が増え、待機児童が減少するのではないかと思うことがあります。	女性	40 歳代
45	女性が会社を立ち上げて社長になればいいと思う。女の子（子供）女性が子供の時から体をきたえ武道を習えばいいと思う。男性に負けたくなければ会社を経営すればいいと思う。女性だけの党を作ればいいと思う。	男性	40 歳代



意見		性別	年代
46	女性の活躍の為には職場や地域で平等に扱われるべきでは？という視点にたった設問（もしくはそれを促すような選択肢）が多いように見えるが、現在は働く女性も多く、男女ともに柔軟な働き方ができるようなシステムがなければ、双方、共倒れになってしまうように思う。あいめっせのサービスや支援はどこか余裕のある人たちへのサービスに感じられることが多く、もう少し社会や企業の実情を変える働きかけを期待したい。	女性	40 歳代
47	男ばかり女が！というのではなく、性が違うことをお互いが理解し尊重する事が大事だと思う。女性ばかり差別を受けてることに目を向けすぎるのも違うと思う。時には女性である事を利用して…男だってしいたげられてる。だから、お互いの違いを理解し感謝し、尊重しないとだめだと思います。そこをふまえないといくら共同参画やと言っても言葉だけ理想だけになってしまうと思う。アダムとイヴの時代からの永遠の課題ですね～ご苦労様です。	男性	40 歳代
48	男女に関わらず皆違って当たり前。すべての人を「人」として見なすこと。	男性	40 歳代
49	男女共同参画という言葉は初めて聞きました。300名の中に偶然でもアンケートに参加できてうれしく思います。私は神戸から姫路に嫁に来た部類ですが、このお嫁さんという言い方“嫁に行く”“嫁にもらう”にすごく違和感があります。男女平等で同じ教育、同じかそれ以上にお金をかけられ、育て上げた娘を、他人に嫁に出す？＝あげる？嫁側の親は男側の親にくらべて立場が低く見られているようで、何故、女と男側の親は平等ではないのか？女性だって家庭で働いているのに男に食べさせてもらっているとか言われて、おかしいと思います。女性を出すとかもらうとか、人身売買じゃあるまいし(お金なんてもらっていないし)。結婚も同等でありたいと思う。	女性	40 歳代
50	男性上司が女性職員のパワハラの事もとりあげてほしいと思います。	女性	40 歳代
51	地域行事など昔からの古い伝統がある街なので年間のイベントはほぼ女性が中心となして参加されていると思います。他の県では男性の方も半分くらい参加されていて和やかな雰囲気ですが、姫路市は堅いイメージです。	男性	40 歳代
52	調査票の記入をさせて頂きました。よろしくお願ひ致します。	女性	40 歳代

意見		性別	年代
53	平等という点を推進することを否定することはありませんが、それだけ前に出すぎている感がこの調査では少なからず感じました。男性の特性、女性の特性を本当に活かせる社会にするほうが、より発展につながると思います。過酷な肉体労働は男が頑張ればいいと思います。ただ、女性が進出した分野がまだまだあることも事実ですし、その改善は必要だと思います。また一方で女性がその特性を活かせるステージもあります。もっともっと多角的に見ることが必要で、そういった調査であってほしかったと思います。	男性	40 歳代
54	DV 被害者本人を採用する等、実体験者で仕事を進めてゆくべきかと思う。イーグレの上の方の奥まった場所で、細々と活動してもほとんどの市民には何ら伝わっていないことをまず、理解する必要があるのでは？	女性	50 歳代
55	アンケート内容がむずかしく、どうこたえてよいのかわかりにくい。	女性	50 歳代
56	オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員長森喜朗氏のような気持ちが根底にある男性がいる以上、男女共同参画といっても、難しいところがあると思います。	女性	50 歳代
57	このような企画を通して、少しずつでも改善されることが望ましい限りです。	女性	50 歳代
58	パートやアルバイトの女性が出産後同じ職場に戻れないふんいきがある	女性	50 歳代
59	むずかしいですが、女性の進出しやすいカンキョーづくりより、女性が積極的に出る。能力があるものは、ドンドン上に上げる。	男性	50 歳代
60	メディアが使っている図表がたいてい議員社長＝男性イラスト、地域家庭＝女性イラストのようになっている。コマーシャルでも男性が座っていて女性が給仕しているとか、家庭用品を使っているのは女性というのが多すぎる。メディアの啓発もしてほしい。	女性	50 歳代
61	何もかも男女差別をなくすことではなく、身体的特徴等を理解し、お互いを尊重し合う「心」を持てるようにしていくことが大切だと思う。	女性	50 歳代
62	活動内容を一般市民が知る機会を増やす。広報誌は読まれないことが多いとか…。	男性	50 歳代
63	基本的に今までと同じで良い。積極的に参加したい女性はどんどん参加していけば良い。参加したい女性をムリには参加させないことを広めていけば良い	男性	50 歳代
64	高齢者有識者の意識改革	男性	50 歳代

意見		性別	年代
65	今の50代の男性がいなくなると、いくら表面上、男女平等をうたってもムリです。固定概念は消えません。国会議員を見ていればわかる事です。高級クラブやキャバクラに入りびたっているのですから。お互いの欠点をおぎなう事ならできるかもしれませんが、すべて平等といっても力も体力もちがうし、子供を産むという時点で、大きなマイナスを負うのはどうしようもないですから。以前、女は、子供を産む道具だと言っていた議員がいましたね。あれは、霞ヶ関では共有されていた意見だと思います。発言には陳謝しても本音だと思います。男女平等だと口先で言っている、男性(特に年配で発言力のある人)は、本心では女性蔑視しているのは明らかです。	女性	50歳代
66	今の時代は甘すぎると感じました。古き日本の伝統が無くなり、さみしいです。だから今の子供はとってしまいます。何の為のアンケートと思いました。	女性	50歳代
67	私は50代ですが自分自身の考えで、今まで生活してきた環境の中で、男女平等意識を持っていませんし、固定観念をなかなか変えれず違う見方ができないでいます。時代は変化してきているので、幼い頃から男女平等教育を受ける事が大切だと考えます。	女性	50歳代
68	私は男女が完全に平等にするのはムリだと思っています。やはり体力的な面や身体的な面で、男性に向いている仕事があります。ただ、それでも、挑戦したい人に対し応援する場をあたえてあげるにはどうすれば良いかを考えていくべきだと思います。何でも平等にすべきというのは違うのでは…。	女性	50歳代
69	私自身は共働きで男女の区別なく、家のことも子供のことも夫にやってもらいました。そんな家庭で育った子供たちは、相手に対しても同レベルのことを求めてしまいがちです。協力して家庭生活を送るということは、当たり前のように育った環境が大きく影響していると思います。子供たちの教育(特に小学校以降)が重要だと思います。男性は女性の体力的に弱いところは助ける。お互いの得手不得手を当たり前のように補いあえる社会にしたいです。結果はどこで公表されるのでしょうか?どんな意見があったか知りたいです。	女性	50歳代

意見		性別	年代
70	<p>社会の中でも女性が活躍できる場に偏りを感じます。男性の女性に対する先入観が女性の意識向上の妨げになって、社会進出が優遇されていない。</p> <p>(今、現状) 出産=育児という観念を払拭し、男性も育休をもっと取得しやすい、子供ができたら=男性育休取得を社会が強制的にするぐらいではないと女性が継続的に社会に出られない。ゆえに、女性が能力を發揮できる機会を逃すことになると思います。女性の中にも能力や社会性のある方はたくさんいます。もっと社会や企業の中で女性が活躍できる場があると力強い世の中になるとと思います。</p>	女性	50 歳代
71	<p>若い世代の方々は学校などの教育で男女平等の意識がありますが、高齢者の方々は根強く女性が下という考えが改まりません。高齢者はもう無理と思いますので、若い方々の教育をしっかりしてほしいと思います。</p>	女性	50 歳代
72	<p>女性が、女性がではなく男性にも家庭に入りたい人、女性でも仕事がしたい人等、男女共に選択できる社会を望みます。男女平等=女性の社会進出や男の家庭協力を押しつけている気がします。人それぞれに生き方を選べればと思います。</p>	男性	50 歳代
73	<p>女性が仕事を持つことは難しいと感じています。社会に出て認めてもらえ、収入を得ることだけが仕事ではないのですが、家事、育児は認めてもらいにくいと感じておりました。40年間働いてきましたが、むだな事は何ひとつありませんでした。これからも社会に役立ちたいと考えています。</p>	女性	50 歳代
74	<p>上2番の子供の時から意識を高めたりした方が良いと思います。私は男女共同参画よりも動物の事に興味があります。ペットショップがなくなり譲渡会のみにして欲しいと思います。捨てられないようにチップを入れるとかアメリカの様になってほしいです。</p>	女性	50 歳代
75	<p>人権尊重を基調に暮らせる都市の実現に協力できればと思う。</p>	男性	50 歳代

	意見	性別	年代
76	人口の半分が女性であるのに対し、議員や省庁の人数が男性が大半を占めるのが大きな問題。女性の考えが入っていない今の政治はどうかと思う。家事、育児がどれほどの労力がかかるか本当にわかっているのかと思う。お金だけでは、子供が増えていかないと思う。大人になってからの意識改革は難しいので、教育でかえていくしかない。人類平等とかいう漠然としたことではなく、家事の負担等具体的に。最近週休3日という考え方ができたが、子育て世代の人は（子供が小さい間）男女そうすれば、自分たちで子育てできるし、女性もいままで通り働けるし、保育所問題も緩和されるのでは。今のように子供をすぐ保育所に預けて働くというのにはある意味子供を産む道具化しているような。本当の子供は親と長くいたいのではないか。そのためにも男性も家事、育児があたり前と思える意識が持てる社会にしないと子供はふえません。	女性	50歳代
77	世帯主＝男性で給付金や児童手当が、育児や生活を担う女性が受け取れないのは不便です。離婚できず別居という状態もあるので。高齢者世代の意識改革してほしいです。というより、世代間の相互理解と共同参画の意識の共有が必要だと思います。	女性	50歳代
78	性差についてあまりにも過剰な対応をすることは逆差別にもつながり国民内での分断になりかねないかと考えます。（現在の韓国や米国などがそれらが顕著で混乱や争いの原因になっている）何事も適度な良識をもち、相手を理解する気持ちをわすれないように社会が廻っていくといいですね。	女性	50歳代
79	発送後に女性軽視発言で大問題となりましたが、市長には大変期待しております。今までの誰よりも親近感がわきます。いつまでもお元気で続投して頂きたいです。姫路市民は安心です。	女性	50歳代
80	姫路が何を目的として、めざしているのかがわからない。“男女共同参画”じたいがわかりにくい。子供が幼稚園から高校まで、家庭以外、地域の参加が多すぎる（PTA役員、子供会、地域）これ以上参加したくないです。へらして欲しい。参加行事が多すぎて子供を親にみてもらえない人は、大変でした。	女性	50歳代
81	姫路市にこのような推進課があるのも知らないし、何がしたいのかもわからない。男女差別というより、いかに女性が自分を犠牲に子育て介護に時間をかけているか。このアンケートに意味があるのか。	女性	50歳代
82	“あいめっせ”をしりません	女性	60歳代
83	アンケートの回答が市政の目標とする理想に近づけることを願います。	女性	60歳代
84	お互いが相手を認め合う「みんなちがって、みんないい」金子みすゞさんの言葉。意識調査ご苦労様です。ありがとうございます。	女性	60歳代

	意見	性別	年代
85	お返事が大変遅くなり、申し訳ございません。仕事、家事、母親の世話（施設に入居していますが）主人の母の世話、病院への送り迎え、美容室へ連れて行き、話し相手、大変忙しくしております。時々孫の御守等々です。娘婿が育児家事一切協力ないので一度相談の電話させていただきました。婿さんは依然としてかわりません。「俺は昭和の男やそんな事はせん」の一点張りで娘は私と同じ様に「仕事、家事、育児」に頑張っております。私も疲れています。乱筆、乱文お許しく下さいませ。	女性	60 歳代
86	こんなにたくさんの質問に答えるのは非常に疲れます。質問をもっともっとしぼってください。	女性	60 歳代
87	とても良い取り組みだと思います。男女関係なく、市民が助け合い見守りあって暮らせる、そんな町になればよいと思います。ただ、知らないこと、どのように参加するのか方法が分からない、知らないことも多々あります。そういう時、聞きに行く場所があればよいと思います。例えば「イーグレひめじ」などへ。	女性	60 歳代
88	よく理解しないままアンケートに記入した次第すいません。勉強不足です。	女性	60 歳代
89	活動全体が理想と現実とがかけ離れないように施策を考えてほしい。	女性	60 歳代
90	共同参画について色々問いがあるが、女性の意識を変えるのが先決。（権利のみ主張にはきけがする。）	男性	60 歳代
91	経済的な支援が大切	男性	60 歳代
92	現在の社会では、頭ではわかっているも実際では男女平等は無理なように思います。私のような60代では、まだまだ男性の意見が通る世の中です。男性中心の世の中は、なかなかかわれるとは思いません。男性全員に意識を持たせる、わからせる会があれば良いと思います。	女性	60 歳代
93	今まで男女共同参画についてあまり強く考えていなかった。	男性	60 歳代
94	差別と区別の違いに留意した施策	男性	60 歳代
95	仕事上、他市より転居し、10年以上になりました。イーグレひめじ「あいめっせ」のブースはおだやかで心静まる場所で、知人の少ない私はふと立ち寄りやすい場所でした。しかし今回の事で語源が気になり～調べました。メッセージのメッセでした。なるほど～と思えます。	女性	60 歳代

	意見	性別	年代
96	私が結婚する頃は寿退社があたりまえといわれていました。高卒で就職したから20才くらいから「まだか」…ハラスメントありました。今、次男の職場でマタニティの方がいらっしゃいます。朝、「つわりで休む」電話があるようで、周りの方は困っているのか不安でしょう。お産まで無事にすぎることわかりませんし、産後すぐ復帰は難しいことと思います。シルバー人材センターの方が働いていらっしゃるけど「きめられた仕事だけする」カバーすることにはなりません。ゆうずうきかないなと思っています。「女の敵は女」PTA 役員、夫の名前で名簿にのります。動くのは私なのに！！こんなことから支えてくれたらと願っています。乱筆ですません。	女性	60 歳代
97	自分自身や近親者にも困ったという実感がなく過ごしてこれたので深く考えた事がなく申し訳ありません。	女性	60 歳代
98	職場での女性指導者を増やす動きがクローズアップする中で、女性の進出を促し、存分に力を発揮していける基盤づくりが急務と考える。①法整備(育児休暇介護休暇と有給制度)。②職場の環境整備(休暇取得のしやすさ)。③特に育児介護の担い手は男女平等にあるとの意識。職場における積極的な研修と、公開による研鑽、職場と家庭の両立のための職場環境づくりが大切と考える。高齢化が急速に進む今日において、具体的な施策を積極的に打ち出していくことが、意識の変革と更なる充実につながっていくと思います。	女性	60 歳代
99	是非とも男女平等の社会にするための活動を希望します。	女性	60 歳代
100	政府が指示するからやるのではなく、そもそも女男(男女と書くと、ヒステリックに「女性蔑視」と言う方々が居られますので)で歴史が造られてきたもので、動物学上生理学上に優劣を決めつけるものではないでしょう。生じた問題事例については、個々に改めていくよう啓蒙し、女男互いに尊重していけば、あらゆる課題は、解決できないはずはないと信じています。	男性	60 歳代
101	体力、体格差がありますが、仲良く建設的な社会になってもらいたいです。	女性	60 歳代
102	男女共同参画、大変良い事と思います。しかし、行政の中での議員と吏員との立場の違いや議員(一部)や吏員(一部)の不均等な仕事が我々市民が築いてきた素晴らしいものを潰されているのが今の姫路市の状態です。	男性	60 歳代
103	男女共同参画に関する諸施設をもっと周知する必要がある	男性	60 歳代
104	男女性差別、ほぼ女性に目が向けられていると思う。女性からも男性に対しての性差別については、あまり問題にされないよう感じますが？	男性	60 歳代

意見		性別	年代
105	男女不平等やな。女性は損をしているなど思っています。1つは収入の差、2つ目は主人を亡くしてから思ったのは社会的に地域社会において、男でないという考え方、口には出さんけど肩身が狭いと感じる事です。でもこのアンケートを書いて、いろんな支援があることが分かりました。勉強不足やなあと反省しています。	女性	60歳代
106	男女平等と訴えすぎている。男性も女性から必要以上に嫌がらせを受けることもある。人間性の問題、男か女の問題でない。男と女と分けずにまず人間としての尊厳を考えた方が良い。男らしく女らしくはあった方が良い。男は子供を産めないし、身体精神、産まれながらのものがあるのだから。	男性	60歳代
107	男女平等をもっとアピールしていくこと！	男性	60歳代
108	男性には男性の女性には女性の特性が有り、特性を無視した男女平等というのは、有りえないと思います。現在の社会は何事にも即男女差別といった言葉を使いたがりますが、やはり男にしか出来ない事、女性にしか出来ないことも有ると思います。又、女性を会社の取締役にといい声がよくありますが、役員の何%とか何人とかといった数が先走っている様な感がある。本当に実力のある方ならだれも文句は言わないでしょう。	男性	60歳代
109	長い目で見れば、少しずつ女性の地位は高くなりつつあるが…。仕事と収入面でかなり低いので、自立できるのは難しいと思う。	女性	60歳代
110	比較的男女平等な職場で、家庭も円満な方だと思いますので、不平等を今の所は感じていません。そのような職場環境が増えていく事を望みます。	女性	60歳代
111	姫路市の地域活動は自治会を中心として役割を担っていると思いますが、その自治会の会長、役員等は、その大多数が男性であり、会長、役員に女性が選出される、また女性が活躍することは、ほとんどありません。部分的に「婦人会」が活動している地域もありますが、それは「昭和」の時代が残っている様に写ります。姫路市男女共同参画推進課は、この事についてどう思われますか？地域の基盤となる「自治会」に男女参画の指導をされていますか？	男性	60歳代
112	平等と言う事が先にたつが、身体的な違いや能力的には男女では関係なくと考えて適材適所と考えられる事が理想だと思います。	男性	60歳代
113	「男女共同参画」の大文字を公報はもちろんのこと、あらゆるPR誌、機会を考案し、一般市民が[一時的にしる、なぜこの記事が続出しているのか?]と、日常生活上で課題になるようPRを願いたいです。(失礼！)	男性	70歳以上



意見		性別	年代
114	1. 役人（マスコミもそうだが）は積極的にカタカナ語を使い、元々日本にある「日本語」を使わない傾向が強い。上から目線なのか、人よりも自分の方がよく知っていると思うのか、本来の意味をはぐらかせるか知らないけど。2. 市民に協力を依頼するのはよいが、情報を吸い上げ、とりこむことには熱心だが、フィードバックはあまり聞かない。少なくとも今回は回答者に集計結果を返信すべきである。	男性	70 歳以上
115	S16 年生まれです。結婚子育て介護と、色々と泣いたり、笑ったり、おこったりの日々の生活の中で自分に出来る事を考えながら、一生懸命にがんばってきました。子供たち、孫たちも、私の姿を見て、心やさしく思いやりのある 1 人 1 人に育ってくれています。まわりの人を大切にすることによって、自分も大切にされている事に気づかせて頂きました。毎日感謝の心で「ありがとう」の言葉で日々楽しく送っています。本当に、ありがとうが最高の言葉です。	女性	70 歳以上
116	ぐだぐだと長いわ！！どうでもよいわ！！	男性	70 歳以上
117	このような調査、統計をいかして、役立つ資料をつくってほしい！	男性	70 歳以上
118	これからもっと大変な時が来ると思います。その時その時対応していただきたいとも思います。色々ご苦労様です。	女性	70 歳以上
119	センターの毎月の活動報告や提案、問題点等を「広報ひめじ」に 1 ページ割いてでも載せたらどうでしょうか？今月のお知らせ（「広報ひめじ」）コーナーに、「…セミナーの案内」がありましたが、それだけでは市民に活動内容や相談受付等は伝わらないように思いました。もっと具体的に、積極的に広報に取り組むことを要望します。	男性	70 歳以上
120	なかなかむずかしく時間がかかると思います。私は 72 才ですが、若い頃と違って町内に於いても、だんだん若い人が減り活気がなくなり、近所との会話もなくなっているように思います。女性が社会に進出することはいいことと思いますが、反対に各地区の公民館利用が減り、さびれているように思います。今、40、50 才の人が日中に公民館利用する人がほとんどいません。また家庭に於いても、夕方帰宅し子供の面倒を見、夕食の準備、塾の送りむかえと話をする間もなく過ぎていきます。これでいいんだろうかと毎日毎日疑問に思います。おちつきたい世の中になります様、祈念いたします。	女性	70 歳以上
121	意識調査はどのような事に役立ち、又反映しますか？調査目的(標)が解り難いです！役所作業？	男性	70 歳以上
122	一般社会では、まだまだ男女の差別意識があるように思います(特に高齢者)。具体的な改善案はありませんが、私は意識して公平なグループ活動に努めています。	男性	70 歳以上

	意見	性別	年代
123	過去に同和教育がありましたね。私も幼稚園の会長(35歳)を経験したときに同和研修を初めて知りました。時は流れ、ことばは変わりましたが、まだ男女差別は残っていますね。賃金の差は女性が差別されている表れでしょうね。「女のくせに！」いえいえ男性以上ですよ！仕事を持つ女性の能力に応じて賃金を男性と同等にすべきですね。人間の評価がお金で評価される社会ですからね。賃金が公平なのは公務員のみですものね。公務員の方が(議員も含め)全員、中小企業、飲食店、スーパー、コンビニで実体験を経験されることを望みます。上から下へではなく、下から上へ！で理解いただけますか？	女性	70歳以上
124	言葉が難しい。分からないです。	女性	70歳以上
125	言葉は知っていますが、言葉だけが一人歩きし、詳しい内容が私を含め余り知られていない気がします。	男性	70歳以上
126	高齢者が多い私達の地域です。65歳以上が半数をしめていると思いますが、女性部が参加しているのは、運動とかが多いみたいですが、今までみたいに横のつながりがなくなっているの、不安に生活している方が多いと思います。	女性	70歳以上
127	若者に性病が増えている事→正しい知識を。特に子供に対する教育者、大人の性暴力ハラスメントを改善しなくてはならない。	男性	70歳以上
128	女性が自分自身で進みたい道を見つけ出せること	男性	70歳以上
129	女性としてあまえているのでは。女性自身が積極的に活動する必要も社会にあまえない	男性	70歳以上
130	女性の人権を高める為の啓発活動が必要であり、地域、職場、家庭での、協力が日常的に行われる社会を作らねばならない。姫路市でも「あいめっせ」を有名無実でなく積極的に有効活用して下さい。	男性	70歳以上
131	人が人として成長するための教育を大切にしたい。	女性	70歳以上
132	人それぞれの考えがあって1つにまとめるのは難しいと思われる。介護にしても介護する人が少ないのも問題である。	男性	70歳以上
133	人口減の時代にあってはSDGsの観点からも女性の社会進出、そしてその人材活用が必要である。しかしながら、現下の日本社会では女性の活躍が難しい社会となっている。男女共同参画のより一層の拡充、促進を望みたい。	男性	70歳以上
134	政治の世界に女性進出が少ないのが日本の最大の遅れです。	女性	70歳以上
135	設問が難しい内容が多く理解するに時間を要する。調査結果の集約、今後の取組、自治体としての方向についてどのようにするのでしょうか。	男性	70歳以上

意見		性別	年代
136	男社会の考え方が変わらないとだめだと思います。私も地域で活動していますが、会議となると男性の上から目線に違和感があるときも。女性も発言するのも遠慮しているようです。女性の社会進出が多くなり対等に話せるようになりたいですね。	女性	70 歳以上
137	男女ともに、経済的に自立した生活が送れることが第一です。十分に賃金が支払われること（特に介護に関した仕事、保育に携わる人、医療関係、etc）が大切だと思います。経済的、精神的に余裕がなければ前に進めません。女性目線からの社会的発信発言を大切にしてください。議会、行政についても同じです。よろしくお願いします。	女性	70 歳以上
138	男女の差は身体的に当然あるが、それが男女不平等になるのは、今までの社会、教育、環境等の問題。日本はジェンダーギャップ指数 121 位だそうです。男女関係なく個々を尊重する世の中であればよいと思います。	女性	70 歳以上
139	男女共同というまえにもうすこし家庭による基礎的に知識なりを子供におしえるべき。してはいけない事など今の親は自分だけがだいじと思っている人が多い	女性	70 歳以上
140	男女共同参画について男女それぞれに能力差、体力等特性があるのだから 100%平等なんか不可能である。市側こそ、きれい事を並べていないでもっと本音のところ男性は男性、女性は女性の特性をみきわめて、本気で好きな事の為にガンバレ！きれい事をならべて活動しても 100 年間やっても男女共同参画推進などできないと思う。	男性	70 歳以上
141	調査対象者を無作為に選ばれたようですが、年令ごとに調査内容を変えた方が良いと思う。20 代～40 代、50 代～70 代迄位に分けてはどうですか？	女性	70 歳以上
142	法律迄あるとは知らなかった。条文を読んでみるつもりです。	男性	70 歳以上
143	問 26 で⑦を選びましたが、どのような事か頭にかんできません。いつも見ることの出来るもの（パンフレットなど）を手元に置いておきたいと思っています。	男性	70 歳以上

# 資料

## 男女共同参画に関する市民意識調査

ご協力をお願いします

日頃から、市政にあたたかいご理解とご協力をいただきありがとうございます。

姫路市では、全ての市民が人権尊重を基調に、性や世代にとらわれることなく一人ひとりの個性、資質、能力を認め合い、それらを十分に発揮し、支えあって暮らせる都市の実現を目指して、『男女共同参画プラン』を策定するなど、さまざまな取組を進めています。

本調査は、平成30年3月に改訂した『姫路市男女共同参画プラン2022』を見直し、より市の実情にあった新プランを策定するにあたり、市民の皆様の男女共同参画社会に関する意識や意向、ニーズを的確に把握し今後の施策展開の参考とするため、皆様の日頃の生活やお考えをお聞きするものです。

調査対象者は、市内にお住まいの満20歳以上の男女3,000人を住民基本台帳から無作為に選ばせていただきました。調査は無記名であり、ご回答いただいた内容については統計的に処理し、調査の目的以外には使用いたしません。

お忙しいところ恐縮ですが、本調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和3年2月

姫路市男女共同参画推進課

### 調査票 ご記入上のお願い

- 1 封筒のあて名の方ご本人がご記入ください。
- 2 回答は、設問ごとにあてはまる番号を選び、その番号に○をつけていただくものとなっています。設問ごとに「1つ選んで○」、「あてはまるものすべて選んで○」など指定しておりますので、指示にしたがってご記入ください。
- 3 ご記入いただいた調査票は、三つ折りにして同封の返信用封筒（切手不要）に入れ、2月28日（日）までに、ご投函くださいますようお願い申し上げます。
- 4 パソコン、スマートフォンからも回答できます。  
以下のアドレス又はQRコードからアクセスしてください。  
<https://www.shinsei.elg-front.jp/hyogo/uketsuke/form.do?id=1606289620902>
- 5 このアンケートに関するお問い合わせは、下記までお願いします。

姫路市男女共同参画推進課  
〒670-0012  
姫路市本町68番地の290 イーグレひめじ3階  
TEL : 079-287-0803 FAX : 079-287-0805



あなた自身のことについておたずねします。

F 1. あなたの性別についてあてはまるものを1つ選んで番号に○をつけてください。  
※性的マイノリティを考慮した選択肢を記載しています。戸籍上の性別に関係なく、ご自身の主観でご回答ください。

- |       |       |        |
|-------|-------|--------|
| 1. 男性 | 2. 女性 | 3. その他 |
|-------|-------|--------|

F 2. あなたの年齢はおいくつですか（令和3年1月1日現在）。  
あてはまるものを1つ選んで番号に○をつけてください。

- |            |            |            |
|------------|------------|------------|
| 1. 29 歳以下  | 2. 30～39 歳 | 3. 40～49 歳 |
| 4. 50～59 歳 | 5. 60～69 歳 | 6. 70 歳以上  |

F 3. あなたの職業は次のどれにあたりますか。  
あてはまるものを1つ選んで番号に○をつけてください。

- |                    |                                     |
|--------------------|-------------------------------------|
| 1. 勤め人（常勤）         | 2. 勤め人（非常勤、パートタイム、アルバイトなど）          |
| 3. 農林水産業（家族従事者を含む） | 4. （3以外の）その他自営業（事業の経営者、家業の手伝い、内職など） |
| 5. 学生              | 6. 専業主婦・専業主夫                        |
| 7. 無職（5及び6を除く）     | 8. その他                              |

F 4. あなたは結婚されていますか。  
あてはまるものを1つ選んで番号に○をつけてください。

- |       |               |          |
|-------|---------------|----------|
| 1. 未婚 | 2. 既婚（事実婚を含む） | 3. 離別、死別 |
|-------|---------------|----------|

F 4-1 この設問は、F4で「2. 既婚(事実婚を含む)」と回答した方のみおたずねします。

あなたの配偶者・パートナーの就労状態はどれですか。  
あてはまるものを1つ選んで番号に○をつけてください。

- |                    |                                     |
|--------------------|-------------------------------------|
| 1. 勤め人（常勤）         | 2. 勤め人（非常勤、パートタイム、アルバイトなど）          |
| 3. 農林水産業（家族従事者を含む） | 4. （3以外の）その他自営業（事業の経営者、家業の手伝い、内職など） |
| 5. 学生              | 6. 専業主婦・専業主夫                        |
| 7. 無職（5及び6を除く）     | 8. その他                              |

F 5. あなたにはお子さんがいらっしゃいますか。  
あてはまるものを1つ選んで番号に○をつけてください。

1. 1人	2. 2人	3. 3人	4. 4人以上	5. いない
-------	-------	-------	---------	--------

F 6. あなたの世帯状況はどれですか。  
あてはまるものを1つ選んで番号に○をつけてください。

1. 単身世帯（ひとり暮らし）	2. 一世代世帯（夫婦のみ、兄弟姉妹のみ）
3. 二世帯世帯（親と子など）	4. 三世帯世帯（親と子と孫など）
5. その他	

ここからは、あなたの男女共同参画に関する考え方などをおたずねします。  
内容は全て統計的に処理を行いますので、ご回答いただいた方のお名前や回答内容が分かることはありません。ありのままお答えください。

### 男女共同参画の状況についておたずねします。

問 1 あなたは、今の社会において、次の各分野で男女の地位はどのようになっていると思いますか。  
①から⑧のそれぞれについて（ア）～（カ）の中からあなたの気持ちに最も近いものを1つずつ選んで番号に○をつけてください。

	（ア） 男性の方が非常に 優遇されている	（イ） どちらか といえば 男性の方が優遇さ れている	（ウ） 平等	（エ） どちらか といえば 女性の方が優遇さ れている	（オ） 女性の方が非常に 優遇されている	（カ） わから ない
①家庭生活では	1	2	3	4	5	6
②職場では	1	2	3	4	5	6
③学校教育の場では	1	2	3	4	5	6
④政治の場では	1	2	3	4	5	6
⑤地域活動の場では	1	2	3	4	5	6
⑥法律や制度の上では	1	2	3	4	5	6
⑦社会通念、慣習・しきたりでは	1	2	3	4	5	6
⑧社会全体では	1	2	3	4	5	6

問 2 あなたは、今後、男女が社会のあらゆる分野に参画していくためには、どのようなことが最も重要だと思いますか。次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。

1. 法律や制度の上での見直しを行い、女性差別につながるものを改めること
2. 男女にかかわるさまざまな偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること
3. 女性自身が経済力をつけたり知識・技術を習得したりするなど、積極的に力の向上をはかること
4. 女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実をはかること
5. 政府や企業などの重要な役職に一定の割合で女性を登用する制度を採用・充実すること
6. わからない
7. その他

問 3 社会にはいろいろな面で男女間に不平等があるといわれていますが、不平等が生じる原因はどこにあると思いますか。次の中から3つまで(1つでもよい)選んで番号に○をつけてください。

1. 男女の生まれつきの身体的・生理的な差
2. これまでにつくられた男女の能力・適性のちがい
3. 男女の役割についての固定観念
4. 社会の慣習やしきたり
5. 法律や制度上の差
6. 職業生活面での有利・不利
7. 女性の自覚や理解の不足
8. 男性の自覚や理解の不足
9. 売買春、風俗産業、女性の裸体を扱うマスコミ・メディアなど、女性を商品化する風潮
10. 男女不平等な点はない
11. わからない
12. その他



問4 あなたは、今後どのような分野、領域で女性の参画が必要になるとお考えですか。  
次の中からあてはまるものを3つまで(1つでもよい)選んで番号に○をつけてください。

1. 地域おこし、まちづくり、観光などを女性の視点から見直す地域の文化・産業分野
  2. 環境保全に対する女性の高い関心や豊かな知識、経験を生かすことができる環境分野
  3. 被災・復興状況における女性をめぐる諸問題の解決など防災・災害復興分野
  4. 女性研究者の採用機会の確保や理工系への進路選択の支援など科学技術分野
  5. 農業経営への参画、家族経営協定(\*)など農林水産分野
  6. 審議会委員などへの任命、企業における管理職・役員への登用、職域の拡大など政策・方針決定領域
  7. 国会・地方議会の議員など政治分野
  8. その他
- (\*)農家の家族の間で労働条件や報酬などを文書で取り決め、第三者の立ち会いで調印することにより、家族の共同経営者としての地位や役割が明確になり、近代的な農業経営が確立される。

**職業生活についておたずねします。**

問5 ライフステージの変化と女性の就労について、どのような状態が理想だと思いますか。  
また、実際の状況(現実)はどうですか。  
あなたが女性の場合はあなた自身について、男性であればあなたの配偶者・パートナーについて、理想と現実をそれぞれ(ア)～(カ)の中から1つずつ選んで番号に○をつけてください。

※②現実について、配偶者等がおられない男性は(キ)を選択して下さい。

	(ア) 職業をもたない	(イ) 結婚するまでは、職業をもつ	(ウ) 子どもができるまでは、職業をもつ	(エ) 子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ	(オ) ずっと職業を続ける	(カ) わからない	(キ) 該当しない(配偶者等がいない男性)
①理想	1	2	3	4	5	6	/
②現実	1	2	3	4	5	6	7

問6 あなたは、女性が働く上で、支障となることはどのようなことだと思いますか。  
次の中から3つまで(1つでもよい)選んで番号に○をつけてください。

1. 家事の負担が大きいこと
2. 夫・子どもの世話の負担が大きいこと
3. 高齢者の世話の負担が大きいこと
4. 夫・子どもなどの理解や協力がでないこと
5. 保育体制の不備
6. 老人福祉施設、介護サービスを利用しにくいこと
7. 職場で男女差別があること
8. 職場での結婚・出産退職の慣例があること
9. 夫の転勤や長時間労働
10. 女性の働き口自体が少ないこと
11. 支障となることは特にない
12. わからない
13. その他

問7 この設問は、就労している方（F3で「1. 勤め人(常勤)」「2. 勤め人(非常勤、パートタイム、アルバイトなど)」「3. 農林水産業」「4. その他自営業」と回答した方)にのみおたずねします。  
 ※ただし、「5. 学生」と回答した方でも、アルバイトなどで就労している方は、お答えください。  
 あなたの職場で現在次のようなことがありますか。  
 次の中からあてはまるものをすべて選んで番号に○をつけてください。

1. 女性は昇進・昇格が遅い、または望めない
2. 同期に同年齢で入社した男女では賃金、昇給に差がある
3. 男女間で社内研修や教育訓練、出張や視察などの機会に差がある
4. 定年の年齢に男女間で差がある
5. 女性が結婚や出産を機に退職する慣習がある
6. 女性が長く就労することを歓迎しない雰囲気がある
7. 女性は補助的な仕事しかさせてもらえない
8. お茶くみなどの雑用は職種にかかわらず女性がすることが多い
9. セクシュアル・ハラスメントを経験した、または周りに経験した人がいる
10. 特に男女格差はない
11. その他

問8 あなたは一般的に、男女がともに職場で能力を発揮し、かつ継続して勤務するためにはどのようなことが重要だと思いますか。次の中から3つまで(1つでもよい)選んで番号に○をつけてください。

1. 仕事に必要な職業能力を身につけること
2. 「男は仕事、女は家庭」という従来の社会通念が変わること
3. 採用、職場配置、研修などにおいて、男女の機会均等が確保されること
4. 能力や実績に応じた評価（給料面を含む）がなされること
5. 男女ともに育児休暇・介護休暇が取りやすくなること
6. 結婚、出産などによりいったん退職した人が同じ企業に再び雇用されるようになること
7. 長時間労働の是正
8. 働く上での悩みなどを相談する窓口を設けること
9. わからない
10. その他

問9 **現在就労している方、以前就労していた方におたずねします。**  
 男女が働きやすい職場をつくるため、「育児休業」や「介護休業」という制度がありますが、利用したことがありますか。あてはまるものを1つ選んで番号に○をつけてください。

	(ア) 利用したことがある	(イ) 利用したかったが、 できなかった	(ウ) 利用したことはない
①育児休業	1	2	3
②介護休業	1	2	3

問 10 育児休業・介護休業を男女ともに取りやすくするためには、どのようなことが必要だと思いますか。

あなたの考えに近いものを3つまで(1つでもよい)選んで番号に○をつけてください。

- |                                      |
|--------------------------------------|
| 1. 職場に利用しやすい雰囲気があること                 |
| 2. 以前に育児・介護休業を利用した人の例があること           |
| 3. 上司や同僚などの理解や協力があること                |
| 4. 休業中の賃金や手当などの経済的支援があること            |
| 5. 育児・介護休業を利用したことによって、昇進や昇格に影響が出ないこと |
| 6. 休業中の代替要員が確保されること                  |
| 7. 復帰後の仕事が保障されること                    |
| 8. わからない                             |
| 9. その他                               |

**結婚、家庭生活と男女の役割についておたずねします。**

問 11 あなたは、結婚、家庭に関する次のような考えについて、どのように思いますか。

①から⑤のそれぞれについて（ア）～（オ）の中からあなたの気持ちに最も近いものを1つずつ選んで番号に○をつけてください。

	(ア) 賛成	(イ) どちらか といえば 賛成	(ウ) どちらか といえば 反対	(エ) 反対	(オ) わから ない
①結婚は個人の自由であるから、結婚しなくてもどちらでもよい	1	2	3	4	5
②夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである	1	2	3	4	5
③女性は結婚したら、自分自身のことより、夫や子どもなど家族を中心に考えて生活した方がよい	1	2	3	4	5
④結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない	1	2	3	4	5
⑤結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい	1	2	3	4	5

問 12 あなたは、次にあげるような家庭内の仕事を、男女のどちらが分担するのが理想だと思いますか。

①から⑥のそれぞれについて（ア）～（キ）の中から1つずつ選んで番号に○をつけてください。

	(ア) 主に 男性	(イ) 主に 女性	(ウ) 男女と も同じ くらい	(エ) 子ども	(オ) 家族 全員	(カ) その他 の人	(キ) わから ない
①食事のしたく	1	2	3	4	5	6	7
②食事の後片付け、食器洗い	1	2	3	4	5	6	7
③掃除	1	2	3	4	5	6	7
④洗濯	1	2	3	4	5	6	7
⑤育児・しつけ	1	2	3	4	5	6	7
⑥看護・介護	1	2	3	4	5	6	7

問 13 この設問は、F4 で「2. 既婚(事実婚を含む)」と回答した方にのみおたずねします。

あなたの家庭では、次にあげるような家庭内の仕事を実際に男女のどちらが分担していますか。

①から⑥のそれぞれについて（ア）～（キ）の中から1つずつ選んで番号に○をつけてください。

	(ア) 主に 男性	(イ) 主に 女性	(ウ) 男女と も同じ くらい	(エ) 子ども	(オ) 家族 全員	(カ) その他 の人	(キ) わから ない
①食事のしたく	1	2	3	4	5	6	7
②食事の後片付け、食器洗い	1	2	3	4	5	6	7
③掃除	1	2	3	4	5	6	7
④洗濯	1	2	3	4	5	6	7
⑤育児・しつけ	1	2	3	4	5	6	7
⑥看護・介護	1	2	3	4	5	6	7

問 14 もし、あなたに介護が必要となったら、主にだれに世話をしてもらいたいですか。  
次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。

- |                       |                  |
|-----------------------|------------------|
| 1. 配偶者・パートナー          | 2. 娘             |
| 3. 息子                 | 4. 娘の夫           |
| 5. 息子の妻               | 6. その他の親族        |
| 7. ホームヘルパーや公的な介護制度の利用 | 8. 病院や老人福祉施設への入所 |
| 9. その他                |                  |

問 15 安心して子どもを産み育てるためにはどんなことが必要だと思いますか。  
次の中から3つまで(1つでもよい)選んで番号に○をつけてください。  
※お子さんがいない方も、いると仮定してお答えください。

- |                                                  |
|--------------------------------------------------|
| 1. 出産・育児に対する経済的な支援の拡充                            |
| 2. 保育サービスの充実                                     |
| 3. ファミリーサポートセンター事業(*1)や放課後児童クラブ(*2)など地域の子育て支援の充実 |
| 4. 子育て中の柔軟な勤務形態の普及                               |
| 5. 父親が子育てに十分かかわることができる職場環境の整備                    |
| 6. 出産・子育て後に再就職しやすい制度づくり                          |
| 7. 子育て中の仲間づくり支援                                  |
| 8. 子育ての悩み相談の充実                                   |
| 9. 子育て中のリフレッシュ支援                                 |
| 10. ひとり親家庭の支援                                    |
| 11. わからない                                        |
| 12. その他                                          |
- (\*1)乳幼児や小学生等の児童を有する子育て中の労働者や主婦等を会員として、児童の預かりの援助を受けることを希望する者と当該援助を行うことを希望する者との相互援助活動に関する連絡、調整を行うもの。
- (\*2)小学校の授業終了後、保護者の労働等により家庭で保護を受けられない児童のために、学校や地域の協力を得て開設し、留守家庭児童の保護・健全育成を図るもの。従前は「学童保育園」と呼んでいたもの。

## 地域活動についておたずねします。

問 16 あなたの住んでいる地域（自治会など）で、現在次のようなことがありますか。  
次の中から**あてはまるものをすべて選んで番号に○をつけてください。**

1. 会議や行事などで女性が飲食の世話や後かたづけをすることが多い
2. 会議や行事などで女性が意見を言いにくい、意見を取り上げてもらいにくい
3. 役員選挙に女性が出にくい、また選ばれにくい
4. 地域の行事で女性が参加できないものがあるなど、男性と差がある
5. 地域の活動に女性が少ないため歓迎される
6. 地域の活動には女性の方が積極的で活発である
7. セクシュアル・ハラスメントを経験した、または周りに経験した人がいる
8. 特に男女格差はない
9. その他

問 17 あなたは、今後、男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。

次の中から**あてはまるものを3つまで(1つでもよい)選んで番号に○をつけてください。**

1. 男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと
2. 男性が家事などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと
3. 夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること
4. まわりの人が、夫婦の役割分担などについての当事者の考え方を尊重すること
5. 社会の中で、家事、子育て、介護、地域活動についても、その評価を高めること
6. 労働時間短縮や休暇制度を普及させることで、仕事以外の時間をより多くもてるようにすること
7. 家事、子育て、介護、地域活動に関心を高めるよう啓発や情報提供を行うこと
8. 国や地方自治体の研修などにより、男性の家事や子育て、介護などの技能を高めること
9. 男性が子育てや介護、地域活動を行うための仲間（ネットワーク）づくりをすすめること
10. 家庭や地域活動と仕事の両立などの問題について男性が相談しやすい窓口を設けること
11. 特に必要なことはない
12. その他

問 18 あなたは、防災分野における男女共同参画の推進のためには、どのようなことが必要だと思いますか。

次の中からあてはまるものを**3つまで(1つでもよい)**選んで番号に**○**をつけてください。

1. 防災対策に男女共同参画の視点を反映させるため、防災会議における女性委員の割合を高めること
2. 避難所運営に男女双方の視点が反映するよう、男女それぞれの責任者を配置すること
3. 女性消防団員の入団を促進すること
4. 市民、消防団、自治防災組織などを対象とした研修訓練の実施にあたり、男女共同参画の視点からの内容を盛り込むこと
5. 地域防災計画や避難所運営マニュアルに男女共同参画の視点をより具体的に記述すること
6. 地域の防災を担う女性リーダーなどの人材を育成すること
7. 特に必要なことはない
8. わからない
9. その他

### ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)についておたずねします。

問 19 あなたが生活していく中で、「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」(地域活動・学習・趣味・付き合い等)の優先度について、どのような状態が理想だと考えますか。

また、実際の状況(現実)はどうですか。理想と現実それぞれについて**1つ**選んで番号に**○**をつけてください。

#### ①理想

1. 「仕事」を優先
2. 「家庭生活」を優先
3. 「地域・個人の生活」を優先
4. 「仕事」と「家庭生活」をともに優先
5. 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先
6. 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先
7. 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先
8. わからない

#### ②現実

1. 「仕事」を優先
2. 「家庭生活」を優先
3. 「地域・個人の生活」を優先
4. 「仕事」と「家庭生活」をともに優先
5. 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先
6. 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先
7. 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先
8. わからない

人権についておたずねします。

問 20 あなたが、女性の人権が尊重されていないと感じるのはどのようなことについてですか。次の中からあてはまるものを3つまで(1つでもよい)選んで番号に○をつけてください。

1. 男女の固定的な役割分担意識（「男は仕事、女は家庭」など）
2. 昇給・昇進の格差など、職場における男女の待遇の違い
3. 女性の社会進出のための支援制度の不備
4. 家庭内での夫婦間の暴力やパートナーからの暴力
5. 職場などにおけるセクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）
6. 売買春、援助交際
7. アダルトビデオ、ポルノ雑誌における女性のヌード写真や映像の商品化など
8. 電車内など公共の場における性情報の氾濫
9. 女性の容姿を競うコンテスト
10. わからない
11. その他

問 21 あなたは、現在のテレビ、新聞、雑誌などのメディアにおける性・暴力表現について、どのように思いますか。次の中からあてはまるものを3つまで(1つでもよい)選んで番号に○をつけてください。

1. 女性の性的側面を過度に強調するなど、女性の人権が侵害されている
2. 社会全体の性に関する道徳観・倫理観が損なわれている
3. 女性に対する暴力を助長する
4. そのような表現を望まない人や子どもの目に触れている
5. 児童に対する性犯罪を助長する
6. 問題はないと思う
7. わからない
8. その他



問 22 妊娠・出産をになう女性は、男性とは異なった体や心の問題に直面することがあります。男女が生涯にわたり心身ともに健康であるために、どのようなことが必要だと思いますか。次の中からあてはまるものを3つまで(1つでもよい)選んで番号に○をつけてください。

1. 性について正しい知識を持ち、判断する力をつけること
2. 妊娠・出産・避妊・中絶に関する情報の提供
3. 思春期、青年期、更年期、老年期に合わせた健康づくりの推進
4. 学校における人権尊重及び健康の視点に立った性教育の実施
5. あらゆる機会における健康診断等の促進
6. 心身にわたるさまざまな悩みに対応する相談体制の整備
7. わからない
8. その他

問 23 あなたは、ドメスティック・バイオレンス（DV）について経験したり、見聞きしたりしたことがありますか。次の中からあてはまるものをすべて選んで番号に○をつけてください。

1. 自分が直接経験したことがある
2. 自分のまわりに経験した(している)人がいる
3. 一般的な知識として知っている
4. くわしくはわからないが、言葉としては聞いたことがある
5. ドメスティック・バイオレンスに関するチラシやパンフレットなどを見たことがある
6. 全く知らない

問 23-1 問23 で「1. 自分が直接経験したことがある」「2. 自分のまわりに経験した(している)人がいる」と回答した方にのみおたずねします。

あなたは、経験したり、見聞きしたことを、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。

次の中からあてはまるものをすべて選んで番号に○をつけてください。

1. 警察に連絡・相談した
2. 市役所（男女共同参画推進センター“あいめっせ”、配偶者暴力相談支援センターなど）に相談した
3. 家族や親戚に相談した
4. 友人や知人に相談した
5. 医療関係者（医師・看護師など）、福祉関係者（民生委員など）に相談した
6. その他
7. どこ（だれ）にも相談しなかった

男女共同参画に関する施策などについておたずねします。

問 24 次の男女共同参画に関する事項を、あなたはどの程度ご存知ですか。①から⑬のそれぞれについて（ア）～（ウ）の中から1つずつ選んで番号に○をつけてください。

	（ア） 内容まで知っ ている	（イ） 見聞きしたこ とはある	（ウ） 知らない
①男女共同参画社会	1	2	3
②男女共同参画社会基本法	1	2	3
③女性の職業生活における活躍の推進に関する法律（女性活躍推進法）	1	2	3
④育児・介護休業法	1	2	3
⑤配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律（DV防止法）	1	2	3
⑥デートDV（恋人同士など結婚していない男女間での体、言葉、態度による暴力）	1	2	3
⑦ポジティブ・アクション（積極的改善措置）	1	2	3
⑧ジェンダー（社会的・文化的につくられた性別）	1	2	3
⑨リプロダクティブ・ヘルス/ライツ（性と生殖に関する健康/権利）	1	2	3
⑩ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）	1	2	3
⑪姫路市男女共同参画推進条例	1	2	3
⑫姫路市男女共同参画プラン	1	2	3
⑬配偶者暴力相談支援センター	1	2	3

問 25 あなたは、姫路市男女共同参画推進センター“あいめっせ”をご存知ですか。また、利用したことがありますか。次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。

1. センターの事業内容を知っており、利用したことがある
2. センターの事業内容は知っているが、利用したことはない
3. センターの事業内容は知らないし、利用したこともない
4. センターの事業内容は知らないが、利用したことがある

問 26 あなたは、男女共同参画社会を形成していくため、今後、市はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。次の中から3つまで(1つでもよい)選んで番号に○をつけてください。

1. 女性の人権尊重のためあらゆる分野で性差別の解消をめざし、啓発活動を充実させる
2. 学校で男女平等意識を育てる教育を充実させる
3. 家庭生活、地域社会での男女の対等な関係づくりと活動への共同参画について啓発する
4. 労働の場における男女平等の徹底と、男女ともに家庭と仕事を両立できるような労働環境の整備を行う
5. 女性に対するあらゆる暴力の根絶・防止に向けた取組を強化する
6. 男女がともに子育てにかかわるための取組や、地域ぐるみで子育てを支援する施策を充実させる
7. 学習や活動、情報・ネットワークなどの拠点となる施設“あいめっせ”の事業を充実させる
8. 固定的な性別役割分担意識の払拭をはかるため啓発活動を充実させる
9. 地域で男女平等をすすめるための生涯学習の場や機会を増やす
10. 行政・企業・地域などあらゆる分野で女性の積極的登用をすすめるよう啓発する
11. 女性の就労の機会が増えるよう、職業訓練や職業教育を充実させるなど環境の整備をはかる
12. 女性性の保護や女性専門外来の設置など女性の心身の健康づくりや各種相談を充実させる
13. 高齢者や障害者に対する介護サービスを充実させ介護の社会化をはかるとともに、男女がともに介護にかかわるための基盤づくりをすすめる
14. わからない
15. その他

男女共同参画に関してご意見がありましたら、ご自由にご記入ください。

**最後まで回答にご協力いただき、ありがとうございました。**

---

## 男女共同参画に関する市民意識調査報告書

---

令和4年（2022年）2月

発行 姫路市 市民局 市民参画部  
男女共同参画推進課

〒670-0012

姫路市本町 68-290 イーグレひめじ 3階

TEL (079) 287-0803

FAX (079) 287-0805

---